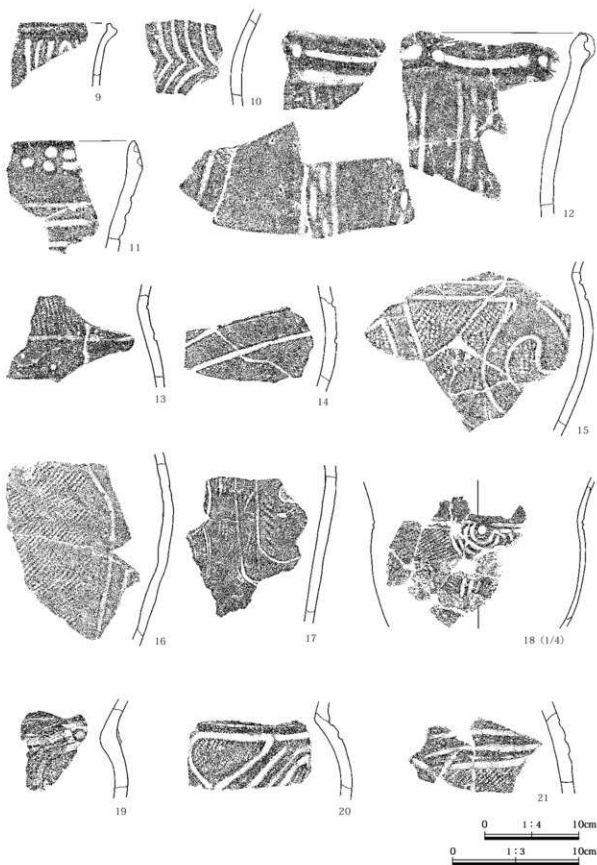
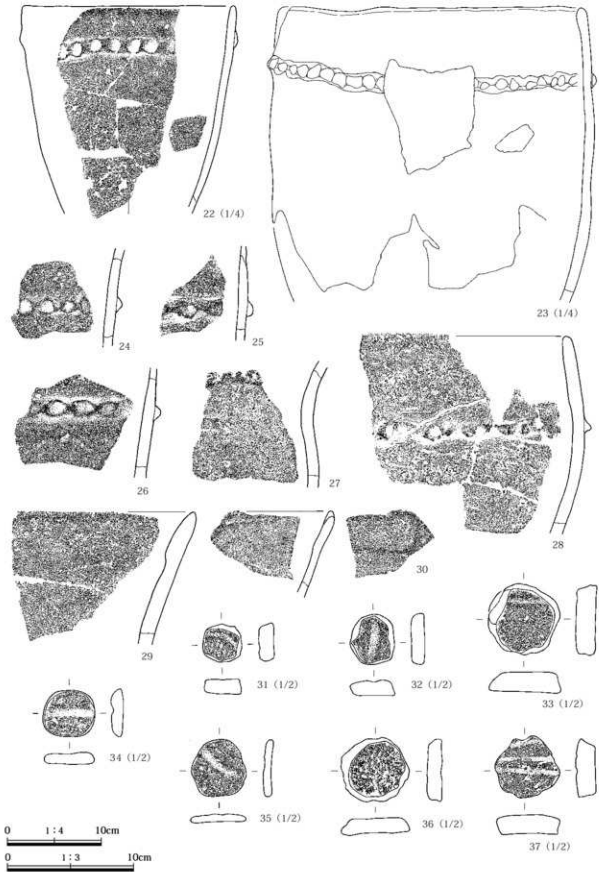


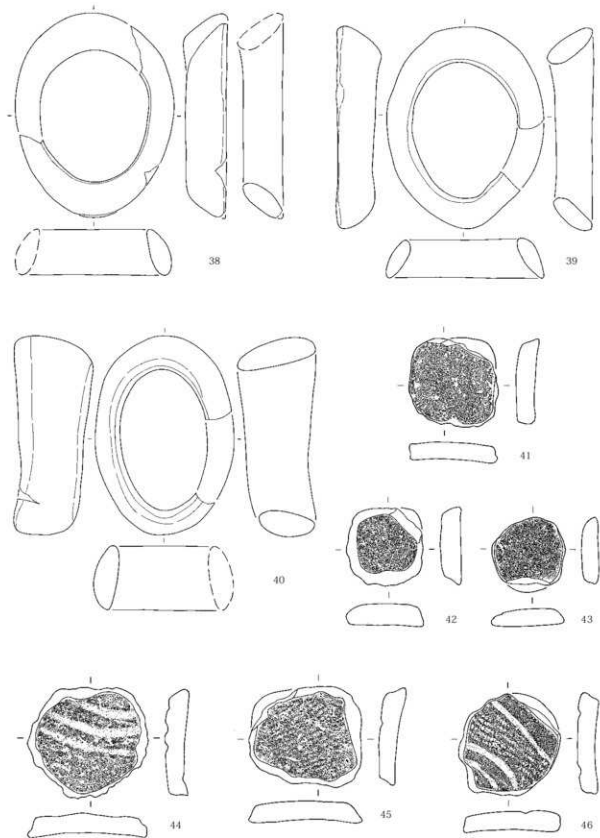
第140図 20区82号住居出土遺物(1)



第141図 20区82号住居出土遺物(2)

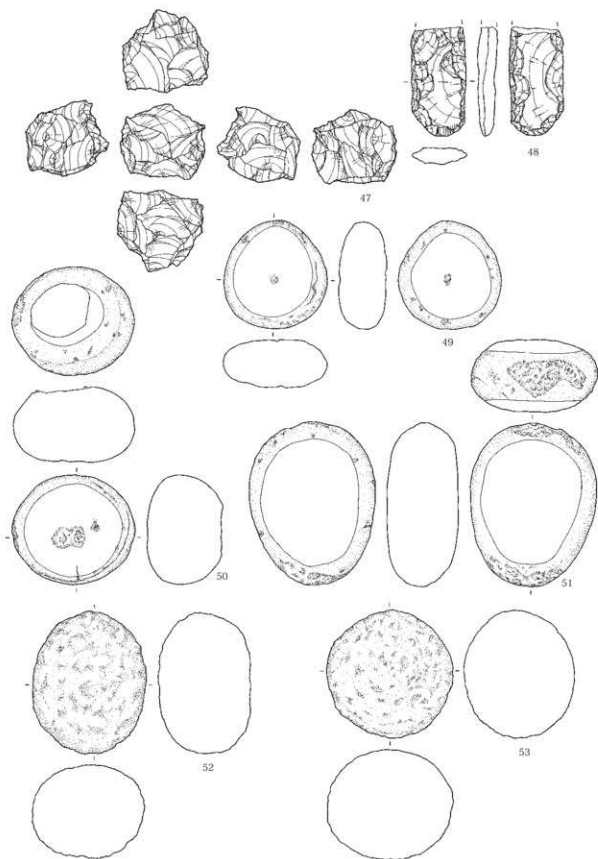


第142図 20区82号住居出土遺物(3)



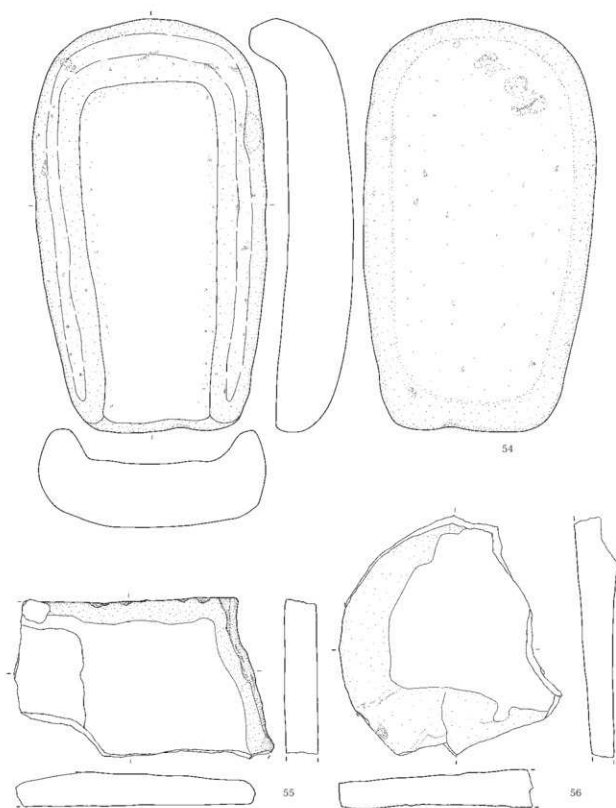
第143図 20区82号住居出土遺物(4)

0 1:2 5cm



第144図 20区82号住居出土遺物(5)

0 1:3 10cm



第145図 20区82号住居出土遺物(6)

×40×19、柱8：114×80×79、柱9：102×74×65である。

遺物 土器は総数644点が出土している。堀之内1式が主体を占め、他時期の土器片は少数である。遺構の重複も無いことから堀之内1式期の良好な一括資料として捉えられよう。深鉢・鉢・壺などの器種があるが、いずれも横位に展開する渦文を伴う斜位の沈線で文様を描出し、縄文や刺突を充填している。粗製土器は、口縁からやや下がった位置に指頭押圧を伴う横位隆帯を1条巡らせるものが多く認められる。

土製品では、土製腕輪が3個体出土し特筆される。1個体は床面の項で記した40、2個体は柱穴の項で記した38と39である。また、土製円盤も13点と比較的多く出土している。その大きさは2cm前後から6cm前後までバラエティーに富んでいる。

石器は加工痕のある剥片1点、打製石斧1点、磨石4点、石皿1点、台石3点、石棒1点、丸石2点があり、他に石核3点(黒曜石2点)、剥片29点(黒曜石3点)、砕片7点(黒曜石7点)ある。床面から出土した石皿(54)は、長さ43.8cmの大型品であり、本報告で扱う石皿のなかでは唯一の完形品である。

時期 出土土器は堀之内1式期を主体としており、本住居跡は当該期に比定されよう。

20区95号住居

調査年度 平成15・16年度

位置 A-17グリッド

経過 77号住居の出入り口部の掘り方調査を実施していたところ、別の敷石が検出され別住居跡の可能性のあるものとして調査を開始した。なお、この77号住居の調査において、本住居跡の周堤礫を認識できずに一部掘り抜いてしまった可能性がある。また、主体部の60%ほどは重複する71号住居により破壊されている。

重複 75号住居と重複し、これを切る。また、19区28号住居、20区71・77号住居と重複し、これらに切られる。20区4号列石とは重複関係にあ

り、出入り口部との位置関係では、本住居跡に4号列石の一部が接続していた可能性もある。しかし、71号住居によって接続部付近が壊され残存していないため断定できない。4号列石については第4節において後述する。

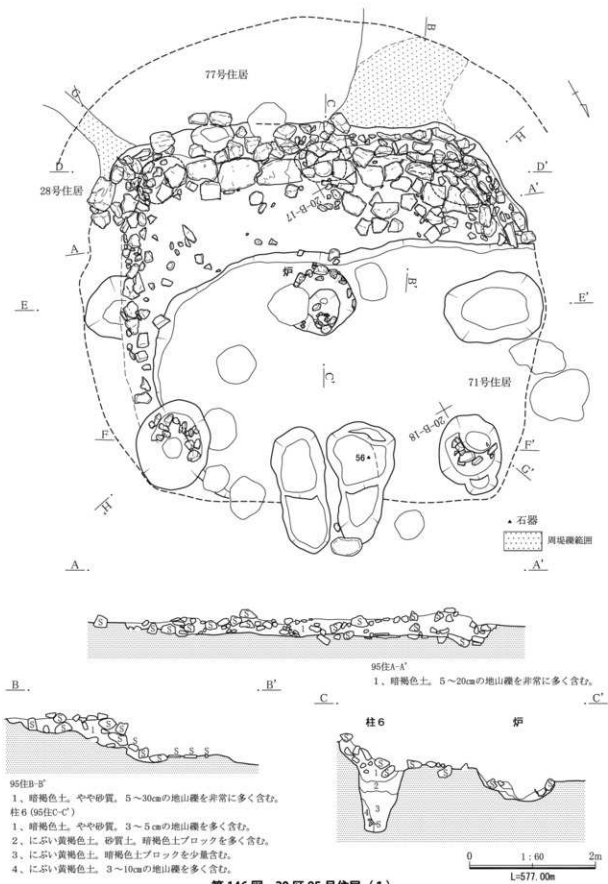
形状 柄鏡形敷石住居跡と想定されるが、出入り口部については不明である。主体部は主軸線上で5.0m、幅7.35mの方形を呈す。さらにその南壁側の外側に、一部ではあるが各柱穴から1～1.5mの幅で円形の周堤礫が確認できる。周堤礫まで含めると主体部は直径9mの円形を呈する。出入り口部は71号住居との重複により不明であるが、主体部の北東方向に接続していたものと考えられる。

床面 主体部南側の約30%ほどに敷石が認められた。敷石は、偏平な地山礫と鉄平石が用いられ、その比率はやや鉄平石の方が多い。各敷石の間隙には小円礫が詰められている。

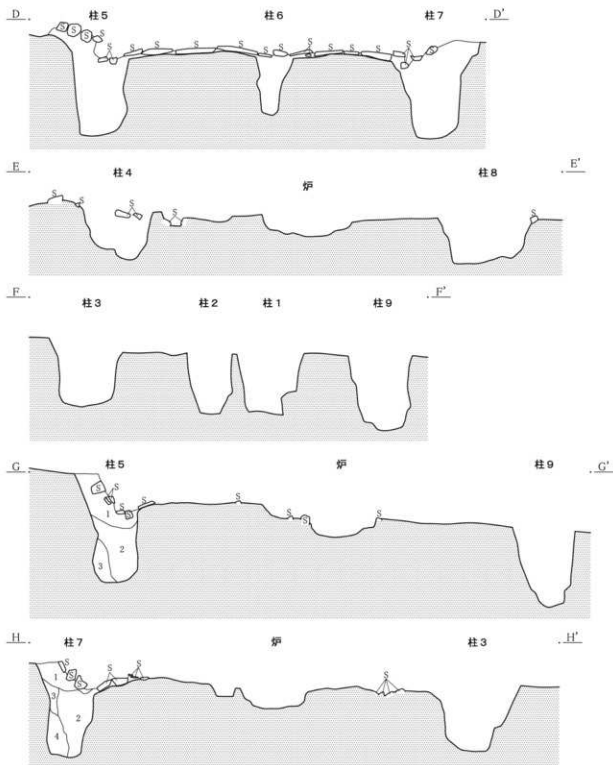
残存する敷石面はほぼ水平であり、柱穴上にも敷石が認められる。敷石の外側には、後述する周堤礫と一体になった壁面が取り囲んでいる。最も高いところでは床面から50cm以上の石積みが認められる。床面では、礫が隙間なく敷き詰められており、柱がどこにあったか見分けが付かないほどである。これは、柱材が朽ちた後に、壁面が多少崩れてせり出し、識別を困難にしたものと考えられる。

なお、主体部覆土は多量の礫を含んでおり、自然埋没による覆土とは考え難く、意図的に多量の礫を用いて埋め戻されたものと観察された。

周堤礫 主体部の奥壁側を巡るように検出された。いわゆる周堤礫とはやや趣を異にし、住居跡の壁面を兼ねている。本来であれば、別名称を使用した方が混乱が少ないと思われるが、ここでは便宜的にこの名称を用いる。確認されたのは住居跡の主体部南西側と南東側の一部である。その間は77号住居が先に調査されており失われている。ただし、77号住居の掘り方調査以前の写真を確認したところ、本住居跡の周堤礫が検出されていることが確認できた。また、東側は19区28号住居により壊されている。平



第146図 20区95号住居(1)

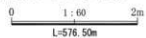


柱5 (95住G-G')

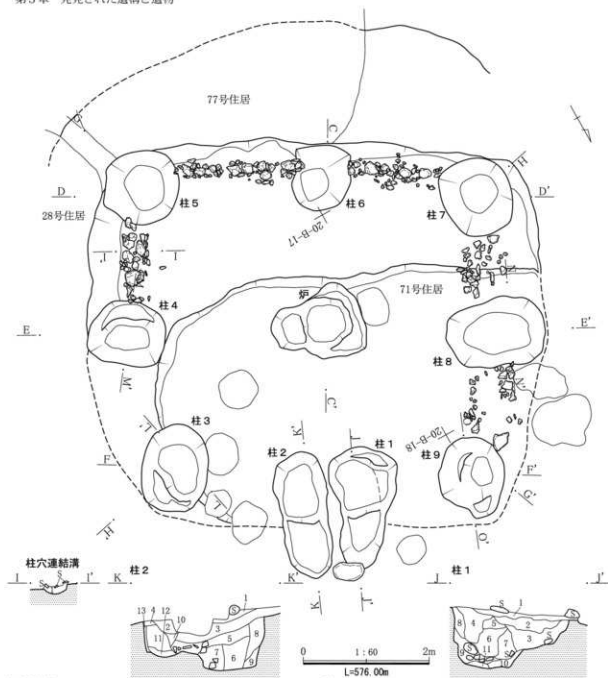
1. 暗褐色土。やや砂質。3～5cmの地山礫を多く含む。
2. 黒褐色土。やや砂質。黄褐色砂質土ブロックをやや多く含む。
3. 黒褐色土。やや砂質。黄褐色砂質土ブロックを多く含む。

柱7 (95住H-H')

1. 暗褐色土。やや砂質。3～5cmの地山礫を多く含む。
2. 黒褐色土。やや砂質。黄褐色砂質土ブロックをやや多く含む。
3. 暗褐色土。にぶい黄褐色砂質土との混土。
4. 黒褐色土。やや砂質。黄褐色砂質土ブロックを多く含む。



第147図 20区95号住居(2)



柱穴連結溝

1、黄褐色砂質土。～2mmの粒子を多く含む。

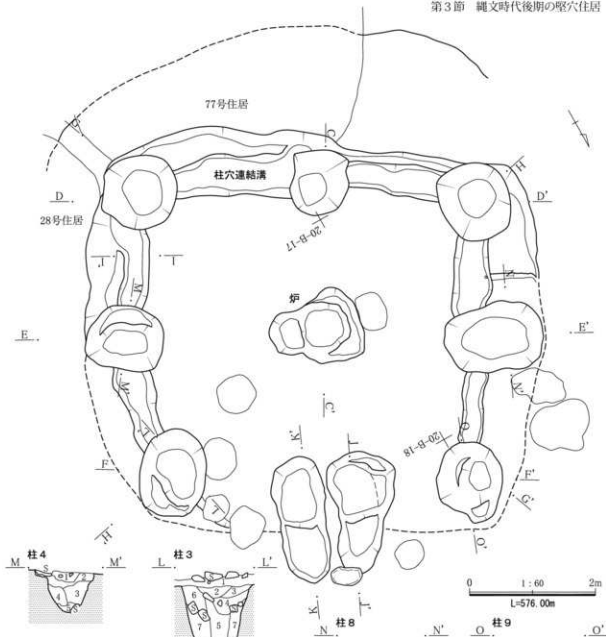
柱1

- 1、暗褐色土。黒色土ブロック、炭化物を少量含む。
- 2、黒褐色土。やや砂質。黒色土ブロックをやや多く含む。
- 3、黒褐色土。やや砂質。黒色土・黄褐色砂質土ブロックをやや多く含む。
- 4、暗褐色土。やや砂質。白色粒子を少量含む。
- 5、暗褐色土と黄褐色砂質土の混土。
- 6、暗褐色土。やや砂質。黄褐色砂質土ブロック、3～5cmの地山礫少量含む。
- 7、黒褐色土。やや砂質。黄褐色砂質土ブロックをやや多く含む。
- 8、にびい黄褐色砂質土。暗褐色土を少量含む。
- 9、暗褐色土。やや砂質。5～20cmの地山礫を多く含む。
- 10、暗褐色土と黄褐色砂質土の混土。
- 11、黄褐色砂質土。暗褐色土を少量含む。

柱2

- 1、暗褐色土。10～20cmの円礫。歪角礫を多く含む。
- 2、黒褐色土。暗黄褐色土ブロックを少量含む。3～5cmの地山礫を少量含む。
- 3、黒褐色土。暗黄褐色土ブロックごく少量。白色粒子を少量含む。
- 4、暗褐色土。暗黄褐色土粒を少量含む。
- 5、黒色土。暗黄褐色土ブロック少量。白色粒子をやや多く含む。
- 6、暗褐色土。暗黄褐色土粒をごく少量。白色粒子少量含む。
- 7、暗黄褐色砂質土。暗褐色土ブロック、5～10cmの歪角礫をやや多く含む。
- 8、暗黄褐色砂質土。暗褐色土ブロックをやや多く含む。
- 9、暗黄褐色砂質土と暗褐色土の混土。
- 10、暗黄褐色砂質土と暗褐色土の混土。
- 11、暗黄褐色砂質土。暗褐色土ブロックをやや多く含む。
- 12、暗褐色土。暗黄褐色砂質土を少量含む。
- 13、暗褐色土。暗黄褐色砂質土をやや多く含む。

第148図 20区95号住居(3)



柱3

- 1、暗褐色土、5~30cmの地山礫を多く含む。
- 2、黒褐色土、やや砂質、5~10cmの地山礫を少量含む。
- 3、黒褐色土、やや砂質、黄褐色砂質土をやや多く含む。
- 4、黒褐色土、やや砂質、黄褐色砂質土を少量含む。
- 5、黒褐色土、黄褐色砂質土ブロックをやや多く含む。
- 6、暗褐色土、黄褐色砂質土ブロックをやや多く含む。
- 7、暗褐色土、10~20cmの礫を多く含む、黄褐色砂質土ブロックを多く含む。

柱4

- 1、暗褐色土、5~20cmの地山礫をやや多く含む。
- 2、黒褐色土、黒色土ブロック、白色粒子を少量含む。
- 3、暗褐色土、黄褐色砂質土ブロックを少量含む。
- 4、暗褐色土と黄褐色砂質土の混土。
- 5、暗褐色土、黄褐色砂質土を少量含む。

柱8

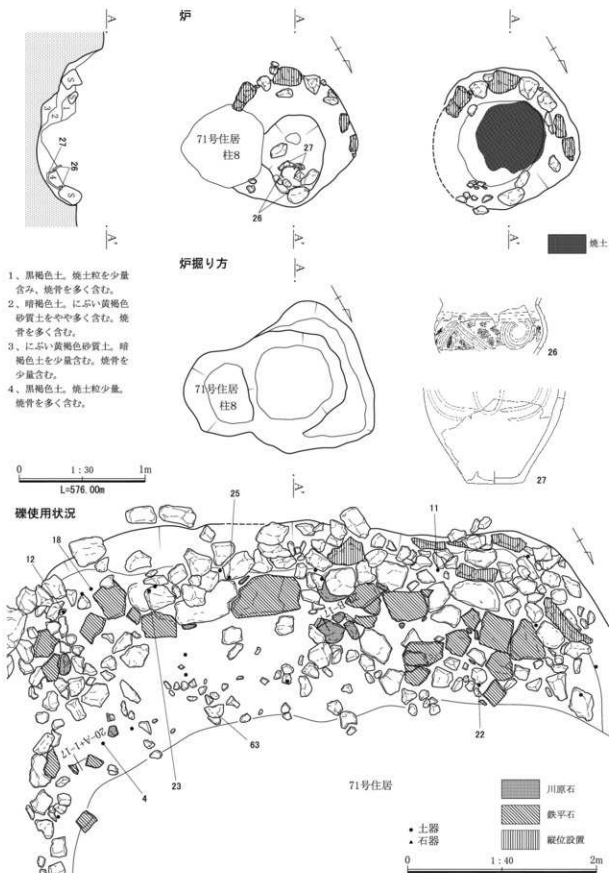
- 1、暗褐色土、にぶい黄褐色砂質土を不均質にやや多く含む。
- 2、黒褐色土、黄色砂質土ブロックを少量含む。
- 3、暗褐色土、白色粒子を少量含む。
- 4、にぶい黄褐色砂質土、暗褐色土を少量、白色粒子をやや多く含む。
- 5、暗褐色土、白色粒子を少量含む。

柱9

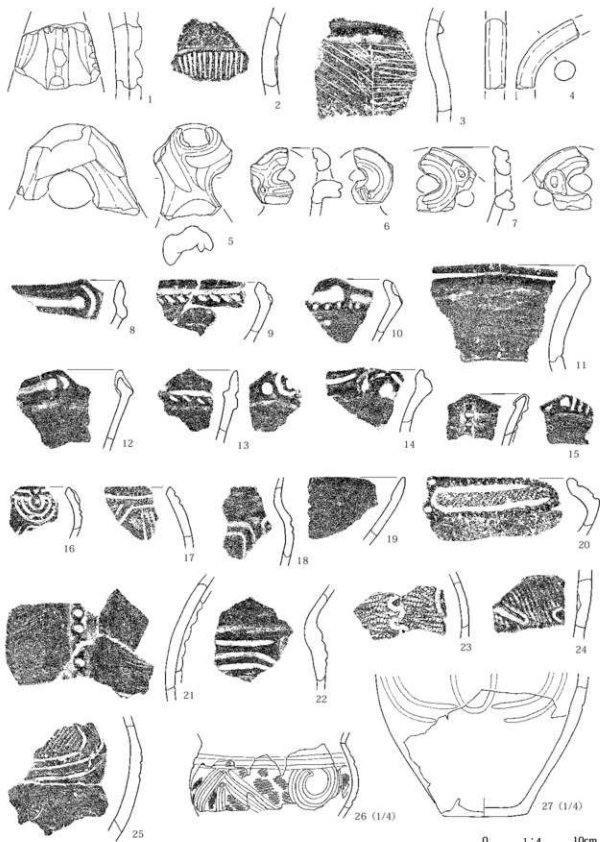
- 1、黒褐色土、やや砂質、黄褐色砂質土ブロックを少量含む。
- 2、黄褐色砂質土、暗褐色土ブロックを少量含む。
- 3、暗褐色土、炭化物少量、黒褐色土を少量含む。
- 4、にぶい黄褐色砂質土、黒褐色土を少量含む。
- 5、暗褐色土、やや砂質、白色粒子をやや多く含む。
- 6、黒褐色土、やや砂質、黄褐色砂質土ブロックを少量含む、5~30cmの地山礫を多く含む。
- 7、黒褐色土と黄褐色砂質土の混土。
- 8、にぶい黄褐色砂質土と黒褐色土の混土、5~10cmの地山礫を少量含む。

第149図 20区95号住居(4)

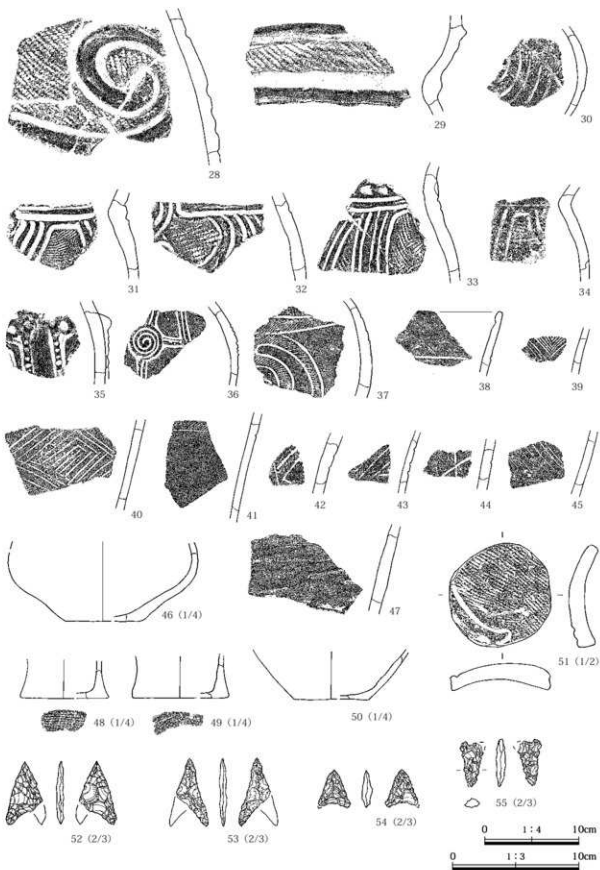
第3章 発見された遺構と遺物



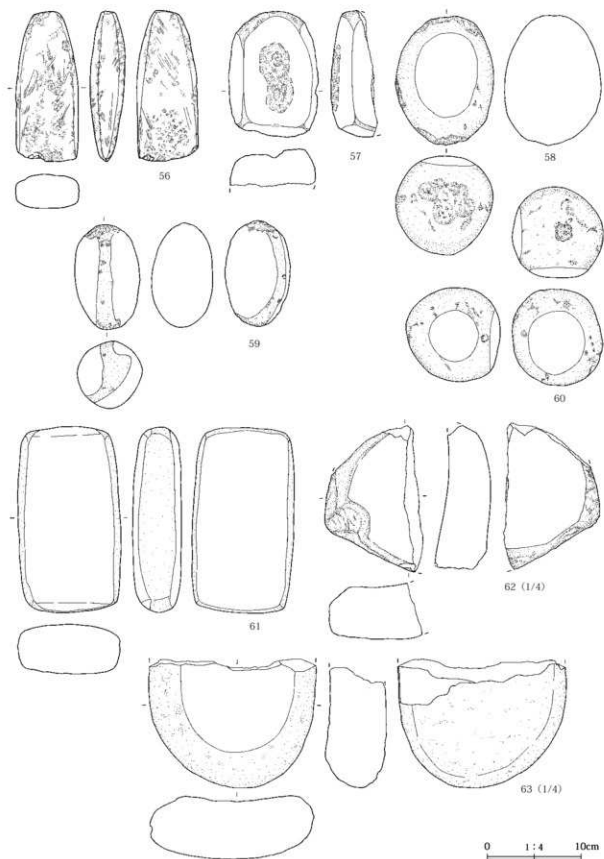
第150図 20区95号住居(5)



第151図 20区95号住居出土遺物(1)



第152図 20区95号住居出土遺物(2)



第153図 20区95号住居出土遺物(3)

第3章 発見された遺構と遺物

面図上では、確認された範囲をトーンで、写真などから推定される範囲を点線で図示した。その幅は最大1.5mである。

この周堤礫は、まず、床面の敷石が敷設された後、その敷石に若干重なるように基礎となる石が置かれている。この基礎となる礫は、縦位に設置されているものが多く認められ、その上に2～3段礫を積み重ねて壁面としている。そして、その背後に径10～20cmほどの礫が裏込め状に多数詰め込まれている。この形状は19区32号住居で確認された周堤礫と構造が類似している。

柱穴連結溝 床面の調査終了後、掘り方の調査を実施した。その際、敷石の下から各柱穴を結ぶように径5～20cmの多数の礫が列状に分布していることが確認された。調査の結果、それは各柱穴を結ぶように幅30～50cmの溝が掘られ、そこに礫が詰め込まれたものであることが判明した。この遺構を「柱穴連結溝」と仮称する。類例としては、20区47号住居があるが、47号住居では床面が明確でないため周礫として扱った。柱穴を結ぶ浅い溝は確認されており、同様な遺構の可能性はある。いずれにしても、その機能・用途は不明である。

炉 当初は単独の土坑として調査されたものである。71号住居により炉周辺は壊され床面に相当する部分は失われていた。そのため、本遺構の確認時の標高は本住居跡の床面より20cm以上低い位置にあたる。よって、炉形状の礫が確認できても、本住居跡の炉とは判断できなかったものである。しかし、炉内から出土した土器の時期および柱穴との位置関係から本住居跡の炉と判断し、名称変更を行った。

一部を71号住居の柱穴により破壊されるが、円形の石囲い炉である。ただし、先にも述べたとおり、床面とは20cm以上の差があり、この炉石の上にさらに炉石が積まれていた可能性も考えられよう。確認された炉石は15～25cmの地山礫を用い長軸方向に列ねている。若干の亀裂が認められるが、他の住居跡と比較し、被熱の程度は弱い。このことから、さらに別の炉石があったことを推測させる。

炉内埋設土器は、炉の北東部つまり出入り口部より検出された。2個体が入れ子状に重なって出土し、堀之内1式期の深鉢胴部下半(27)に輪切り状になった深鉢胴部(26)を正位で重ねている。

炉の規模(長辺×短辺×深さ)は確認面で110×××m、掘り方で117×116×32である。

方位 N-27°-E

柱穴 柱1～9の計9本が確認された。柱1・2を出入り口部の対ビットとし、柱3～9が方形に配置される。対ビットは、それぞれ底面に段差を伴う長楕円形を呈しているため、それぞれ2本の柱穴として計4本の柱穴とも捉えられるものである。また、先述のとおり各柱穴は浅い溝で連結されている。

各柱穴からは明確な柱痕は捉えられなかったが、住居跡南半部に検出された床面の敷石が乱れていないことから、柱材の抜き取り行為はなされなかったものと考えられる。また、柱穴の覆土には多くの礫が含まれており、柱穴の根固めに礫を用いたものと考えられよう。

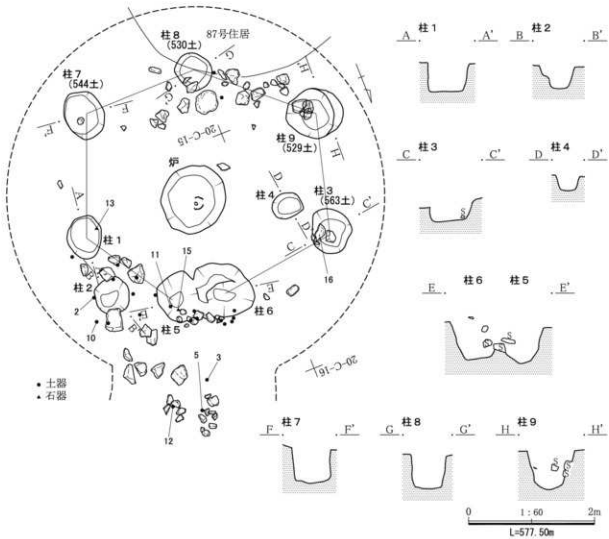
それぞれの柱穴規模(長辺×短辺×深さ)は、柱1：198×106×98、柱2：202×85×97、柱3：117×105×105、柱4：121×100×89、柱5：126×120×130、柱6：105×91×110、柱7：123×109×125、柱8：157×106×74、柱9：128×109×127である。

遺物 土器は総数995点が出土しており、堀之内1式期の土器片が主体を占め、堀之内2式期、加曽利B式期の土器片を含む。炉内からは埋設土器(26・27)が出土し、いずれも堀之内1式期に比定される。土製品は、土製円盤が1点出土している。

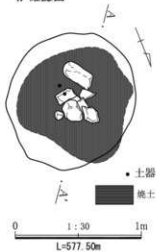
石器は石鏃5点(黒曜石1点)、石鏃未製品3点(黒曜石3点)、石錐1点、加工痕のある剥片1点、使用痕のある剥片2点、磨石9点、石皿2点があり、他に剥片68点(黒曜石31点)、砕片28点(黒曜石25点)がある。

時期 炉内埋設土器の時期および住居跡出土土器は堀之内1式期を主体としており、本住居跡は当該期に比定されよう。

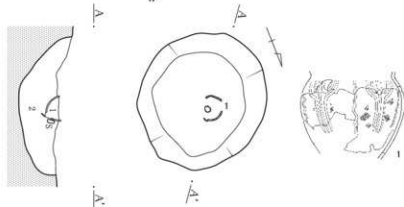
第3節 縄文時代後期の堅穴住居



炉確認面

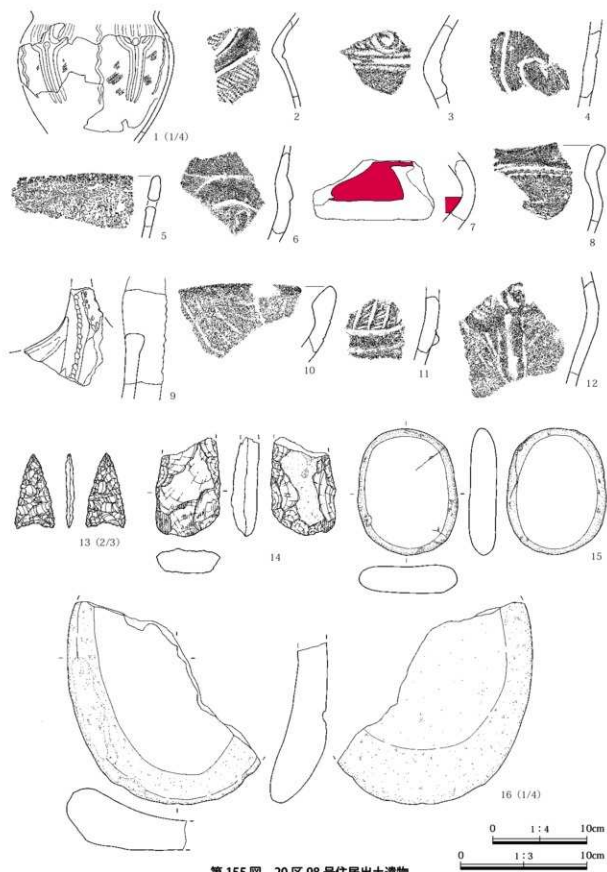


炉



- 1、黒褐色土。焼土粒をやや多く含む。
- 2、暗褐色土。焼土ブロックを不均質に多く含む。

第154図 20区98号住居



第155図 20区98号住居出土遺物

20区98号住居

調査年度 平成15年度

位置 B-15グリッド

経過 表土削削後の精査中に鉄平石と焼土が検出され、敷石住居跡の可能性があると調査が開始された。しかし、敷石の面的な広がりが認められず、また焼土も不明瞭なため、一度は住居跡ではないと判断された。焼土もこの段階で単独の焼土遺構として調査された。その後、焼土の下から埋設土器が検出され、やはり先の焼土は埋設土器を伴う炉であることが判明した。ここにおいて、敷石と焼土をあわせ、再び住居跡として扱われることになった遺構である。

重複 87号住居と重複し、これを切る。

形状 敷石の分布や柱穴配置などから、北北東方向に出入り口部を有する柄鏡形敷石住居跡と想定される。主体部は直径6mほどの円形と想定される。

床面 わずかに鉄平石が認められたが、一度住居跡としての認定を取り消されたため、その位置は記録されていない。写真記録による確認では、炉の周囲に小型の鉄平石が数石認められるだけである。また、炉についても炉石が検出されていないことから、検出時には、床面はほとんど残存していなかったものと考えられる。

炉 検出時は径約110cmの円形の焼土として検出した。中央に鉄平石を含む礫が集中して検出されている。その直下に炉内埋設土器(1)が検出された。炉内埋設土器は、炉のほぼ中央に位置し、堀之内1式の深鉢胴部を利用している。底部は認められない。上位に載っていた礫は住居廃絶時に炉内に詰め込まれたものである可能性が考えられよう。

炉の規模(長辺×短辺×深さ)は掘り方で110×100×40である。

方位 N-21°-E

柱穴 柱1～9の計9本である。柱5・6を対ビットとし、柱1・7・8・9・3の5本がやや偏平な六角形状に配置される。なお、柱3・7～9は、本住居跡の調査終了後に単独の土坑として調査

したものである。しかし、本整理にあたり配置や規模などを再検討した結果、本住居跡に帰属すべきものと判断し、柱穴番号を新しく付した。また、柱3は563号土坑、柱7は544号土坑、柱8は530号土坑、柱9は529号土坑として、『横壁中村遺跡(6)』において報告済みであるが、ここで訂正したい。

それぞれの規模(長辺×短辺×深さ)は、柱1: 66×55×46、柱2: 56×56×37、柱3: 74×66×30、柱4: 47×40×25、柱5: 74×64×75、柱6: 108×94×68、柱7: 77×61×56、柱8: 59×52×55、柱9: 89×77×61である。

遺物 土器は総数147点が出土している。縄文時代中期の土器が主体を占めるが、これは中期の住居跡である87号住居と重複するためと考えられる。後期では、炉内埋設土器(1)が堀之内1式に比定され、他に称名寺2式期の土器片が出土している。

石器は石鏃1点、加工痕のある剥片1点(黒曜石1点)、打製石斧1点、磨石1点、石皿1点があり、他に剥片10点(黒曜石3点)、砕片6点(黒曜石6点)がある。

時期 炉内埋設土器の時期より、本住居跡は堀之内1式期に比定されよう。

20区108号住居

調査年度 平成15年度

位置 A-3グリッド

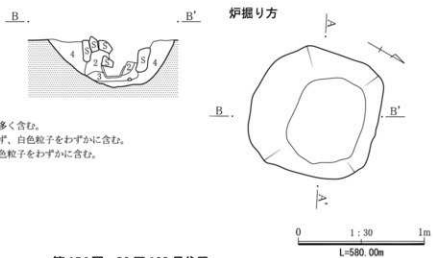
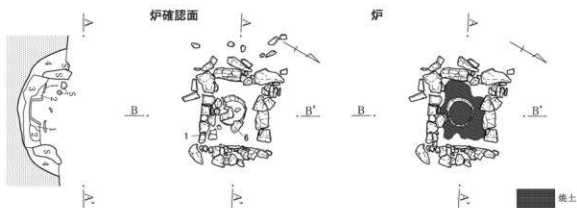
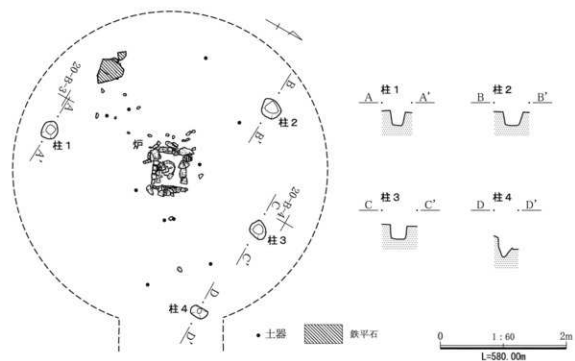
経過 表土削削後の精査中に、石囲い炉と敷石が検出されたため住居跡と認定した。

重複 重複する遺構は認められない。

形状 柱穴配置から北東方向に出入り口部を有する柄鏡形敷石住居跡と想定される。敷石の範囲および柱穴配置から直径5mの円形の主体部を想定した。出入り口部については不明である。

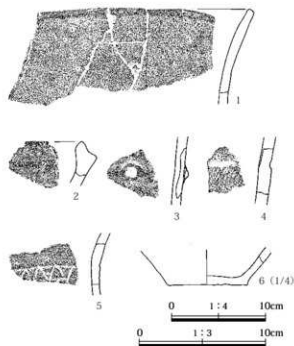
床面 検出された敷石は主体部奥壁側にあたる南部と炉の周囲の一部である。鉄平石が認められ、これが床面に相当するものと考えられる。大部分の床面は攪乱を受け消失した可能性が高い。

炉 住居跡の長軸方向にやや長い方形石囲い炉



- 1、焼土層
- 2、暗褐色土。粘性ややあり。焼土を多く含む。
- 3、暗褐色土。粘性あり。焼土を含まず、白色粒子をわずかに含む。
- 4、暗褐色土。しまりあり。軽石、白色粒子をわずかに含む。

第156図 20区108号住居



第157図 20区108号住居出土遺物

である。炉石は大型の偏平地山礫4石を用い、ほぼ垂直に立てて構築している。炉石は被熱しブロック状に細かく砕けている。また、その炉石が炉内に多く落ち込んでいるため、住居廃絶時に炉石の上部を意図的に崩した可能性も考えられよう。

炉石底中央には炉内埋設土器が設置されている。深鉢の胴部下半が用いられ、底部も残存している。しかし、この土器は行方不明となっており詳細は不明である。

炉の規模(長辺×短辺×深さ)は使用面で86×53×33、掘り方で101×101×43である。

方位 N-56°-E

柱穴 検出された柱穴は、柱1～4の計4本である。柱1～3は、主体部の主柱穴の可能性もあるが、規模が小さく、配置にも規則性が捉えがたい。柱穴の多くが検出できなかったものと思われる。

それぞれの規模(長辺×短辺×深さ)は、柱1：30×25×23、柱2：33×30×23、柱3：30×26×23、柱4：27×16×25である。

遺物 土器は総数35点が出土している。数量は少ないが堀之内1式が主体となっている。

石器は石錐1点、剥片3点(黒曜石1点)、破片4点がある。

時期 出土土器は堀之内1式期を主体としており、本住居跡は当該期に比定されよう。

20区109号住居

調査年度 平成15年度

位置 G-1グリッド

経過 10区と20区の境界に位置する住居跡である。表土掘削後、敷石と炉石が検出されたため住居跡と認定し、調査を実施した。

重複 重複する遺構は認められない。

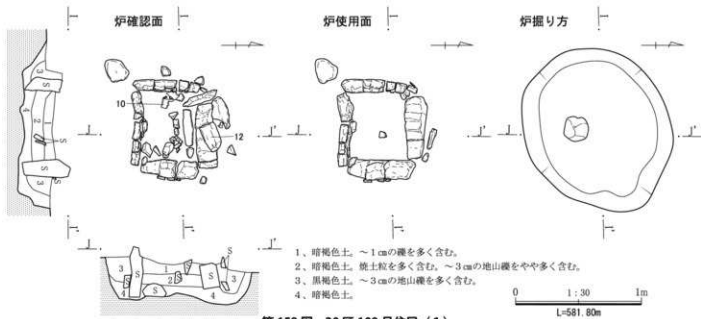
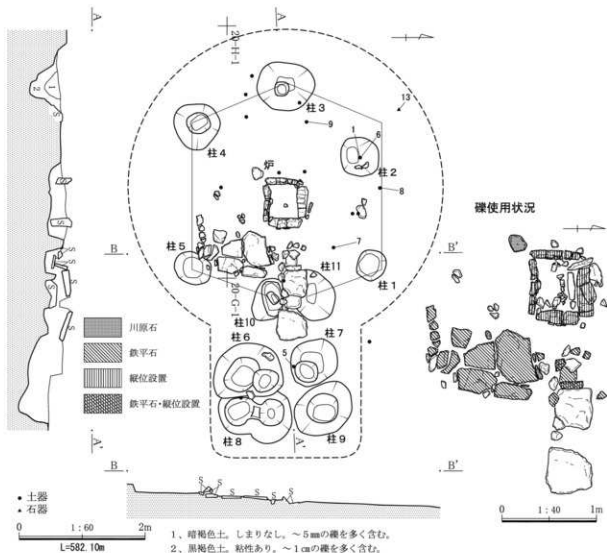
形状 東方向に出入り口部を有する柄杓形敷石住居跡である。住居跡の範囲は、床面からの検出であり壁面が残存していないため、柱穴配置より想定した。主体部は直径5mの円形、出入り口部は幅2.5m、長さ2mほどと推定される。また、主体部と出入り口部の接続部に連結部石囲い施設が検出されている。

床面 炉石と連結部石囲い施設の間と、その南側の部分にかけて敷石が確認された。住居跡全体の20%程度と考えられる。敷石は、出入り口部付近の住居跡中軸線上には偏平地山礫を使用し、その他の主体部には鉄平石を多用し、その使い分けがなされている。また、その鉄平石の間には小円礫が詰め込まれている。確認された敷石は、柱5の位置する主体部南東のコーナー部であり、その縁辺は直線状に配置されている。

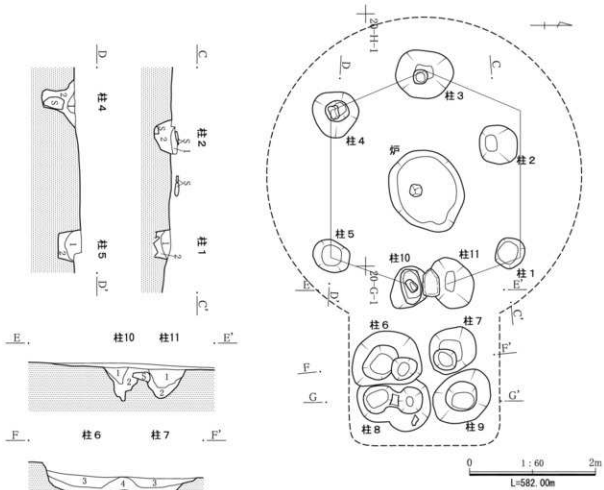
炉 炉石として4石の偏平地山礫を垂直に立てて使用した方形石囲い炉である。炉石は4石とも強い被熱が認められ、ブロック状に砕けている。その砕けた破片は、炉内に詰め込まれたように出土しており、住居廃絶時に意図的に崩し入れたものと推測される。炉内埋設土器は認められない。

その規模(長辺×短辺×深さ)は使用面で79×70×40、掘り方で137×115×47である。

連結部石囲い施設 調査時には連結部石囲い施設とは認識されず、敷石の一部として調査が行われた。本整理において、図面や写真を再検討し、連結部石

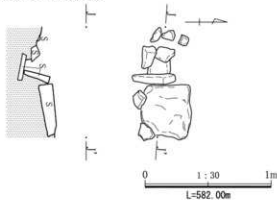


第158図 20区109号住居(1)



- 1、暗褐色土。しまりなし。～5mmの礫を多く含む。
- 2、黒褐色土。粘性あり。～1cmの礫を多く含む。
- 3、暗褐色土。粘性強い。～5mmの礫・黄褐色砂を多く含む。
- 4、暗褐色土。～5mmの礫をまばらに含む。
- 5、暗褐色土。粘性強い。～3mmの礫をまばらに含む。

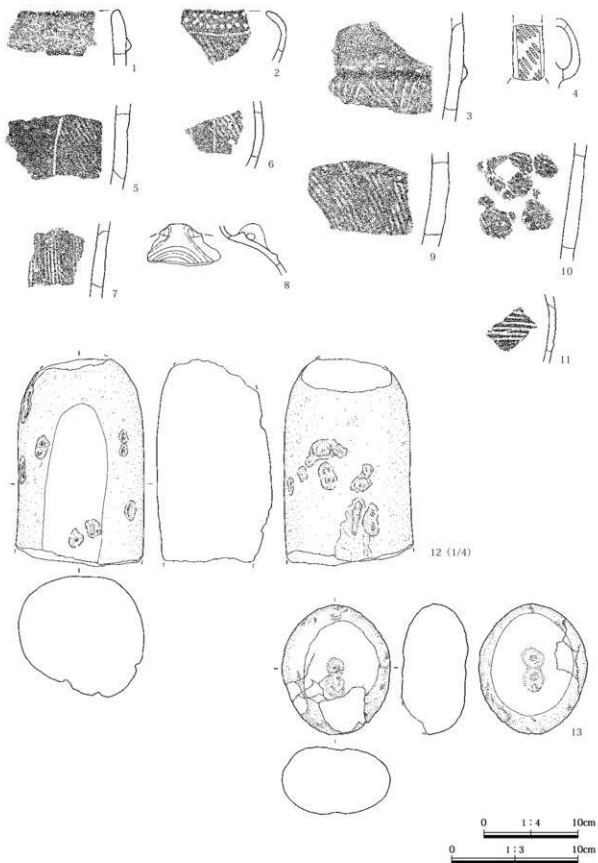
連結部石囲い施設



連結部石囲い施設（東から）

第159図 20区109号住居（2）

第3章 発見された遺構と遺物



第160図 20区109号住居出土遺物

囲い施設と認定した。

床面上では、出入り口部との接続部付近の住居跡中軸線上に鉄平石1石が縦位に設置されているのが確認されている。また、その南西20cmの位置にもう1石同様に縦位に設置された鉄平石が認められる。これら2石が本施設の石囲いの礎と考えられる。西側には偏平な地山礫が斜位で検出されているが、これも本施設の石囲いに使用された礫の可能性が高い。北側には礎は認められない。底面にも鉄平石が水平に敷かれ、底となっている。20区81号住居で検出された連結部石囲い施設に構造が類似している。

その規模(長辺×短辺×深さ)は35×30×22である。

方位 N-90°-E

柱穴 柱1～11の計11本が検出された。ただし柱6・8はその形態からそれぞれ2本の柱穴の可能性が高い。柱10・11を出入り口部の対ピットとし、柱1～5が主体部の主柱穴であろう。ただし、柱2は位置が他の柱穴よりかに近く、確認された柱2のさらに西に本来の柱穴があった可能性がある。全体としては六角形を呈している。柱6～9は出入り口部の柱穴である。先述したように、柱6・8は2本の可能性があり、住居の建て替えがあった可能性がある。

それぞれの規模(長辺×短辺×深さ)は、柱1：49×46×29、柱2：62×60×30、柱3：92×78×50、柱4：75×73×58、柱5：59×50×38、柱6：110×84×70、柱7：74×71×41、柱8：115×80×78、柱9：91×82×57、柱10：70×59×61、柱11：80×67×55である。

遺物 土器は総数58点が出土しており、加曾利E4式期から称名寺1式期にかけての土器が主体となっている。

石器は磨石1点、台石1点、石核1点、剥片2点(黒曜石2点)がある。

時期 出土土器は加曾利E4式期から称名寺1式期が主体となっており、本住居跡は縄文時代中期の加曾利E4式期から後期の称名寺1式期に比定され

よう。ただし、住居の形状では連結部石囲い施設があることなど、称名寺1式期に比定した81号住居との類似点が認められる。

20区114号住居

調査年度 平成16年度

位置 S-8グリッド

経過 表土掘削後、敷石および埴が検出されたため敷石住居跡と認定し、調査を実施した。

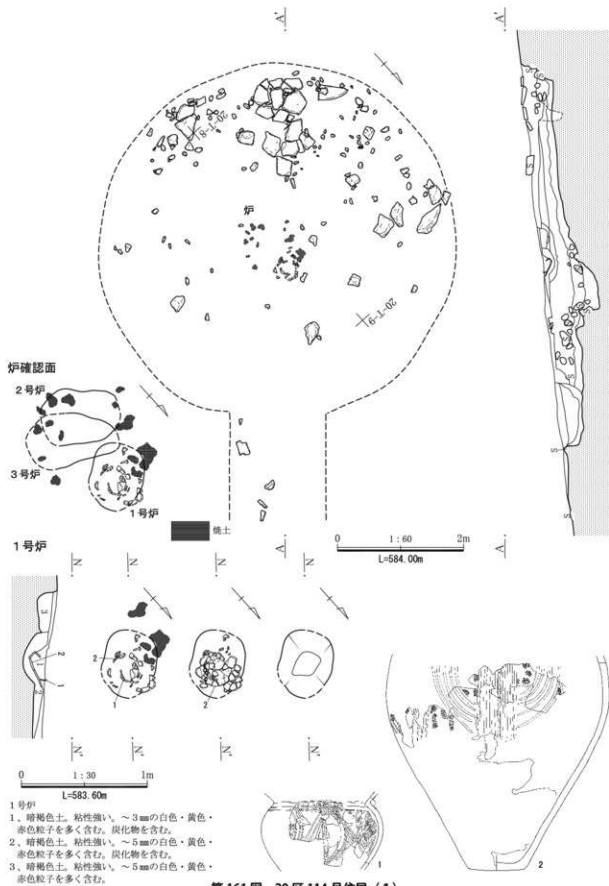
重複 588・589・591・592・642号土坑と重複するが、切り合い関係は不明である。

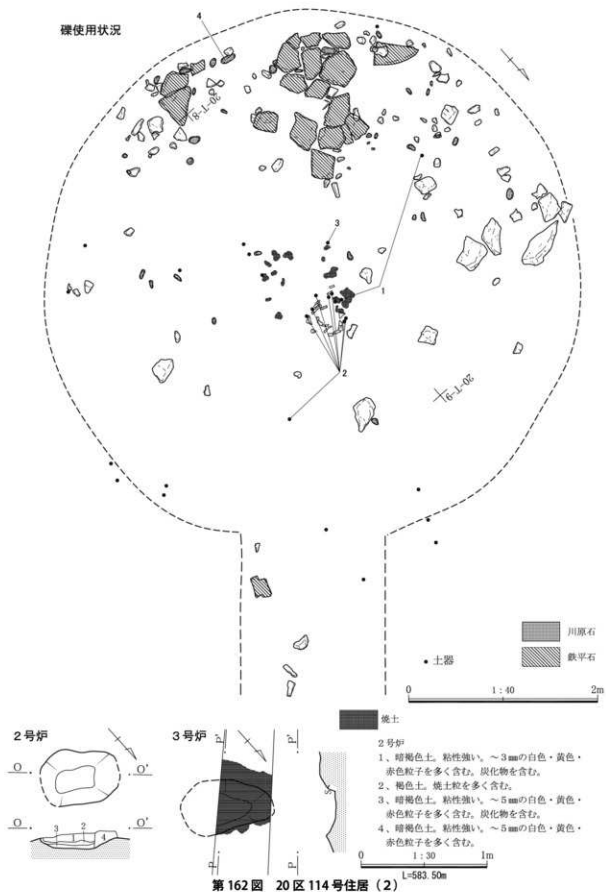
形状 柱穴配置から北東方向に出入り口部を有する柄鏡形敷石住居跡と想定される。主体部は、敷石と埴の位置関係から直径5.7mほどの円形を呈するものと想定される。出入り口部についての詳細は不明である。

床面 標高の高い側にあたる埴の南西部で長さ3m、幅1.5mの範囲に鉄平石を用いた敷石を検出した。その間には小円礫が詰め込まれている。検出された敷石面はほぼ水平を保っており、攪乱を免れたものと思われる。また、敷石の認められない部分においても小円礫が点在しているため、本来は全面敷石であったものと考えられる。埴の北東4.5mにも1石であるが鉄平石が認められており、住居跡の範囲に含めた。

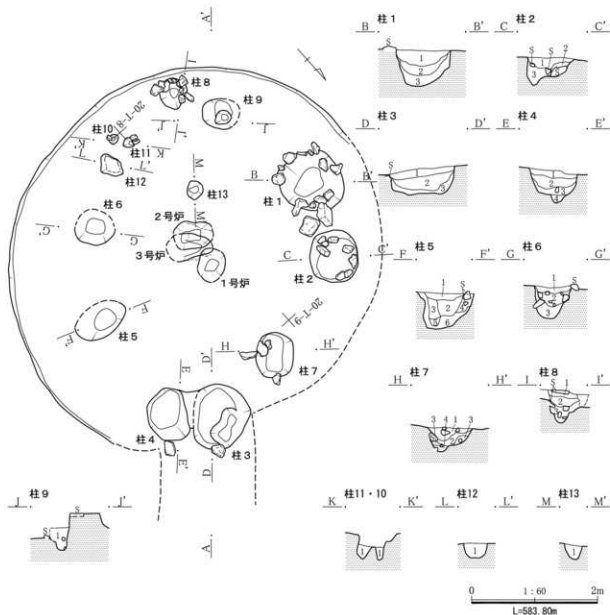
炉 埴石は残存しないが、焼土と埴内埋設土器を確認した。検出時には、1.1×1.0mの範囲に焼土がブロック状に点在し分布する状況であった。埴が攪乱を受けたものであろう。その後の調査で、本住居跡の埴は若干地点を異にしながら1号から3号埴までの3基が確認された。以下、順に記載する。

1号埴は、埴内埋設土器を伴うもので、3基の中では最も北側に検出された。堀之内1式に比定される大型深鉢の胴部下半(1)が斜位で設置され、その上に深鉢胴部(2)が載せられるように正位で出土した。大型深鉢は底部は残存しているが胴部は斜めにカットされたようになっている。この破断面にも強い被熱の痕跡が認められることから、斜めに設置さ





第162図 20区114号住居(2)



柱1～4・6・7

- 1、黒褐色土。粘性強い。～5mmの白・黄・赤色粒子を多く含む。
- 2、黒褐色土。粘性強い。～3mmの白・黄・赤色粒子を多く含む。
- 3、暗褐色土。粘性強い。～5mmの白・黄・赤色粒子を多く含む。
- 4、黒褐色土。粘性強い。～3mmの白・黄・赤色粒子を多く含む。

柱5

- 1、黒褐色土。粘性やや強い。～5mmの白・黄・赤色粒子を多く含む。
- 2、黒褐色土。粘性強い。～5mmの白・黄・赤色粒子を多く含む。地山礫を含む。
- 3、暗褐色土。粘性強い。～3mmの白・黄・赤色粒子を多く含む。黄褐色土ブロックを含む。
- 4、黒褐色土。粘性強い。～3mmの白・黄・赤色粒子を多く含む。地山礫を多く含む。
- 5、黒褐色土。粘性強い。～3mmの白・黄・赤色粒子を多く含む。
- 6、暗褐色土。粘性強い。～5mmの白・黄・赤色粒子を多く含む。炭化物を含む。黄褐色土ブロックを含む。

柱8

- 1、黒褐色土。粘性強い。～5mmの白・黄・赤色粒子を多く含む。
- 2、黒褐色土。粘性強い。～3mmの白・黄・赤色粒子を多く含む。
- 3、暗褐色土。粘性強い。～3mmの白・黄・赤色粒子を多く含む。黄褐色土ブロックを含む。

柱9

- 1、黒褐色土。粘性少ない。～3mmの白・黄・赤色粒子を多く含む。黄褐色砂質土ブロックを含む。

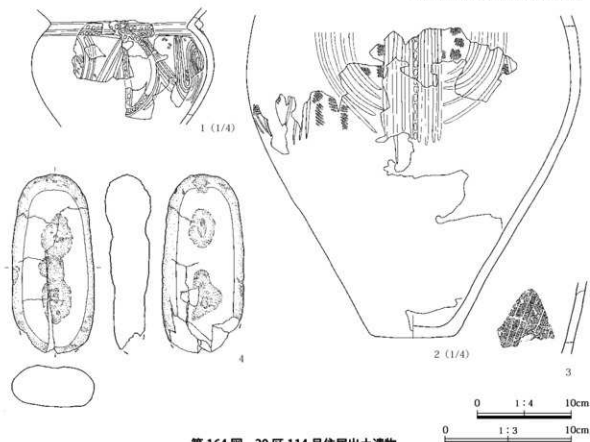
柱10・11

- 1、黒褐色土。粘性強い。～5mmの白・黄・赤色粒子を多く含む。

柱12・13

- 1、暗褐色土。粘性なし。～5mmの白・黄・赤色粒子を多く含む。

第163図 20区114号住居(3)



第164図 20区114号住居出土遺物

れた状態で使用されていたと推定される。上に載っている深鉢は底部と口頸部を欠損し、輪切りの状態で出土した。全体が強く被熱し、劣化および色調の変化が認められる。

2号炉は掘り方のみでの検出である。住居跡の長軸方向に対して直行方向に長い長方形の掘り方を呈している。

3号炉は1・2号炉の調査終了後にさらに焼土が検出されたため炉として調査を実施した。トレンチで壊してしまっているため全体形状は把握できないが、2号炉と同様、住居跡の長軸方向と直行方向に長い長方形を呈しているようである。

床面との対応では、1号炉が敷石と対応するものであり、2・3号炉は重複や建て替えなどによる一段階古いものと考えたい。

それぞれの規模(長辺×短辺×深さ)は掘り方で1号炉：63×45×12、2号炉：54×43×19、3号炉：74×(42)×13である。

方位 N-42°-E

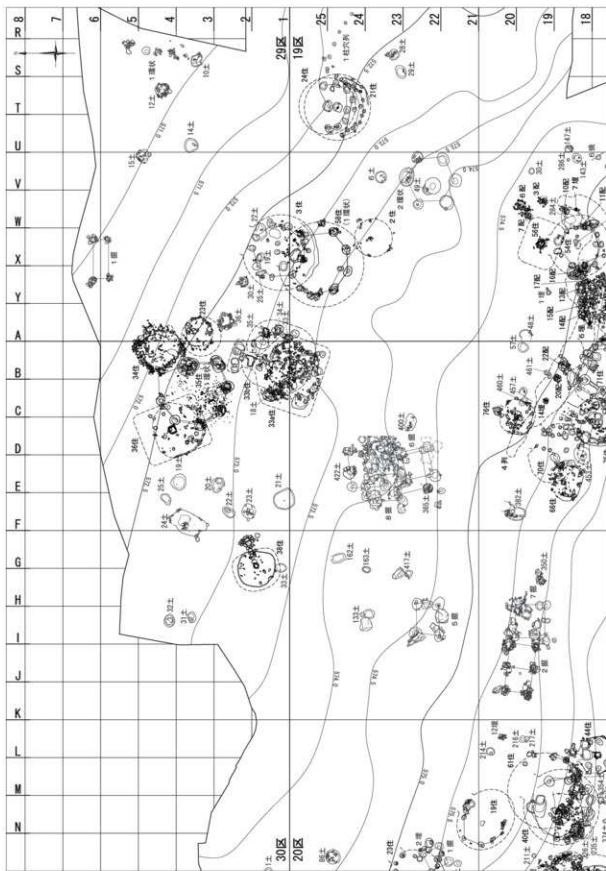
柱穴 柱1～13の計13本が検出された。柱3・4が出入り口の対ビットと考えられるが、その他の柱穴は床面の敷石と対応せず、配置も規則性が乏しい。柱穴置土と地山の土との判別が難しく、検出できなかった柱穴が多いものと思われる。

それぞれの規模(長辺×短辺×深さ)は柱1：137×90×66、柱2：82×75×55、柱3：100×90×48、柱4：83×62×57、柱5：75×(52)×58、柱6：63×(55)×52、柱7：71×59×43、柱8：50×45×52、柱9：(57)×49×40、柱10：15×13×43、柱11：17×15×38、柱12：35×30×24、柱13：29×25×25である。

遺物 土器は総数43点が出土し、点数は少ないが堀之内1が主体となっている。炉内埋設土器(1・2)も堀之内1式期に比定されよう。

石器は磨石1点、剥片4点が出土した。

時期 炉内埋設土器および住居跡出土土器は堀之内1式期を主体としており、本住居跡は当該期に比定されよう。



第 165 図 29・30 区 縄文時代後期住居全体図

3、29・30区の縄文時代後期竪穴住居

ここでは、29・30区において確認された住居跡6軒について報告する。29・30区は平成10年度から平成11年度にかけて調査された一連の調査であること、そして調査された縄文時代後期の住居跡軒数が少ないことから両区を一括して扱う。

29・30区は区の北側を吾妻川が東流しているため、東西に長い調査区となっている。また、29区には中央部を山根沢が流れている。山根沢以东については『横壁中村遺跡(8)』において報告し、本報告では山根沢以西について扱う。

山根沢以西の29区は、後期後半の大規模な墓域として利用され、多くの配石墓が構築されているが、住居跡は少なくとも本報告で対象となる住居跡は1軒である。

30区は東西に長い調査区となっているが、縄文時代後期の住居跡は、その東側に偏って5軒が確認されている。第165図においては、30区の西側は住居跡がないため割愛した。第3図を参照していただきたい。

また、35号住居は『横壁中村遺跡(7)』において30区1号環状柱穴列として報告したものであるが、本報告にあたり再検討した結果、住居跡の柱穴に相当するものと判断した。ここに訂正したい。

29・30区の調査においては、地山および遺構覆土に非常に多くの礫が含まれ、遺構の認定を困難にしていた。そのため、遺物についてはできる限り出土位置を記録して取り上げ、後に住居跡などの遺構が判明した場合に、その帰属が明らかになるように努めた。そのため、本調査区の住居跡出土遺物については、調査時に住居跡の遺物として取り上げられたものと、調査時には単に位置を記録して取り上げ、本整理においてその出土位置から住居跡の遺物として認定したものの両者が含まれている。ただし、層位的な発掘が困難であったため、本来その遺構に帰属するべきでない遺物も含んでしまっている可能性があることをご了解いただきたい。

なお、縄文時代後期の土坑や掘立柱建物、土器埋

設遺構、焼土痕など住居跡以外の遺構の詳細については、『横壁中村遺跡(6)』および『横壁中村遺跡(7)』においてすでに報告済みであるので、参照していただきたい。

29区23号住居

調査年度 平成10年度

位置 Y-3グリッド

経過 敷石と炬状の石囲いを確認し、敷石住居跡として調査を実施した。しかし、その後の調査で、炬状の石囲いは、その礫に被熱痕跡が認められないことや、覆土から焼けていない人骨が出土したことから、炬ではなく中世以降の墓坑(1号墓)であることが判明した。そのため、本住居跡で検出できたのは敷石のみである。

重複 1号墓と重複し、これに切られる。

形状 柄鏡形敷石住居跡と想定されるが、敷石のみの検出であり詳細は不明である。平面図上では敷石の範囲から、直径4.2mの主体部を想定した。また、住居跡の主軸方向が不明なため、図上では北を上に表示している。

床面 鉄平石による敷石が検出された。また、所々に小円礫の出土があり、敷石の間に詰められていたものと推定される。敷石面はほぼ水平であり、残存している部分については攪乱を受けていないとみられる。また、床面と同一面から細形石棒が1点出土している。

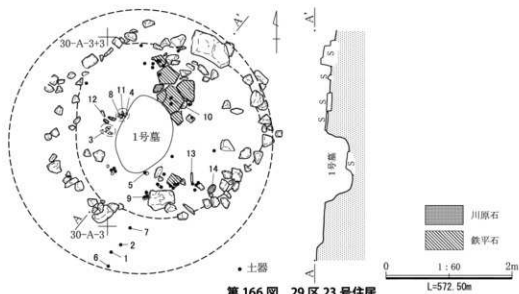
炉 検出されていない。当初、炬と想定した遺構は、その後の調査で中近世の墓坑と判明し、本住居跡を壊して構築されている。

方位 —

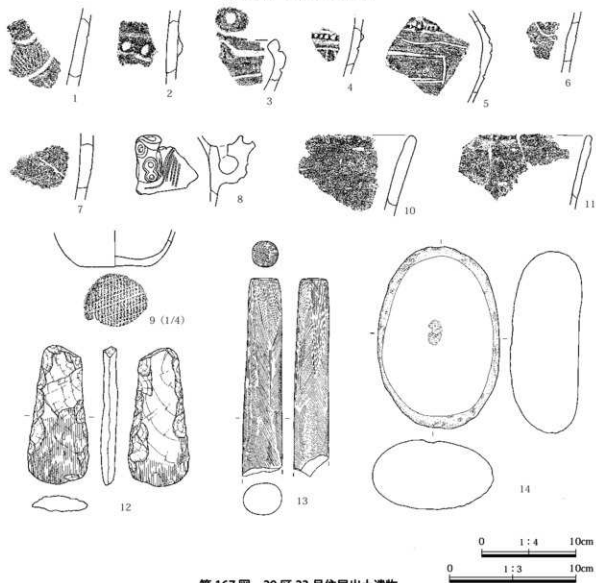
柱穴 柱穴は検出されなかった。

遺物 ここでは、23号住居として取り上げられた遺物と、出土位置の明らかなグリッド出土扱いの遺物のなかで本住居跡の範囲に含まれる遺物を対象とした。

土器は総数129点が出土しており、称名寺1式、堀之内1式、堀之内2式の土器片が出土している。



第166図 29区23号住居



第167図 29区23号住居出土遺物

石器は打製石斧1点、石棒1点、磨石1点、剥片2点がある。13は細形石棒であり、50%ほどの残存と考えられ、下半を欠損している。頭部は平坦に調整されており、基部の可能性もある。全面に擦痕が残り、丁寧な加工である。

時期 出土土器は称名寺1式期から堀之内2式期を主体としている。ただし、住居跡の明確な時期比定できる遺物に乏しい。また、遺構も敷石のみの検出であるため、本住居跡は、縄文時代後期前葉の住居跡とのみ捉えておきたい。

30区33号住居

調査年度 平成10・11年度

位置 A-1グリッド

経過 表土掘削後、折り重なるように鉄平石が積み重なっている地点があり、敷石を伴う住居跡として調査を実施した。ただし、調査時には住居跡の範囲を明確にすることができず、敷石の範囲およびその下位の柱穴群というように調査がなされている。本整理において再検討し、敷石の分布および柱穴の配置、遺物の時期などから、2時期の住居跡が重複しているものと判断した。先行する住居跡を33a号住居、後出の住居跡を33b号住居と名称を付した。

なお、本住居跡は20区と30区にまたがる地点に位置するため、調査時に20区33号住居として調査されている時もあった。そのため、遺物や図面において一部混乱が認められた。

重複 33a号住居が先行し、33b号住居が後出である。

形状 33a号住居 柱穴配置から長軸10m前後の柄鏡形敷石住居跡と想定した。出入り口部は主体部に対し標高の低い側にあたる北北東方向に接続している。

33b号住居 同じく柄鏡形敷石住居跡と想定されるが、出入り口部に相当する柱穴が不明であり、平面図上では、隅丸方形に示してある。図の下部(北北東)方向に出入り口部を有するものと推定される。

床面 33a号住居 床面は不明である。33b号

住居により壊されたものと考えられる。

33b号住居 鉄平石による敷石を住居跡の南西部および北東部に検出した。北東部の第170図拡大部分Aでは、柱穴に沿って鉄平石が直線状に配され、敷石の東側縁辺を示しているものと考えられる。また、この付近からは大量の焼骨が出土している。焼骨については、第4章を参照していただきたい。拡大部分Bでは、鉄平石が斜位に折り重なって検出された。上位の斜位になっている鉄平石を取り除くと、水平に敷かれた鉄平石が認められ、これが本来の床面にあたる敷石と考えられる。上位の敷石は、本来全面敷石であったものを、住居廃絶時などに意図的に剥がして積み重ねられたものと思われる。また、床面相当の敷石は拡大部分Aでは隙間に小円礫が認められるが、拡大部分Bでは小円礫が認められないという相違点が認められる。

炉 33a号住居 検出されなかった。

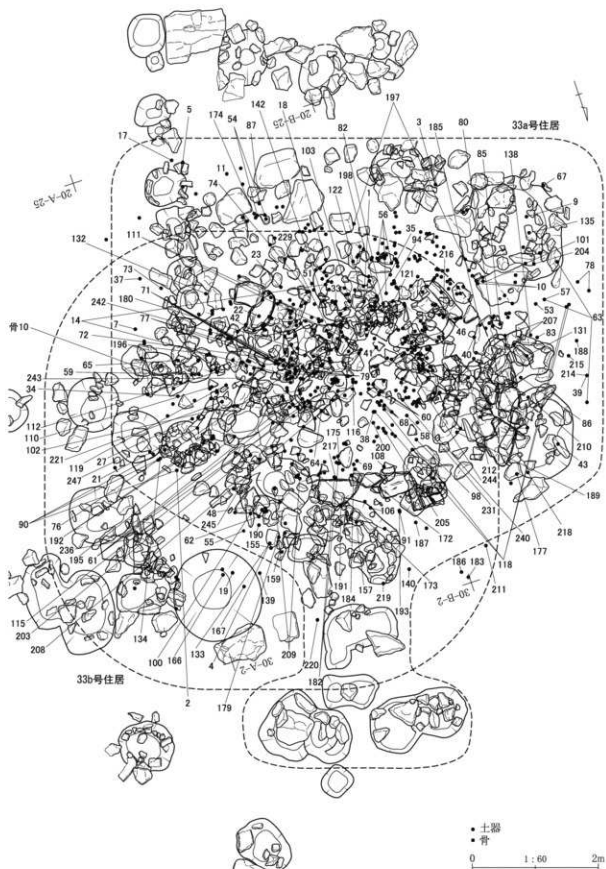
33b号住居 柱穴として調査されていた1基を、その配置から炉の掘り方に相当するものと判断した。断面の記録がないため覆土は不明である。

その規模(長辺×短辺×深さ)は116×90×64である。

方位 N-19°-E

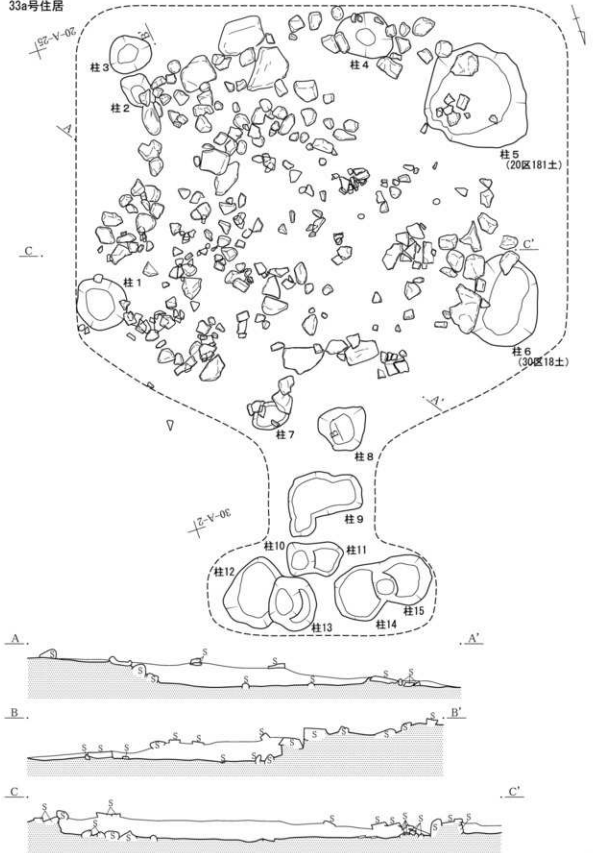
柱穴 柱1～24までの計24本である。このうち柱1～15までが33a号住居の柱穴、柱9・16～24が33b号住居の柱穴と判断したものである。なお、柱9については共有している。また、柱5と柱6については、『横壁中村遺跡(6)』にそれぞれ20区181号土坑、30区18号土坑として単独の土坑扱いで報告済みである。本整理において再検討した結果、本住居跡の柱穴と判断したため、ここに訂正したい。その他の柱穴についても、本整理にあたり33号住居の柱穴群とされていたものに新たに柱穴番号を付した。

それぞれの規模(長辺×短辺×深さ)は、柱1：98×86×61.5、柱2：62×37×49、柱3：67×57×38、柱4：91×60×39、柱5：182×160×38、柱6：141×120×65、柱7：61×40×8、



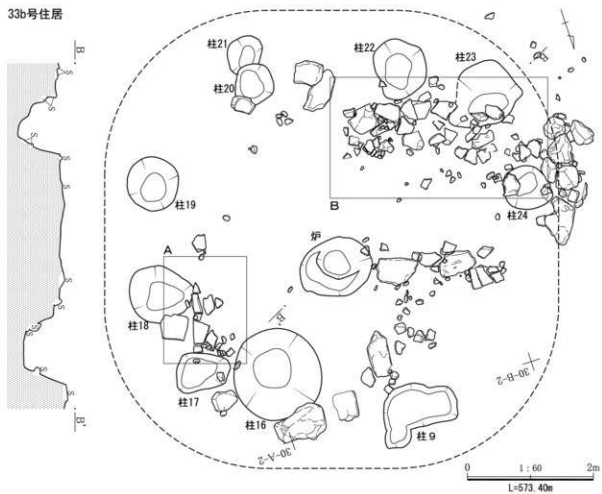
第168図 30区33号住居(1)

33a号住居



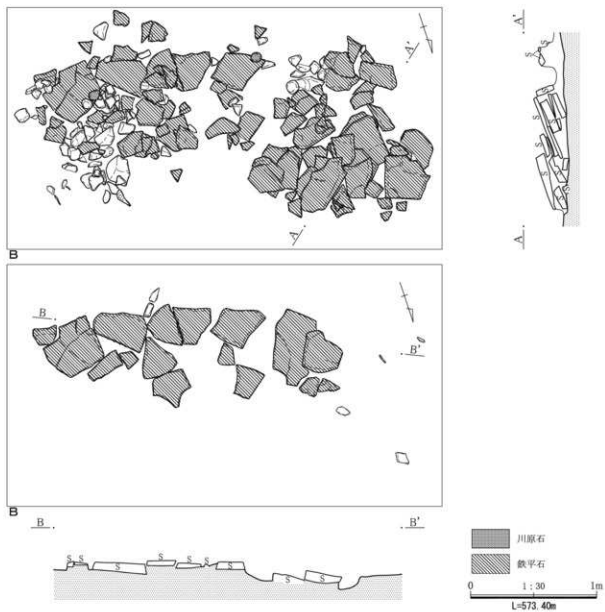
第169図 30区33号住居(2)

33b号住居



焼骨出土状況 (北から)

第170図 30区33号住居(3)

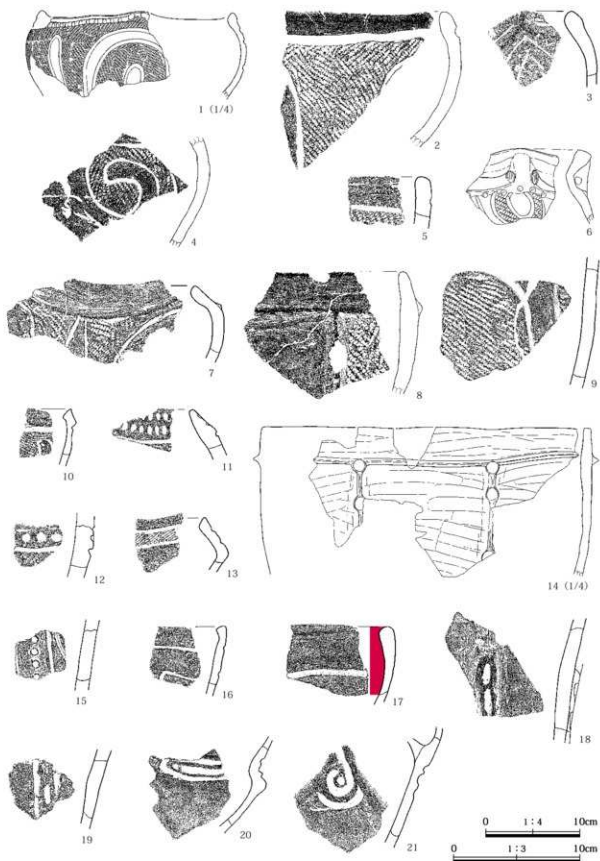


積み重なった敷石（南東から）

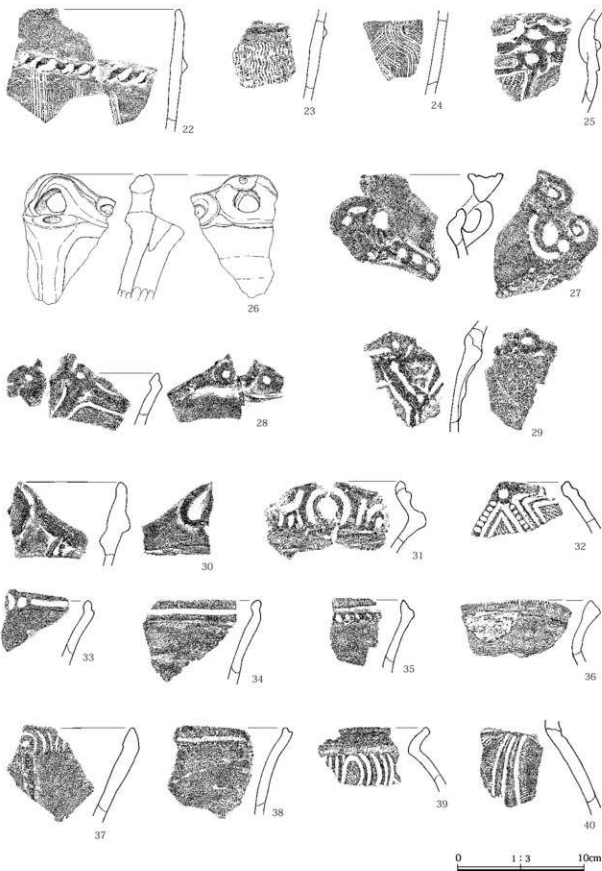


床面の敷石（東から）

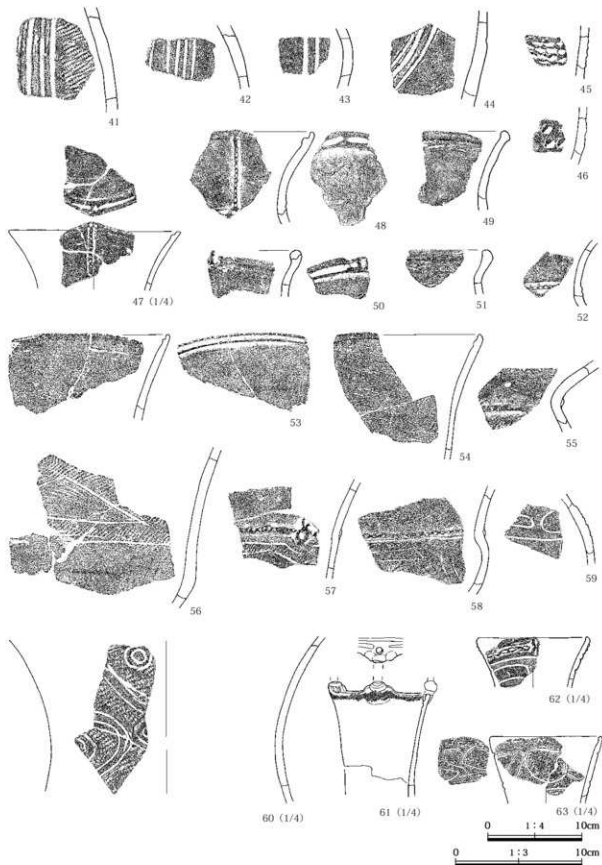
第171図 30区33号住居（4）



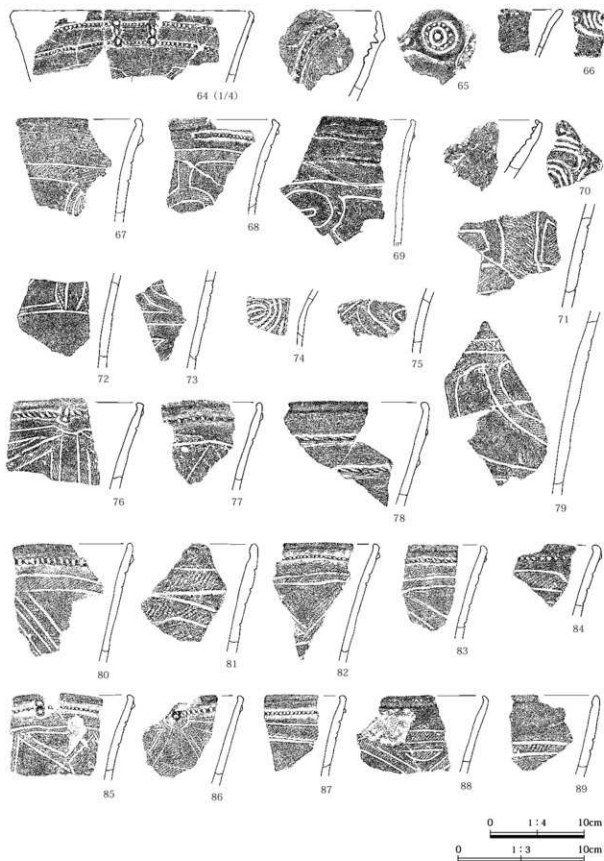
第172図 30区33号住居出土遺物(1)



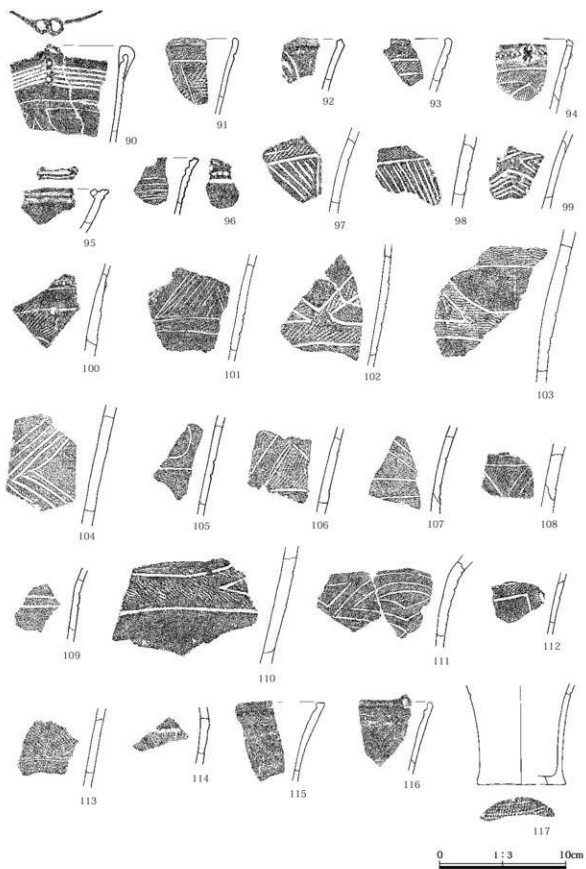
第173図 30区33号住居出土遺物(2)



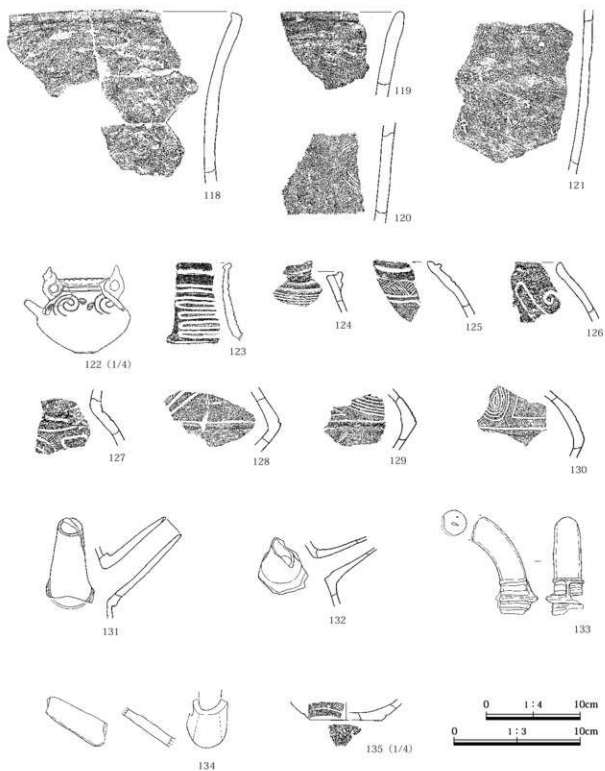
第174図 30区33号住居出土遺物(3)



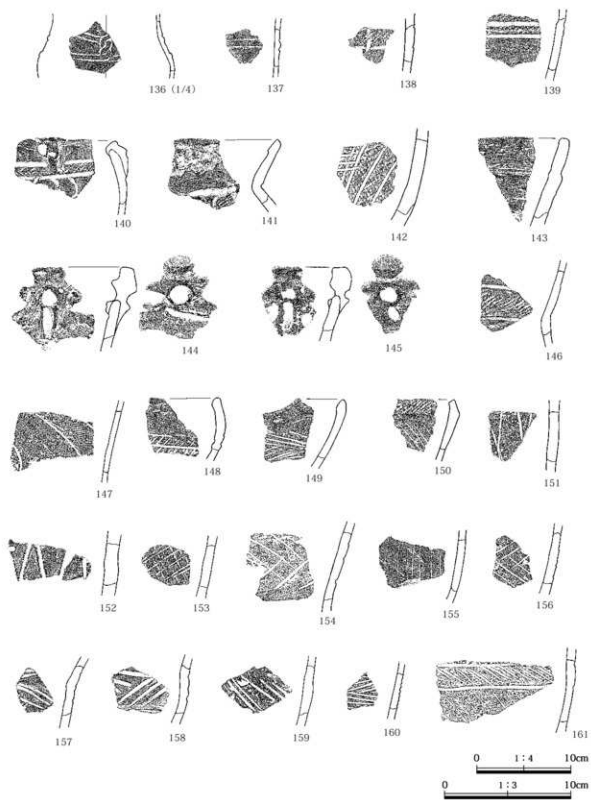
第175図 30区33号住居出土遺物(4)



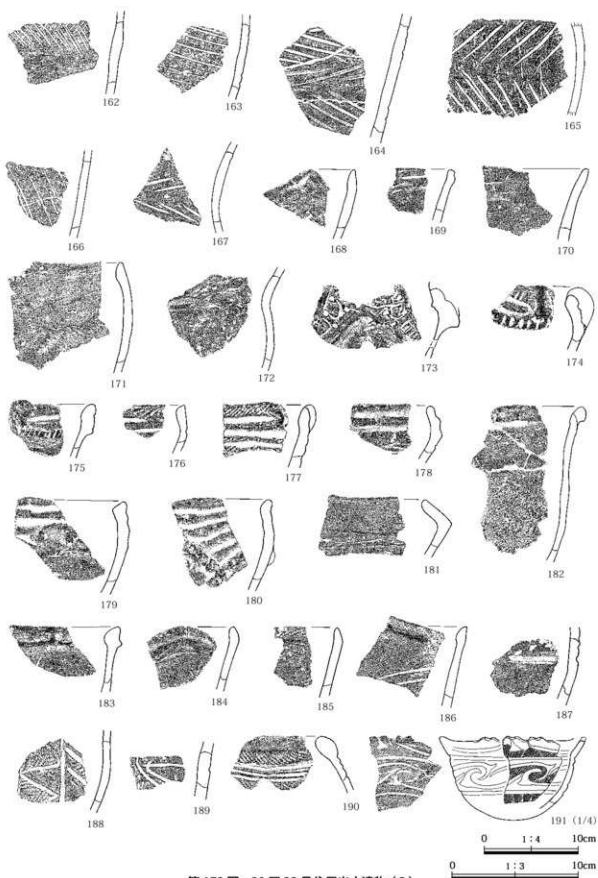
第176図 30区33号住居出土遺物(5)



第177図 30区33号住居出土遺物(6)

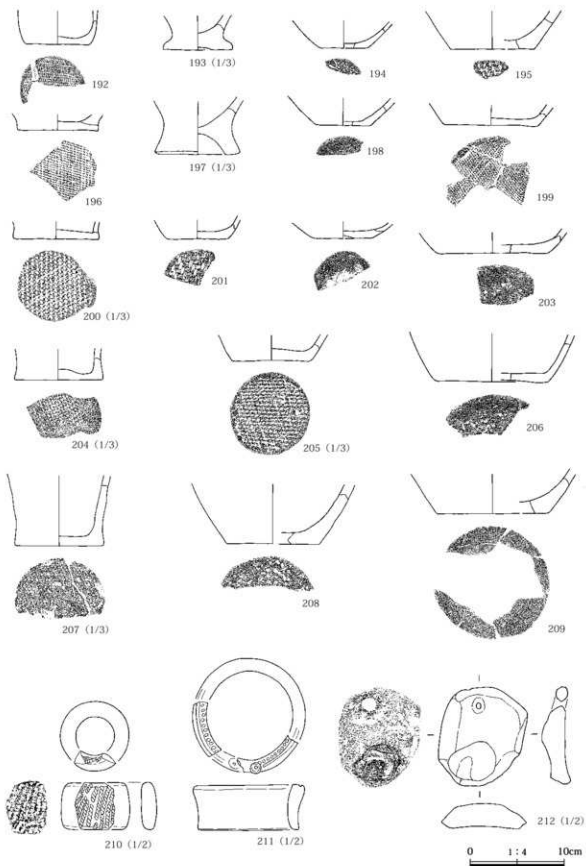


第178図 30区33号住居出土遺物(7)

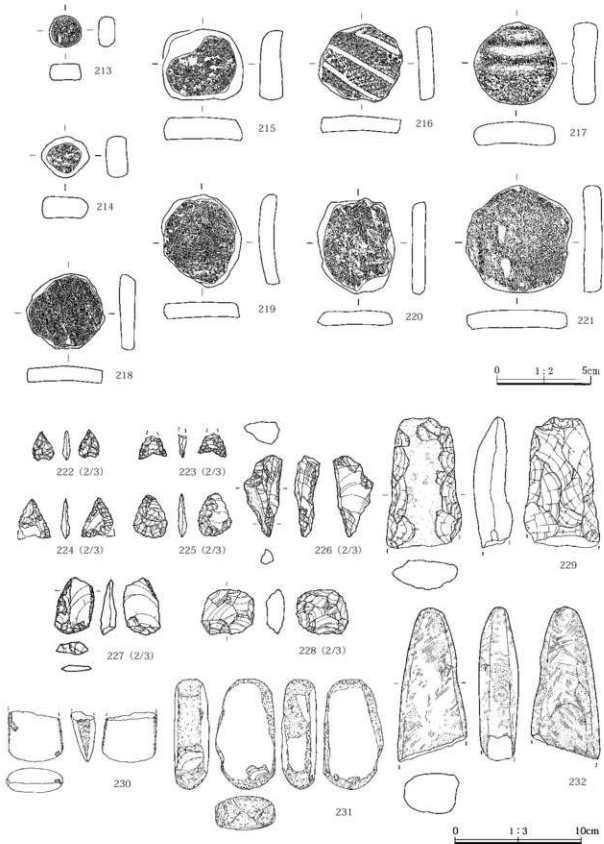


第179図 30区33号住居出土遺物(8)

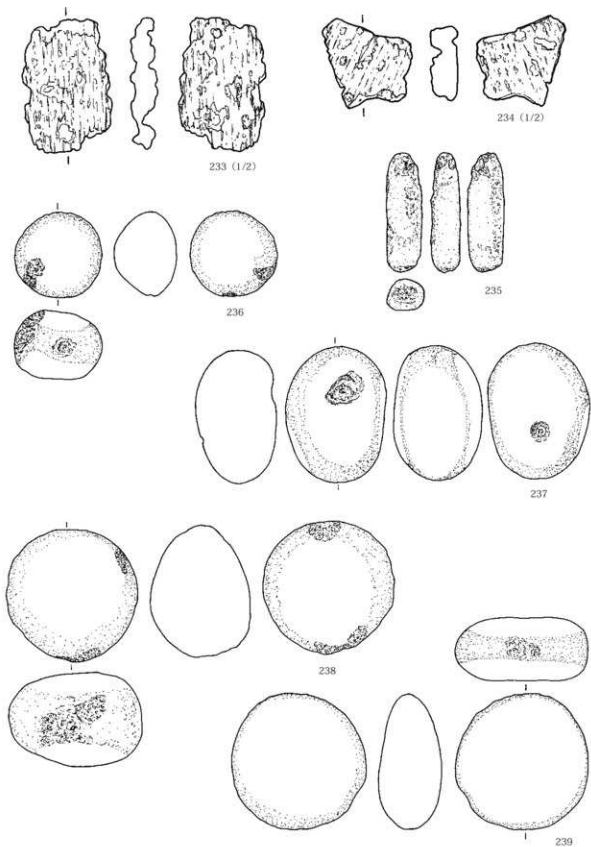
第3章 発見された遺構と遺物



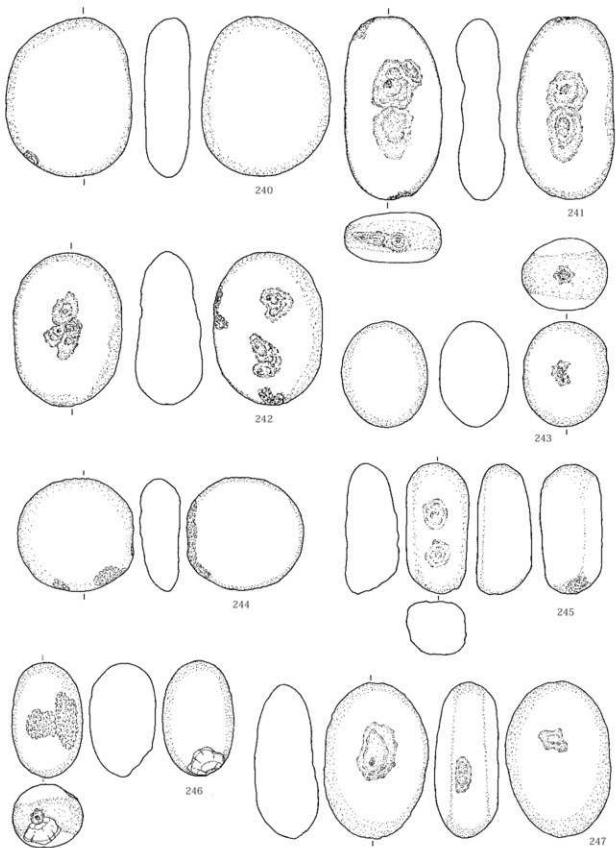
第180図 30区33号住居出土遺物(9)



第181図 30区33号住居出土遺物(10)



第182図 30区33号住居出土遺物(11)



第183図 30区33号住居出土遺物(12)

0 1:3 10cm

第3章 発見された遺構と遺物

柱 8 : 72×64×30.5、柱 9 : 119×92×29、柱 10 : 53×32×28、柱 11 : 54×40×17、柱 12 : 112×75×一、柱 13 : 84×76×一、柱 14 : 87×65×36.5、柱 15 : 94×82×一、柱 16 : 144×143×一、柱 17 : 87×60×38.5、柱 18 : 100×90×50.5、柱 19 : 85×83×50、柱 20 : 62×58×47、柱 21 : 55×44×21.5、柱 22 : 90×89×45、柱 23 : 106×98×45、柱 24 : 87×70×36である。

遺物 ここで、33号住居として取り上げられた遺物と、出土位置の明らかなグリッド出土掘いの遺物のなかで本住居跡の範囲に含まれる遺物を対象とした。住居跡を33a号住居と33b号住居の2軒の重複と判断したが、遺物についてはどちらに帰属するものか判断できないため一括して扱った。

土器は総数5811点が出土し、中期加曾利E式期から晩期までの土器が多数出土している。その主体となる時期は後期の堀之内1式期から堀之内2式期にかけての土器である。加曾利B1式期以降の土器も比較的多く認められる。

土製品は、指輪状土製品1点、耳飾り1点、土製円盤10点が出土している。指輪状土製品は、土器の把手片の可能性もあるが、内面の調整が丁寧であるため、土製品の可能性があるものとして図化した。耳飾りは、接合しないが同一個体と考えられる2点の破片からなる。

石器は石鏃8点(黒曜石5点)、削器1点(黒曜石1点)、加工痕のある剥片7点(黒曜製3点)、使用痕のある剥片2点(黒曜石2点)、ピエス3点(黒曜石2点)、打製石斧2点、礫器1点、磨製石斧3点、敲き石3点、磨石27点、軽石製品2点、軽石原石1点があり、他に石核1点(黒曜石1点)、剥片78点(黒曜石44点)、破片107点(黒曜石98点)がある。

また、本住居跡からは大量の焼骨が検出されている。他の遺物と同じく33a号住居と33b号住居のどちらに帰属するか分別できないため一括して扱う。詳細は第4章を参照していただきたい。

時期 出土土器は堀之内1式期から堀之内2式期を主体とし、本住居跡は当該期に比定されよう。

30区34号住居

調査年度 平成10年度

位置 A-4グリッド

経過 表土掘削後、焼土と炉石が検出され住居跡と認定した。その後、住居跡の北東に長方形の石囲いが検出されたが、単独の配石として調査されている。本整理にあたり、写真および図面を再検討した結果、この配石は住居跡の出入り口部に相当するものであると判断し、図上で復元した。

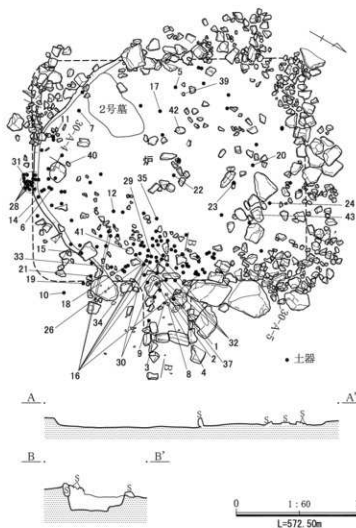
重複 2号墓と重複し、これに切られる。

形状 北東方向に出入り口部を有する全長4.5mの住居跡である。ただし、柱穴が不明なため、全体形状は推定である。住居跡の長軸と直交する方向に長い長方形状に、地山に含まれる礫の量が少ない範囲が認められるため、その範囲が主体部の範囲を示している可能性がある。そこから推定される主体部形状は隅丸長方形状で、最大幅4.3mほどである。

床面 が検出面を中心に調査を行ったが、敷石や硬化面など明確な床面は検出されなかった。ただし、先述の通り、地山に礫の少ない範囲が認められ、これが住居跡主体部の範囲を示しているものと判断した。掘り方の記録がないが、住居構築時に地山に含まれる礫を除去した可能性があるものとして捉えられる。

出入り口部 主体部の北東に接続する。接続部には、1石の川原石が竪位で設置され、この礫が主体部と出入り口部の境界を示しているものと考えられる。また、その礫から約1m北東に鉄平石が直線状に配置されている。ここままで出入り口部の範囲と考えられる。その内部には、明瞭な敷石の敷設は認められず、縄文時代後期前葉の柄鏡形敷石住居跡とは多少趣を異にしている。出入り口部全体の規模は、長さ113cm、幅84cmである。

炉 被熱痕跡のある礫と焼土を検出し、炉と認定した。ただし、炉石と考えられる被熱痕跡のある礫は本来の位置を保っていない可能性が高い。焼土は炉石と考えられる礫と接しているが、その範囲の外側である。また、炉内として掘り下げた部分には



第184図 30区34号住居

ごくわずかの焼土粒が含まれる程度である。攪乱を受けたものと思われる。

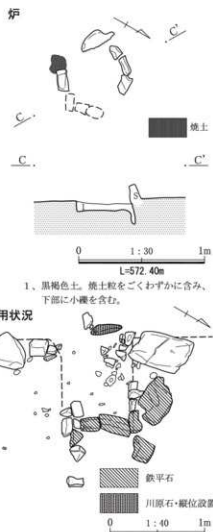
その規模(長辺×短辺×深さ)は確認面で60×(55)×20である。

方位 N-61°-E

柱穴 柱穴は検出されなかった。

遺物 ここでは、34号住居として取り上げられた遺物と、出土位置の明らかなグリッド出土扱いの遺物のなかで本住居跡の範囲に含まれる遺物を対象とした。

土器は総数421点が出土しており、堀之内2式期から安行式期の土器片が多く出土している。1～4が出入り口部の遺物として取り上げられた遺物、6・8・13・16・21・26～28・30～36が主体



1、黒褐色土。焼土粒をごくわずかに含み、下部に小礫を含む。

礫使用状況

鉄平石

川原石・礫位設置

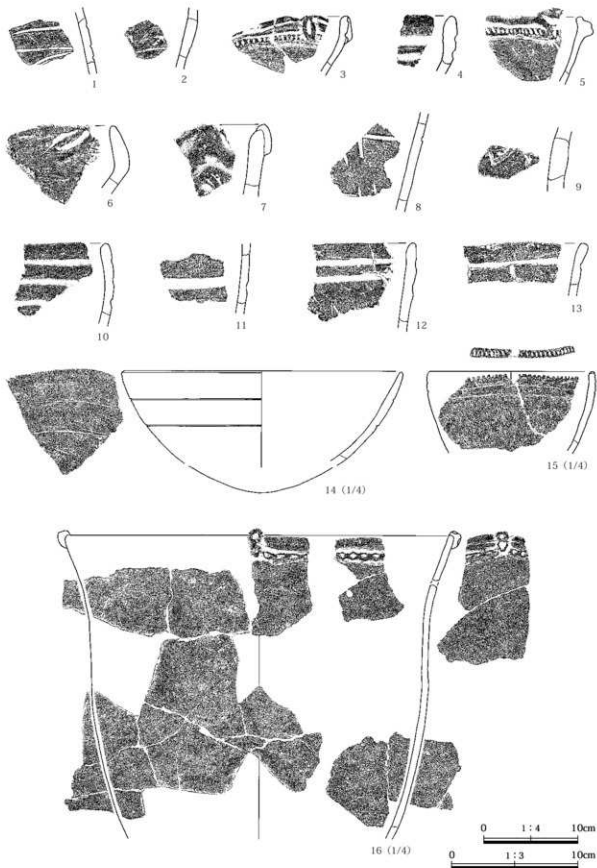
部から取り上げられた遺物、その他がグリッド出土扱いの遺物である。

土製品は、出入り口部から耳飾りが1点出土している。破片であるが、推定直径5.5cmの滑車形を呈する。文様は欠損のため不明であるが、全体に赤色塗彩がなされている。

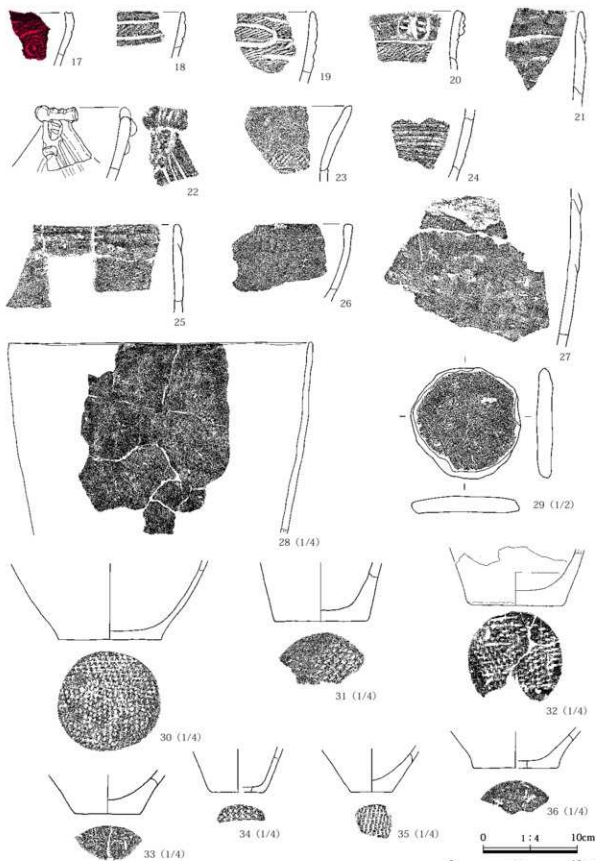
石器は石鏃2点(黒曜石1点)、加工痕のある剥片1点、磨石7点、凹石1点、石棒1点があり、他に剥片2点、砕片3点がある。

時期 出土土器は高井東式期を主体としており、本住居跡は当該期に比定されよう。

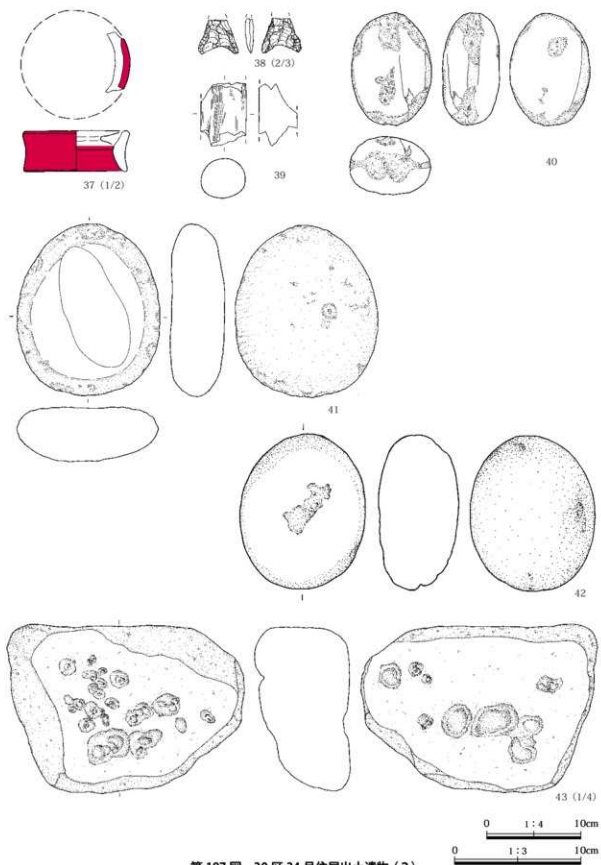
第3章 発見された遺構と遺物



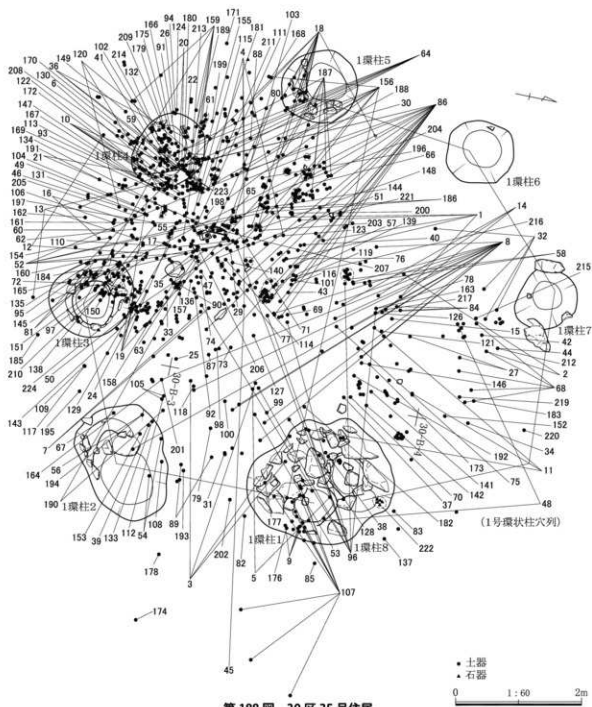
第185図 30区34号住居出土遺物(1)



第186図 30区34号住居出土遺物(2)



第187図 30区34号住居出土遺物(3)

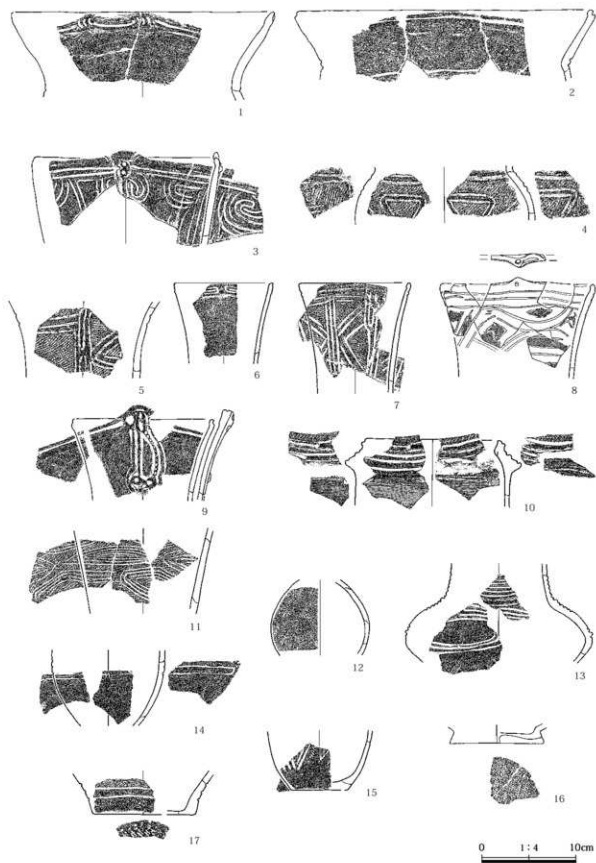
**30区35号住居**

調査年度 平成10年度

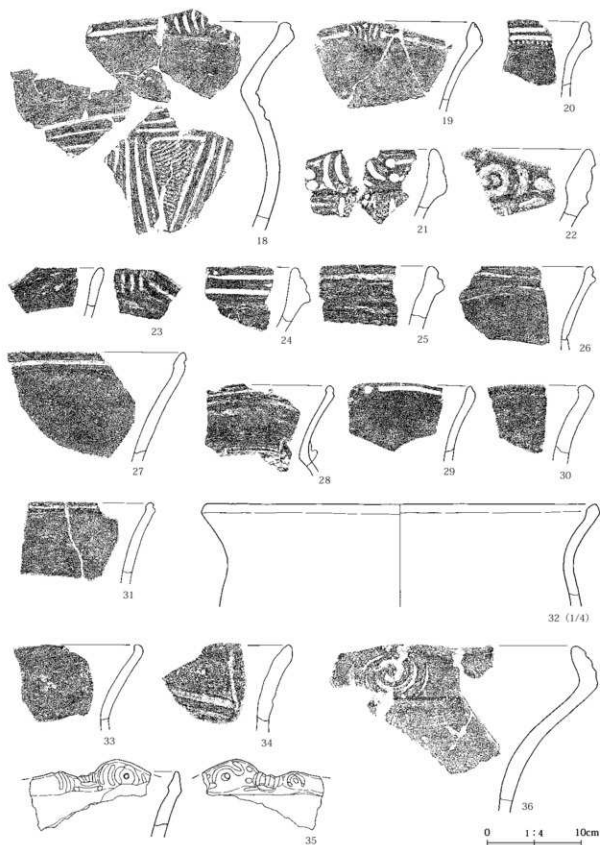
位置 B-3グリッド

経過 表土掘削後、遺物が集中する地点があり、住居跡の可能性を考え調査した。しかし、柱穴など住居跡認定に必要な要素が確認できなかった。そのため遺物の取り上げ図があるのみで、写真記録

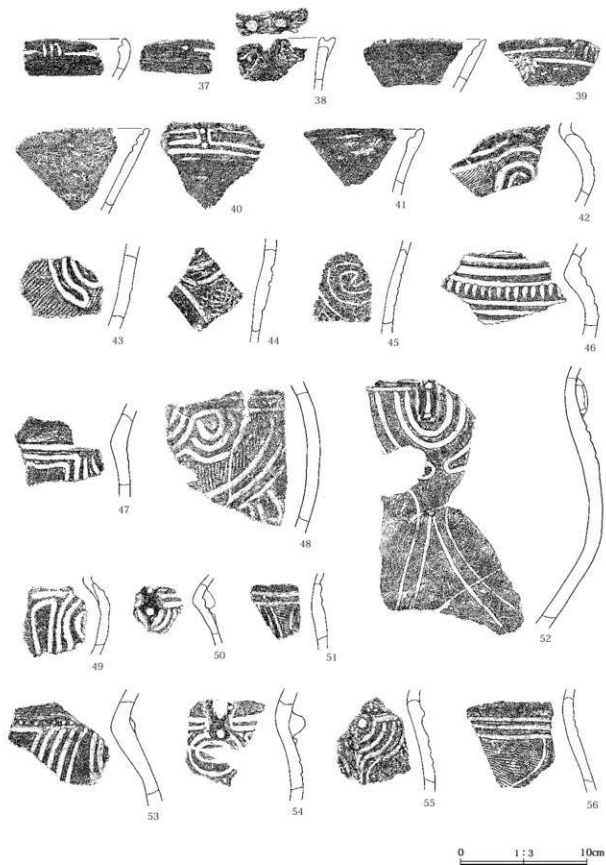
などは残っていない。本整理にあたり、本住居跡の遺物平面図と30区1号環状柱穴の平面図を重ねたところ、その位置が符合した。ここで再度、30区1号環状柱穴を検討したところ、本遺跡における他の縄文時代後期の住居跡の柱穴配置と類似していることが判明した。そのため、30区1号環状柱穴は住居跡として扱うことが適当という判断に至った。



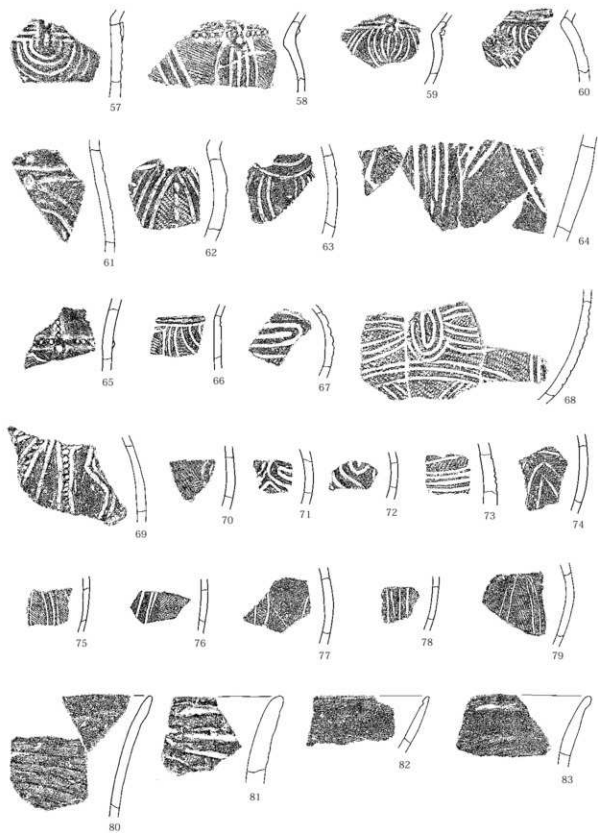
第189図 30区35号住居出土遺物(1)



第190図 30区35号住居出土遺物(2)

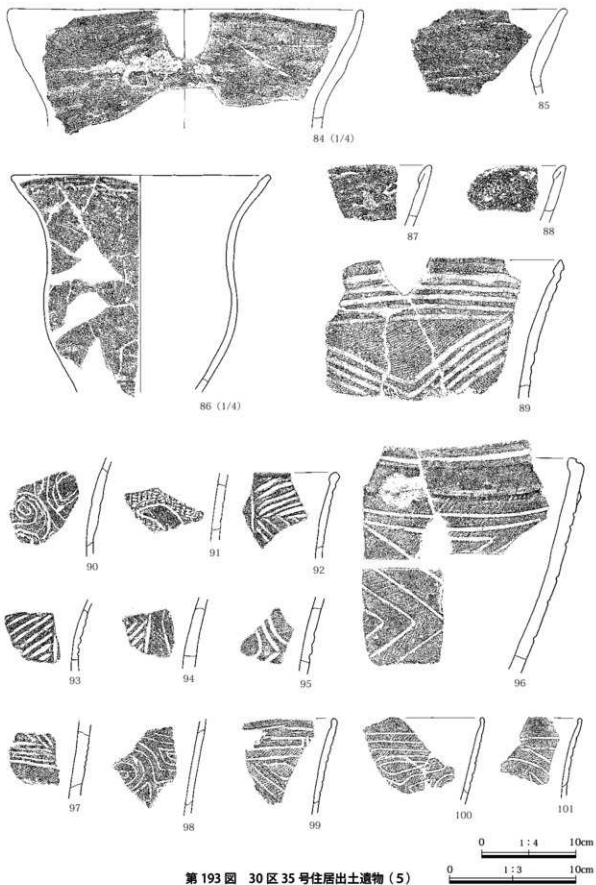


第191図 30区35号住居出土遺物(3)

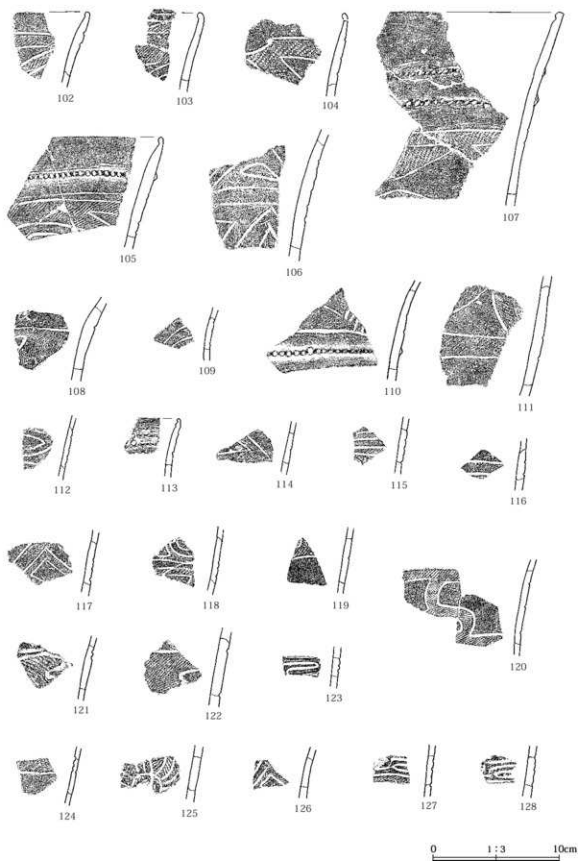


0 1:3 10cm

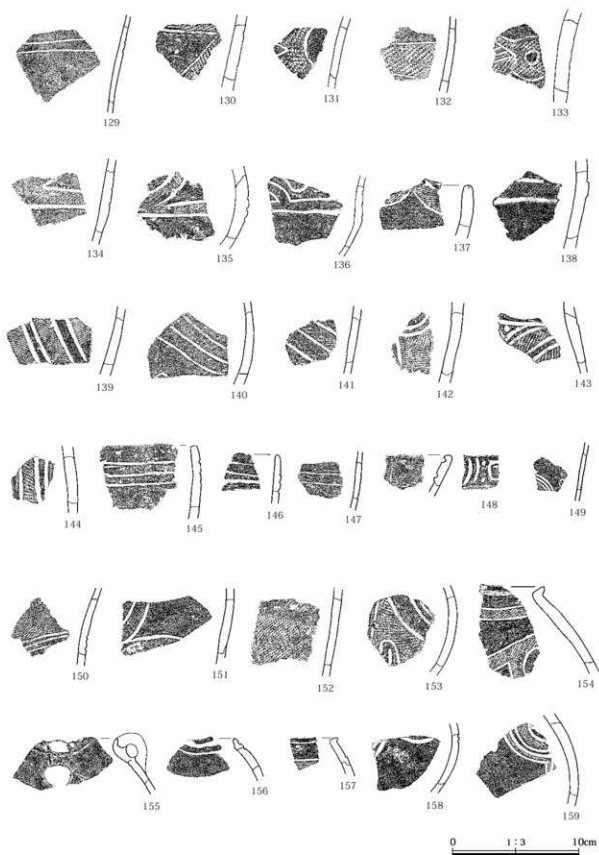
第192図 30区35号住居出土遺物(4)



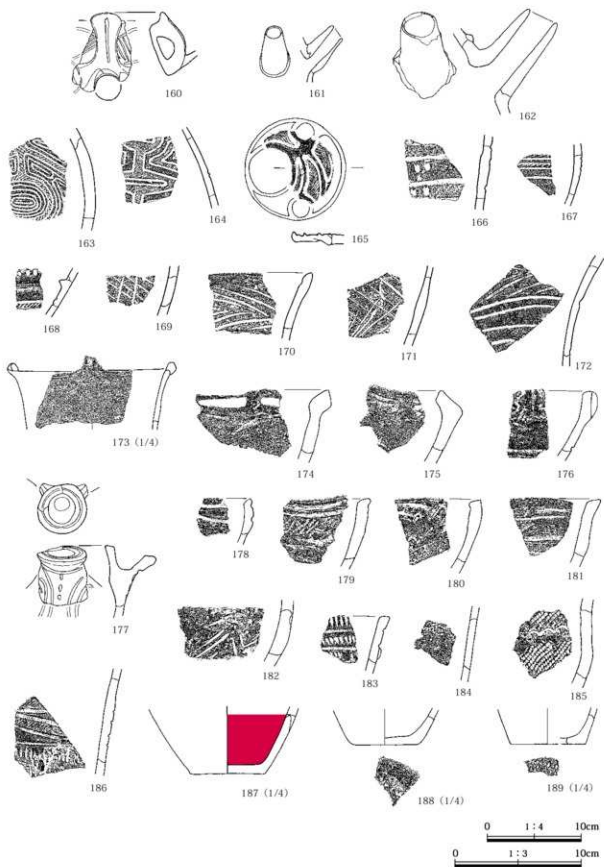
第193図 30区35号住居出土遺物(5)



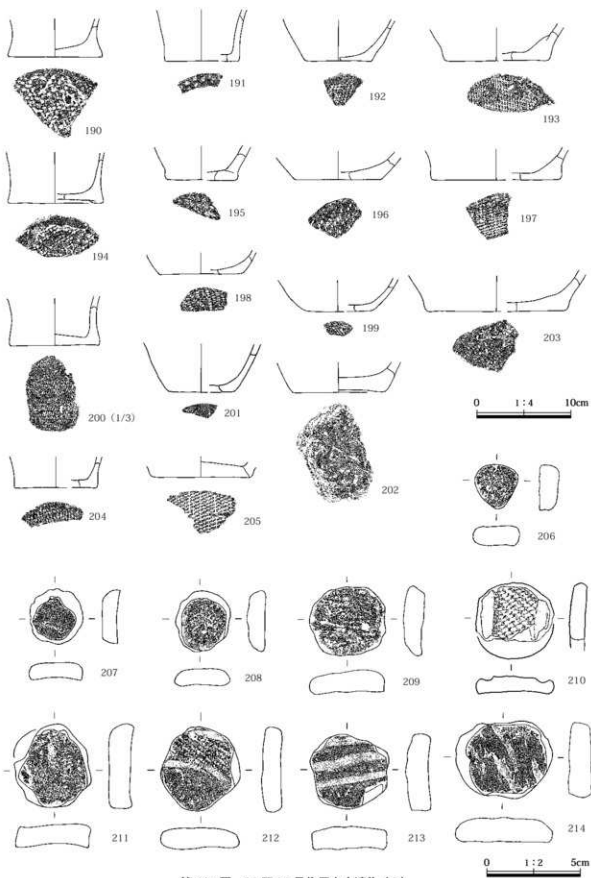
第194図 30区35号住居出土遺物(6)



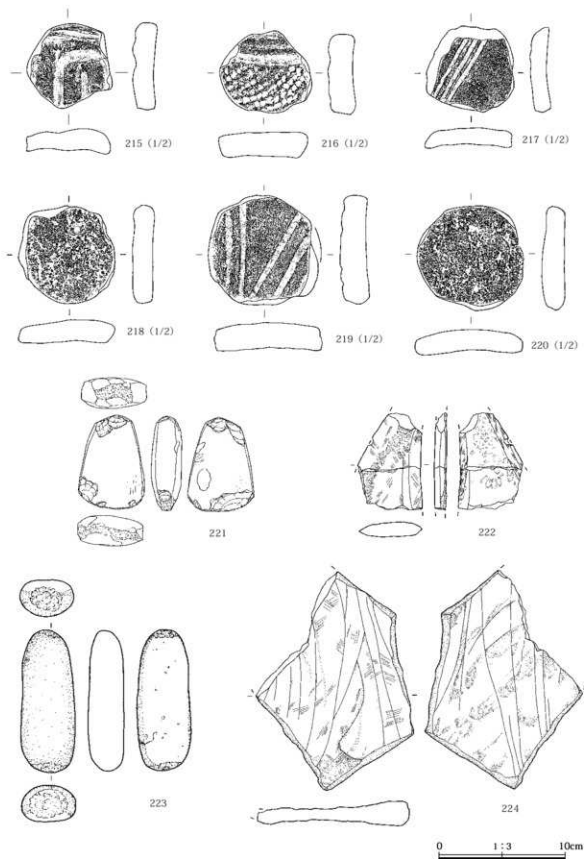
第195図 30区35号住居出土遺物(7)



第196図 30区35号住居出土遺物(8)



第197図 30区35号住居出土遺物(9)



第198図 30区35号住居出土遺物(10)

第3章 発見された遺構と遺物

30区1号環状柱穴列は『横壁中村遺跡(7)』です。すでに報告済みであるが、住居跡の柱穴として訂正したい。なお、断面図および個別柱穴の説明や出土遺物については『横壁中村遺跡(7)』に詳細に記述されているので、そちらを参照していただきたい。

重複 36号住居、9号土器埋設遺構と重複し、これに切られる。

形状 東北東方向に出入り口部を有する柄鏡形敷石住居跡と想定される。主体部は柱3と柱7の芯芯距離で7.2mであり、直径8m以上の円形の主体部と想定される。出入り口部の詳細は不明である。

床面 検出されていない。

炉 検出されていない。

方位 N-76°-E

柱穴 柱穴については、先述のように30区1号環状柱穴列の柱穴をあてる。個別の柱穴についての詳細は先の報告書を参照していただきたい。

それぞれの規模(長辺×短辺×深さ)は、柱1:162×123×132、柱2:174×120×138、柱3:136×115×168、柱4:125×107×168、柱5:124×116×183、柱6:110×107×152、柱7:105×92×132、柱8:145×××128である。

遺物 ここでは、35号住居として取り上げられた遺物と、出土位置の明らかなグリッド出土扱いの遺物のなかで本住居跡の範囲に含まれる遺物を対象とした。グリッド上げ遺物のなかで、35・36号住居の重複する部分の遺物については、その帰属が分別できないため、35・36号住居出土遺物として、36号住居の後に一括して掲載した。

土器は総数2,144点が出土した。堀之内2式期を主体とし、堀之内1式新段階の土器が多く見られる。また、加曾利B式、高井東式、安行式も含まれている。各柱穴の遺物は『横壁中村遺跡(7)』に掲載している。そちらを参照していただきたい。柱穴からは、堀之内1式が最も多く出土し、堀之内2式がそれに次ぐ。また、加曾利B式、高井東式も含まれる。

土製品では、土製円盤が15点出土している。今回報告する住居跡の中では最多の出土量である。

石器は石礫1点、削器1点、加工痕のある剥片2点、磨製石斧1点、磨石4点、石皿1点・砥石2点があり、他に剥片4点(黒曜石1点)、破片1点(黒曜石1点)がある。

時期 覆土および柱穴からの出土土器は、堀之内1～2式期を主体としており、本住居跡は当該期に比定されよう。

30区36号住居

調査年度 平成10・11年度

位置 C-3グリッド

経過 表土掘削後、石囲い炉を検出したため住居跡と認定し調査を実施した。炉および床面の調査終了後に掘り方の調査を実施し、その際、床下から埋設土器1基と半完形の土器を伴う土坑を確認した。しかし、この土坑は柱穴として調査されているため、本報告でも柱穴として扱っている。

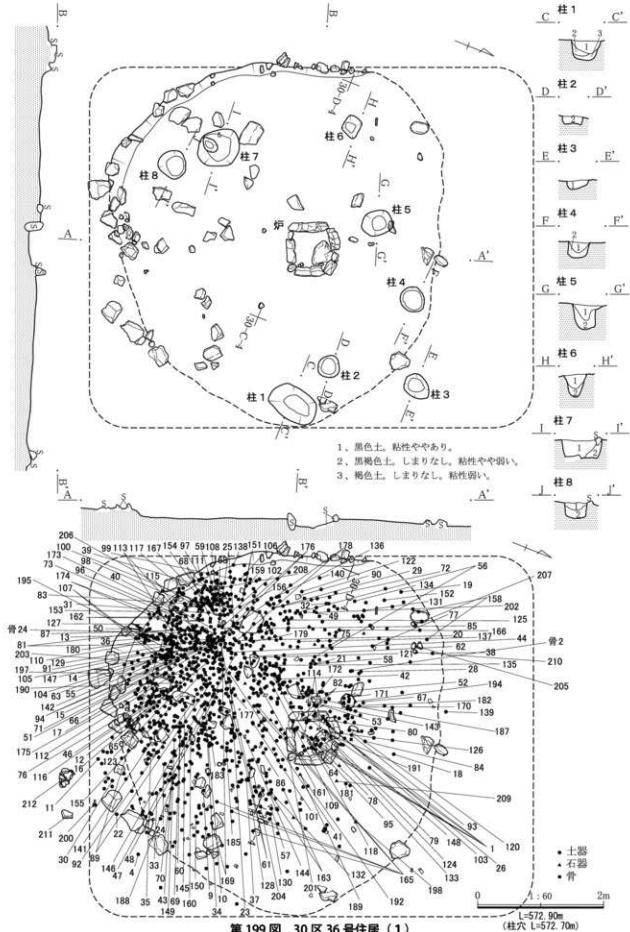
重複 35号住居と重複し、これを切る。

形状 敷石などはなく住居跡の範囲は不明瞭である。南西側にわずかな段差を確認し、調査時はこれをもとに直径5mほどの円形の住居跡を想定した。しかし、本整理では、住居跡上位のグリッド出土遺物の分布や出土遺物の時期などを再検討し、南北に長い隅丸長方形を呈する住居跡と想定した。

床面 覆土には多数の礫が含まれるが、偏平な地山礫や鉄平石などは確認されず、敷石はなかったものと考えられる。硬化面など明確な床面は検出できなかったが、炉石から推定される床面は、周囲の地山と比較して礫が少なく、明らかに地山の礫を除去したように看取される。

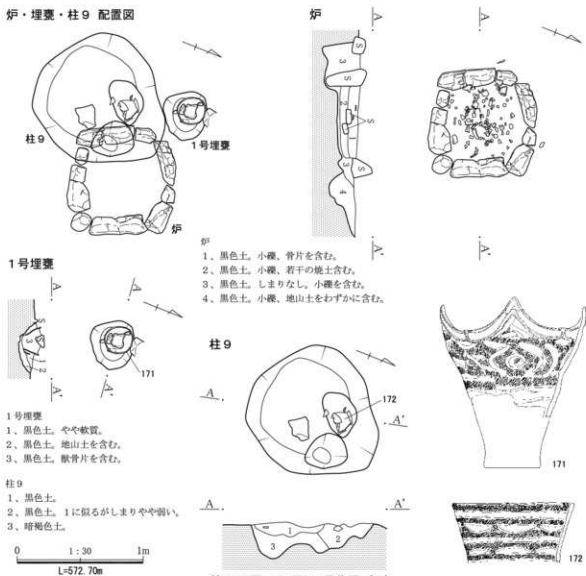
炉 方形石囲い炉である。4辺とも偏平な地山礫を縦位に設置する。被熱によりブロック状に割れているが、東・南・西辺は1石の大型偏平礫を用い、北辺のみ2石を用いている。また、南東隅には、楕円体の川原石を縦位に設置している。その規模(長辺×短辺×深さ)は使用面で86×85×23である。

1号埋設 掘り方調査中に炉の北西20cmに埋設土器(171)を検出した。床面では確認できていない。



第199図 30区36号住居(1)

炉・埋壘・柱9 配置図



第200図 30区36号住居(2)

埋設土器は、縄文時代後期後半の深鉢の口縁部から胴部上半を正位に埋設している。胴部下半以下は残存しない。出土状況から埋設時から存在しなかったものと考えられる。また、土器の上面には数石の礫が載せられたように認められたが、意図的なものか、覆土に含まれたものかは判断できなかった。

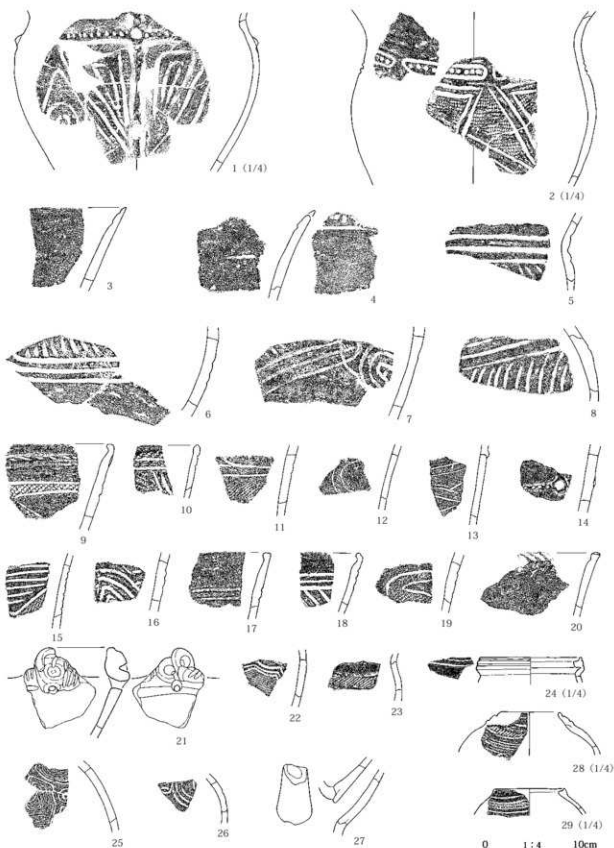
方位 N-71°-E

柱 穴 柱1～柱9の計9本を検出した。柱9については、土坑とも考えられる遺構であり後述する。柱1～8は炉から30cmという至近距離のものも含まれ、柱穴配置に規則性が捉えがたい。また、その規模も小さく浅いものが多い。調査時に住居跡範囲と想定した範囲のさらに外側に柱穴があった可能性

も考えられよう。

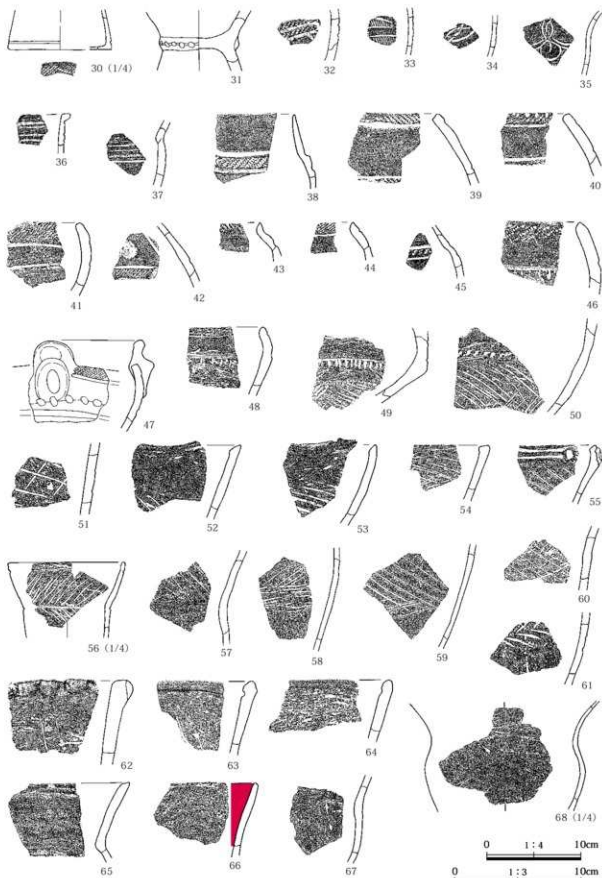
それぞれの規模(長辺×短辺×深さ)は、柱1: 79×50×35、柱2: 34×34×15、柱3: 45×34×19、柱4: 40×38×26、柱5: 50×38×43、柱6: 30×26×35、柱7: 70×57×30、柱8: 45×43×28である。

柱穴9は掘り方調査で確認された。炉と一部重複するが、炉石はすべて残存しているため、炉に先行するものと考えられる。その規模(長辺×短辺×深さ)は107×95×30であり、むしろ土坑とすべきものと考えられる。単独の土坑であるのか、住居内土坑であるのかは判断できなかった。遺物は、土坑の北東部よりの底面付近から、口縁部から胴部上

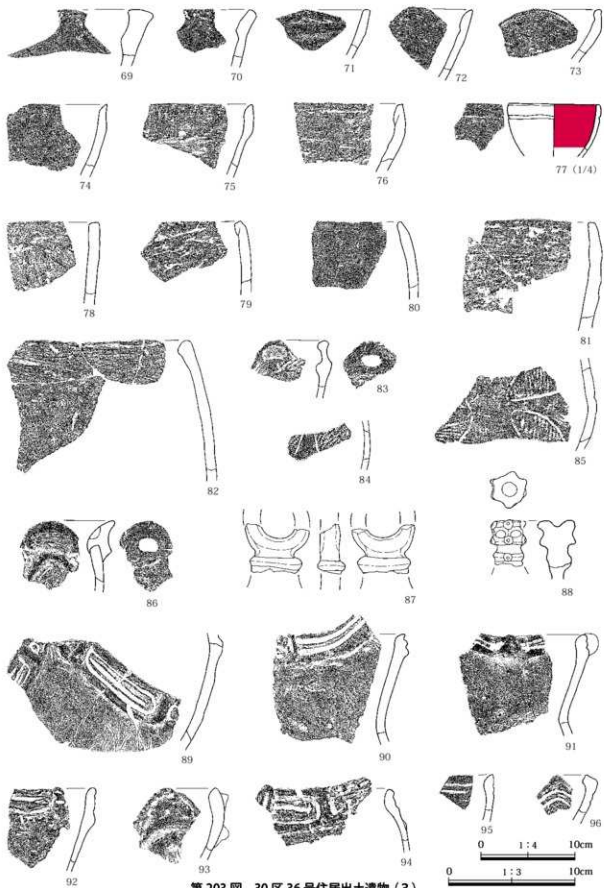


第201図 30区36号住居出土遺物(1)

第3章 発見された遺構と遺物

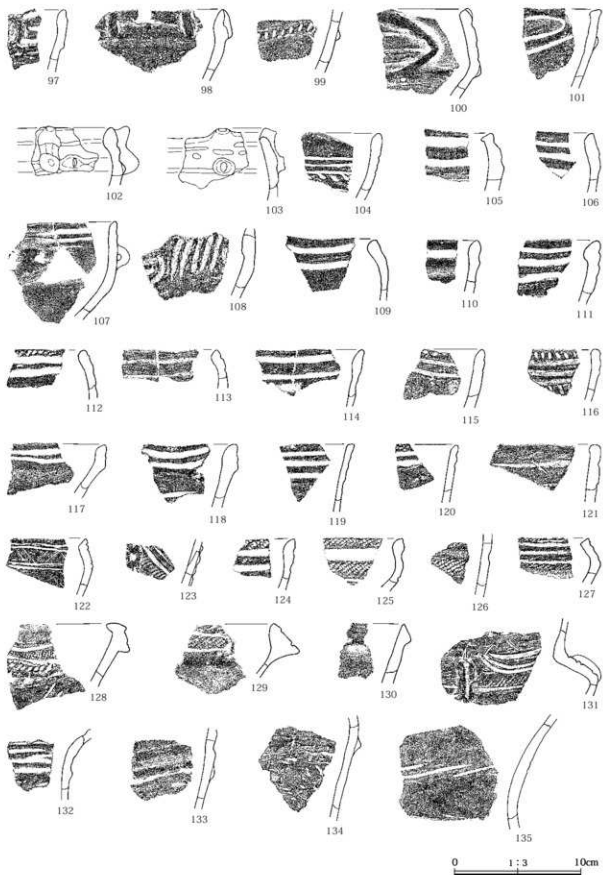


第202図 30区36号住居出土遺物(2)

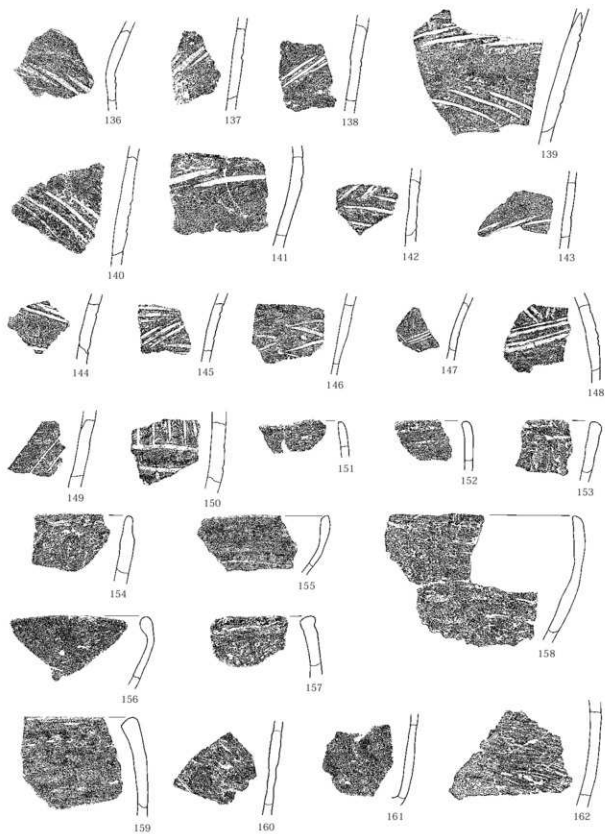


第203図 30区36号住居出土遺物(3)

第3章 発見された遺構と遺物



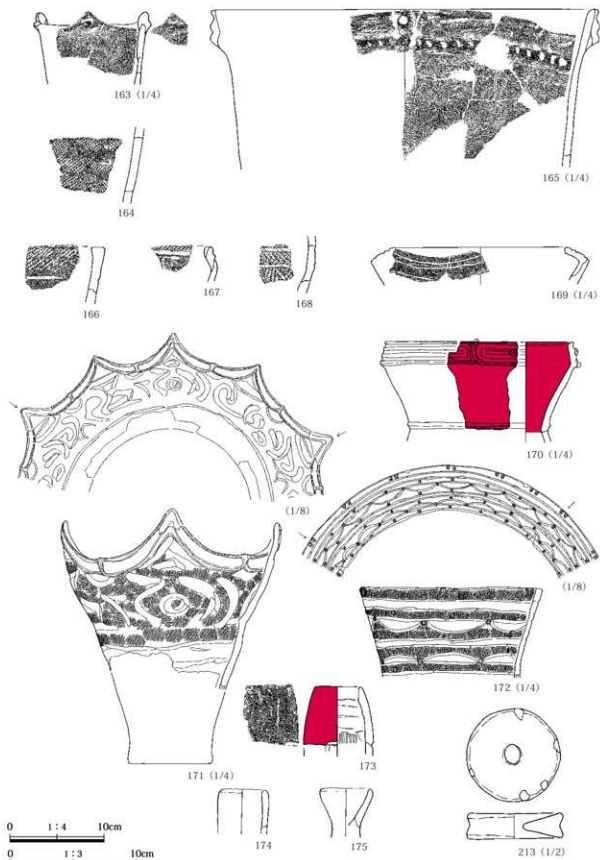
第204図 30区36号住居出土遺物(4)



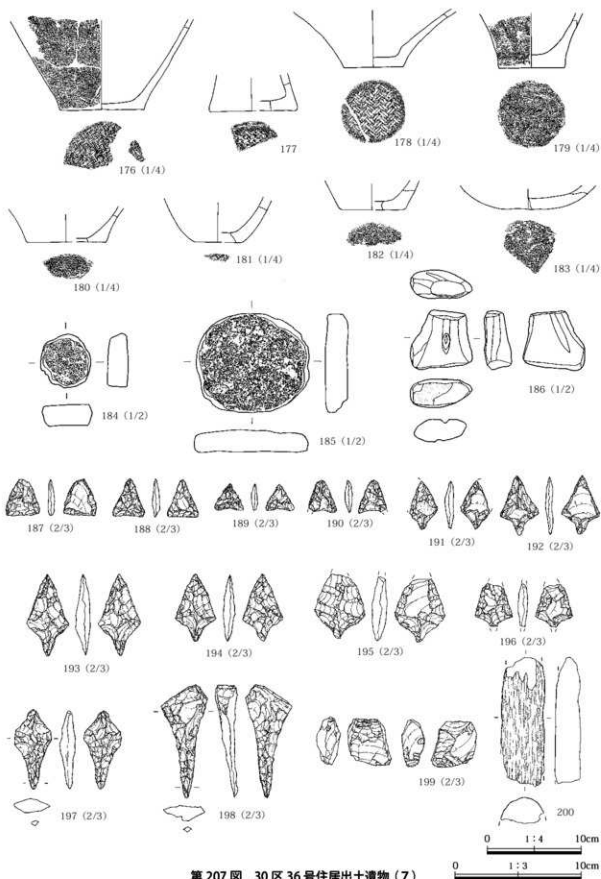
0 1:3 10cm

第205図 30区36号住居出土遺物(5)

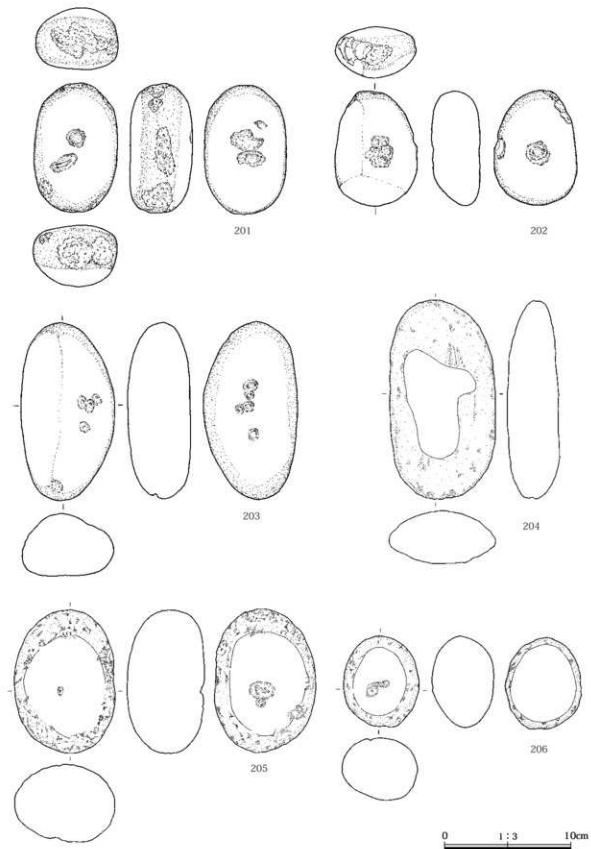
第3章 発見された遺構と遺物



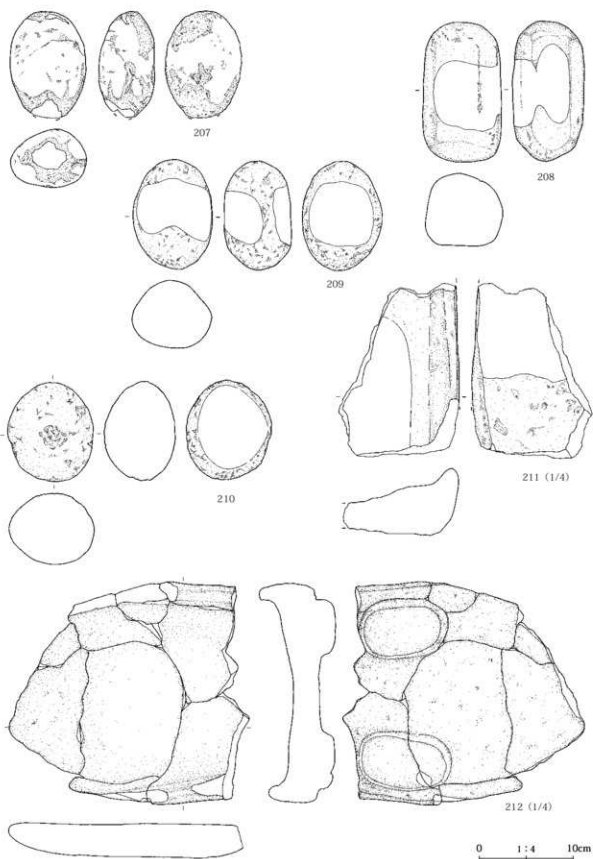
第206図 30区36号住居出土遺物(6)



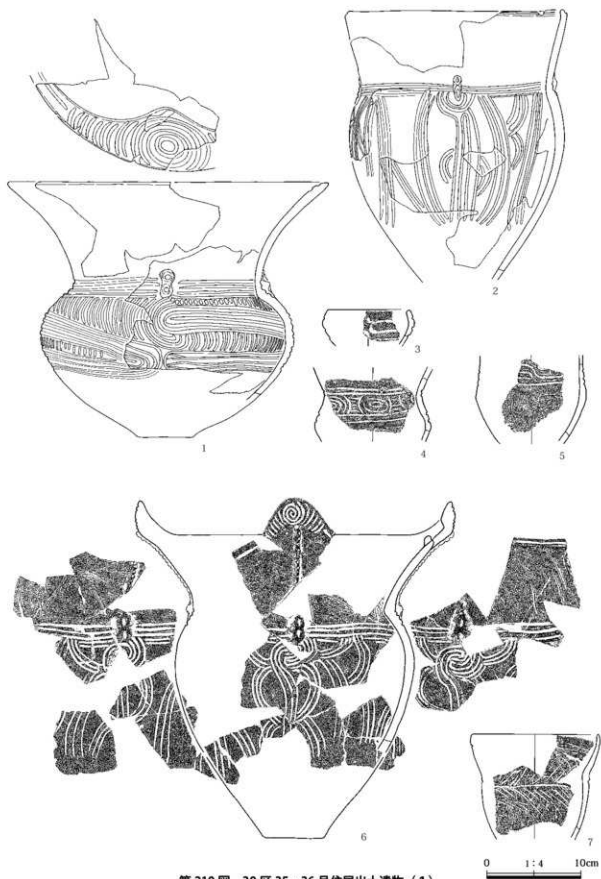
第207図 30区36号住居出土遺物(7)



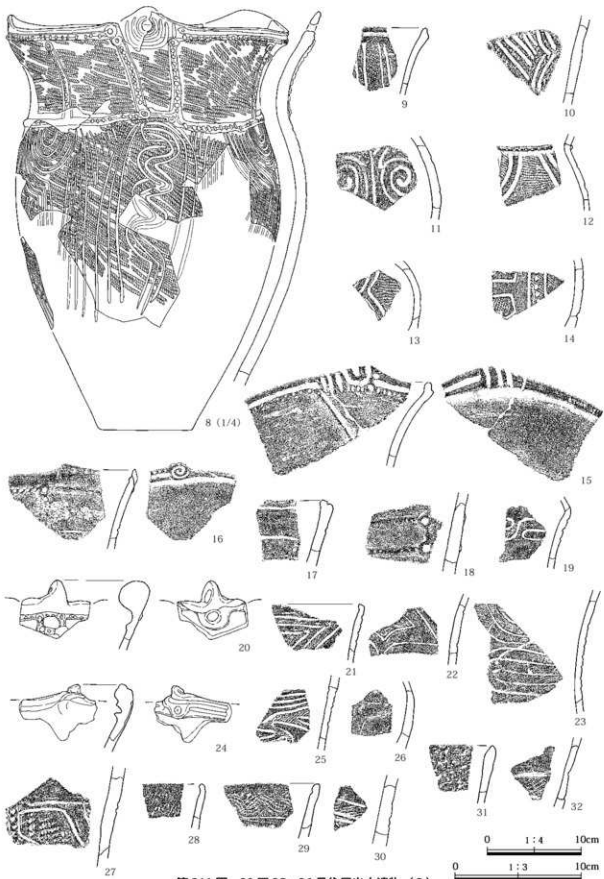
第208図 30区36号住居出土遺物(8)



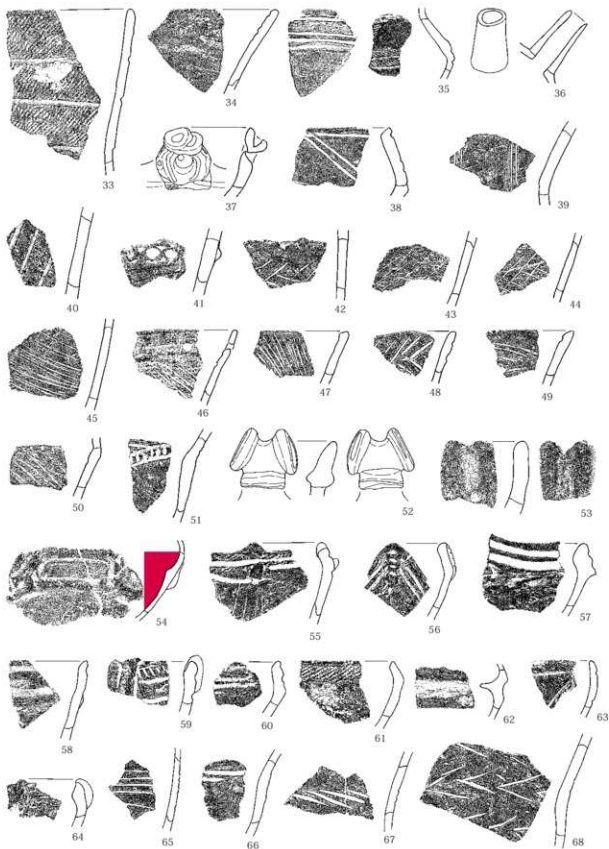
第209図 30区36号住居出土遺物(9)



第210図 30区35・36号住居出土遺物(1)

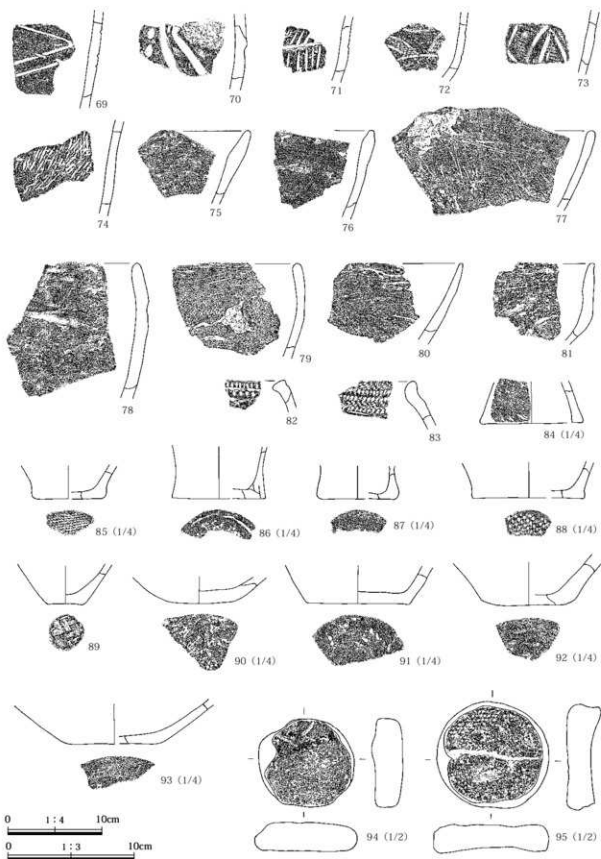


第211図 30区35・36号住居出土遺物(2)



第212図 30区35・36号住居出土遺物(3)

0 1:3 10cm



第213図 30区35・36号住居出土遺物(4)

第3章 発見された遺構と遺物

半にかけての深鉢（172）が出土している。胴部下半以下はなく、横倒しで潰れた状態で検出されている。遺構の形状および出土遺物の状況より墓坑の可能性も考えられよう。

遺物 ここでは、本住居跡出土遺物として取り上げられた遺物と、出土位置の明らかなグリッド出土扱いの遺物のなかで本住居跡の範囲に含まれる遺物を対象とした。グリッド上げ遺物のなかで、35・36号住居の重複部分の遺物は、その帰属が分別できないため、35・36号住居出土遺物として、本住居跡の後に一括して掲載した。

土器は総数2,581点が出土している。主な土器は堀之内1式期から安行式期の土器であり、特に加曾利B3式期から高井東式期が多く認められる。埋喪（171）は4単位の波状口縁を呈する深鉢形土器である。口縁部は隆帯を1条巡らし、波底部には突起を貼付している。口縁部には縄文は施文されず、研磨されている。胴部は、下端を1条の横位沈線で区画し、口縁部との間に沈線による円文や不規則な弧状の単位文様を充填している。その沈線で囲まれた内部は浅く凹まされ、文様外に充填された縄文部がわずかに隆起するようになっている。形態的には高井東式期の土器と考えられるが、高井東式には、本例のような胴部文様は認められず、東北系の瘤付土器の影響を多分に受けているものと思われる。ただし、瘤付土器の影響とした場合でも、本例の文様は大きく変容しているものと捉えるべきであろう。

柱9から出土した土器（172）は、東北系の瘤付土器と考えられる。本例は、器壁が薄く、焼成も良好である。全体に黒褐色を呈し光沢を伴っている。口縁部に縄文帯を有し2個1対の瘤を6単位貼付している。胴部は横位沈線と弧線による文様が2段施文されている。横位沈線と弧線の接点には瘤が付され、また、その上下の縄文帯の中間点にも瘤が付されている。胴部の文様帯は8単位である。時期は、171よりやや後出の土器と考えられ、瘤付土器の第2段階に比定される可能性がある。

なお、炉内からは53・64・78・80・82・95・251

114・123・133が出土し、その時期は加曾利B2式期から高井東式期にかけてである。

土製品は耳飾り1点、土製円盤2点が出土している。

石器は石鎌14点（黒曜石4点）、石鎌未製品1点、石錐4点、削器1点、加工痕のある剥片10点（黒曜石4点）、使用痕のある剥片8点、打製石斧1点、磨石24点、石皿2点、砥石1点、石棒1点、ピエス3点（黒曜石2点）があり、他に石核1点、剥片74点（黒曜石20点）、碎片21点（黒曜石14点）がある。

時期 覆土およびその上位のグリッド出土遺物は高井東式期を主体としている。また、埋喪の時期も高井東式併行と考えられることから、本住居跡は当該期に比定される可能性が高い。ただし、炉の下から検出され、土坑の可能性もある柱9から瘤付土器第2段階と考えられる土器が出土していることから、より後出の可能性もあり、安行1式期までを含めて考えておきたい。

35・36号住居出土遺物 35・36号住居とした遺物は、すべてグリッド上げ遺物である。住居跡の範囲と重複するグリッド上げ遺物の中から、住居跡に帰属する可能性が考えられる縄文時代後期の土器を中心に抽出した。グリッド上げの石器は、時期を決める根拠がないためここでは扱っていない。

抽出した遺物はすべて土器で、総数991点である。主な土器は、堀之内1式期から高井東式期の土器である。堀之内1・2式は35号住居、高井東式は36号住居に伴う遺物の可能性が高いと考えられよう。

30区38号住居

調査年度 平成9・10年度

位置 F-1グリッド

経過 表土掘削後、炉およびそこから出入り口部にかけて敷設された敷石が検出されたため、柄鏡形敷石住居跡として認定し調査を実施した。炉および敷石の調査終了後に掘り方調査を実施したが、柱穴は検出できなかった。

重複 重複する遺構は認められない。

形状 東北東方向に出入り口部を有する柄鏡形敷石住居跡である。調査時には、炉を中心とした径4mの円形の範囲を主体部として調査を実施し、主体部に10cmほどの段差が認められている。ただし、これは炉石との位置関係から壁面ではなく、すでに掘り方に相当する部分と考えられる。検出時においてすでに床面あるいはその直上であり、壁面は残っていないものと考えたい。そのため主体部の範囲が不明瞭であるが、近似する時期の20区70・71号住居の形状から、円形ではなく、やや扁平な主体部を想定した。その規模は、全長が6m、主体部幅が4.8mほどである。

床面 炉から出入り口部に向かう主軸線にある敷石をのぞき、明確な敷石は認められない。炉の南50cmほどに1石のみ鉄平石が検出されたが、他には扁平な地山礫も出土していない。敷石は主軸線の上に敷設されていたものと考えたい。主軸線には炉の東辺の炉石から3石の扁平地山礫が水平に敷設され、4石目が縦位に設置されている。この4石目が主体部と出入り口部の境界であろう。敷石の高さは、炉石脇の礫が最も低く、出入り口部に向かい若干ではあるが徐々に高くなるように敷設されている。

遺物は、覆土中および床面上から多くの遺物や礫が出土した。特に磨石や石皿などの礫石器が多く認められる点に特徴がある。

出入り口部 先述の縦位に設置された礫から東方に楕形に開くように敷石が認められる。敷石面は、炉石および主体部主軸線上の敷石より若干高く、ほぼ水平に敷設されている。

使用された礫は、扁平な地山礫を主体とし、川原石を含む。ただし鉄平石は含まれていない。特に主体部との境界部に縦位に設置された礫に接する1石目は川原石であり、意図的に配置したように観察される。最も大きい礫は出入り口部ほぼ中央にある礫で、一辺60cmを超える大型の礫を使用している。出入り口部敷石面の規模は、長さ1.8m、最大幅1.9mである。

また、住居跡の構築時期の近い20区70・71号住居には4号列石や多くの配石が伴っているが、本住居跡では付随する列石や配石は捉えられなかった。

炉 4石の扁平地山礫を用いた方形石囲い炉である。炉石は強く被熱し、ブロック状に砕けている。そのため判断が難しいが、扁平な礫をほぼ垂直に立てて炉石としているようである。炉内からは土器片が出土しているが、いずれも小破片であり、炉内埋設土器は確認されなかった。炉の規模（長辺×短辺×深さ）は使用面で63×60×25である。

方位 N-68°-E

柱穴 柱穴は検出されなかった。

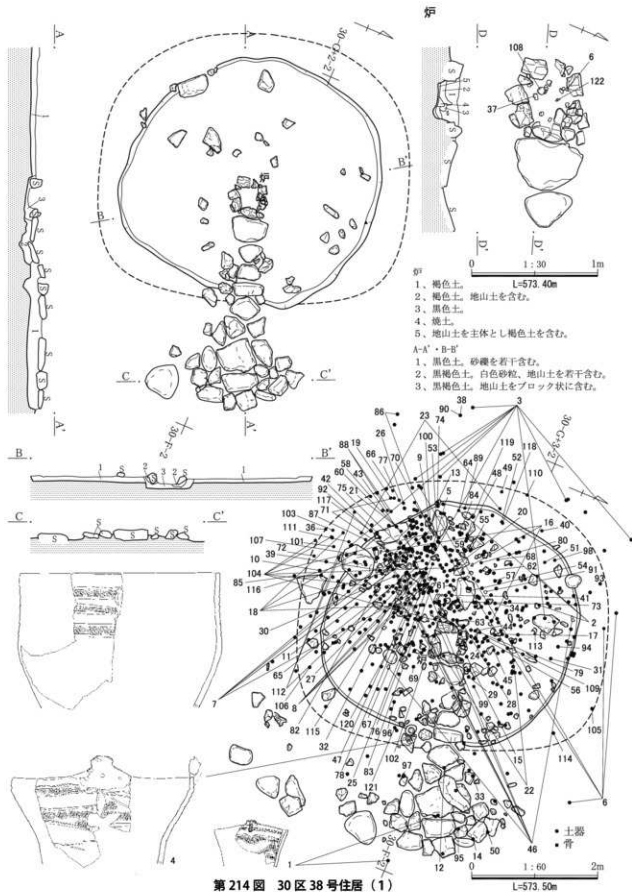
遺物 ここでは、本住居跡出土遺物として取り上げられた遺物と、出土位置の明らかなグリッド出土扱いの遺物のなかで本住居跡の範囲に含まれる遺物を対象とした。

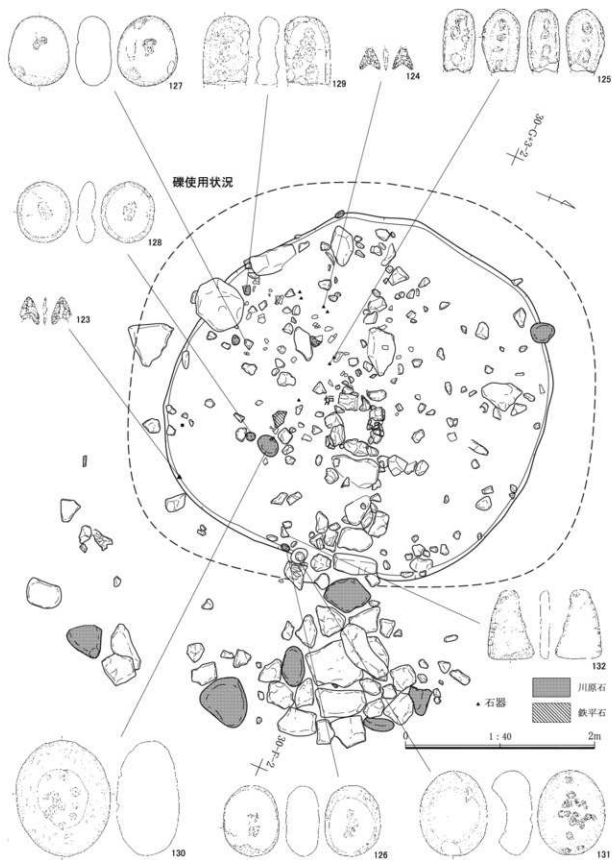
土器は総数1,813点が出土している。加曾利B2式が主体を占め、堀之内2式、加曾利B1式、高井東式も比較的多く含まれている。住居跡出土として取り上げた遺物は、1・3～11・16・17・21・22・28・29・31・34・37・39・42・43・46・54・56・61～63・70・75・76・71・83～85・91・92・100・104・107・108・112・113・115である。その他の土器はグリッド上げ遺物から抽出したものである。

土製品は、土製円盤が7点出土している。

石器は石鏃4点（黒曜石1点）、削器1点（黒曜石1点）、加工痕のある剥片5点、使用痕のある剥片2点、敲き石1点、磨石16点、石皿1点があり、他に石核3点、剥片17点（黒曜石1点）、碎片16点（黒曜石13点）が出土している。特に磨石は16点と多く、主体部の覆土中および床面上から多数が出土した。

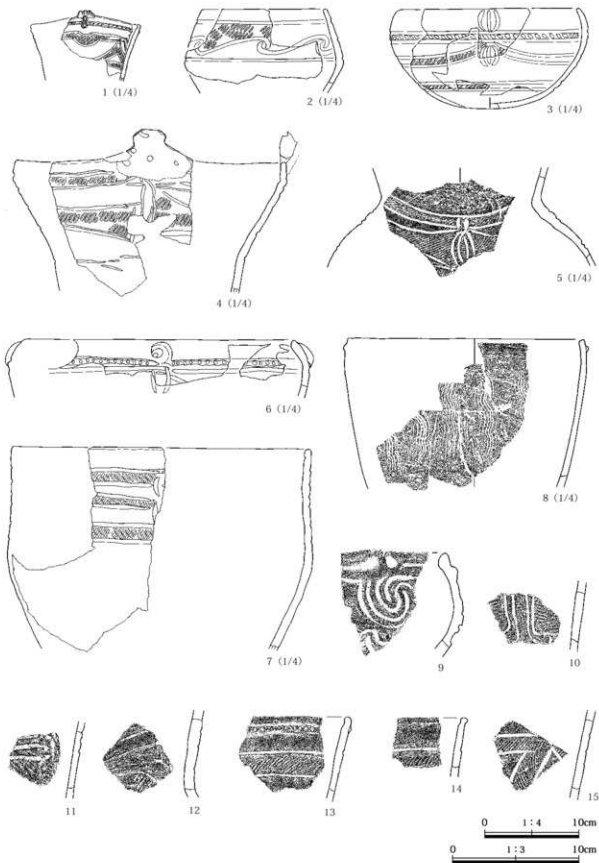
時期 出土土器は加曾利B1式期から加曾利B2式期を主体とし、本住居跡は当該期に比定されよう。ただし、住居形態からは、加曾利B2式期までは新しくならず、加曾利B1式期の範囲までで捉えることが、より妥当性の高いものと考えられる。



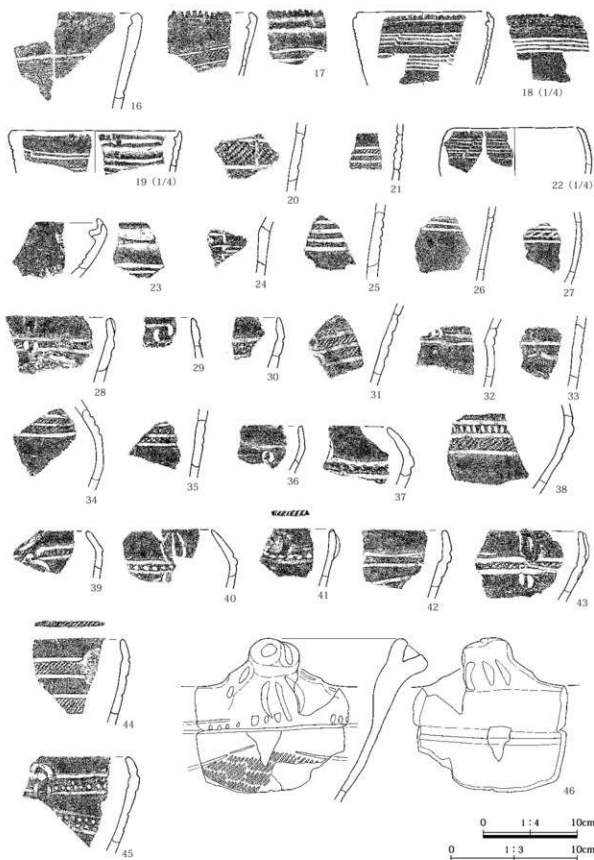


第215図 30区38号住居(2)

第3章 発見された遺構と遺物

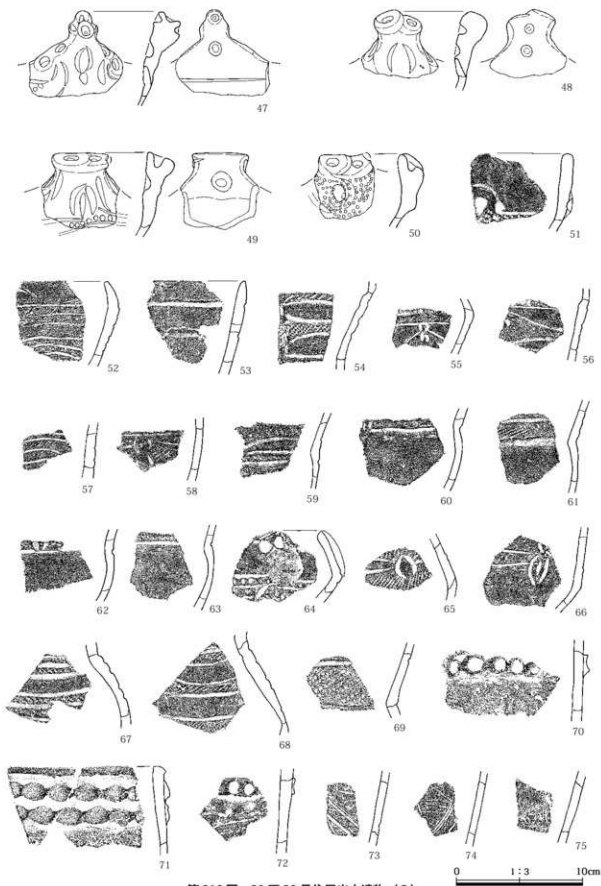


第216図 30区38号住居出土遺物(1)

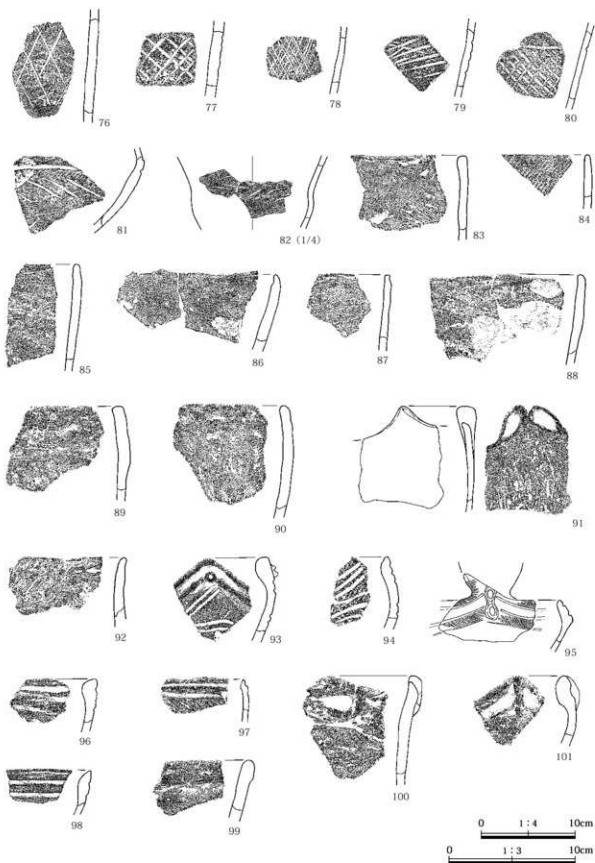


第 217 図 30 区 38 号住居出土遺物 (2)

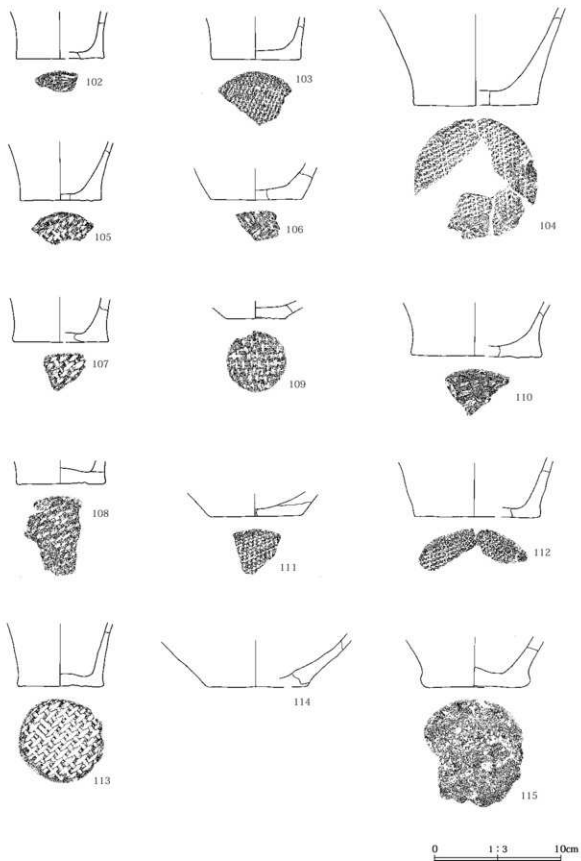
第3章 発見された遺構と遺物



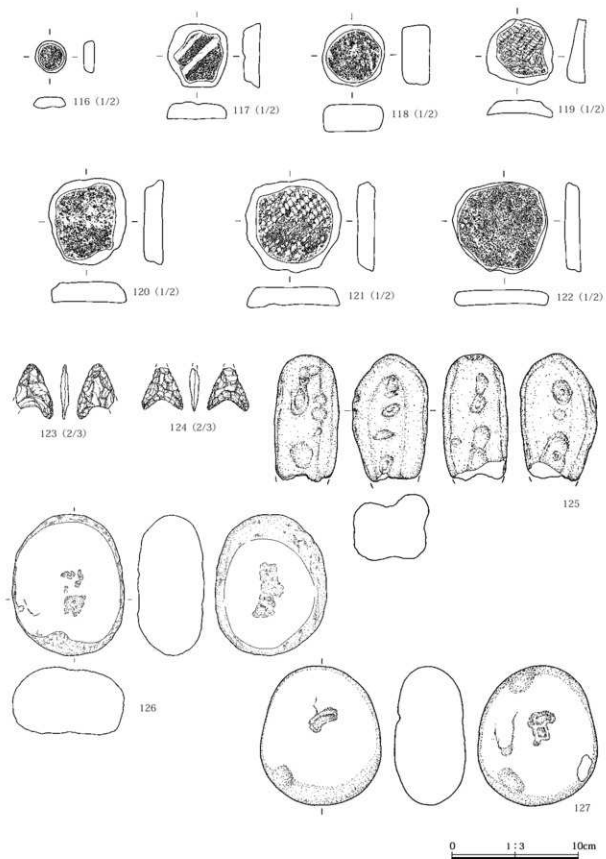
第218図 30区38号住居出土遺物(3)



第219図 30区38号住居出土遺物(4)

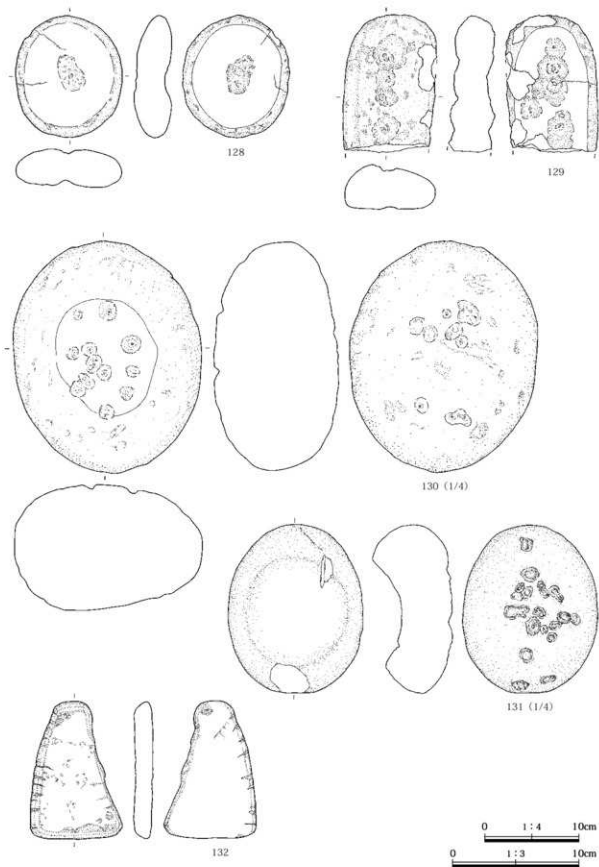


第220図 30区38号住居出土遺物(5)



第221図 30区38号住居出土遺物(6)

第3章 発見された遺構と遺物



第222図 30区38号住居出土遺物(7)

第4節 縄文時代後期の列石・配石

横壁中村遺跡では、各区から多くの列石・配石が検出されているが、その一部は明らかに縄文時代後期の住居跡に付随する状況で検出されている。遺跡中央を北に向かって流れる山根沢以東では18区5・6号列石や29区1・2号列石など、山根沢以西では20区4号列石が該当する。本報告では、山根沢以西の20区4号列石とその周辺の配石について扱う。なお、山根沢以東については『横壁中村遺跡(8)』において報告しているのでそちらを参照していただきたい。また、住居跡に付随しないその他の列石・配石については、今後、整理を行う予定である。

20区4号列石は、第3節の縄文時代の竪穴住居で先述したように、多数の住居跡と一体となった遺構と考えている。特に20区70・71号住居の出入り口部は4号列石と分離することができない検出状況であり、住居跡の出入り口部左右に弧状に列石が展開している。さらに、その弧の内側には、立石や丸石を伴う配石が点在しており、これらも住居跡や列石と一体となった遺構と考えられる。列石の時期は後述するように、およそ縄文時代後期Ⅱ期1式期から加曽利B2式期の間と捉えられるが、長期にわたり作り直しあるいは礫の積み足しが行われたようである。また、配石同士でも重複関係にあるものがあり、数時期にわたり構築されたものと考えられる。

遺構認定では、本遺跡は地山にも多数の礫が含まれており、人為的な遺構であるのか、自然の営為によるものなのか、その判断に困難が付きまとった。ただし、地山に含まれる礫は、背後の山地から供給された粗粒輝石安山岩などの垂角礫が主体であり、川原石はほとんど含まれない。そのため、礫の組み方や遺物の出土状況のみでなく、川原石や鉄平石のように意図的に遺跡外から運び込んだと考えられる礫が使用されていることも判断材料の1つとした。

以下、個別遺構ごとに報告する。なお、列石は20区4号列石の1基、配石は19区が11基、20区が2基の計13基である。

20区4号列石

調査年度 平成13・15年度

位置 19区V-18～20区C-20グリッド

経過 本遺構は平成13年度調査で検出したが、調査工程の都合により最終的に調査が終了したのは平成15年度である。その間、調査区の拡張や一部の調査区の先行引き渡し、あるいは別の工程調整で中断されるなど、複雑な調査経過をたどっている。

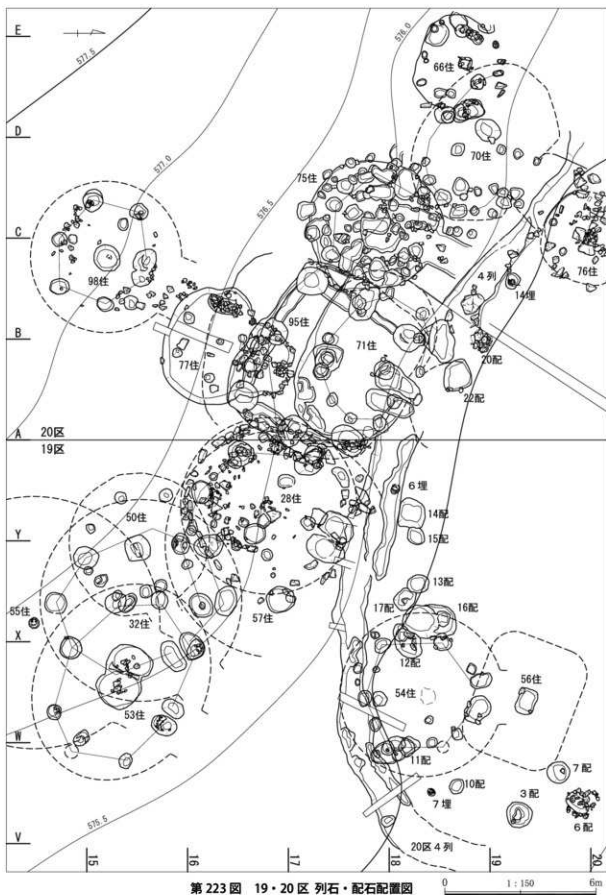
遺構名称についても同様に複雑なものとなっている。調査開始時は19区と20区の両区にまたがる遺構のため、19区部分を19区2号列石と、20区部分を20区4号列石と呼称した。その後、20区70・71号住居の間に挟みながら、両者は一体の遺構であることが判明した。そのため19区2号列石を欠番とし、20区4号列石に統一した。また、本列石周辺には多数の配石が存在するが、一度、配石として認定したが、その後に認定を取り消した配石もある。認定を取り消した配石は19区2・4号、20区18号配石である。これら認定を取り消した遺構は、20区4号列石の一部として扱い、遺物なども20区4号列石に統合した。

20区4号列石全体としてみた場合、まず平成13年度に、20区71号住居を中心に西は20区70号住居の西側にあたる20区D-20グリッド付近まで、東は19区X-17グリッド付近まで東西に弧状に展開していることが確認された。西側の20区D-20グリッド以西は、列石確認前に調査が終了した調査区であり、列石が続いていたかどうかは明らかではない。ただし20区71号住居との接続状況から考えて、さらに続いていた可能性は高いと思われる。

この年の調査では、20区B-19グリッド付近から西側が、工事側に先行して引き渡されることになり、掘り方調査まで実施された。東側はほぼ確認時のまま残され次年度調査されることとなった。

しかし、平成14年度は、山根沢以東の18・19区の調査が優先されることとなり、残りの20区4号列石の調査はさらに次年度に回されることとなった。

平成15年度は、確認されていた4号列石のさら



第223図 19・20区 列石・配石配置図

に東に調査区が拡張され、やや北側に回り込みながら弧状に展開する列石の延長部分が確認された。ここにおいて、4号列石は19区V-19グリッドまで続いていることが明らかになった。この年の調査では、この拡張部分と先年度までに残された列石の掘り方までの調査が実施された。

各調査では、まず検出状態を記録し、その後、礫を除去することとした。しかし、多量の礫が積み重なるように出土し、すべてが構築時の状態を保っているだけでなく、後世の攪乱等により移動したのも多くあると考えられた。そのため、礫の積み重なり具合を観察しながら、移動した可能性の高いものから順次除去し、そのたびに平面図をとることとした。その回数は、平成13年度に調査した西側部分では計3回、平成15年度に調査した東側部分では計6回に達した。本報告においてはそれを再検討し、5面と捉え直し報告する。

出土遺物は、列石の範囲に限定せず、弧状に連なる列石の内側部分も含めて4号列石の遺物として取り上げた。遺物取り上げに際しては、列石の構築時期である縄文時代後期の遺物に関してはできる限り位置を記録し、中期以前については特徴的な遺物についてのみ位置を記録した。

重複 19区54号住居、20区75号住居と重複し、これを切る。その他、多くの住居跡および配石、土器埋設遺構と重複および併存関係にあるが、列石の構築時期が長期に及ぶと考えられるため、個別の遺構および第4章において改めて考察する。

形状 1面目 列石確認時の状況である。長さは住居跡の出入り口部も含め30m、幅は最も広い19区X-18グリッド付近で4.5mが確認された。

東からみていくと、19区V-19グリッド付近を起点とし、やや散漫な礫の集積状況から徐々に礫の密集度を高めながら、弧を描きつつ南西の20区71号住居の出入り口部に続く。その長さは約16mである。20区71号住居の西側は20区70号住居の出入り口部にむけて直線状に約6.5m、さらに71号住居の出入り口部をはさまり約2m続く。この西は、先述したよ

うに本列石確認以前に調査を終了しており、列石は確認されていない。ただし、地山・遺構覆土とも非常に礫の多い地区であり、列石として認識できなかった可能性もある。全体としては、20区71号住居を中心として北東方向に開く弧状を呈している。これは、住居跡と同様、地面の傾斜に沿って、その低い方にむけて開くように、構築したものと考えられる。

礫の検出状況およびその積み方は乱雑であり、規則的な積み方は観察されない。これは、攪乱などにより崩れた可能性と、最初から乱雑に積まれた可能性の両者が考えられるが、その断定はできなかった。恐らくその両者が関係しているものと思われる。

2面目 20区70・71号住居の出入り口部の調査が終了し、さらに列石の範囲の中で、礫が他の礫と接していないなど、明らかに二次的に移動していると判断できるものを除去した段階である。

この段階で、1つの弧状と見えていた列石は、いくつの変換点をもつことが判明し、特に19区X-18グリッド付近に大きな変換点があることが明らかとなった。この地点は、住居跡の調査では明確にはできなかったが、19区28号住居の出入り口部が存在したであろう地点であり、その関連が窺われる。

また、列石中の所々に丸石や列石が認められるようになり、一部に配石があることが判明した。礫の積み方は、まだ全体とすれば乱雑ではあるが、一部に長軸を揃えて礫が1列に並ぶ箇所や、斜位の礫が規則的に積み重ねられている箇所が認められるようになっている。特に71号住居より西側では、その傾向が強く、長軸を揃えて1列に並ぶ礫とほぼ等間隔に配置される丸石が確認できる。

3面目 2面目よりもう一段階、乱雑に積み重なった礫を除去した段階である。

19区を中心に立石や配石を伴う配石が検出された。配石は、一時期に構築されたものではなく、重複関係をもつものもあり、数次期にわたり構築されたものと考えられる。これらの配石の多くは、1・2面目では全く確認できないものも含まれ、4号列石の最終段階においては、列石中に完全に埋没し検

出された。しかし、この段階での配石の配置は、弧状に展開する列石の内側に50～100cmほどの間隔をおいて構築されていることから、列石に伴って構築されたことは明らかであろう。

礫の積み方は、断面Pのように、4面目で述べる基礎となる石列に立て掛けるように連続して配置している箇所も認められる(PL55-5・6)。

4面目 列石の基礎となる長軸を揃え一列に並ぶ石列のみを残した段階である。

東からみていくと、列石の起点となる19区V-19グリッド付近には、この基礎となる石列は捉えられず、後世の擾乱により、移動したものと思われる。基礎となる石列が確認されるのは、図中に①で示した19区V-18グリッド付近からである。緩い弧を描きつつ西に約10mの長さにわたり、長軸を揃えて一列に並ぶ礫を検出した。一部に隙間もあるが、若干移動した礫を調査の中で除去してしまったもので、構築時は隙間なく並べられていたものと推測される。また、断面Vにみるように長軸を立てて並べたとみられる礫もあり、基礎石列の中に一部立石を設けていた可能性がある。この列は、次の5面目の掘り方で考えると、列石の弧の最も外側にあたる石列と言いうことができる。地山を100～150cmの幅で10cm程度掘り凹め、その最も外側に配置したものである。

②の石列は、この掘り方の弧に対する内側縁辺に配置されたものと考えられ、長さ5mである。掘り方だけからの観察であるが、さらに東側にも掘り方に列状に一段深い箇所が認められ、そこには同様な石列があったものと考えられる。

③の石列は、②との位置関係が微妙であるが、掘り方が異なるため別の石列と判断した。②の石列は①と対をなすように、溝状の掘り方に配置されている。それに対し、③の石列は弧に対するさらに内側に、①・②に対する掘り方より一段深く掘り凹められており、別の掘り方と判断したものである。

④の石列は、③とほぼ同じ地点から始まるが、③よりさらに内側に一段掘り下げられている。これまでの石列のなかでは、最も大きな礫を多用しており、

断面Wでは立石と考えられる礫も認められる。長さは、5.5mである。なお、71号住居の出入り口部の調査を先に実施してしまったため、この石列と住居跡出入り口部との関係は十分に把握できなかった。しかし、3面目までの調査では、列石と出入り口部は切り合っているものではなく、一体となっているものと考えられ、その場合、71号住居にはこの④の石列が対応していた可能性が高いと考える。

⑤の石列は、71号住居と70号住居の出入り口部を連結するように確認された。長さは8mである。④と同じく大型の礫を多く用いている。ただし後述する掘り方から考察すると、この石列は③と対応していた可能性が考えられる。④の石列の南に認められる段差が、⑤の石列北側に認められる段差に対応する可能性があるからである。

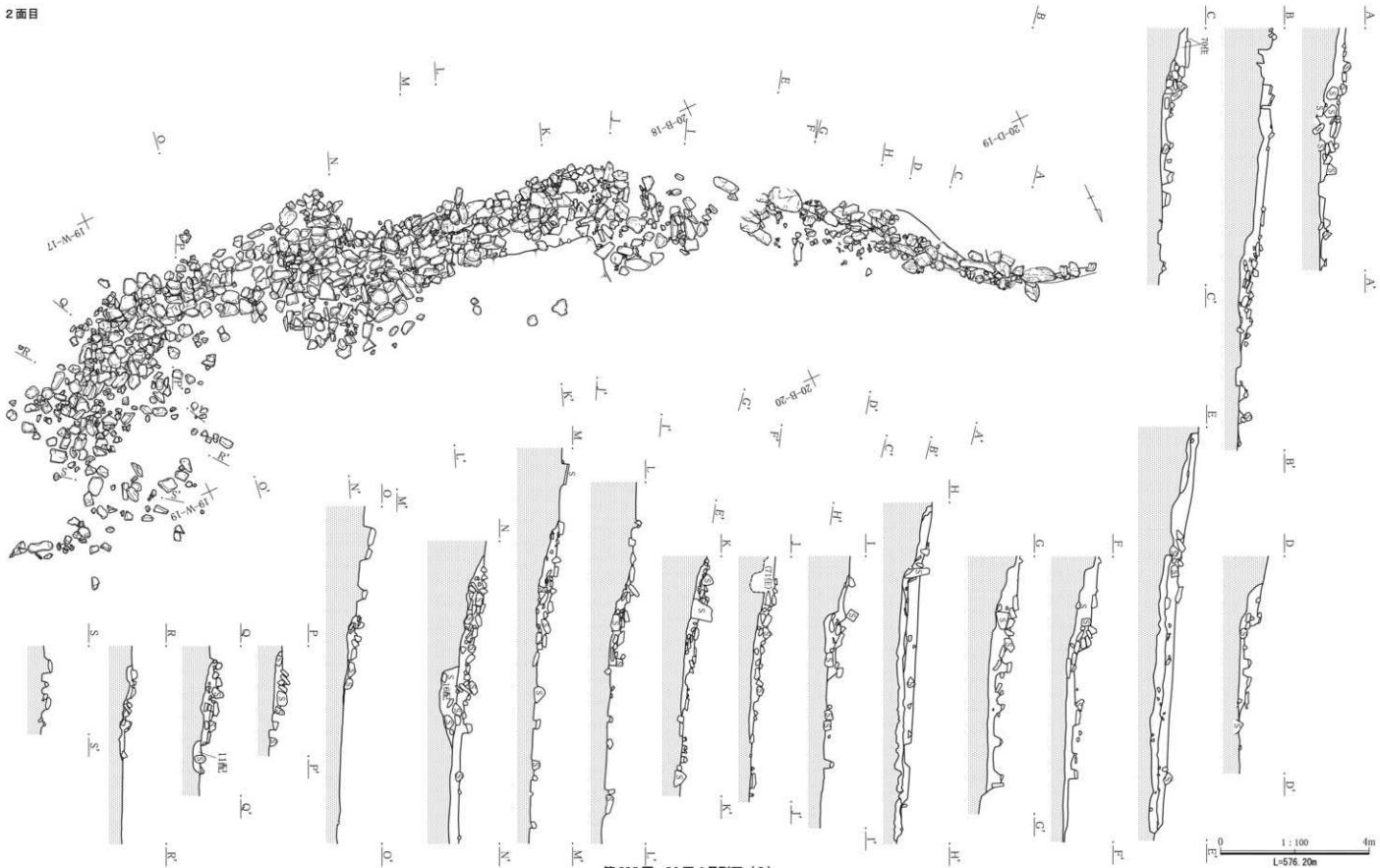
5面目 礫を除去した掘り方に相当する。4面目で触れたように、地山を溝状に掘り込み列石を構築している。ただし、これは4面目の石列②が認められる範囲までで、その西は列石を挟み南北が、段状あるいは階段状を呈し、60cm以上の標高差が認められる地点もある。特に4面目の石列③に対応する地点では、弧の外側にあたる南側と比較して10～20cmほど低い幅150cmほどの平地が造成され、さらにその北側が1段低くなっている。そのため全体として階段状を呈している。これは、列石構築に際し、平面図上で認められる以上に大規模な造成が行われた可能性を示唆していよう。本列石のある19・20区では、全体として山側の南南東から北北東方向に低くなるように傾斜している。しかし、本列石周辺では多少異なっている。列石以南は先の方角にならって傾斜しているが、列石以北、つまり弧の内側にあたる部分においてはその傾斜が緩くなっている。つまり、弧の内側を削り取って意識的に段差を作出し、そこに列石を構築した可能性が考えられる。土層観察でも、弧の外側では多様な堆積土層が観察できるのに対し、弧の内側は10cmほどで基盤となる黄褐色砂礫層になることからそのことが窺われる。

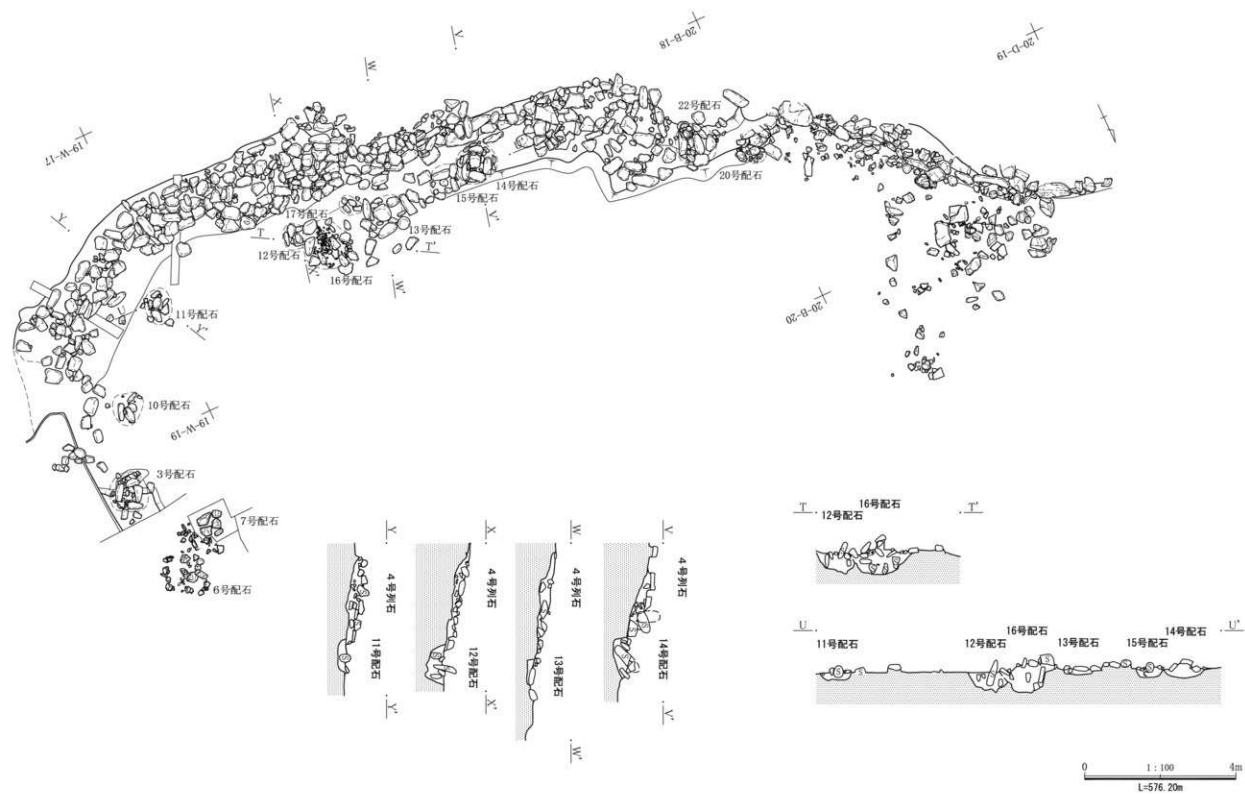
下部遺構 掘り方調査の後に、19区6・7号土器埋

1 面目



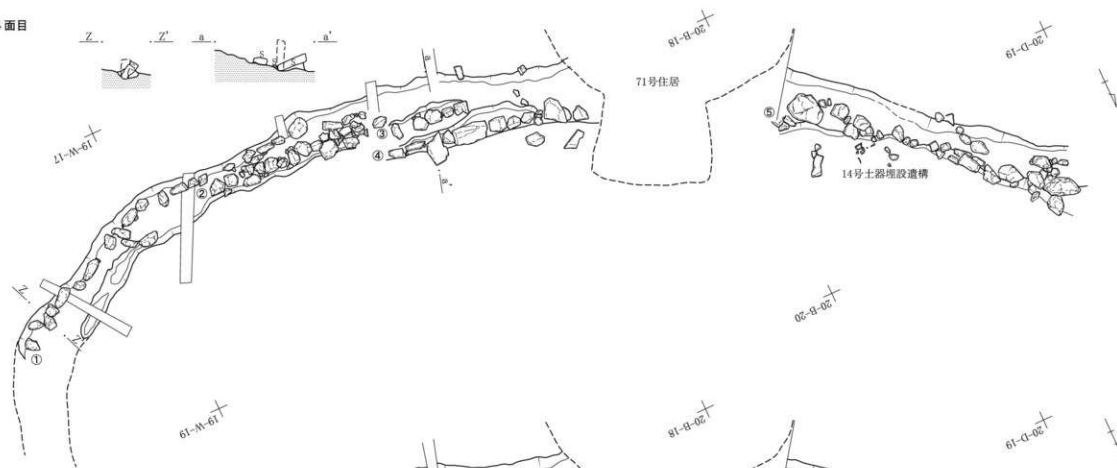
第224图 20区4号列石(1)



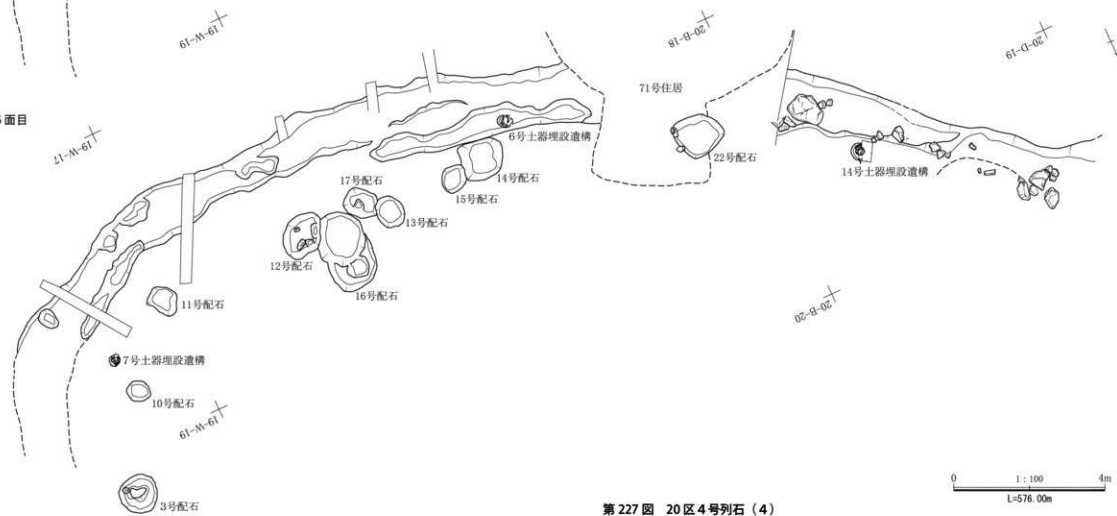


第 226 图 20 区 4 号列石 (3)

4 面目



5 面目

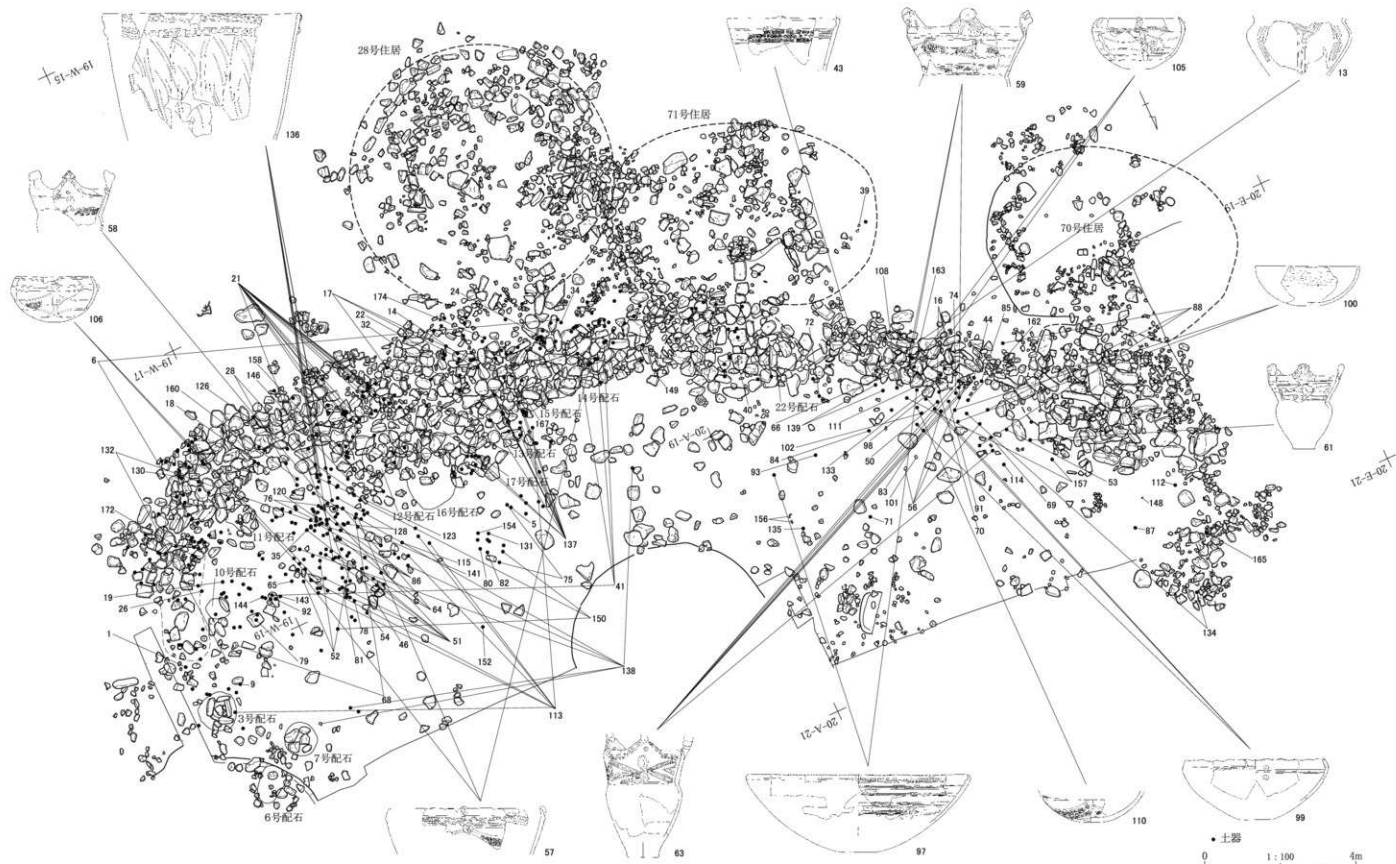


0 1:100 4m
L=576.00m

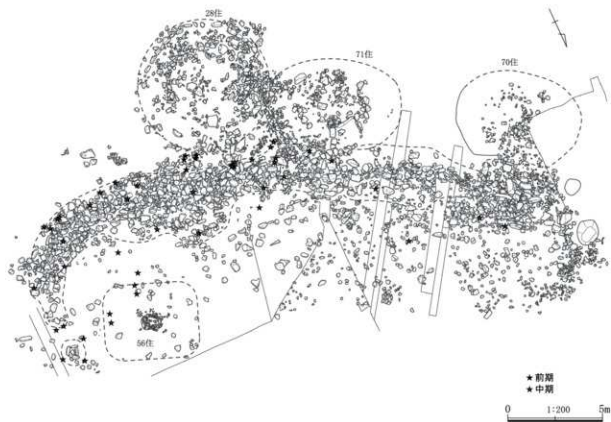
第 227 图 20 区 4 号列石 (4)



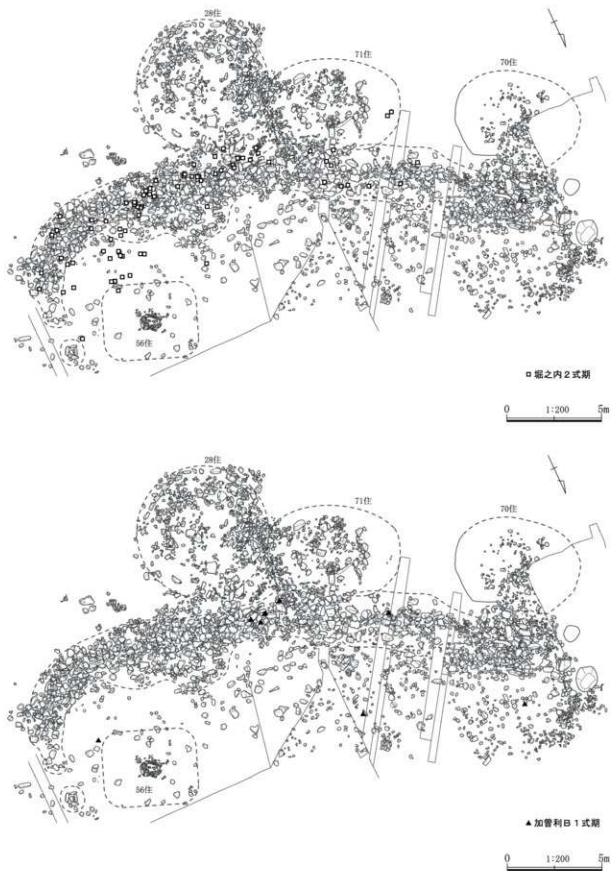
第228图 20区4号列石(5)



第 229 图 20 区 4 号列石 (6)

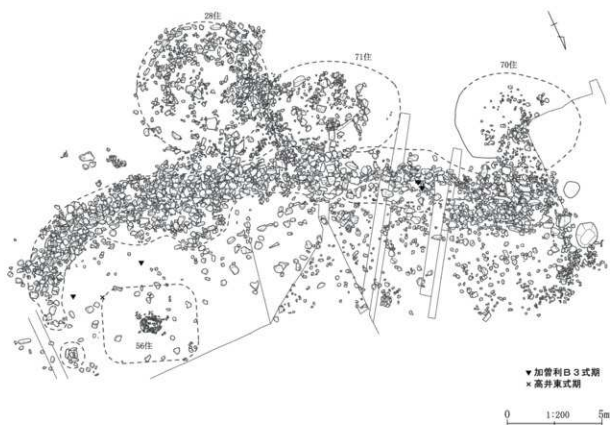
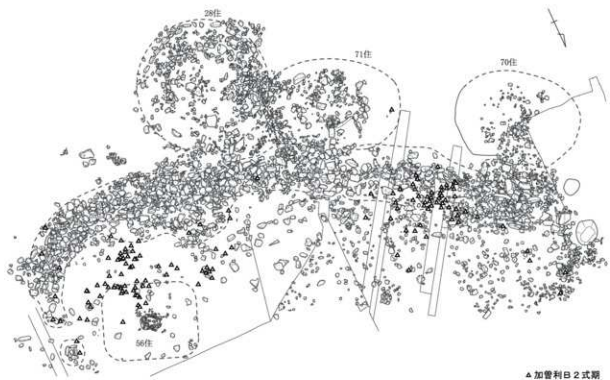


第230图 20区4号列石出土土器时期别分布图(1)



第 231 図 20 区 4 号列石出土土器時期別分布図 (2)

第4節 縄文時代後期の列石・配石



第 232 図 20 区 4 号列石出土土器時期別分布図 (3)

第3章 発見された遺構と遺物

設遺構および20区14号土器埋設遺構が検出されている。本列石構築時期の手かりとなるものであるため、遺構図・遺物図を第233図に再録する。詳細は『横壁中村遺跡(7)』で報告しているため参照していただきたい。なお、各土器埋設遺構の帰属時期は、19区6・7号土器埋設遺構が堀之内2式期、20区14号土器埋設遺構が堀之内1式期である。

石材等 石材については第228図に示した。また、石材ともに丸石、立石およびその可能性のあるものについても図示してある。列石を構築する礎の主体は、地山に含まれるものと同様な粗粒輝石安山岩の垂角礎である。特に扁平な礎を意識的に選択しているようであり、その割合が高い。

川原石は構成礎中の2～3割程度とみられ、花崗閃緑岩や安山岩、溶結凝灰岩などが含まれる。特に花崗閃緑岩の割合が高く、川原石全体の約半数を占める。また、円磨度の高いものを好んで持ち込んでいるようである。敷石住居跡に多用される鉄平石は、本列石中にはほとんど認められない。鉄平石の使用目的は限定されていたものと捉えられよう。

方位

遺物 遺構規模が大規模なため大量の遺物が出土している。土器は総数3,824点が出土しているが、破片が多く、完形になる遺物は少量である。遺物の取り上げに際しては、後期の遺物は極力その位置の記録に努めたが、その他の時期については、一括で取り上げたものが多い。第230～232図にその分布を掲載したが、位置を記録して取り上げた556点を図示したものであり、一括取り上げた遺物が反映されていない。そのため偏りのある可能性はあるが、およその時期ごとの出土傾向は把握できるものと思われる。なお後期については、細別時期ごとに図にしたため、粗製土器のように後期の破片であるが、その細別時期が不明なものは、第229図には含めてあるが第230～232図からは除外してある。

第230図は、前期(5点)・中期(45点)と称名寺1式(4点)・堀之内1式(10点)の土器分布を示している。称名寺式期の遺物は全体でも5点だけの出土で

あり、この時期の遺物は非常に希薄である。次の堀之内1式段階になると列石本体と絡む遺物が認められるようになる。

第231図は堀之内2式期(83点)と加曾利B1式期(9点)の分布である。堀之内2式期は列石上の広い範囲にわたり分布が確認され、加曾利B1式期は71号住居の周囲にまとまが見られる。

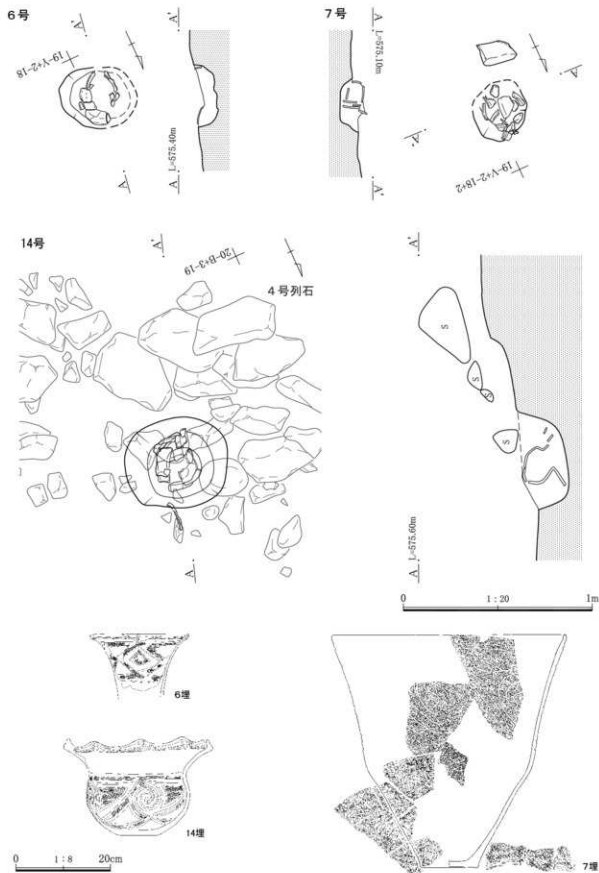
第232図は、加曾利B2式期(137点)と加曾利B3式期(4点)・高井東式期(1点)である。加曾利B2式期では、列石東側の弧の内部と列石上の西部と2地点に集中が認められる。

石器は、列石という遺構の特性上、非常に多くの遺物が出土した。特に磨石や台石、多孔石が多く認められる。また、石棒や石冠、軽石製品などいわゆる第2の道具の出土点数も多い。器種別では石鏝14点(黒曜石8点)、石鏝未製品2点(黒曜石2点)、削器2点、加工痕のある剥片18点(黒曜石9点)、使用痕のある剥片5点(黒曜石2点)、打製石斧21点、磨製石斧5点、敲き石1点、磨石34点、凹石7点、石皿6点、台石22点、砥石1点、石棒11点、多孔石30点、石冠1点、軽石製品5点があり、他に石核11点(黒曜石2点)、剥片243点(黒曜石93点)、碎片108点(黒曜石108点)、チャート原石1点が出土している。出土傾向は把握しづらいが、位置を記録したものを付図5に示した。

時期 出土遺物は長期にわたる土器が多数出土しているが、主体は堀之内1式期から加曾利B2式期である。本列石も当該期に比定されよう。

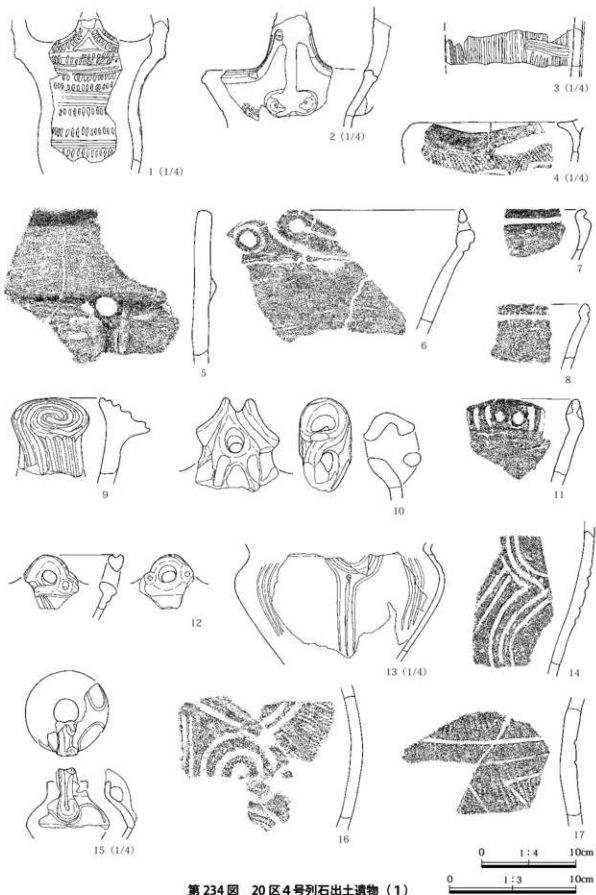
なお、4面目で記述した基礎となる石列から考察した場合、石列①・②による列石、石列③による列石、石列④による列石と少なくとも3時期があるものと考えたい。石列⑤は③と対応するものと考えられるが、④の可能性も否定できない。また、本列石の最終段階は石列を伴わず乱雑に礎を積み重ねたものである可能性があり、これを加えると4時期以上に細分されるものと考えられる。

なお、住居跡など他の遺構との関係は第4章において考察する。



第233図 19区6・7号、20区14号土器埋設遺構

第3章 発見された遺構と遺物

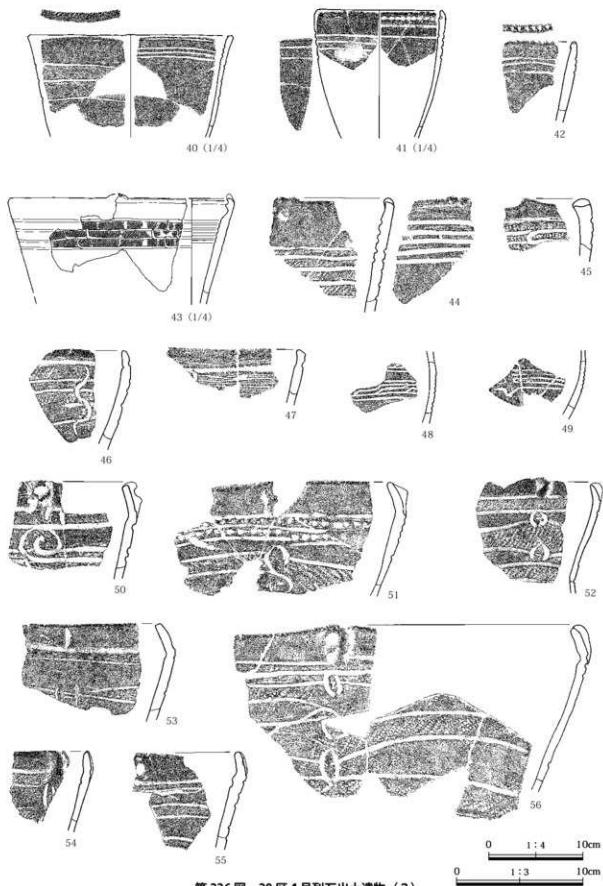


第 234 図 20 区 4 号列石出土遺物 (1)



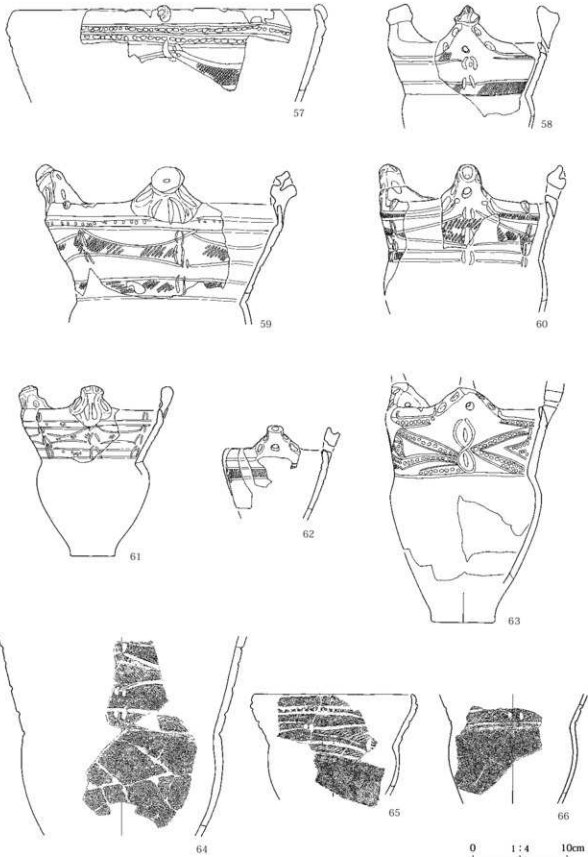
第235図 20区4号列石出土遺物(2)

第3章 発見された遺構と遺物

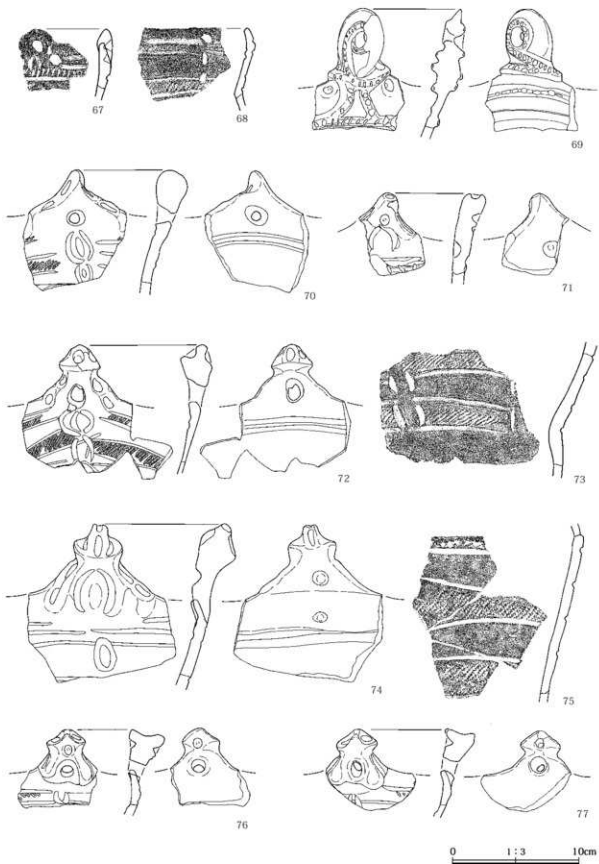


第236図 20区4号列石出土遺物(3)

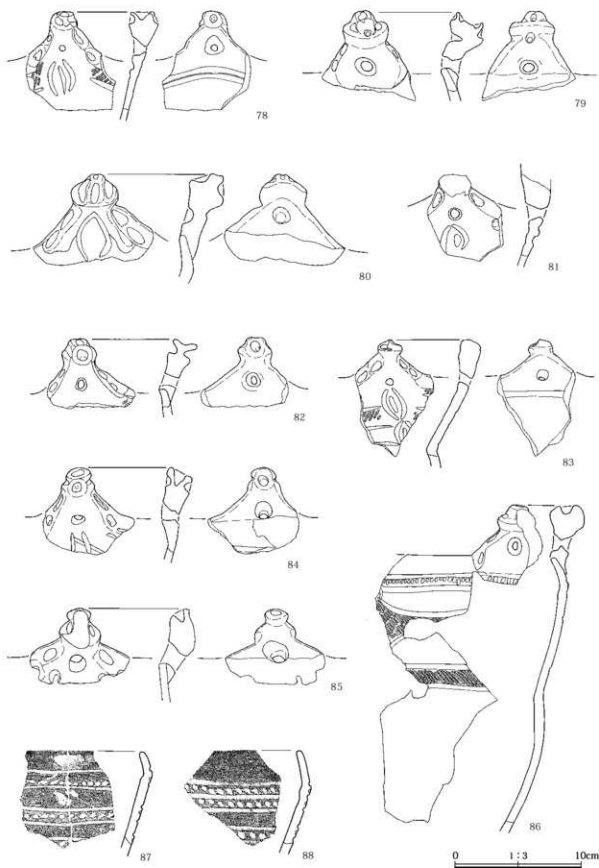
第4節 縄文時代後期の列石・配石



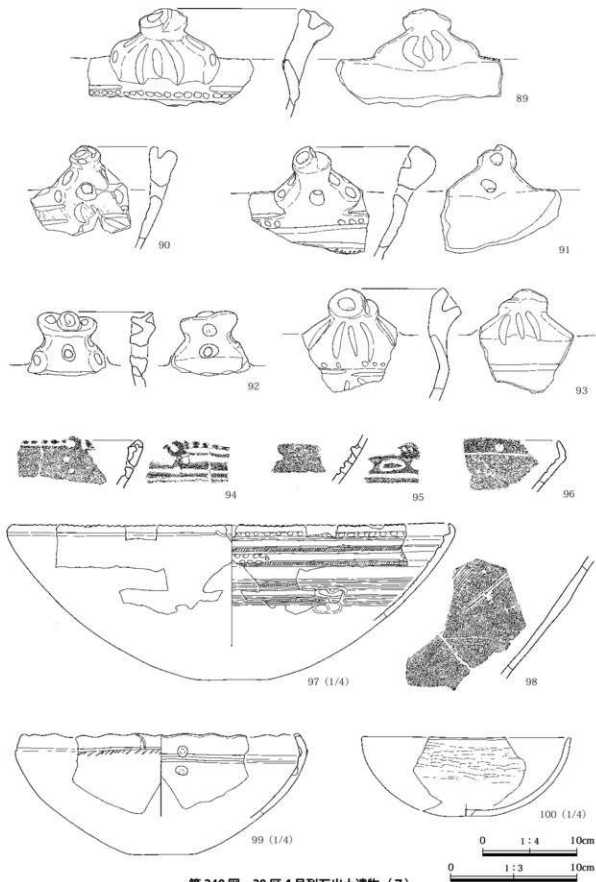
第237図 20区4号列石出土遺物(4)



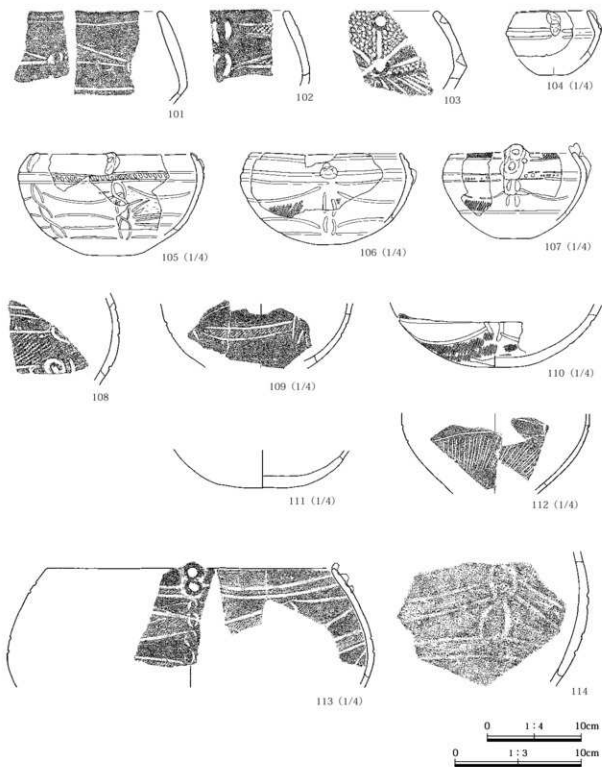
第 238 図 20 区 4 号列石出土遺物 (5)



第239図 20区4号列石出土遺物(6)

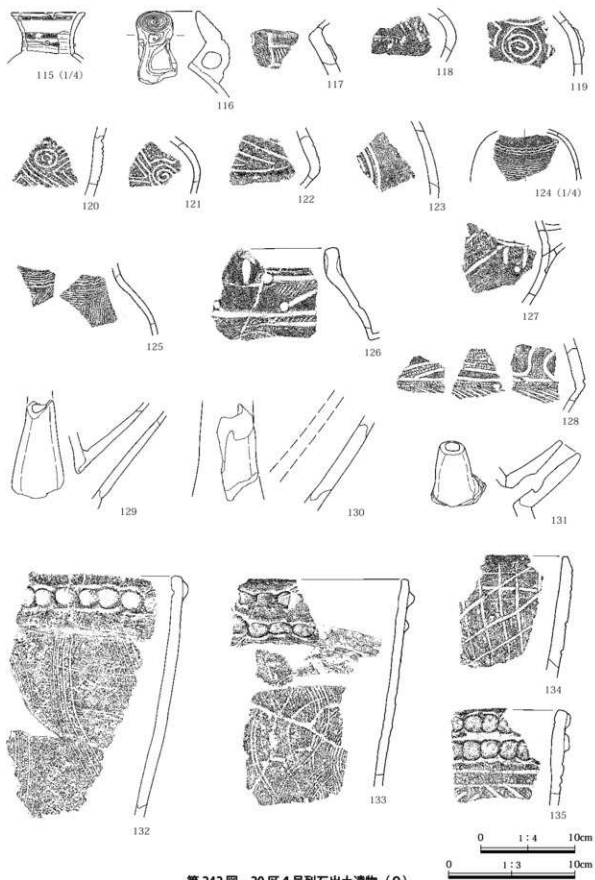


第240図 20区4号列石出土遺物(7)

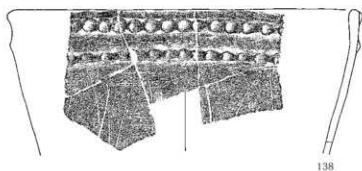
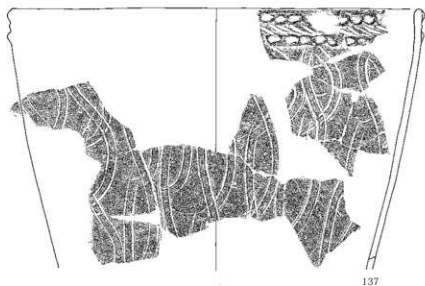


第241図 20区4号列石出土遺物(8)

第3章 発見された遺構と遺物

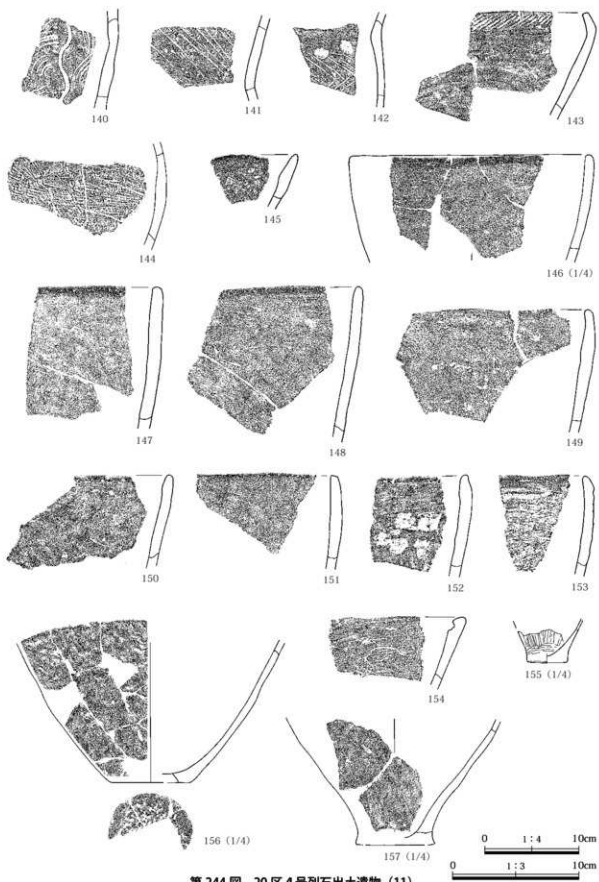


第 242 図 20 区 4 号列石出土遺物 (9)

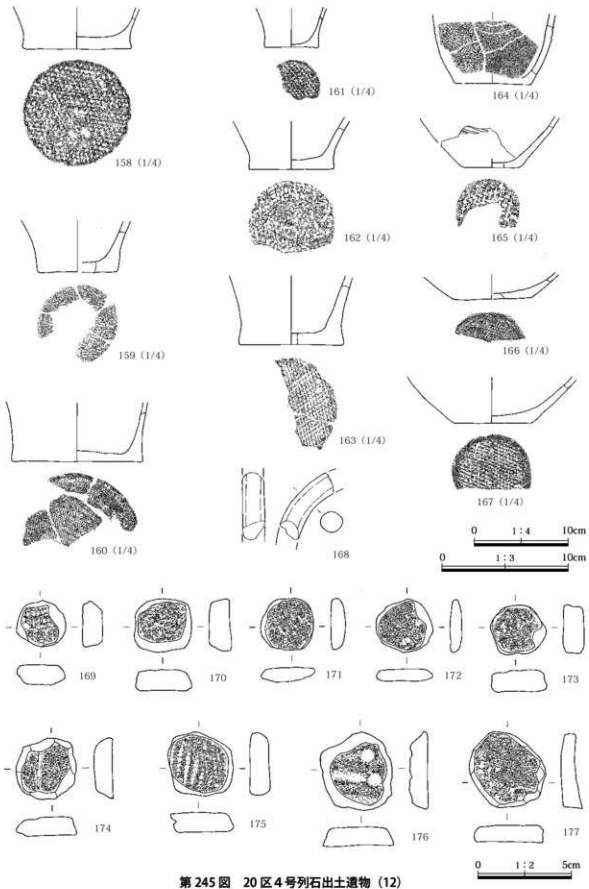


0 1:4 10cm

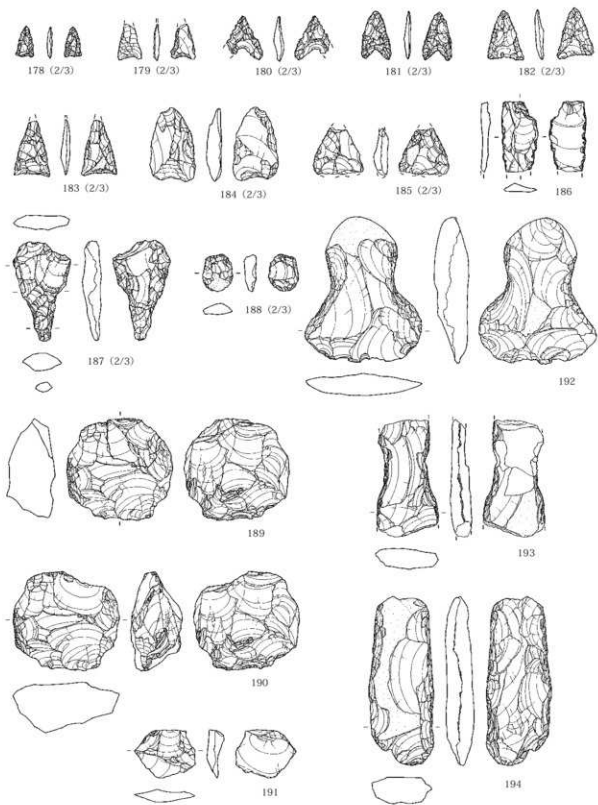
第243図 20区4号列石出土遺物(10)



第244図 20区4号列石出土遺物(11)

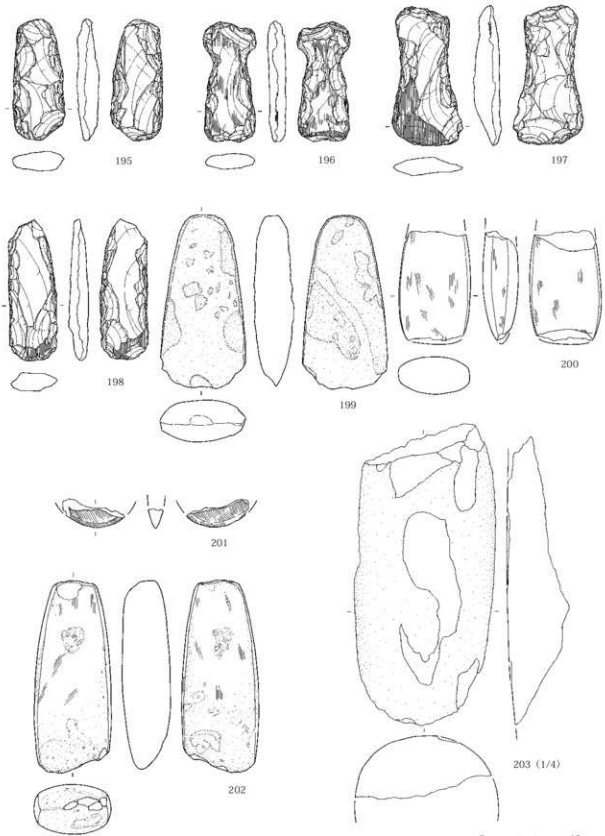


第245図 20区4号列石出土遺物(12)

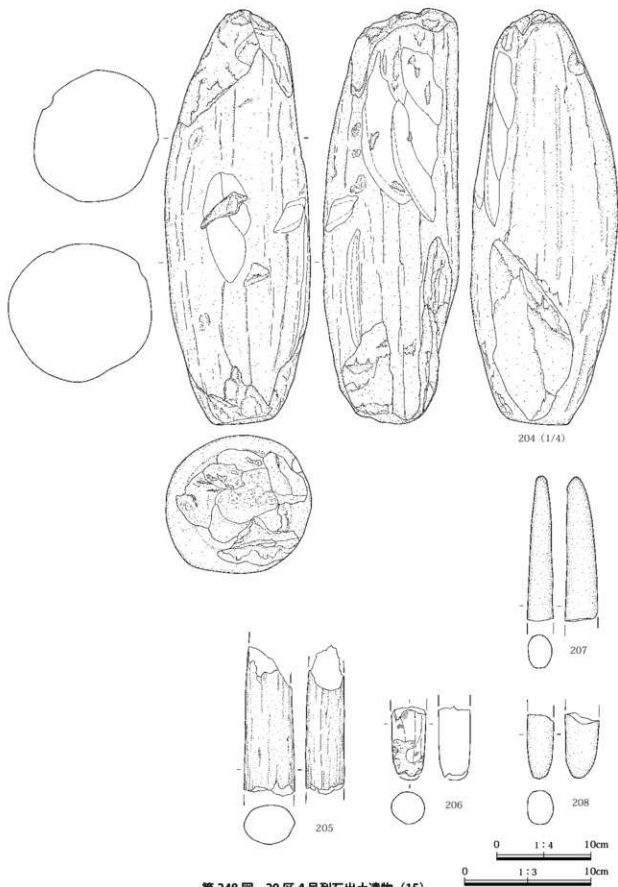


第 246 図 20 区 4 号列石出土遺物 (13)

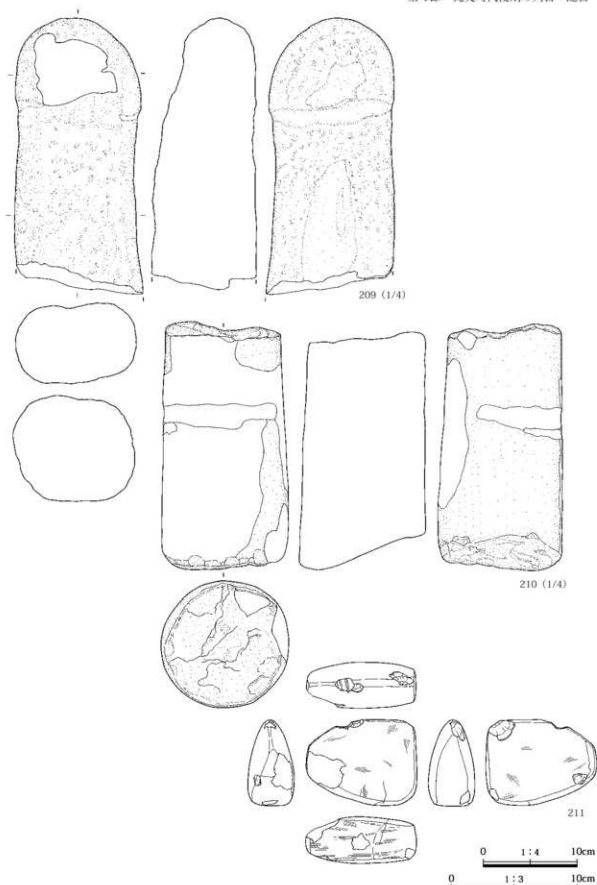
第4節 縄文時代後期の列石・配石



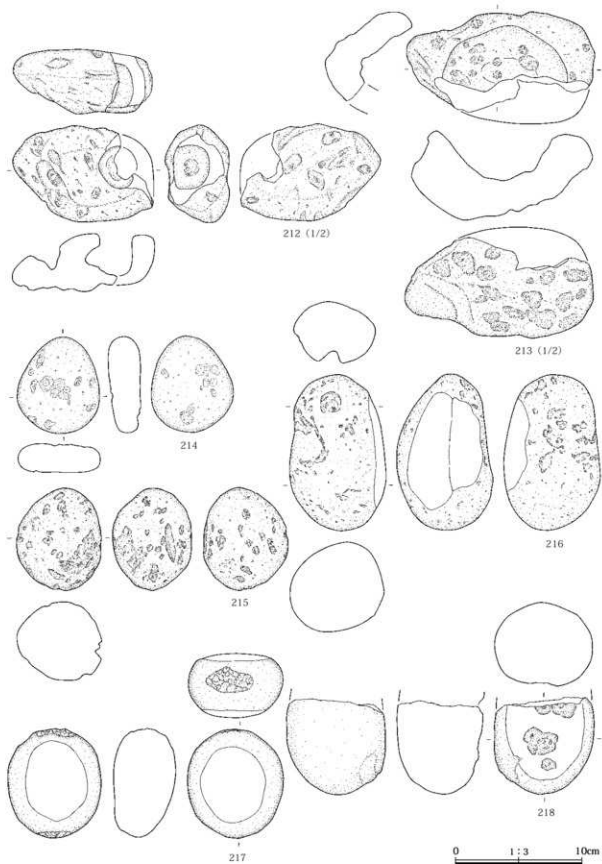
第247図 20区4号列石出土遺物 (14)



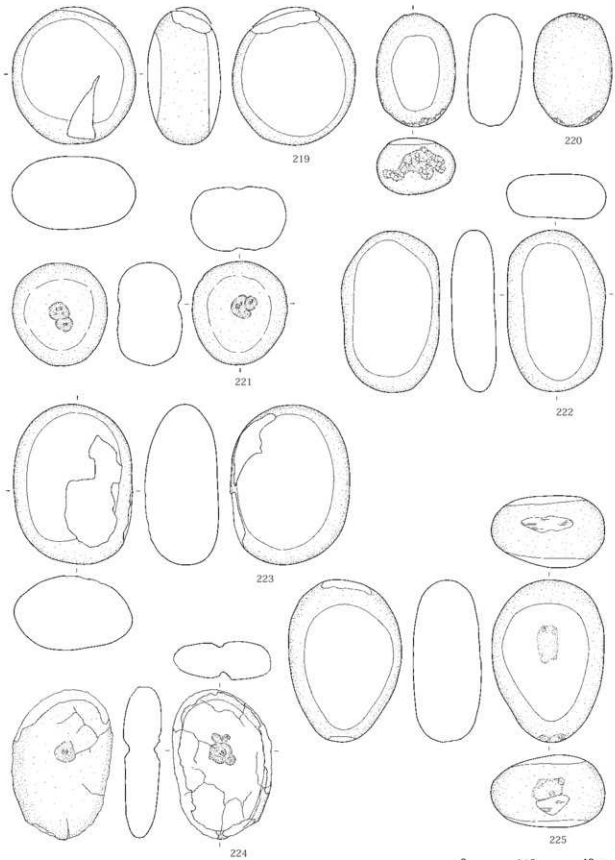
第 248 図 20 区 4 号列石出土遺物 (15)



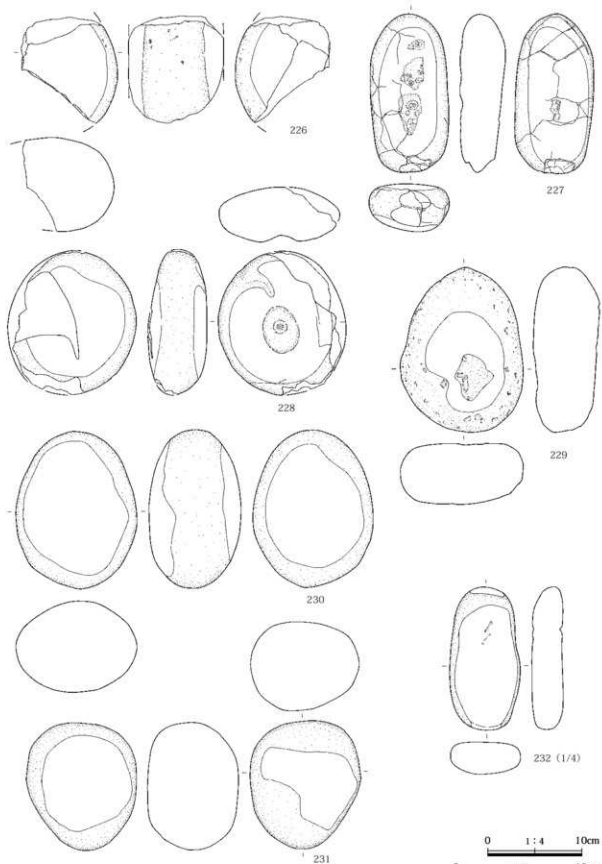
第249図 20区4号列石出土遺物(16)



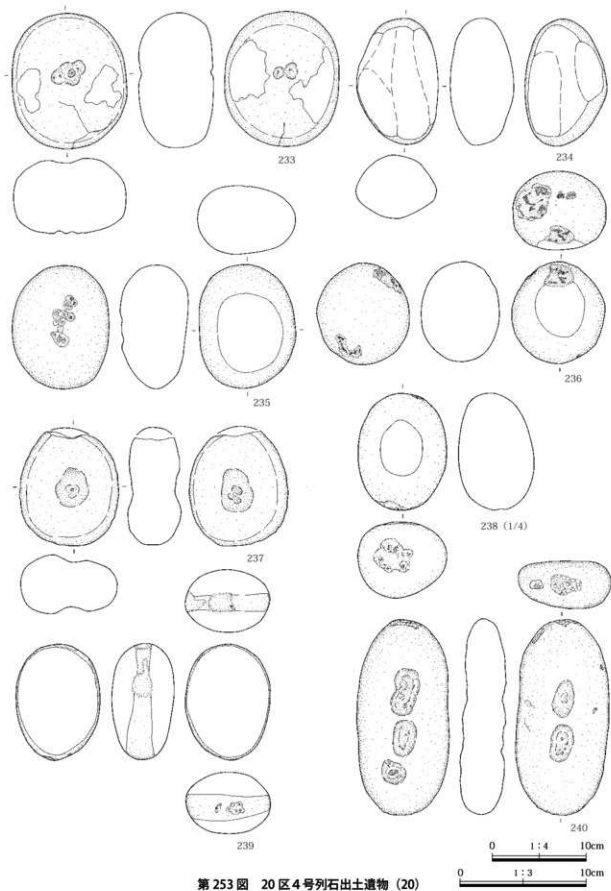
第250図 20区4号列石出土遺物(17)



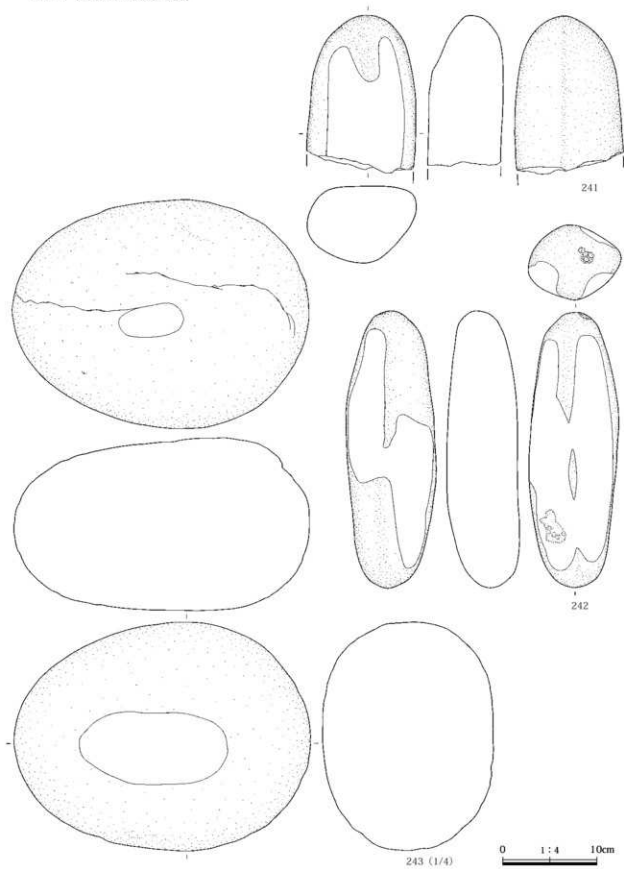
第251図 20区4号列石出土遺物(18)



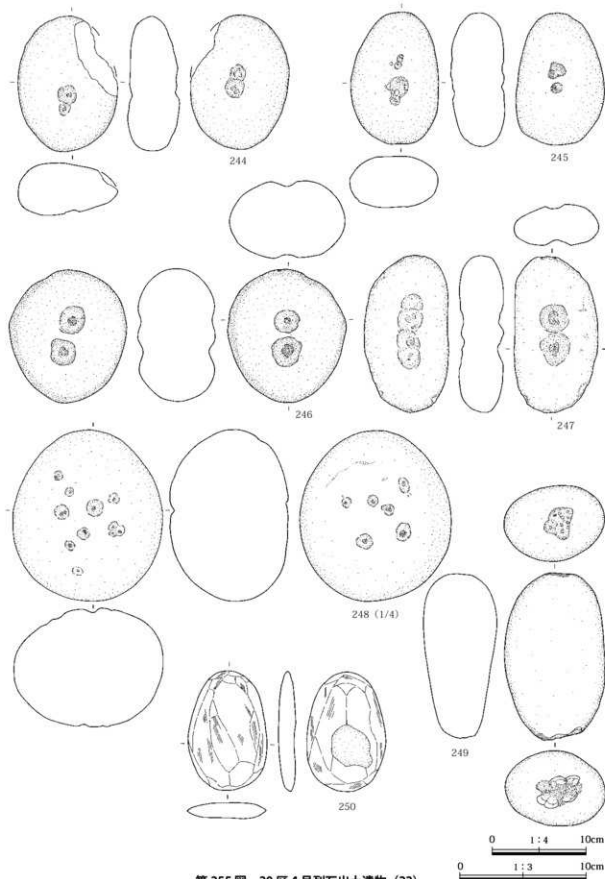
第 252 図 20 区 4 号列石出土遺物 (19)



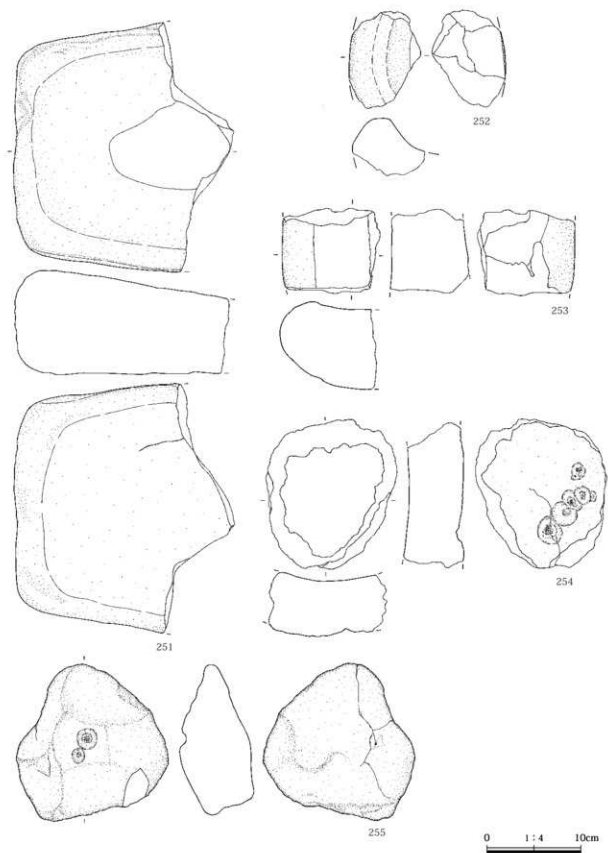
第253図 20区4号列石出土遺物(20)



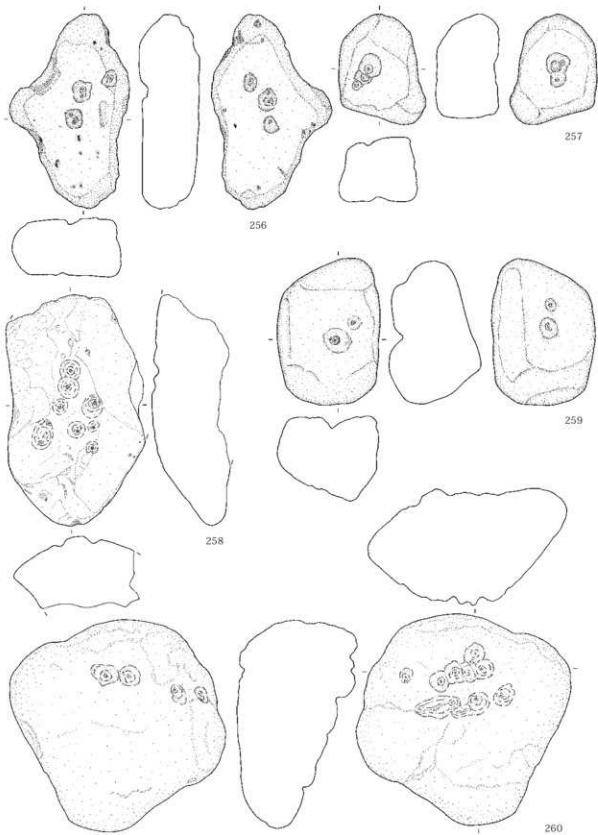
第254図 20区4号列石出土遺物(21)



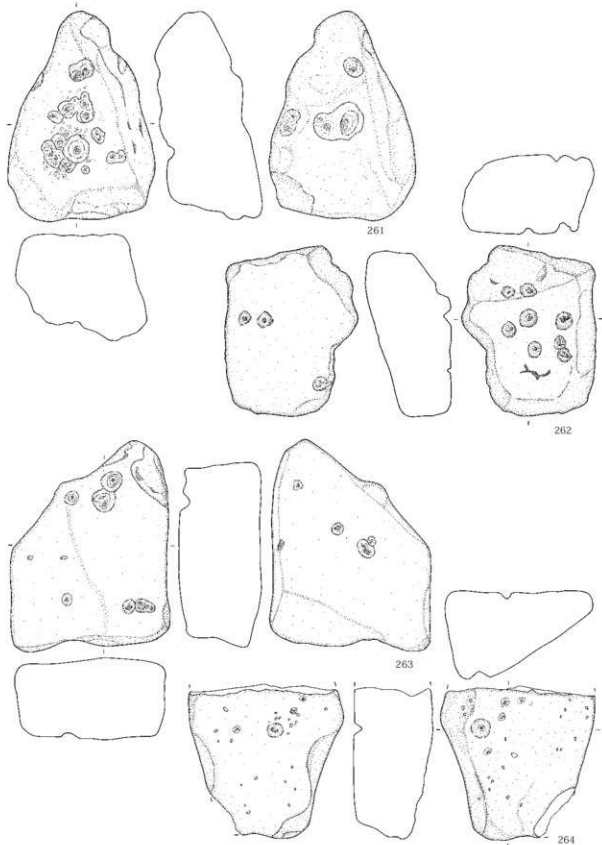
第255図 20区4号列石出土遺物(22)



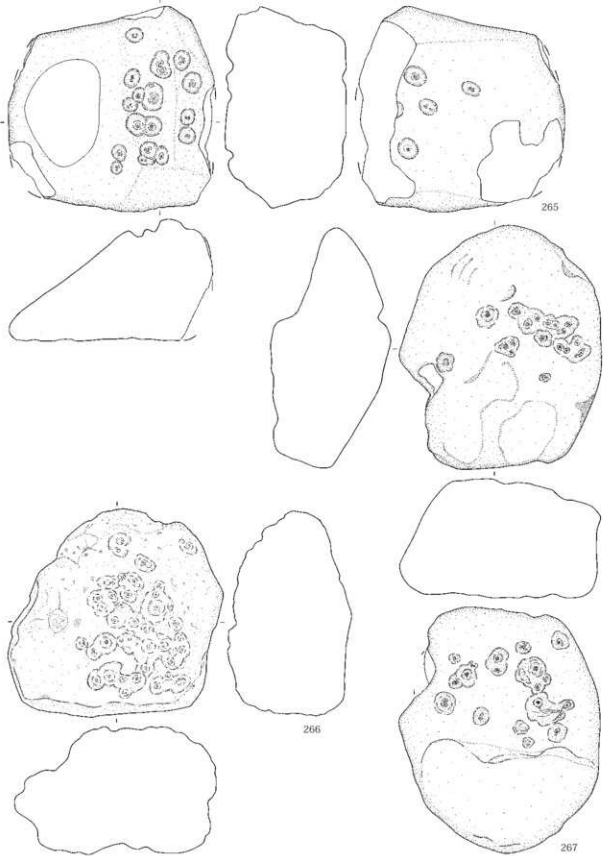
第256図 20区4号列石出土遺物(23)



第257図 20区4号列石出土遺物(24)

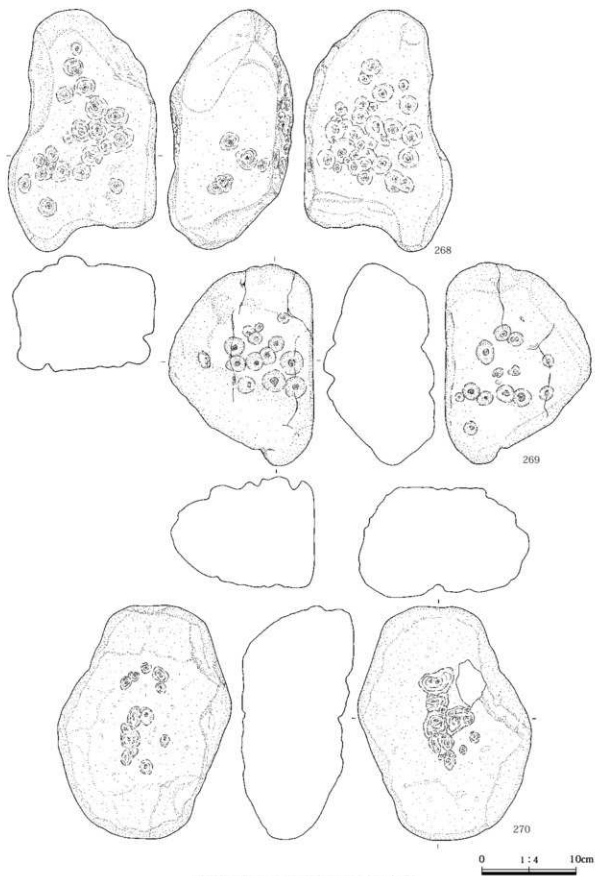


第258図 20区4号列石出土遺物(25)



第259図 20区4号列石出土遺物(26)

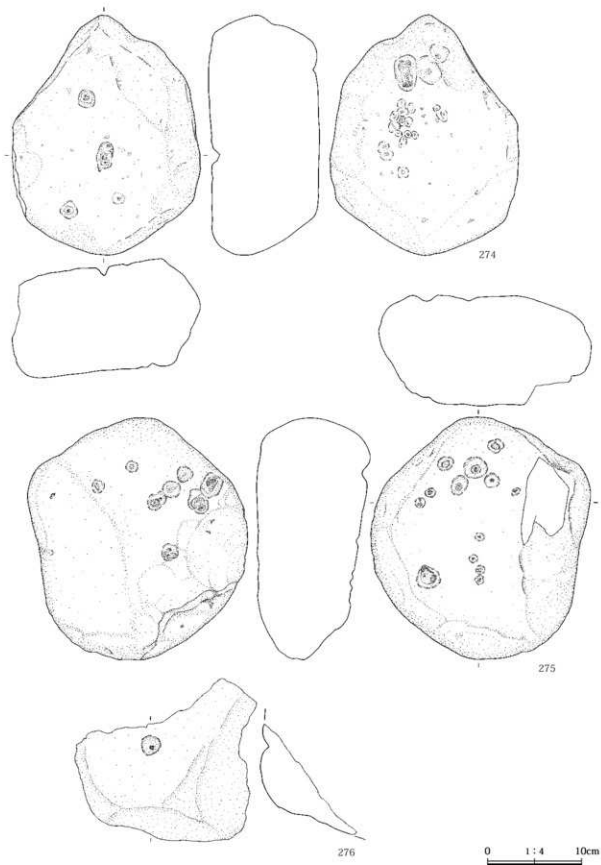
0 1:4 10cm



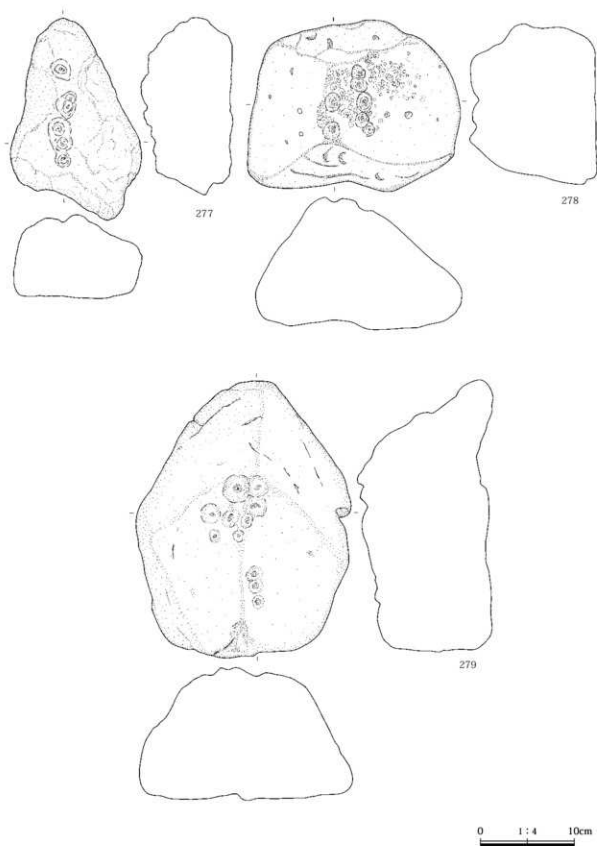
第 260 図 20 区 4 号列石出土遺物 (27)



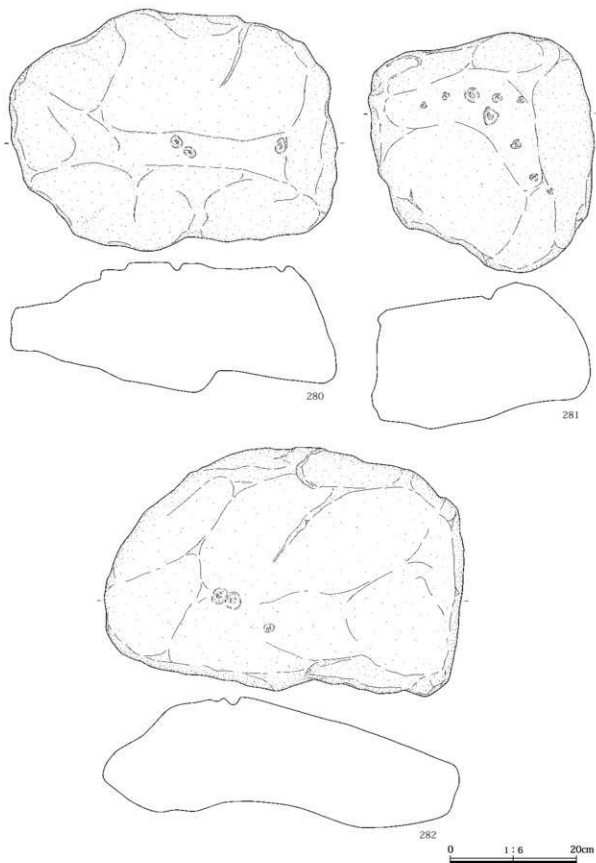
第 261 図 20 区 4 号列石出土遺物 (28)



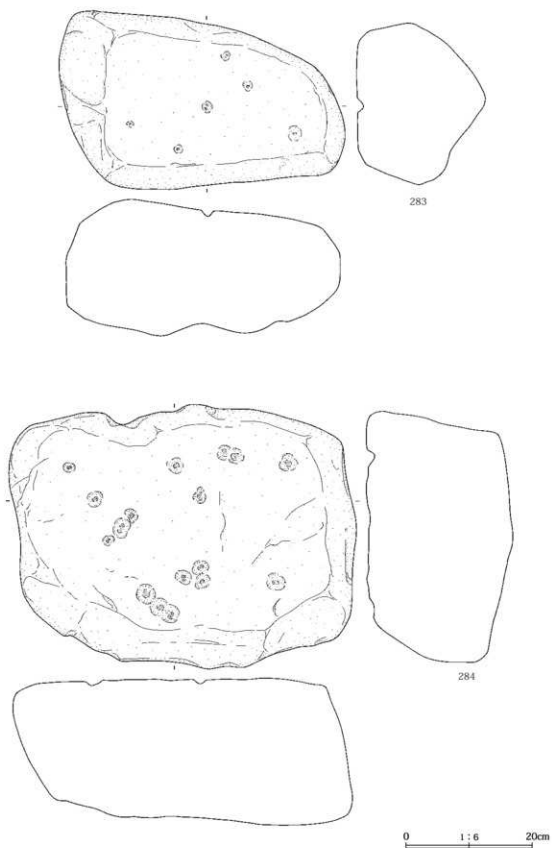
第 262 図 20 区 4 号列石出土遺物 (29)



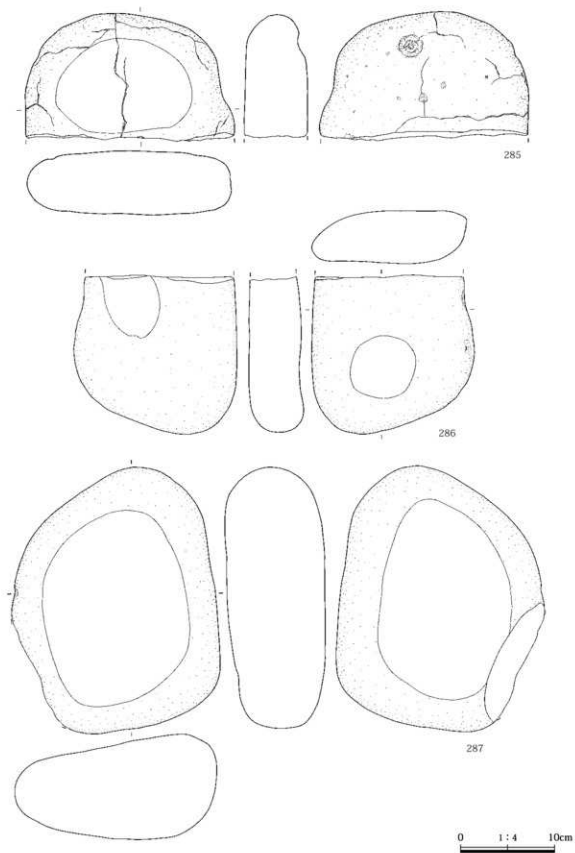
第 263 図 20 区 4 号列石出土遺物 (30)



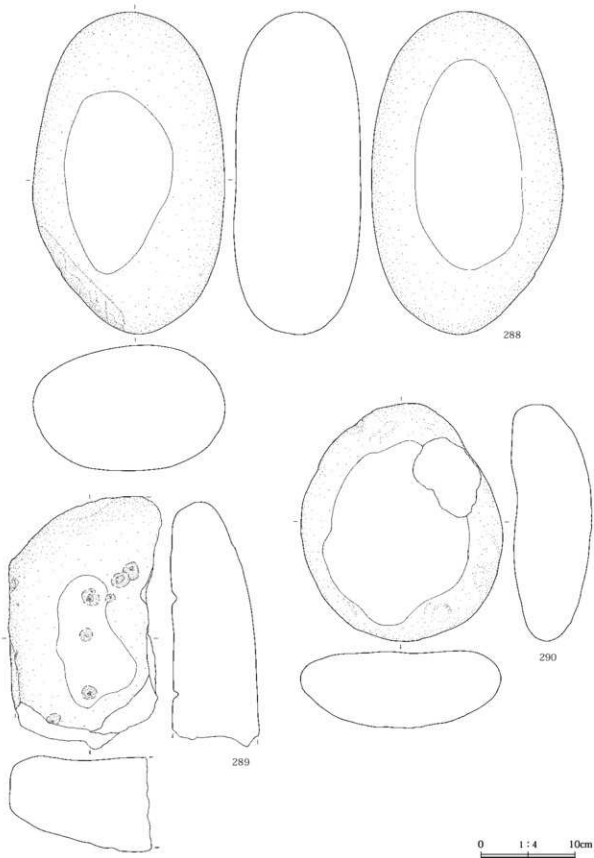
第 264 図 20 区 4 号列石出土遺物 (31)



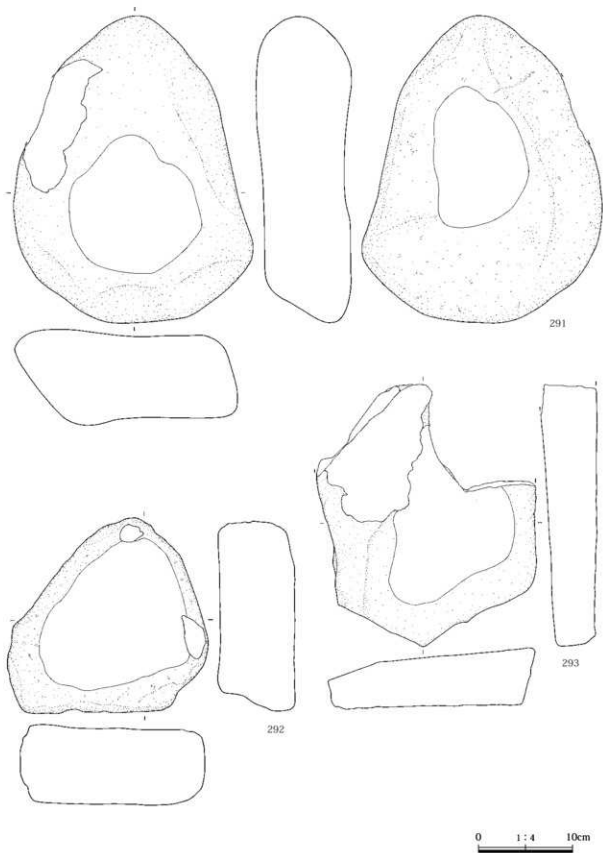
第 265 図 20 区 4 号列石出土遺物 (32)



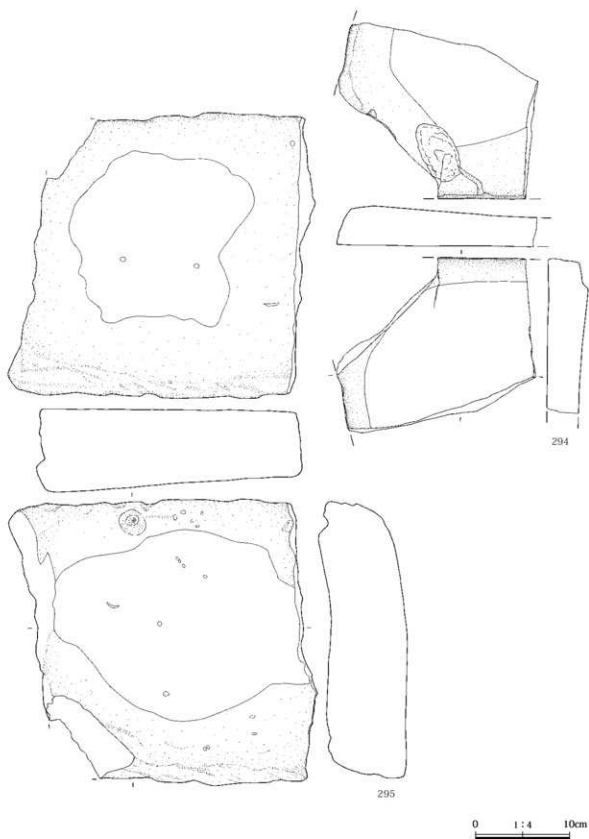
第 266 図 20 区 4 号列石出土遺物 (33)



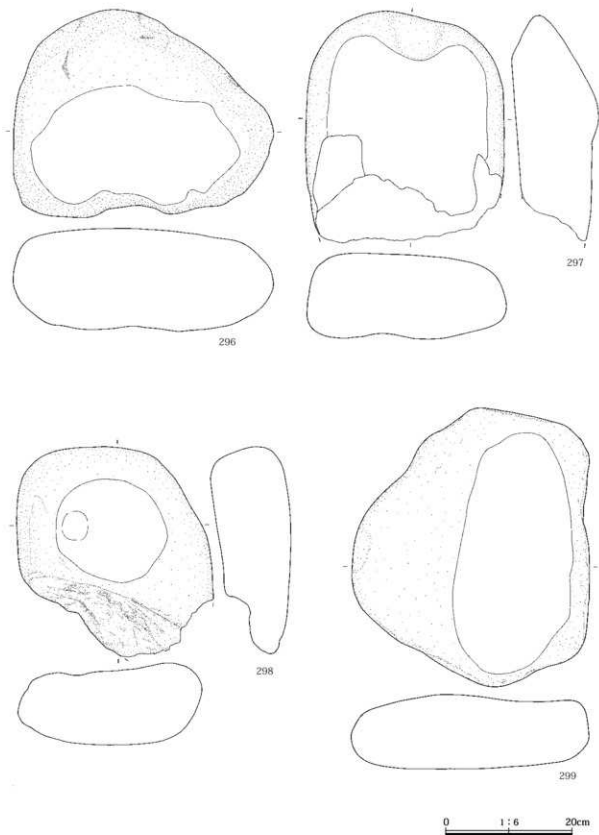
第 267 図 20 区 4 号列石出土遺物 (34)



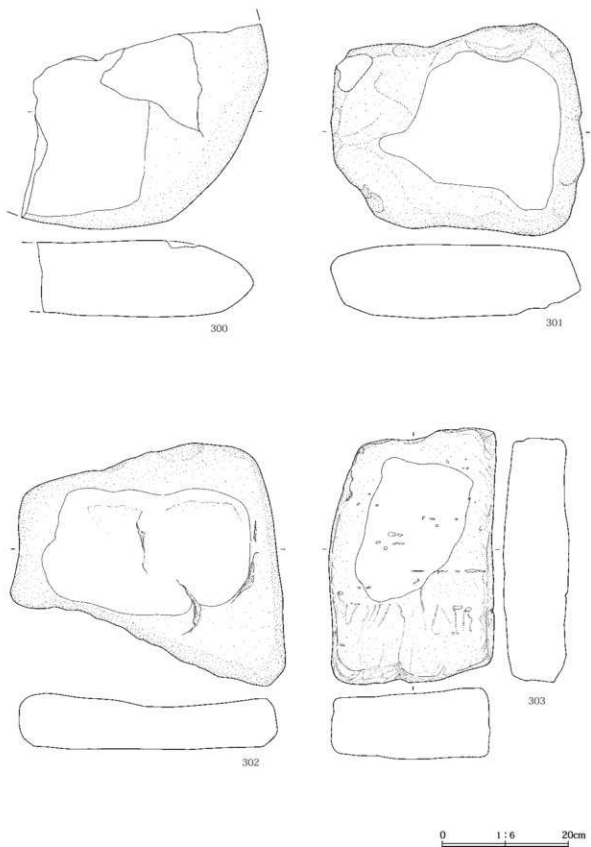
第 268 図 20 区 4 号列石出土遺物 (35)



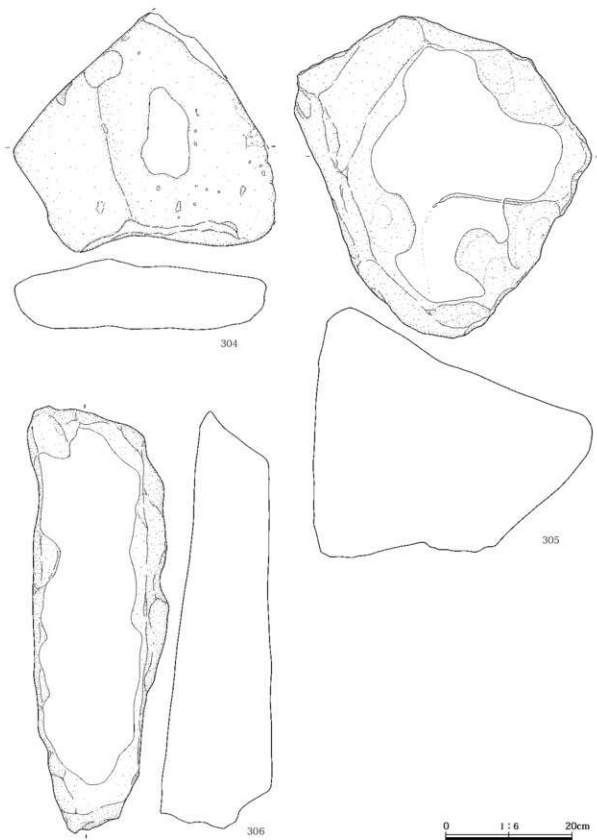
第269図 20区4号列石出土遺物(36)



第 270 図 20 区 4 号列石出土遺物 (37)



第271図 20区4号列石出土遺物(38)



第 272 図 20 区 4 号列石出土遺物 (39)

19区3号配石

調査年度 平成13・15年度

位置 V-19グリッド

経過 平成13年度に方形の石組みを確認したが、平成13・14年度は調査工程上の理由により調査が行えず、平成15年度に本調査を実施した。

重複 重複する遺構はない。20区4号列石の東端が北に湾曲した部分の延長線上に位置するが、4号列石とは重複しない。

形状 偏平な礫4石による方形石組みである。南辺は川原石を用い、東・西・北辺は偏平な地山礫を用いている。東・南・西辺の礫は平面形が三角形を呈しており、最大幅40～50cmの礫である。その礫の長辺を上面とし、上面の高さを揃えて垂直に据えている。北辺の礫は長方形を呈し同じく長辺を上にして据えている。検出段階では、南辺の礫は石組み内部である北方向に、西辺の礫は石組み内部である東方向に、北辺の礫は石組みの外である北方向に、東辺の礫は石組み内部である西方向にそれぞれ傾いていた。しかし、これらはその傾く方向が不規則であり、本来は垂直に据えられていたものと推測される。形状は石囲いやと似るが、4石とも被熱は認められず、覆土にも焼土がほとんど含まれない。そのためがではなく配石と認定した。

石組み内部には、10～30cmほどの礫が多数認められるが、その礫には規則性が認められない。後述する本遺跡の他の配石の様相から類推すると、本配石本来の姿は、立石あるいは丸石などが中央部にあり、それを囲むように方形の石組みがなされていたものと考えられる。石組み内部のこれらの礫は、立石などが何らかの理由により取り除かれたのち、内部に詰め込まれたものである可能性がある。

下部遺構 長軸102cm、短軸101cmの円形の掘り方が確認された。底面は中央部が周囲と比較して若干浅く、環状を呈している。石組みの礫を据えるためのものであろう。

石材等 南辺の1石のみ川原石を用い、東・西・北辺の3石は地山に含まれるものと同様な垂角礫を用い

ている。

方位 N-20°-E

遺物 土器は総数10点が出土している。中期前半1点、堀之内2式1点、加曾利B式1点、後期7点である。石器は出土していない。

時期 出土土器は数量が少なく、厳密な帰属時期は決定できない。ただし、20区4号列石や他の配石との関係から縄文時代後期、特に堀之内1式期から加曾利B2式期にかけて構築された遺構と考えておきたい。

19区6号配石

調査年度 平成13年度

位置 V-19グリッド

経過 表土削削後の精査中、石棒片や磨石を含む礫の集中する地点があり、配石として調査を実施した。

重複 本配石の直下に8号配石があり、さらにその下に59号土坑がある。本配石が両遺構を切る。

なお、8号配石は、分布では本報告で扱う配石の範囲に含まれるが、本配石の下にあり、その標高差も20cmほどあることから、4号列石に付随する配石とは位置づけられず、今回の報告からは除外し、別の機会に報告する。

形状 長軸142cm、短軸128cmの範囲に礫が集中して認められる。礫の配置は環状に巡る様子も認められるが不明瞭である。本来の形状からは崩れている可能性が考えられる。本配石の北西部に石棒(15)が出土している。破損品であり、横たわって出土しているが、立てられていた可能性もある。16は15と接合する破片であり、別に同一個体と考えられる石棒片がもう1点出土している。

下部遺構 環状に巡る礫の内部に楕円形の掘り込みが認められる。深さは石棒の出土面から30cmである。その規模は長軸79cm、短軸68cm、深さ41cmである。本配石は、土坑の上面に礫を配した配石墓の可能性も考えられよう。

石材等 ほとんど地山に含まれるものと同様な垂角

第3章 発見された遺構と遺物

礎を使用しているが、偏平な礎などを選択して使用している様子は認められない。川原石の小礎が極少量含まれている。

方位 N-46°-E(下部遺構)

遺物 土器は総数124点が出土している。縄文時代中期の土器片が主体を占めるが、加曽利B式土器も一定量出土している。配石下の掘り込みからも加曽利B 2式土器が出土している。

1は加曽利B 2式期の深鉢である。接合し全体の60%程度が復元されている。接合関係は、本配石出土の土器片が主体であるが、20区4号列石出土の土器片とも接合している。その位置関係は第275図に示した。後述する石棒とも関連し、その位置関係は注目される。

石器は石鐮1点、打製石斧1点、磨石2点、石棒3点があり、他に剥片1点がある。

本配石から出土した石棒3点はすべて同一個体であり、2点(15・16)は接合する。また、他に同一個体と考えられる破片が、19区10号配石(10配-5)および20区4号列石(4列-203)からも出土している。その出土位置は第275図に図示した。本配石出土の破片と4号列石の破片は接合する。その出土位置は直線距離で18.5mある。10号配石の破片は接合はしないが、礎の石質や形態、被熱の状況などから同一個体と同定した。これら破片の出土位置は、4号列石の第232図で加曽利B 2式期の土器の出土位置を図示したが、その位置と符合する。加曽利B 2式期の活動痕跡の一端を物語るものであろう。中央部および下端を欠失するが、図上で復元した長さで98cmを測る。下端も欠損していることから、本来の長さは1mを超える大型品である。さらに10号配石の破片の上部は、折れ面を再調整したものと考えられ、その本来のサイズはさらに長いことになるであろう。

この石棒は、裏面がやや平坦であり、その面に凹み認められ多孔石としても使用されている。本配石出土の破片(6配-15)と10号配石出土の破片(10配-5)の両者に、その凹みが認められること

から、多孔石としての利用は欠損前であろう。また、この石棒は被熱し変色している。その部位は、表面側が被熱しており、裏面側は被熱していない。しかも中央の欠損部付近が最も強く被熱していることが観察される。上記のことから本石棒の経過をまとめると次のようになる。

- 1、石棒が製作される。
- 2、上端が欠損する。
- 3、欠損面を再調整する。
- 4、多孔石として利用する。
- 5、平坦な面を下にした横倒しの状態で被熱する。
- 6、破壊される。
- 7、各出土位置の配石に配られる。欠失する部位もあるため、その移動された範囲はさらに広い可能性がある。

なお、4の多孔石としての利用は2より以前の可能性もある。本例は、石棒の廃棄までの経過が推測できる重要な事例であろう。

時期 出土土器は加曽利B 2式期を主体としており、本配石は当該期に比定されよう。

19区7号配石

調査年度 平成13年度

位置 V-19グリッド

経過 表土掘削後の精査中、5石の礎が密集して検出されたため配石として調査を実施した。

重複 重複する遺構はないが、北東に19区6号配石、南東に19区3号配石が隣接する。

形状 長軸74cm、短軸68cmの範囲に径25～50cmの礎5石が密集して認められる。北端の1石は川原石であり、やや北に傾くが縦位に据えられている。他の4石は地山に含まれるものと同様な亜角礎を水平に据えている。ただし、その高さは不揃いである。
下部遺構 配石下部に、配石より一回り大きい長軸90cm、短軸85cmの円形の土坑が認められた。深さは18cmである。

石材等 1石のみ川原石であり、他の4石は地山に含まれるものと同様な亜角礎を使用している。

方 位 一

遺 物 土器は総数11点が出土しているが、中期勝坂式を主体とする中期の土器片が多数であり、後期の土器片は1点のみである。位置を記録して取り上げた遺物の多くは本遺構の範囲外であり、ここに報告した遺物の多くは、本来は本遺構とは無関係のものが多くと思われる。また、中期前半の遺物がまとまっており、その時期の遺構を切って本遺構が構築されている可能性も考えられよう。

石器は出土しなかった。

時 期 出土土器は中期前半を主体としているが、20区4号列石および他の配石との関係から縄文時代後期、特に堀之内1式期から加曾利B2式期にかけての時期に比定される遺構と考えておきたい。

19区10号配石

調査年度 平成15年度

位 置 V-18グリッド

経 過 20区4号列石の調査中に、その移動したと考えられる礫を除去したところ、石棒や多孔石、川原石などが集中する状況が捉えられたため単独の配石として調査を行った。

重 複 弧状に展開する20区4号列石が北に向き変える地点の内側に位置する。また、堀之内2式期の19区284号土坑の上に重複し、これを切る。

形 状 石棒、多孔石、円形の扁平川原石、角柱状の地山礫が径80cmほどの範囲に集中して認められる。多孔石(8)以外は、確認面から浮いてしまっている。石棒(第281図10配-5)は6号配石の項で先述したように、6号配石出土の石棒と同一個体と考えられるものである。破損品であり横倒しの状態で出土した。角柱状の礫、川原石も水平に近い状況で出土している。本来は、これらの礫を利用し、石棒を中心とした石組みがなされていたものであろう。それが崩れて移動しているものと考えられる。6号配石において先述したように石棒の破壊行為が行われていることから意図的に破壊した可能性も考えられよう。やや深い位置から出土した多孔石(8)

については、原位置を保っている可能性がある。

下部遺構 上部の配石とは南西に若干ずれた位置に土坑が検出された。長軸66cm、短軸54cmの楕円形を呈し、確認面からの深さは14cmである。多孔石はこの土坑の範囲内に入り、他の礫はこの土坑より北東方向にずれた位置から出土したことになる。

石材等 石棒や多孔石などの石器を転用している。他に、長さ15cmほどの棒状の凹石(6・7)もあり、石組みに利用されていたものと思われる。

方 位 一

遺 物 土器は総数4点である。堀之内2式2点と後期土器片2点である。

石器は石鏃1点(黒曜石1点)、石棒1点、凹石2点、多孔石1点があり、他に剥片3点(黒曜石2点)、砕片1点(黒曜石1点)がある。石棒は第281図にあわせて掲載している。

時 期 出土土器が少なく、明確な時期比定はできない。ただし、石棒が6号配石出土の石棒と同一個体と考えられることから、6号配石と同一時期の加曾利B2式期と考えておきたい。ただし、石棒が破壊された時期が当該期であり、配石構築時期はそれより遡る可能性もあるが、遺構の重複関係では、堀之内2式期の19区284号土坑を切り、その上に構築されていることから、堀之内2式期よりは以後の構築である。

19区11号配石

調査年度 平成15年度

位 置 V-18グリッド

経 過 20区4号列石の調査中にその移動したと考えられる礫を除去したところ、丸石を中心として扁平な礫が周囲を囲む部分があり、単独の配石として調査を行った。

重 複 20区4号列石の北側、弧の内側に位置する。また、19区54号住居の上に重複し、これを切る。
形 状 中心にやや扁平な丸石を立てて据え、その周囲を5石の扁平な礫が取り囲んでいる。その規模は長軸80cm、短軸56cmである。検出状況からは、

第3章 発見された遺構と遺物

これら周囲の5石の配置は若干移動している可能性が考えられ、本来は、方形あるいは円形に配置されていたものと推測される。また、周囲の礎は立っているもの、斜めになっているもの、横倒しのものが認められるが、本来はすべて立っていた可能性が高いと考えられる。

なお、本配石に接して、その東側に小型の丸石がもう1石認められる。

下部遺構 配石直下に長軸80cm、短軸68cmの不整な方形を呈した掘り込みが検出された。深さは検出面から24cmである。中央の丸石の下から掘り込み底面までは6cmほどである。配石構築のための掘り方に相当しよう。

石材等 中央の丸石は花崗閃緑岩の川原石。周囲を取り巻く5石は、鉄平石が1石、偏平地山礫が4石である。その他に径5cmほどの小円礫が認められる。

方位 N-23°-E

遺物 土器は総数6点が出土している。すべて縄文時代後期の土器片と考えられるが、小破片であり図化は行っていない。

石器は磨石1点、剥片3点(黒曜石1点)、破片1点がある。

時期 出土遺物から明確な時期比定はできないが、他の配石および列石、住居跡との関係から堀之内1式期から加曽利B1式期の間に構築されたものと考えたい。重複する19区54号住居は堀之内1式期の住居であり、これよりも後出である。また、4号列石の最終段階においては4号列石の中に完全に埋没するような状況で検出されているため、4号列石の継続期間内にはその役割を終えていたものと考えられよう。

19区12号配石

調査年度 平成15年度

位置 W・X-18グリッド

経過 20区4号列石の調査中、列石の礎を除去している段階で、立石を確認したため配石として調

査を実施した。配石としての認定は16号配石より先に行っているが、調査の進展に伴って16号配石が本配石を切っていることが判明した。そのため、一部開始していた調査を中止し、先に16号配石の調査を実施し、その後調査を再開した。

重複 20区4号列石の礎の下から確認された。また、19区16号配石に切られ、19区54号住居の上に重複する。

形状 中央に立石を据え、その周囲に方形石組みを2重に巡らしている。中央の立石は、長さ70cm、太さ18cmの三角柱状を呈した礎を使用し、出土時は若干北に傾くが立ったままの状態であった。二重の方形石組みはすべて偏平な礎を使用している。まず、偏平な礎4石を垂直に立て方形に配し、その後、内側の石組みを行っている。なお外側の石組みの礎は長さ40～55cmの偏平な川原石を用い、規模は東西72cm、南北68cmである。また南東隅には棒状の川原石が直立で組み込まれている。内側の石組みは東・南・北辺の3石のみであり、西辺には礎が認められない。これは18区16号配石に切られるためであり、本来は方形に組み込まれていたものと考えられる。使用された礎の大きさは35～45cmであり、外側の石組みより一回り小さい礎を使用している。礎の傾きはすべて外開きに傾いた状態で出土している。これが本来の形状なのか、直立していたものが傾いたものかは判断できなかった。立石の高さは検出面で30cm、外側の石組みの上面が地上に露出していたと考えた場合には50cmほどが地上に屹立していたものと考えられる。

下部遺構 長軸130cm、短軸98cmの楕円形の掘り込みが確認された。深さは確認面から40cmである。配石の礎との位置関係から石組みを構築するための掘り方と想定されよう。

石材等 中心の立石と外側の石組み東辺の1石は地山に含まれるものと同様な亜角礫を用いている。その他の石組みに使用された礎はすべて川原石である。本遺跡の配石の中では、川原石の選択率が高い配石である。

方位 N-10°-E

遺物 土器は総数7点が出土している。加曽利E3式4点、後期の土器片3点である。石器は削器1点のみである。

時期 出土遺物が少なく明確な時期比定はできない。他の配石および列石、住居跡との関係から堀之内1式期から加曽利B1式期の間に構築されたものと考えたい。重複する19区54号住居は堀之内1式期の住居であり、これよりも後出である。また16号配石は加曽利B2式期の配石と考えられ、これよりは以前である。さらに、4号列石の最終段階においては4号列石の中に完全に埋没するような状況で検出されているため、4号列石の継続期間内にはその役割を終えていたものと考えられよう。

19区13号配石

調査年度 平成15年度

位置 X-18グリッド

経過 20区4号列石の調査中、列石の礎を除去している段階で、円形の川原石を棒状の礎が取り囲む様子が確認され配石として調査を行った。

重複 20区4号列石の北に位置し、19区15・17号配石の間に位置する。

形状 中心に径48cm、厚さ14cmの扁平な円形川原石を水平に据え、その周囲を長さ20～30cmのやや細長い礎6石を用いて圍繞する。周囲の礎まで含めた規模は長軸84cm、短軸72cmの円形である。

中央の円形川原石の西隣にある礎は、19区14号配石の中心に据えられた立石の頂部が折られたものであり、接合することが確認されている。その位置関係は第277図に示した。意図的にこの位置に配置したのかどうかは不明である。

本配石の西部はこの立石の破片により乱されているものと考えられ、圍繞する礎も認められない。14号配石の西部は本来の形状を保っていないものと考えられよう。

なお、第274図の破線の外側に認められるその他の礎は、本配石とは関連のないものと判断したものと

である。20区4号列石の礎が崩れたもの、あるいは積み足されたものと考えられる。

下部遺構 長軸89cm、短軸71cmの楕円形の掘り込みが確認された。深さは確認面から14cmである。配石の礎との位置関係から配石の掘り方と考えられる。

石材等 中央の礎は川原石を用い、圍繞する礎も川原石を5石と多用し、1石のみ鉄平石を使用している。

方位 N-15°-E

遺物 土器および石器は出土しなかった。

時期 出土遺物がなく明確な時期比定はできない。ただし、他の配石および列石、住居跡との関係から堀之内1式期から加曽利B1式期の間に構築されたものと考えたい。4号列石の最終段階においては4号列石の中に完全に埋没するような状況で検出されているため、4号列石の継続期間内にはその役割を終えていたものと考えられよう。

19区14号配石

調査年度 平成15年度

位置 Y-18グリッド

経過 20区4号列石の調査中、列石の礎を除去している段階で、棒状の川原石を扁平な川原石が取り囲む様子が確認され配石として調査を行った。

重複 20区4号列石の北に位置し、19区15号配石の西に位置する。15号配石とは一部重複していると考えられるが、切り合い関係は不明である。

形状 中央に立石を据え、その周囲に同心円状に礎を3重に配している。全体の規模は径120cmの円形である。中央の立石は、長さ90cm、太さ25cmの棒状の川原石を用いている。調査時は、この礎は3分割された状態で出土した。基部は、長さ約54cmが北に約45度傾いて埋まっていた。中位の部分は、ほぼ180度回転して基部の北に移動して出土した。また、最上部の破片は約250cm東に離れた19区13号配石の脇から出土している。その位置は第277図に示した。配石を構築後、列石が最終的に廃絶するまでのいずれかの段階で意図的に折られたものと考

第3章 発見された遺構と遺物

えられる。立石の破片3点を復元し立てると60cmほどが地上に露出していたと考えられる。また、立石に用いられた礫の南側の面の中ほどには、1孔の凹みが認められる。この凹みは、人工的なものではなく自然の凹みであるが、当時の人々が意図的に選択して立石に用いた可能性も考えられよう。

立石周囲の石組みは、やや崩れているが3重に配されている。3重のなかで基本となっているものは2重目である。長さ40～50cmの偏平な川原石4石を立位で使用して方形に石組みを行っている。1重目は立石と2重目の間に充填されている。長さ15～20cmの礫6石が用いられている。立位のもの、横置きのもの両者がみられる。3重目は15～25cmの礫7石を立位で用いている。配置からは八角形を呈していたと考えられ、北東にもう1石あったものと思われる。

下部遺構 長軸110cm、短軸105cmの方形の掘り込みが確認された。深さは、確認面から36cmである。配石の礫との位置関係から、配石の掘り方と考えられよう。

石材等 中央の立石と2重目の石組みは川原石を使用している。また1重目の石組みには、川原石2石、鉄平石2石、地山礫2石と多様な石を用い、3重目は1石のみ川原石を用いるほかは偏平な地山石を使用している。

方位 N-27°-E

遺物 土器は総数6点であり、中期が4点、後期が2点である。石器は台石1点がある。

時期 出土遺物が少なく明確な時期比定はできない。ただし、他の配石および列石、住居跡との関係から堀之内1式期から加曾利B1式期の間に構築されたものと考えたい。なお、本配石は4号列石の第227図で示した列石の基礎となる石列の④と接しており、この石列を構築する際に、本配石の立石を破壊した可能性も考えられる。そのように想定した場合、本配石は20区4号列石の①・②あるいは③のどちらかの石列に伴う配石と考えることができよう。

19区15号配石

調査年度 平成15年度

位置 Y-18グリッド

経過 20区4号列石の調査中、列石の礫をはずしている段階で、丸石を中心に礫が方形に取り囲む様子が確認されたため配石として調査を行った。

重複 20区4号列石の北に位置し、19区14号配石の東に位置する。14号配石とは一部重複していると考えられるが、切り合い関係は不明である。

形状 径25cmのやや楕円体の丸石を中央に据え、その周囲を地山礫が囲んでいる。東側の礫が認められないが、方形に石組みされていたものと考えられる。全体の規模は長軸84cm、短軸82cmの方形である。中央の丸石の南に面する面の中央には、凹みが認められる。14号配石の立石にも南面に同様な凹みがあり類似性が窺える。

下部遺構 長軸75cm、短軸63cmの円形の掘り込みが配石直下に確認された。深さは確認面から28cmである。配石の礫は掘り込みの上位に認められ、下部土坑と考えられる。土坑内からは、丸石の直下にあたる箇所から堀之内2式期の鉢(15配-1)が横位で1点出土している。若干つぶれているがほぼ形状を保っており、空洞無く埋め戻されたのち、上位に配石が構築されたものと考えられる。

石材等 中央の丸石は川原石を用い、周囲の石組みは地山に含まれるものと同様な垂角礫を用いている。

方位 N-13°-E

遺物 土器は総数7点が出土している。1は堀之内2式期の鉢であり、全面研磨され丁寧な作られている。内面に文様を施している。

石器は剥片4点(黒曜石2点)、碎片3点(黒曜石3点)が出土している。

時期 下部遺構から出土した土器は堀之内2式期に比定され、本配石は当該期に比定されよう。なお4号列石の最終段階では4号列石の中に完全に埋没しているため、4号列石の継続期間内にはその役割を終えていたものと考えられよう。

第4節 縄文時代後期の列石・配石

19区16号配石

調査年度 平成15年度

位置 X-18グリッド

経過 20区4号列石の調査中、列石の礫をはずしている段階で、多数の偏平な礫の側面が立てられており、その内側に小円礫の集中が認められたことから、配石として調査を行った。

重複 20区4号列石の北、19区12号配石の西に位置し、12号配石を切る。

形状 1面目 偏平な礫が立っている、あるいは傾いている範囲を配石の範囲として扱った。当初20区4号列石の一部が崩れたものという見解であったため、本来は本配石に伴う礫を除去してしまっている可能性もある。配石として認定した時点での規模は、長軸140cm、短軸132cmの不整な円形を呈している。使用されている礫は30～50cmほどの偏平な礫であり、その多くが立位あるいは傾いて出土している。本来はすべて直立していた可能性もある。礫の立つ方向は不規則であるが、南北方向に長軸を取るものが比較的多く認められる。また、これらの礫の間には、径3～10cmほどの小円礫が多く認められる。特に中心部に密集している。

2面目 配石上位の礫を除去したところ、掘り込みが確認された。その掘り込み内にも多くの偏平な礫が認められ、やはり大部分は直立あるいは傾いた状態で出土した。ただし小円礫は認められない。

3面目 2面目の礫を除去したところ、さらに北側に直立状態の礫が検出された。使用される礫は1・2面目と比較的やや小ぶりなものが多く、小円礫は含まれない。

下部遺構 最終的に長径214cm、短径130cm、深さ43cmの楕円形の掘り方が検出された。掘り方の底面は3面目とした部分が浅く、1・2面目の範囲との境界に段差をもつことから、2基の配石が重複していた可能性も考えられるが、調査時点では判別できなかった。

石材等 直立あるいは傾いて出土したやや大型の礫のほとんどは地山に含まれるものと同様な亜角礫で

あり、最南端に位置する1石のみ川原石を使用している。小円礫はすべて川原石である。

方位 N-2°-E

遺物 土器は総数38点が出土しており、中期土器片の他に堀之内1・2式、加曽利B2式の土器片が出土している。石器は剥片3点(黒曜石1点)、碎片5点(黒曜石5点)がある。

時期 出土土器は堀之内1式期から加曽利B2式期を含むが、配石上面だけでなく、配石下位の掘り込みからも加曽利B2式土器が出土していることから、本配石は加曽利B2式期に比定されよう。

19区17号配石

調査年度 平成15年度

位置 X-18グリッド

経過 20区4号列石の礫をほぼ除去した段階で、偏平な円形川原石を検出し、その外側に掘り込みの輪郭が確認できるため配石として調査を行った。

重複 20区4号列石の北、19区13号配石と16号配石の間に位置する。13号配石とは掘り方が重複するが切り合いは不明である。

形状 径39cm、厚さ11cmの偏平な円形川原石を中心とし、その東に直立状態の川原石、北に偏平な地山礫が認められる。円形川原石は約45度傾いて出土しているが、本来は水平に据えられていたものと考えられる。周囲の礫も2石だけではあるが、他の配石から類推すると、方形に石組みされていた可能性が考えられよう。

下部遺構 長軸94cm、短軸74cm、深さ36cmの掘り込みが検出された。配石の礫は掘り込み上位に認められるため、下部土坑と考えられる。

石材等 中心に偏平な円形川原石、周囲に川原石と地山に含まれるものと同様な亜角礫を使用して構築している。

方位 N-45°-E

遺物 遺物は出土しなかった。

時期 出土遺物がなく明確な時期比定はできない。ただし、他の配石および列石、住居跡との関係

第3章 発見された遺構と遺物

から堀之内1式期から加曾利B1式期の間に構築されたものと考えたい。4号列石の最終段階においては4号列石の中に完全に埋没するような状況で検出されているため、4号列石の継続期間内にはその役割を終えていたものと考えられよう。

20区20号配石

調査年度 平成13年度

位置 A・B-18グリッド

経過 4号列石調査中、上部の礫を除去している段階で、立石を確認したため配石として調査を実施した。

重複 20区4号列石の北に位置するが、4号列石の最終段階では、その中に完全に埋没している。

形状 中心に長さ40cm、径18cmの礫を立て立石とし、その周囲に10～15cmの礫5石を配している。南側は4号列石の基礎と考えられる石列⑤に接して構築され、立石を囲繞する礫は認められない。石列⑤構築時に破壊された可能性も考えられる。全体の規模は長軸52cm、短軸50cmである。

下部遺構 立石の掘り方のみで、土坑などは確認されていない。

石材等 立石は川原石を用い、周囲の5石は地山に含まれるものと同様な亜角礫である。

方位 ー

遺物 遺物は出土しなかった。

時期 出土遺物がなく明確な時期比定はできない。ただし、他の配石および列石、住居跡との関係から堀之内1式期から加曾利B1式期の間に構築されたものと考えたい。

なお形状の項でも記述したように4号列石の基礎となる石列⑤により破壊された可能性も考えられ、それ以前の構築の可能性が高い。また4号列石の最終段階においては4号列石の中に完全に埋没するような状況で検出されているため、4号列石の継続期間内にはその役割を終えていたことは明らかであろう。

20区22号配石

調査年度 平成15年度

位置 A-18グリッド

経過 20区4号列石および71号住居の敷石を除去中に横倒しになった棒状礫を偏平な礫4石が取り囲む様子が確認されたため配石として調査を実施した。

重複 71号住居の出入り口部と重複し、これに切られる。

形状 中央の棒状礫は長さ58cm、径24cmの川原石である。南北方向に横倒しの状態で検出された。周囲の礫は、4石とも偏平な礫であり、東西南北の4辺を区画している。礫の出土状態は、東辺礫は若干西側に傾くがほぼ直立、西辺は西に傾く斜位、南辺・北辺の礫はほぼ水平に検出された。配石には、径10～20cmほどのその他の礫も伴うが、これらは4号列石に伴う可能性が高く、本配石は基本的にこの5石で構成されていると考えられる。また、構築時は、中央の棒状礫と周囲の4石は垂直に立てられていたものと想定され、立石を中心とした配石と考えられる。それが、後に4号列石の礫の積み足しあるいは71号住居構築時に破壊されたものであろう。

下部遺構 配石下部に土坑状の掘り込みが確認された。長軸132cm、短軸128cmの不整な方形を呈する。配石の礫は、この掘り込み底面より若干浮いた位置から検出されているが、配石が倒れていることに起因するものと考えられ、この掘り込みは配石の掘り方に相当するものと想定される。

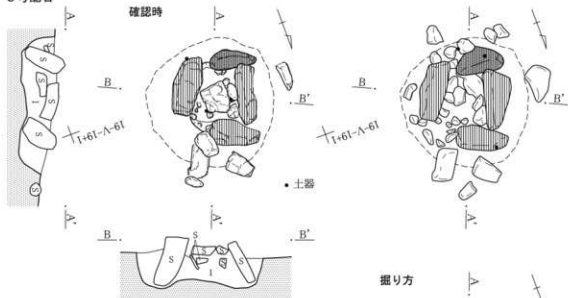
石材等 中央の棒状礫と南・北辺の礫は川原石、東・西辺の礫は地山礫を使用している。

方位 N-21°-E

遺物 土器は総数7点が出土し、堀之内2式期の遺物が確認されている。石器は出土しなかった。

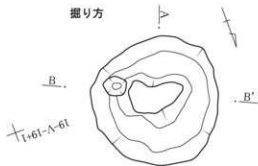
時期 出土遺物が少なく明確な時期比定はできない。ただし、堀之内2式期の土器が出土しているため、それ以降の構築と考えられる。また、71号住居の出入り口部の下位に重複しているため、71号住居の帰属時期である加曾利B1式期よりは以前の構築と言える。

3号配石

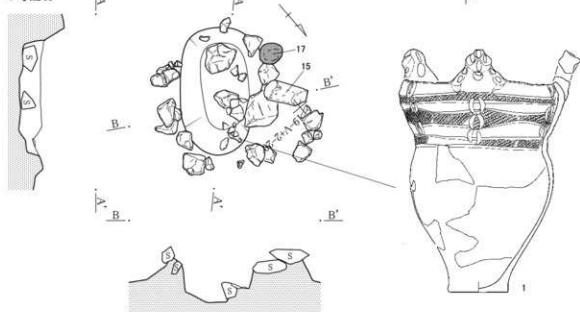


1、黒褐色土。やや粘性あり。2～5cmの
地山礫をやや多く含む。

掘り方



6号配石



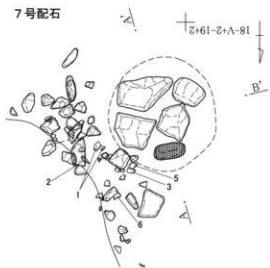
0 1:30 1m
L=575.20m

川原石 縦位設置 川原石・縦位設置

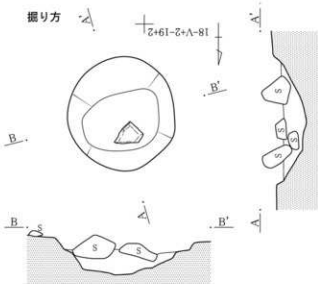
第273図 19区3・6号配石

第3章 発見された遺構と遺物

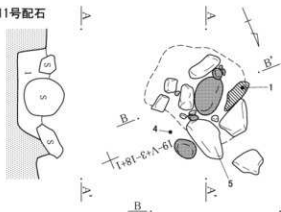
7号配石



掘り方



11号配石



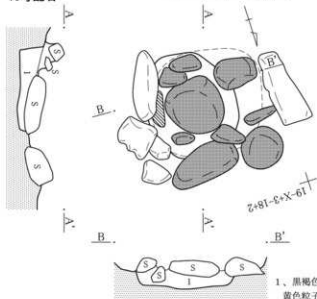
掘り方



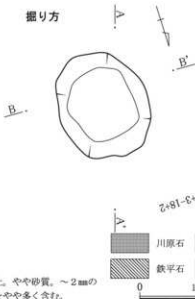
●土器

1. 黒褐色土。やや粘性あり。炭化物を少量含む。

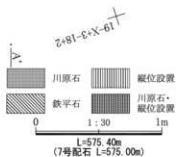
13号配石



掘り方

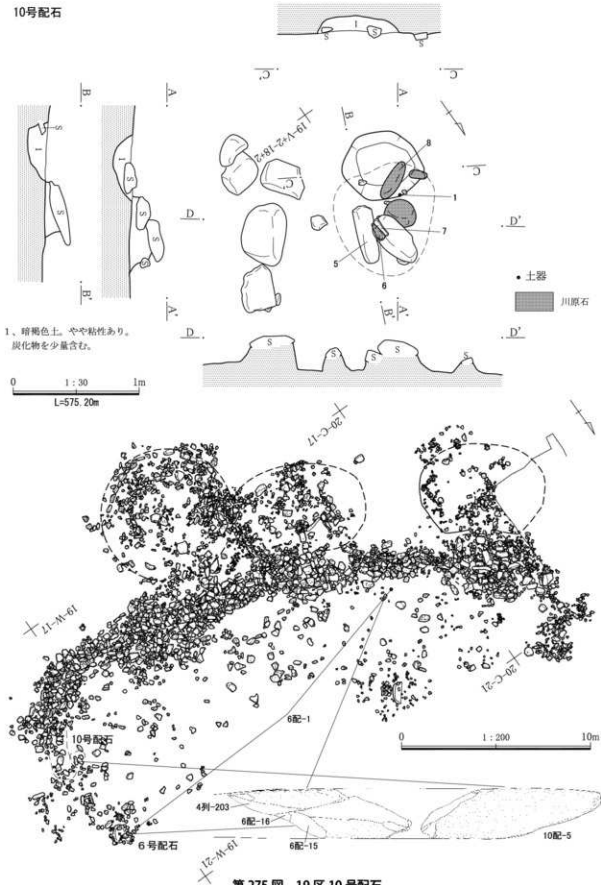


1. 黒褐色土。やや砂質。～2mmの黄色粒子をやや多く含む。



第274図 19区7・11・13号配石

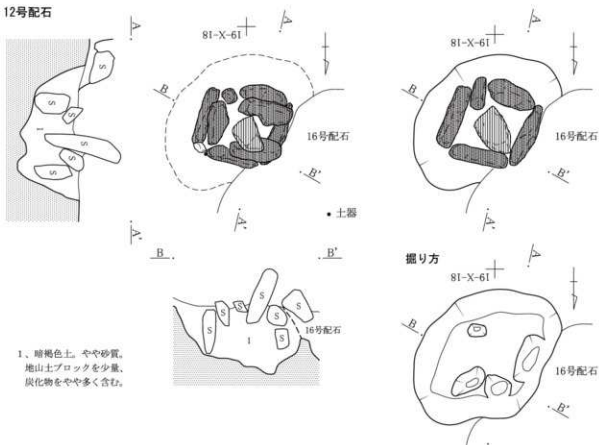
10号配石



第275図 19区10号配石

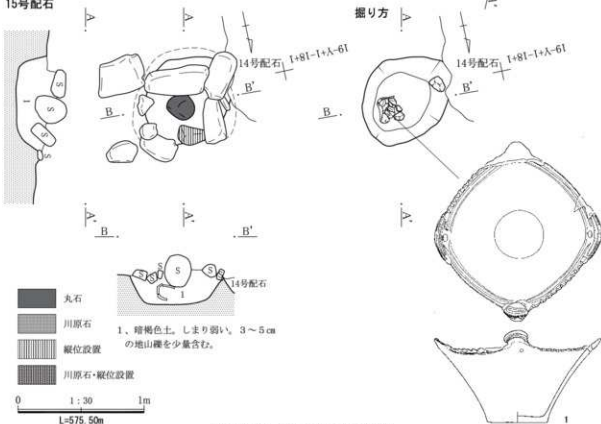
第3章 発見された遺構と遺物

12号配石



1、暗褐色土。やや砂質。
地山土ブロックを少量、
炭化物をやや多く含む。

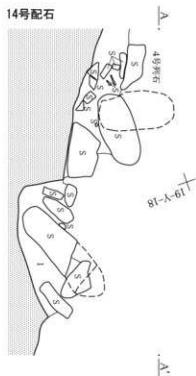
15号配石



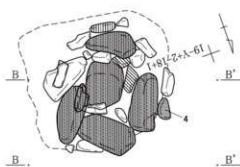
1、暗褐色土。しまり弱い、3~5cm
の地山礫を少量含む。

第276図 19区12・15号配石

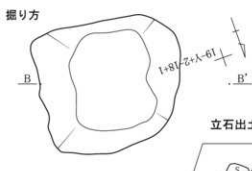
14号配石



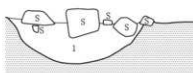
確認時







掘り方



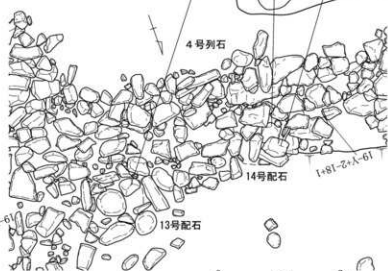
立石出土位置



1、黒褐色土。地山土ブロックを少量、
3~5cmの地山礫をやや多く含む。

-  川原石
-  鉄平石
-  縦位設置
-  川原石・縦位設置

0 1:30 1m
L=576.00m

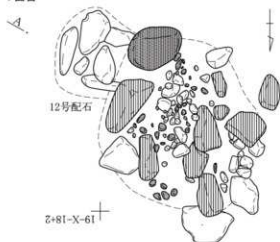


0 1:60 2m

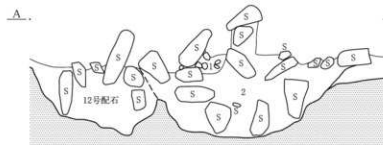
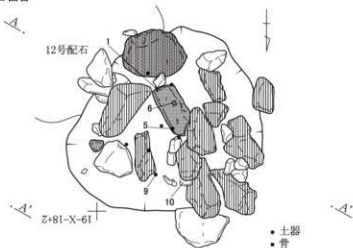
第277図 19区14号配石

第3章 発見された遺構と遺物

1 面目

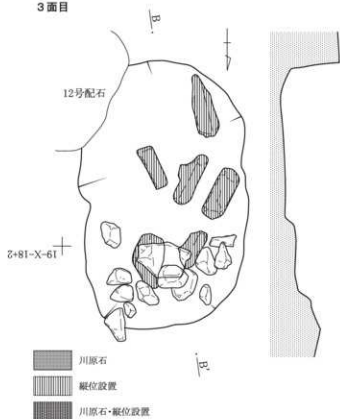


2 面目

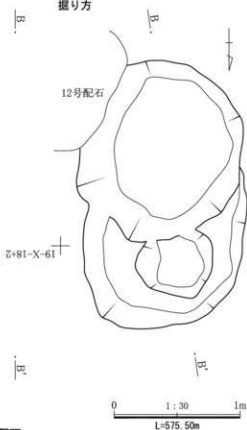


- 1、黒褐色土。5～10cmの円礫を多く含む。
- 2、黒褐色土。不均質に地山土ブロックを含む。
10～20cmの地山礫を多く含む。

3 面目

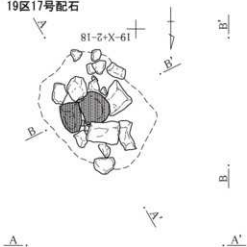


掘り方



第278図 19区16号配石

19区17号配石

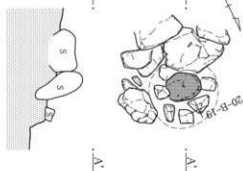


掘り方



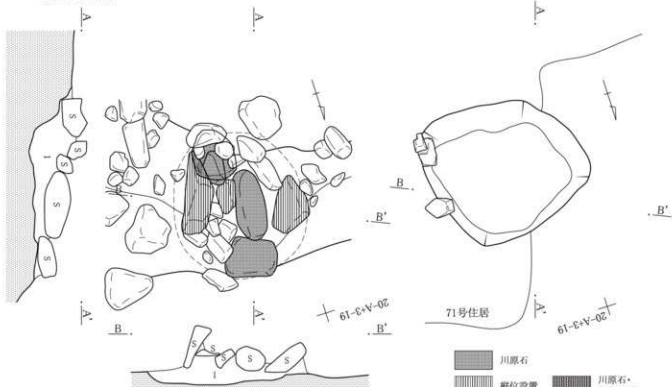
13号配石

20区20号配石



1、黒褐色土。やや砂質。地山土ブロックを少量含む。

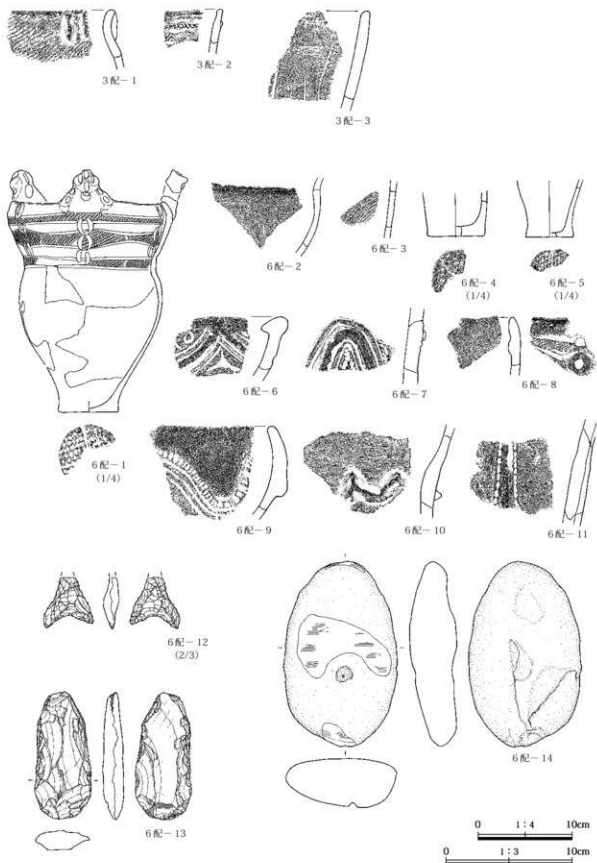
20区22号配石



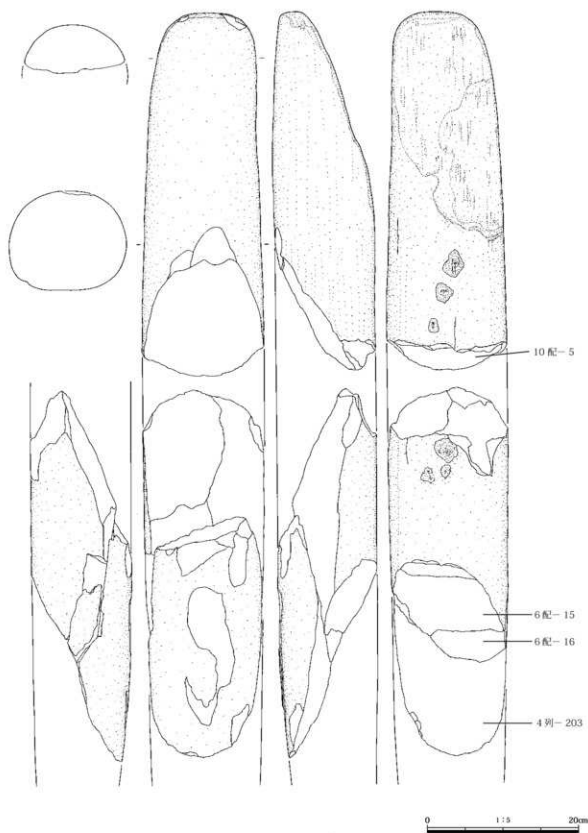
1、暗褐色土。しまり弱い。炭化物、5～10cmの亜角礫を少量含む。

第279図 19区17号配石、20区20・22号配石

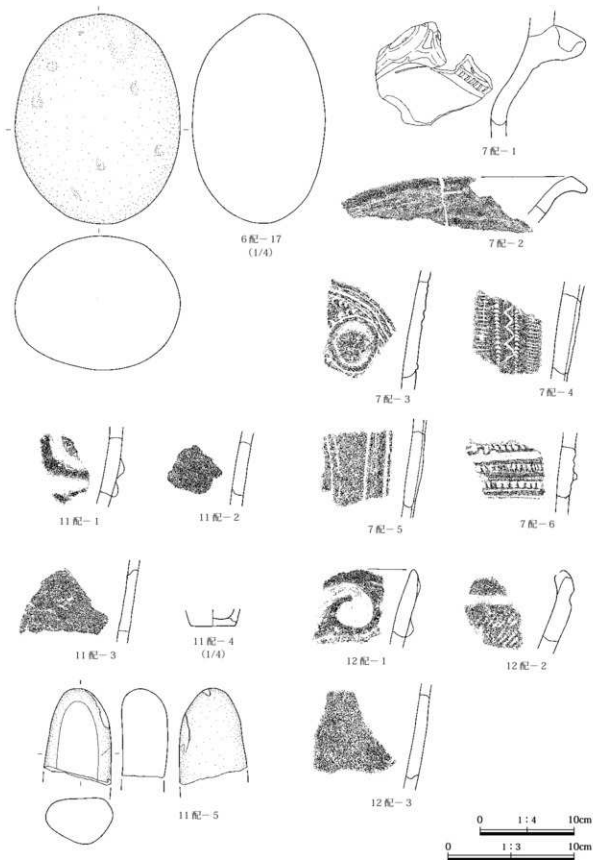
第3章 発見された遺構と遺物



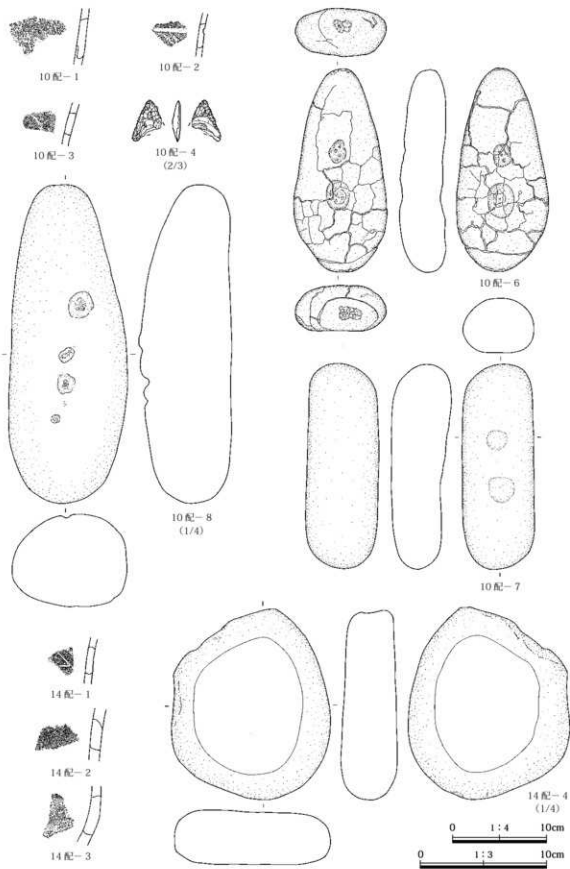
第280図 19区3号配石出土遺物、6号配石出土遺物(1)



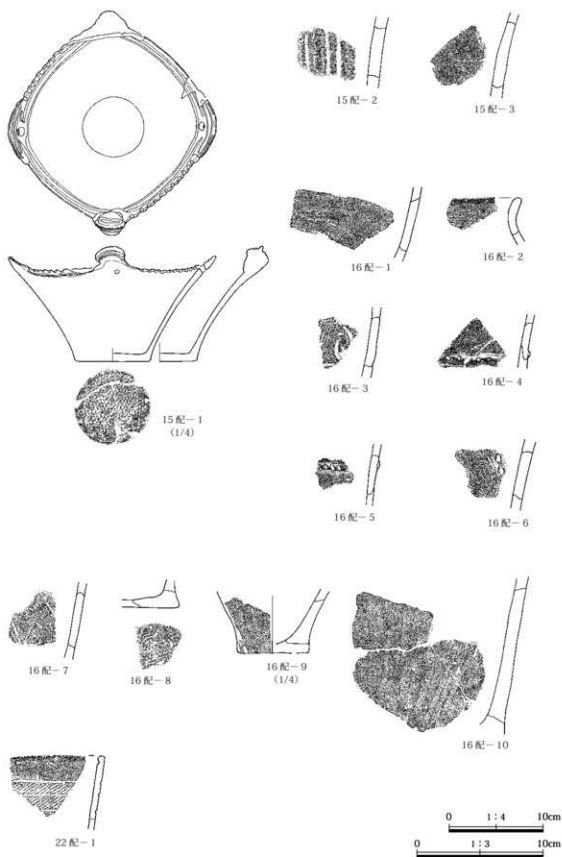
第281図 19区6号配石出土遺物(2)



第282図 19区6号配石出土遺物(3)、7・11・12号配石出土遺物



第283図 19区10・14号配石出土遺物



第284図 19区15・16号配石出土遺物、20区22号配石出土遺物

第4章 調査成果のまとめ

第1節 竪穴住居について

本報告は、横壁中村遺跡報告書の9冊目である。『横壁中村遺跡(1)』(以下、横壁中村遺跡は略)で近世の畑跡、『(2)』～『(5)』で縄文時代中期の住居跡152軒、『(6)』で各時代の土坑1,006基、『(7)』で縄文時代の土器埋設遺構や掘立柱建物、環状柱穴列、焼土遺構などを報告した。本年度は縄文時代後期住居編2冊(『(8)』・『(9)』)を整理・刊行し、本報告はその中の1冊である。

本報告では、本遺跡の中央を北流する山根沢以西で検出された縄文時代後期の住居跡36軒を扱った。時期別では、称名寺1式期が3軒、称名寺2式期が1軒、称名寺3式期が1軒、堀之内1式期が15軒、堀之内1～2式期が2軒、堀之内2式期が3軒、加曾利B1式期が2軒、加曾利B1～2式期が1軒、加曾利B2式期が1軒、高井東式期が2軒、その他後期の住居跡が5軒である(表3)。

本報告で対象とした地区は、縄文時代中期後半の加曾利E1～E3式期を中心とする大規模な環状集落が展開していた(『(2・3・5)』)。しかし、加曾利E3式新段階になると柄鏡形敷石住居跡が出現し、これ以降、環状集落としての住居跡分布に崩壊のきざしが認められる。環状集落域から外側に離れ構築される住居跡や、その内側に侵入する住居跡が出現する。この傾向は後期ではさらに明確になり、環状集落と無関係に遺跡内の所々にブロック状に分布する傾向を示す。南から①20区81・82号住居などを含む一群、②20区114号住居などを含む一群、③19区28号、20区70・71号住居などを含む一群、④20区47・52号住居を含む一群、そして⑤19区21・24号住居から30区38号住居にかけての一群である。重複は、③は著しいが、その他では少ない。なお、各群は後期住居跡だけでなく、本報告では図示できなかったが中期終末期の住居跡も含み把握することが妥当と考えられる。

各住居跡の特徴は多様であるが、概観すると次のようにまとめられる。

床面は、堀之内2式期までは敷石自体の残存状況は良くないが、その隙間に詰めたと考えられる小円礫の分布状況から、全面敷石と捉えられるものが多い。加曾利B1式期では出入口部から炉にかけての部分敷石の住居跡が認められる。

炉は、その多くが方形石囲い炉である。称名寺式期は、炉内埋設土器を伴うものは少なく1軒のみである。対して、堀之内式期では、炉が確認された住居跡のほとんどが炉内埋設土器を伴う。加曾利B1式期では、炉自体が小型化し埋設土器は伴わない。炉石は、堀之内式期までは垂直に設置するが、加曾利B1式期では斜位に設置するように変化している。

柱穴配置は、称名寺式期では対ピットを含む7本を六角形状に配置するものが多く、堀之内1式期に9本を八角形状に配置するものが登場する。加曾利B1式期では、多数の柱穴を楕円形状に配置するものと捉えられた。

その他の施設では、周礫が19区21・24号、20区47号住居、周堤礫が19区28・32号、20区95号住居、連結部石囲い施設が20区81・109号住居、「柱穴連結溝」と仮称した施設が20区95号住居で検出された。また、先の③の群では、住居跡に付随して20区4号列石や多数の配石が確認された。これについては、次節で扱う。

なお、各住居跡出土土器は、『(8)』のまとめにその内容をあわせて掲載する。ご参照いただきたい。

第2節 20区4号列石の構造と変遷

1、20区4号列石周辺の遺構

19区V-14～20区D-19グリッドにかけて、縄文時代後期の多くの遺構を検出した。その数は住居跡13軒と列石1基、配石13基、土器埋設遺構3基である。

20区4号列石は、4期以上にわたり構築された可能性があることを第3章第4節において先述した。それは、第227図に示した列石の基礎となる

第4章 調査成果のまとめ

石列①・②に対応する時期、石列③に対応する時期、石列④に対応する時期、そして最終段階の礫の積み足しが行われた時期である。ここでは、本列石と住居跡や配石との関係および変遷について、その重複関係や出土遺物から考察する。

各遺構の重複関係を第285図に示す。なお、19区50号住居は未報告、20区66・76号住居は『(2)』、19区6・7号、20区14号土器埋設遺構は『(7)』において報告したものである。また、図中の矢印は、重複関係のみを示すものであり、各遺構の系統関係を示すものではないことをご了解いただきたい。

2、時期ごとの変遷

第286～290図に各時期ごとの変遷を示した。以下、各時期ごとに概説する。

・中期加曾利E4式期(第286図)

まず、中期終末から確認する。加曾利E4式期には、3軒の柄鏡形敷石住居跡が認められる。なお20区76号住居は本列石と重複し切られている。

本遺跡では縄文時代中期後半の環状集落が検出されているが、20区66・76号住居が位置する地点は、その環状集落域の内部空間に進入してきており、当該期には環状集落としての形態はすでに崩壊しているものと捉えられる。

・称名寺式期

当該期の遺構は、数基の土坑が認められるのみであり、遺物も少ない。本列石周辺では加曾利E4式期と堀之内1式期以降には断絶があると言える。

・堀之内1式期(第287図)

住居跡6軒と土器埋設遺構1基がある。

19区54号住居南部は本列石と重複する。この住居跡は、柱穴と炉下半のみが確認され、床面は検出されていない。第3章で述べたように、弧状に展開する本列石内側は大規模に削平されたと考えられ、本住居跡もその際に壊された可能性がある。本住居跡は堀之内1式古段階に比定されるため、本列石が構築されたのは堀之内1式古段階以降と言える。20区95号住居は本列石と接続していた可能性

ある住居跡である。重複する20区71号住居のため、その接続関係が明確ではないが、対ピットの位置と列石が重複し、列石の弧の向きとも整合性がとれている。本列石構築の契機となった住居跡の可能性があると考えておきたい。なお、19区32・53・57号、20区98号住居については、その位置関係から判断し、本列石との関連性は薄いものと考えられる。

20区14号土器埋設遺構は、本列石の掘り方調査で検出された遺構である。本列石構築に伴う祭祀的な遺構の可能性も考えられよう。

配石は、この段階で構築された可能性もあるが、ほとんどの配石は詳細な時期比定ができていない。その可能性があるものを図示した。

・堀之内2式期(第288図)

住居跡3軒と土器埋設遺構2基、配石1基がある。

19区28号住居は明確な出入り口部や対ピットは確認されていない。しかし、他の柱穴や敷石の状況から想定される住居跡範囲と本列石の位置関係が対応しており、接続していた可能性が高い。その場合、本列石の石列①・②あるいは③の時期と対応するものと想定される。また、19区55号、20区77号住居も当該期の住居跡であるが、その位置関係から、本列石との関連性は薄いものと考えられる。

19区6・7号土器埋設遺構は、本列石の掘り方調査で検出された。特に、6号土器埋設遺構は、石列④の直下で検出され、石列④は当該期以降の構築とする根拠となろう。

19区15号配石は、その下部遺構から完形の鉢が出土し、墓坑の可能性もある遺構である。配石では唯一、時期を特定できる遺構となっている。20区22号配石は次期の20区71号住居に切られるため当該期と考えておきたい。その他の配石は詳細な時期比定ができないため、その可能性があるものを図示した。

・加曾利B1式期(第289図)

20区70・71号住居の2軒であるが、両住居跡とも堀之内2式期の遺物も多く出土し、堀之内2式期に比定される可能性もある。ただし、その場合で

も遺構の重複関係から第288図に示す遺構よりは後出である。両者は、出入り口部と列石が接続し、その境が明確にできないほどである。列石では基礎となる石列④と対応するものと考えられ、古い列石の弧の内側に礫を積み足し再構築したものと捉えられよう。配石は詳細な時期比定ができないため、その可能性があるものを図示した。

・加曾利B2式期（第290図）

19区56号住居と19区6・10・16号配石が当該期に比定される。いずれも本列石の弧内部に位置する。列石内部の削平された平坦面を利用したものであろう。当該期の遺物は第232図に見るように、2地点に集中し分布する。この2地点は19区6号配石のみたように遺物の接合関係が認められている。

なお、本列石の最終段階では、その弧内側の配石が完全に埋没するほど、礫が積み足されている。本列石周辺では当該期以降の遺物はほとんど出土していないため、この行為は前段階の住居廃絶後から当該期までの間に行われた可能性が高いと考えられる。その点では、本列石のもつ役割・意義において

大きな変化があったものと考えられよう。

3. まとめ

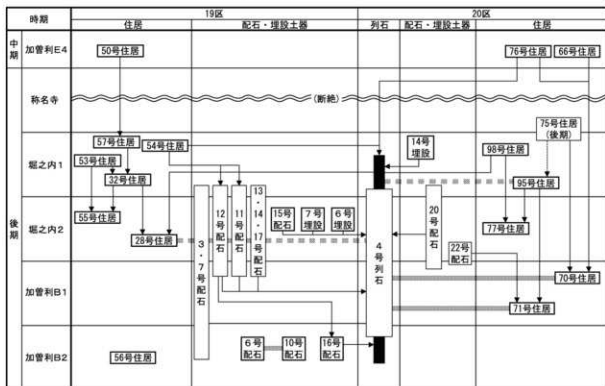
縄文時代後期の住居跡に列石や配石が付随する例は、群馬県内では暮井遺跡や浅田遺跡、前中後遺跡、行田梅木平遺跡などで、堀之内1式期や堀之内2式期の事例が知られている。ただし、これらは本遺跡のような住居跡同士の重複関係をもたず、特定の住居跡のみに付随する様子が捉えられている。

今回の報告では36軒を扱ったが、確実に列石を伴うものが2軒、その可能性があるものが2軒に過ぎない。同時期でも列石を伴う住居跡と伴わない住居跡があり、その性格が問題となるであろう。

また本列石周辺は、特に住居跡の重複や建て替えが著しい地区であり、「核家屋」（石井1994）として位置付けることも可能であろう。

参考文献

- 石井 寛 1994「縄文時代後期集落の構成に関する一試論 - 関東地方西部域を中心に -」『縄文時代』5 pp.77-110
石坂 茂 2002「縄文時代中期末葉の環状集落の崩壊と環状列石の出現」『群馬県埋蔵文化財調査事業団 研究紀要』20 pp.71-102



□ は時期の確定しているもの

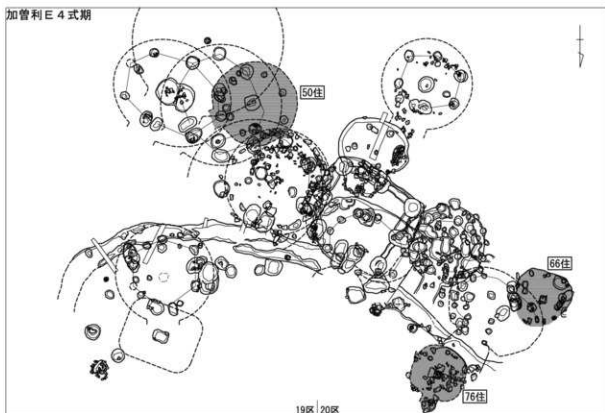
□ は可能性のある範囲

→ 重複関係(破線は可能性あり)

→ 併行関係(破線は可能性あり)

第285図 20区4号列石周辺遺構重複関係図

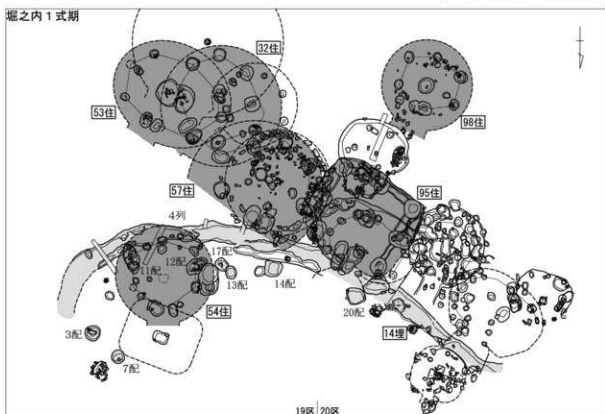
加曾利E4式期



第286図 20区4号列石周辺遺構変換図(1)

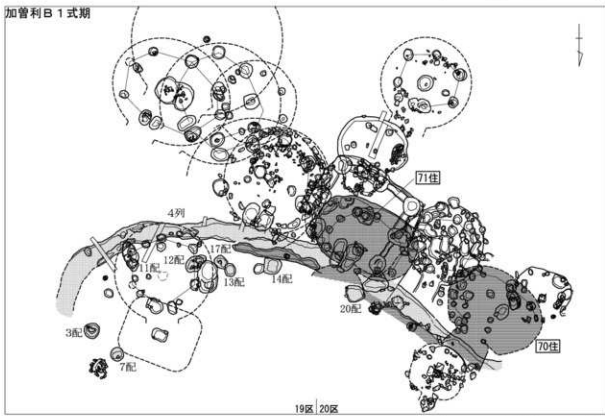
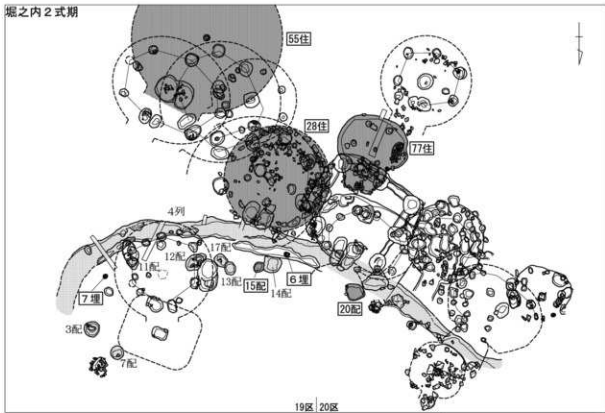
0 1:250 10m

堀之内1式期

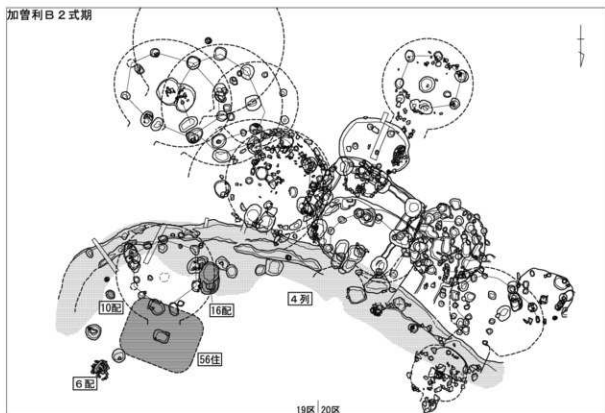


第287図 20区4号列石周辺遺構変換図(2)

0 1:250 10m

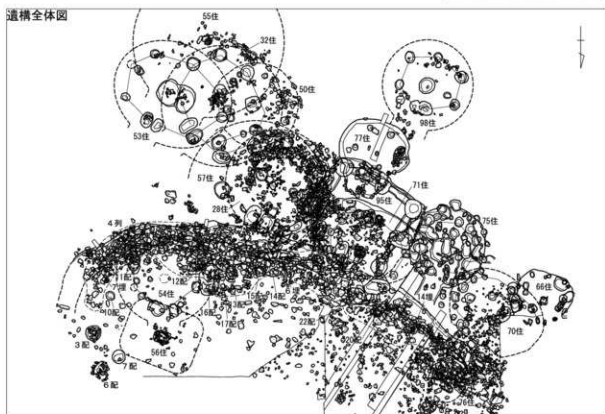


加曾利B 2 式期



第 290 図 20 区 4 号列石周辺遺構变换図 (5)

遺構全体図



第 291 図 20 区 4 号列石周辺遺構变换図 (6)

横壁中村遺跡30区33号住居出土焼人骨

橋崎修一郎

はじめに

横壁中村遺跡は、群馬県吾妻郡長野原町に所在する。今回報告する住居及び土坑は、ハッダダム建設に伴う発掘調査で、(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団により、平成8(1996)年より同18(2006)年まで実施された。

本遺跡では、住居及び土坑が多数検出されている。縄文時代の30区33号住居[旧20区33号住居]から、ニホンジカやイノシシの多数の「焼獣骨」に混じって、「焼人骨」が出土したので以下に報告する。残念ながら、出土位置は特定できない。なお、通常は、「火葬人骨」と呼称する場合が多いが、明確な意図を持って火葬にしたのか否かが判断できないために、ここでは「焼人骨」と記載することにする。

1. 焼人骨の色と火葬温度

焼人骨の色は、白色を呈しており、明らかに約900℃以上で焼かれたと推定される。

2. 焼人骨の火葬方法

一部の頭蓋骨片しか出土していないため、残念ながら、死体をそのまま焼いたか、あるいは白骨化したものを焼いたかの火葬方法は不明である。

3. 焼人骨の出土部位

側頭骨の岩様部及び後頭骨片が出土している。

4. 焼人骨の個体数

出土した破片には重複部位が認められないため、焼人骨の個体数は1個体であると推定される。

5. 焼人骨の性別

出土した後頭骨片は、比較的骨壁が薄く女性である可能性もあるが、残存部が少ないため不明である。

6. 焼人骨の死亡年齢

出土した後頭骨は、ラムダ(人字)縫合の三角部と下部にあたる。これらの縫合が癒合する時期は、三角部が約50歳～60歳・下部が約40歳～50歳である。出土した後頭骨片は成人で癒合していない状態であるので、約20歳～30歳代であると推定される。

7. まとめ

横壁中村遺跡の30区33号住居から、縄文時代の焼人骨が出土した。人骨は約20歳～30歳代の女性1個体であると推定された。このような焼人骨は、横壁中村遺跡では初めての出土であり、当事業団が調査した中では、深澤遺跡(みなかみ町)の20号・21号配石遺構出土縄文時代後期の焼人骨に次いで3例目である(宮崎,1987)。

深澤遺跡においては、配石遺構と呼ぶ、石囲いの墓坑からの出土であるが、今回は住居からの出土であるため性格が一部異なる。報告書担当者の石田真氏に確認したところ、住居と検出できなかった配石遺構との重複の可能性もあるという。

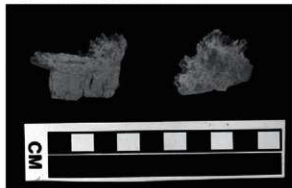
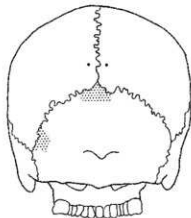


写真1. 横壁中村遺跡30区33号住居出土焼人骨[後頭骨]

図1. 横壁中村遺跡30区33号住居出土焼人骨出土部位図
引用文献

宮崎重雄 1987 「利根郡月夜野町深澤遺跡出土の骨類について」、『深澤遺跡・前田原遺跡』,群馬文.p.263-264.

横壁中村遺跡(9)住居出土獣骨

横崎修一郎

はじめに

横壁中村遺跡は、群馬県吾妻郡長野原町に所在する。今回報告する住居及び土坑は、ハツ場ダム建設に伴う発掘調査で、(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団により、平成8(1996)年より同18(2006)年まで実施された。

本遺跡では、住居及び土坑が多数検出されている。今回は、20区95号住居・30区33号住居及び同36号住居出土獣骨を報告する。これらの獣骨は、縄文時代後期に属する。すべての獣骨は、白色を呈しており、約900℃以上の被熱を受けた焼獣骨である。

なお、本報告者により、横壁中村遺跡出土獣骨がすでに報告されているので、参照されたい(横崎, 2008)。

1. 20区95号住居出土獣骨[旧20区480号土坑]

獣骨は、住居のがらから検出されている。5mm～1cmの細片が多く、獣骨の種及び部位同定は不可能であった。ただ、本遺跡の事例から、イノシシ・ニホンジカであると推定される。恐らく、食物として調理された残滓であろう。

2. 30区33号住居出土獣骨[旧20区33号住居]

本住居出土獣骨のNo.付きの中で、同定可能であったのは、「骨No.10」のみであった。それ以外は、残念ながら一括で取り上げられている。以下のように、ニホンジカ及びニホンイノシシが同定された。

(1)ニホンジカ[Cervus nippon]

ニホンジカの角及び横骨遠位端が、同定された。ニホンジカの場合、角はオスにしか無い。

(2)ニホンイノシシ[Sus scrofa]

ニホンイノシシの第3・4基節骨及び第2中足骨が、同定された。

3. 30区36号住居出土獣骨

本住居出土獣骨で同定可能であったのは、「骨No.2」及び「骨No.24」のみであった。

(1)ニホンジカ[Cervus nippon] (骨No.24)

ニホンジカの角が、同定された。ニホンジカの場合、角はオスにしか無い。

合、角はオスにしか無い。

(2)ニホンイノシシ[Sus scrofa] (骨No.2)

ニホンイノシシの手の骨と肋骨が同定された。



写真1. 30区33号・36号住居出土ニホンジカ



図1. 30区33号・36号住居出土ニホンジカ出土部位図



写真2. 30区33号・36号住居出土ニホンイノシシ

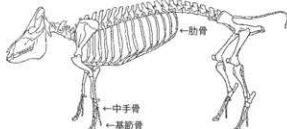


図2. 30区33号・36号住居出土ニホンイノシシ出土部位図

引用文献

横崎修一郎 2008 「横壁中村遺跡土坑出土獣骨」、『横壁中村遺跡(6)』。群馬文p.293-296。

表7 遺構名称振替表

19K 9号住居

報告遺構名	調査時遺構名	備考
柱1	29K 20号土坑	
柱3	29K 17号土坑	
柱4	19K 16号土坑	
柱4	29K 16号土坑	
柱5	19K 15号土坑	
柱6	19K 12号土坑	取報告(6)
柱8	19K 14号土坑	

報告遺構名	調査時遺構名	備考
柱9	19K 18号土坑	58住柱6と共有
柱10	29K 20号土坑	
柱11	29K 28号土坑	
柱14	19K 13号土坑	58住柱7・8と共有
柱15	29K 26号土坑	
伊瀬り方	29K 27号土坑	

19K 21号住居

報告遺構名	調査時遺構名	備考
柱1	19K 21号住居 pt4	
柱2	19K 21号住居 pt14	
柱3	19K 21号住居 pt21(b)	
柱4	19K 21号住居 pt17	
柱5	19K 21号住居 pt21(a)東	
柱6	19K 21号住居 pt9	
柱7	19K 21号住居 pt26	
柱8	19K 21号住居 pt23	
柱9	19K 21号住居 pt12	
柱10	19K 21号住居 pt11	

報告遺構名	調査時遺構名	備考
柱11	19K 21号住居 pt10	
柱12	19K 21号住居 pt22	
柱13	19K 21号住居 pt21(a)西	
柱14	19K 21号住居 pt3	
柱15	19K 21号住居 pt7	
柱16	19K 21号住居 pt24	
柱17	19K 21号住居 pt25	
柱18	19K 21号住居 pt27	
柱19	19K 21号住居 pt13	
柱20	19K 21号住居 pt2	

19K 24号住居

報告遺構名	調査時遺構名	備考
柱1	19K 21号住居 pt1	
柱2	19K 21号住居 pt19	
柱3	19K 21号住居 pt5	
柱4	19K 24号住居 pt3	
柱5	19K 24号住居 pt1	
柱6	19K 21号住居 pt15	

報告遺構名	調査時遺構名	備考
柱7	19K 21号住居 pt20	
柱8	19K 21号住居 pt18	
柱9	19K 21号住居 pt8	
柱10	19K 21号住居 pt6	
柱11	19K 24号住居 pt2	
柱12	19K 21号住居 pt16	

19K 32号住居

報告遺構名	調査時遺構名	備考
伊瀬り方	19K 288号土坑	

報告遺構名	調査時遺構名	備考
伊瀬り方	19K 325号土坑	

19K 54号住居

報告遺構名	調査時遺構名	備考
柱1	19K 306号土坑	
柱2	19K 307号土坑	
柱3	19K 303号土坑	
柱4	19K 297号土坑	
柱5	19K 308号土坑	
柱6	19K 309号土坑	
柱7	19K 310号土坑	
柱8	19K 326号土坑	
柱9	19K 312号土坑	
柱10	19K 319号土坑	
柱11	19K 311号土坑	
柱12	19K 327号土坑	

報告遺構名	調査時遺構名	備考
柱13	19K 313号土坑	
柱14	19K 314号土坑	
柱15	19K 315号土坑	
柱16	19K 316号土坑	
柱17	19K 317号土坑	
柱18	19K 304号土坑	
柱19	19K 318号土坑	
柱20	19K 305号土坑	
柱21	19K 278号土坑	
柱22	19K 298号土坑	
伊瀬埋込土牆	19K 8号埋込	
伊瀬り方	19K 12号墳土	

19K 55号住居

報告遺構名	調査時遺構名	備考
柱1	19K 142号土坑	

報告遺構名	調査時遺構名	備考
柱2	19K 142号土坑	

19K 56号住居

報告遺構名	調査時遺構名	備考
伊瀬り方	19K 5号配石	

19K 57号住居

報告遺構名	調査時遺構名	備考
柱1	19K 28号住居 柱六12	
柱2	19K 28号住居 柱六11	
柱3	19K 28号住居 柱六10	
柱4	19K 28号住居 柱六9	
柱5	19K 28号住居 番号なし	
柱6	19K 28号住居 柱六15	
柱7	19K 28号住居 柱六14	
柱8	19K 28号住居 柱六13	
柱9	19K 330号土坑	

報告遺構名	調査時遺構名	備考
柱10	19K 329号土坑	
柱11	19K 28号住居 住居内土坑1	
柱12	19K 343号土坑	
柱13	19K 320号土坑	
柱14	19K 28号住居 柱六16	
柱15	19K 339号土坑	
伊瀬埋込	19K 282号土坑	
伊瀬り方	19K 328号土坑	

19K 58号住居

報告遺構名	調査時遺構名	備考
柱1	19K 1号埋込柱六刺 柱1	
柱2	19K 1号埋込柱六刺 柱2	
柱3	19K 1号埋込柱六刺 柱3	
柱4	19K 1号埋込柱六刺 柱4	
柱5	19K X 25c号pt	

報告遺構名	調査時遺構名	備考
柱6	19K 18号土坑	3住柱9と同じ
柱7	19K 13号土坑	3住柱14と同じ
柱8	19K 13号土坑	3住柱14と同じ
柱9	19K W-25a号pt	3住柱14と同じ

遺構名称振替表

20K11号住居			
報告遺構名		調査時遺構名	備考
埋蔵	20K	1号埋蔵土函	

20K19号住居			
報告遺構名		調査時遺構名	備考
如	20K	2号焼土	

20K40号住居			
報告遺構名		調査時遺構名	備考
柱2	20K	326号土坑	既報告(6)
柱3	20K	329号土坑	既報告(6)
柱4	20K	330号土坑	既報告(6)
柱10	20K	328号土坑	既報告(6)
柱11	20K	337号土坑	既報告(6)
柱12	20K	336号土坑	既報告(6)
柱17	20K	323号土坑	既報告(6)

報告遺構名		調査時遺構名	備考
柱19	20K	199号土坑	
柱20	20K	200号土坑	
柱21	20K	204号土坑	
柱22	20K	203号土坑	
柱23	20K	205号土坑	
柱24	20K	206号土坑	

20K47号住居			
報告遺構名		調査時遺構名	備考
柱1	20K	47号住居 大pit1	
柱2	20K	47号住居 大pit6	
柱3	20K	47号住居 大pit3	
柱4	20K	47号住居 大pit4	
柱5	20K	47号住居 大pit5	
柱6	20K	47号住居 大pit7	
柱7	20K	47号住居 大pit8	
柱8	20K	47号住居 小pit4	
柱9	20K	47号住居 小pit1	
柱10	20K	47号住居 小pit2	
柱11	20K	47号住居 番号なし	
柱12	20K	47号住居 大pit2	
柱13	20K	47号住居 小pit3	
柱14	20K	47号住居 小pit5	
柱15	20K	47号住居 小pit6	
柱16	20K	47号住居 番号なし	
柱17	20K	47号住居 小pit7	
柱18	20K	47号住居 小pit8	
柱19	20K	47号住居 小pit9	
柱20	20K	47号住居 小pit10	
柱21	20K	47号住居 小pit11	
柱22	20K	47号住居 小pit12	
柱23	20K	47号住居 小pit19	
柱24	20K	47号住居 小pit16	

報告遺構名		調査時遺構名	備考
柱25	20K	47号住居 小pit13	
柱26	20K	47号住居 小pit14	
柱27	20K	47号住居 小pit15	
柱28	20K	47号住居 小pit22	
柱29	20K	47号住居 小pit23	
柱30	20K	47号住居 小pit17	
柱31	20K	47号住居 小pit20	
柱32	20K	47号住居 小pit24	
柱33	20K	47号住居 小pit21	
柱34	20K	47号住居 小pit18	
柱35	20K	47号住居 大pit10	
柱36	20K	47号住居 大pit11	
柱37	20K	47号住居 大pit9	
柱38	20K	47号住居 pit10	
柱39	20K	47号住居 pit9	
柱40	20K	47号住居 pit8	
柱41	20K	47号住居 pit7	
柱42	20K	47号住居 pit6	
柱43	20K	47号住居 pit5	
柱44	20K	47号住居 pit4	
柱45	20K	47号住居 pit3	
柱46	20K	47号住居 pit2	
柱47	20K	47号住居 pit1	

20K52号住居			
報告遺構名		調査時遺構名	備考
柱1	20K	60号住居 柱6	60住上共有
柱2	20K	52号住居 pit3	
柱3	20K	52号住居 pit6	
柱4	20K	52号住居 pit5	
柱5	20K	65号住居 柱	65住上共有
柱6	20K	52号住居 pit2	

報告遺構名		調査時遺構名	備考
柱7	20K	52号住居 pit4	
柱8	20K	52号住居 pit8	
柱9	20K	52号住居 pit7	
柱10	20K	52号住居 pit9	
柱11	20K	52号住居 pit10	

20K70号住居			
報告遺構名		調査時遺構名	備考
柱27	20K	66号住居 柱	66住上共有

報告遺構名		調査時遺構名	備考
柱28	20K	66号住居 柱	66住上共有

20K71号住居			
報告遺構名		調査時遺構名	備考
柱14	20K	556号土坑	

20K81号住居			
報告遺構名		調査時遺構名	備考
柱16	20K	81号住居 住居内土坑	

20K82号住居			
報告遺構名		調査時遺構名	備考
御膳方	20K	81号住居 彩7C10	

20K98号住居			
報告遺構名		調査時遺構名	備考
如(上平)	20K	28号焼土	
柱3	20K	563号土坑	既報告(6)
柱7	20K	544号土坑	既報告(6)

報告遺構名		調査時遺構名	備考
柱8	20K	530号土坑	既報告(6)
柱9	20K	529号土坑	既報告(6)

30K33号住居			
報告遺構名		調査時遺構名	備考
柱5	20K	181号土坑	既報告(6)

報告遺構名		調査時遺構名	備考
柱6	30K	184号土坑	既報告(6) 18号土坑

30K34号住居			
報告遺構名		調査時遺構名	備考
出入方口部	29K	53号配石	

遺物観察表(土器・土製品)

磯壁中村遺跡 19区 2号住居

図版番号	遺物番号	種類別	残存	胎土・構成・色調	胎形・文様の特徴 計測値(単位:cm.()は推定値)	時期・備考
7	1	深鉢	破片	砂粒多, 且, 明褐色。	内面紅い肌滑。外面黒色のケズリ痕を残す。	後期

磯壁中村遺跡 19区 3号住居

図版番号	遺物番号	種類別	残存	胎土・構成・色調	胎形・文様の特徴 計測値(単位:cm.()は推定値)	時期・備考
10	1	深鉢	破片	砂粒少, 且, 明褐色。	内面紅い肌滑。単脚1区横文。	磯之西1
10	2	深鉢	破片	砂粒多, 且, にこい黄褐色。	内面赤い。単脚1区横文。	磯之西1
10	3	深鉢	破片	細砂粒多, 且, 灰褐色。	内面赤滑。単脚1区横文。	磯之西1
10	4	深鉢	口縁部片	砂粒少, 且, 褐色。	内面紅い肌滑。単脚1区横文。	磯之西1
10	5	深鉢	破片	砂粒少, 且, にこい黄褐色。	内面赤肌滑。	磯之西1
10	6	深鉢	破片	細砂粒多, 且, 灰褐色。	内面紅い肌滑。外面平子。	磯之西1
10	7	深鉢	破片	砂粒やや多, 且, 黒色。	内面赤肌滑。	磯之西1
10	8	深鉢	破片	砂粒多, 且, 黒色。	内面赤滑。	磯之西1
10	9	深鉢	口縁部片	砂粒多, 且, にこい赤褐色。	内面赤肌滑。	磯之西1
10	10	深鉢	口縁部片	砂粒多, 且, にこい黄褐色。	内面赤肌滑。	磯之西1
10	11	深鉢	口縁部片	砂粒多, 且, にこい黄褐色。	内面赤肌滑。	磯之西1
10	12	深鉢	口縁部片	砂粒多, 且, にこい黄褐色。	内面赤肌滑。	磯之西2
10	13	深鉢	口縁部片	砂粒やや多, 且, にこい黄褐色。	外赤肌滑。	磯之西2
10	14	深鉢	口縁部片	砂粒多, 且, 褐色。	内面紅い肌滑。外面紅い平子。	磯之西1
10	15	深鉢	破片	細砂粒多, 且, にこい黄褐色。	内面赤肌滑。	磯之西1
10	16	深鉢	口縁部片	砂粒少, 且, 黄褐色。	内面赤平子。16上同一個体。	磯之西1(継後尾)
10	17	深鉢	破片	砂粒少, 且, にこい黄褐色。	内面赤平子。16上同一個体。	磯之西1(継後尾)
10	18	深鉢	破片	細砂粒多, 且, 黒褐色。	内面赤肌滑。	磯之西1
10	19	深鉢	破片	砂粒多, 且, にこい黄褐色。	内面赤滑。単脚1区横文。	磯之西1
10	20	深鉢	破片	砂粒多, 且, にこい黄褐色。	内面赤滑。	磯之西1
10	21	深鉢	破片	砂粒少, 且, 明赤褐色。	内面赤滑。	磯之西1
10	22	深鉢	破片	細砂粒多, 且, 黒色。	内面赤肌滑。内面灰化付着。	加賀村B1
10	23	深鉢	破片	砂粒多, 且, にこい黄褐色。	内面赤滑。	磯之西1
10	24	注口	注口(注口部)	砂粒少, 且, 褐色。	内面赤肌滑。25上同一個体。	磯之西1
10	25	注口	注口(把手部)	砂粒少, 且, にこい黄褐色。	外赤肌滑。24上同一個体。	磯之西1
11	26	深鉢	口縁部片	細砂粒やや多, 且, 黒褐色。	内面赤肌滑。光沢。口径(13.0)。	磯之西2
11	27	深鉢	口縁部片	細砂粒やや多, 且, 黒褐色。	内面赤肌滑。光沢。単脚1区横文。口径(13.0)。	磯之西2
11	28	深鉢	口縁部片	細砂粒やや多, 且, 黒褐色。	内面赤肌滑。光沢。単脚1区横文。	磯之西2
11	29	深鉢	口縁部片	砂粒少, 且, にこい赤褐色。	内面赤肌滑。光沢。単脚1区横文。	磯之西2
11	30	深鉢	破片	砂粒少, 且, 灰褐色。	内面赤肌滑。	磯之西2
11	31	深鉢	口縁部片	砂粒多, 且, 黒褐色。	内面赤肌滑。黒色肌理。	磯之西2
11	32	深鉢	口縁部片	砂粒少, 且, 灰褐色。	内面赤肌滑。光沢。単脚1区横文。	磯之西2
11	33	深鉢	口縁部片	砂粒少, 且, 黒色。	内面赤肌滑。光沢。単脚1区横文。	磯之西2
11	34	深鉢	口縁部片	砂粒少, 且, にこい黄褐色。	内面赤肌滑。光沢。単脚1区横文。	磯之西2
11	35	深鉢	破片	砂粒多, 且, にこい黄褐色。	内面赤肌滑。単脚1区横文。	磯之西2
11	36	深鉢	口縁部片	砂粒少, 且, 黒褐色。	内面赤肌滑。単脚1区横文。	磯之西2
11	37	深鉢	口縁部片	砂粒多, 且, 灰褐色。	内面赤肌滑。光沢。	磯之西2
11	38	深鉢	口縁部片	砂粒多, 且, 黒褐色。	内面赤肌滑。黒色肌理。単脚1区横文。	磯之西2
11	39	深鉢	口縁部片	砂粒多, 且, 黒褐色。	内面赤肌滑。黒色肌理。	磯之西2
11	40	深鉢	口縁部片	砂粒多, 且, 黒褐色。	内面赤肌滑。黒色肌理。	磯之西2
11	41	深鉢	口縁部片	砂粒多, 且, 明赤褐色。	内面赤肌滑。光沢。	磯之西2
11	42	深鉢	口縁部片	砂粒多, 且, 明赤褐色。	内面赤肌滑。光沢。単脚1区横文。	磯之西2
11	43	深鉢	口縁部片	細砂粒多, 且, 黒色。	内面赤肌滑。単脚1区横文。	加賀村B1
11	44	深鉢	口縁部片	砂粒多, 且, 黒褐色。	内面赤肌滑。黒色肌理。単脚1区横文。	磯之西2
11	45	深鉢	口縁部片	砂粒多, 且, にこい黄褐色。	内面赤肌滑。単脚1区横文。	磯之西2
11	46	深鉢	破片	砂粒少, 且, 灰褐色。	内面赤平子。	磯之西2
11	47	深鉢	破片	砂粒多, 且, 黒褐色。	内面赤肌滑。単脚1区横文。	磯之西2
11	48	深鉢	破片	砂粒多, 且, 黒褐色。	内面赤肌滑。	磯之西2
11	49	深鉢	破片	細砂粒やや多, 且, 黒褐色。	内面赤肌滑。単脚1区横文。	磯之西2
11	50	深鉢	破片	砂粒多, 且, にこい黄褐色。	内面赤肌滑。単脚1区横文。	磯之西2
11	51	深鉢	破片	砂粒多, 且, 明赤褐色。	外赤肌滑。平子。	磯之西2
11	52	深鉢	口縁部片	砂粒少, 且, 黒褐色。	内面赤肌滑。光沢。単脚1区横文。	磯之西2
11	53	深鉢	破片	砂粒多, 且, 暗褐色。	内面赤肌滑。単脚1区横文。	磯之西2
11	54	深鉢	破片	砂粒多, 且, にこい黄褐色。	内面赤肌滑。単脚1区横文。	磯之西2
11	55	深鉢	破片	砂粒少, 且, 暗褐色。	内面赤肌滑。光沢。単脚1区横文。	磯之西2
11	56	深鉢	口縁部片	砂粒少, 且, にこい黄褐色。	内面赤肌滑。単脚1区横文。	磯之西2
12	57	注口	把手部片	細砂粒多, 且, にこい赤褐色。	基部外方により調整不明。	磯之西2
12	58	注口	破片	細砂粒多, 普通, 黄褐色。	外面平子。外面肌滑。	磯之西2
12	59	注口	注口部片	砂粒多, 且, 普通, 黄褐色。	基部外方により調整不明。	磯之西2
12	60	注口	注口部片	細砂粒少, 且, にこい黄褐色。	外赤肌滑。	磯之西2
12	61	深鉢	破片	砂粒少, 普通, 黒褐色。	内面赤肌滑。黒色肌理。光沢。単脚1区横文。	磯之西2
12	62	注口	破片	砂粒少, 普通, 黄褐色。	内面赤肌滑。黒色肌理。光沢。	磯之西2
12	63	深鉢	破片	砂粒多, 且, 黄褐色。	内面赤肌滑。	磯之西2
12	64	浅鉢	破片	砂粒多, 且, にこい黄褐色。	内面赤肌滑。	磯之西2
12	65	深鉢	破片	砂粒少, 且, 黒褐色。	内面赤肌滑。光沢。	加賀村B1
12	66	深鉢	破片	砂粒少, 且, 黒褐色。	内面赤肌滑。	加賀村B1
12	67	深鉢	破片	砂粒少, 且, 黒褐色。	内面赤肌滑。	加賀村B1
12	68	深鉢	破片	砂粒多, 且, 黒褐色。	内面赤肌滑。	磯之西2
12	69	深鉢	口縁・胴部	細砂粒少, 且, 黒色。	内赤。外面黒灰肌滑。黒色肌理。光沢。外面文様部跡全無。平子。口径13.1。	加賀村B1
12	70	注口	破片	砂粒少, 且, 黒褐色。	内面赤肌滑。光沢。	加賀村B1
12	71	注口	破片	砂粒少, 且, にこい黄褐色。	内面赤肌滑。光沢。	加賀村B1
12	72	注口	注口部片	砂粒少, 普通, 黄褐色。且, にこい黄褐色。	外面平子。外面赤滑。平子。内面黒色肌理。基部平子痕を残す。	加賀村B1
12	73	深鉢	底部片	細砂粒少, 且, 黒褐色。	内面赤肌滑。光沢。底面に網代紋。	磯之西2
12	74	鉢	破片	砂粒少, 且, にこい黄褐色。	内面赤肌滑。単脚1区横文。	加賀村B2
12	75	鉢	破片	砂粒少, 且, にこい黄褐色。	内面赤肌滑。単脚1区横文。	加賀村B2
12	76	深鉢	口縁部片	砂粒多, 且, にこい黄褐色。	内面赤肌滑。	加賀村B2
12	77	深鉢	口縁部片	砂粒少, 且, 暗褐色。	内面赤肌滑。	加賀村B2
12	78	深鉢	口縁部片	砂粒多, 且, にこい黄褐色。	内面赤滑。	加賀村B1
12	79	深鉢	口縁部片	砂粒多, 且, 褐色。	内面赤滑。	加賀村B1
12	80	深鉢	破片	砂粒多, 且, にこい黄褐色。	内面赤滑。	加賀村B2
12	81	深鉢	破片	砂粒多, 且, 灰褐色。	内面赤肌滑。	加賀村B2
12	82	深鉢	破片	砂粒多, 且, にこい黄褐色。	内面赤滑。	加賀村B2

遺物観察表

調査 年度	遺物 番号	種別 種類	残存	胎土・焼成・色調	胎絵・文様の特徴		時期・備考
					計測値 (単位:cm、) (任意測定)		
12	83	漆鉢	底面片	胎跡多、良、褐色。	内外面に于て、外面研削、底面磨代削、底径11.6、残存高4.5。		堀之内4
12	84	注口	底面片	胎跡跡少、普通、黒褐色。	内面有段、内外面研削、黒色処理、光沢、底面磨代削、底面 磨直磨凸、底径(9.0)、残存高1.6。		堀之内2
12	85	漆鉢	底面片	胎跡跡多、良、黒褐色。	外表面研削、黒色処理、内面于て、底面に磨代削。		堀内
12	86	漆鉢	底面片	胎跡跡少、良、黒褐色。	内外面研削、光沢、底面磨代削、底面磨削斜長に突出、底径 (10.8)、残存高3.8。		堀之内2
12	87	鉢	底面片	胎跡多、良、黒褐色。	内外面研削、底面磨代削。		堀内
13	98	漆鉢	口縁・胴部	胎跡多、良、黒褐色。	外表面研削、内面于て。		高丹倉
13	89	漆鉢	口縁部片	胎跡多、良、明赤褐色。	内外面于て、胎跡1.4横文。		高丹倉
13	90	漆鉢	口縁部片	胎跡多、良、にさい濁褐色。	内外面于て。		高丹倉
13	91	漆鉢	口縁部片	胎跡多、良、にさい濁褐色。	内外面于て。		高丹倉
13	92	漆鉢	口縁部片	胎跡多、良、褐色。	内外面于て。		高丹倉
13	93	漆鉢	口縁部片	胎跡多、良、にさい濁褐色。	内外面研削、内面于て。		高丹倉
13	94	漆鉢	口縁部片	胎跡多、良、黒褐色。	内外面研削。		高丹倉
13	95	漆鉢	口縁部片	胎跡多、良、赤褐色。	内外面磨削し研削。		高丹倉
13	96	漆鉢	口縁部片	胎跡多、良、明赤色。	内外面于て、胎跡1.4横文。		高丹倉
13	97	漆鉢	口縁部片	胎跡多、良、黒褐色。	内外面于て、内面に磨削。		高丹倉
13	98	漆鉢	胴部片	胎跡多、良、にさい濁褐色。	内外面于て。		高丹倉
13	99	漆鉢	胴部片	胎跡多、良、褐色。	内外面于て、外面に磨削し于て胎を残す。		高丹倉
13	100	漆鉢	口縁部片	胎跡多、良、黒褐色。	内外面于て、内面に磨削し于て胎を残す。		高丹倉
13	101	漆鉢	胴部片	胎跡多、良、黒褐色。	内外面于て。		高丹倉
14	102	漆鉢	口縁・胴部	胎跡跡少、中、良、褐色。	内外面研削、口径46.0。		高丹倉
14	103	漆鉢	口縁部片	胎跡跡少、良、にさい濁褐色。	内表面研削、胎跡1.1横文。		安行2
14	104	漆鉢	胴部片	胎跡跡多、良、黒褐色。	内外面研削、光沢、胎跡1.4横文。		安行3a
14	105	胴部片	胎跡跡多、良、にさい濁褐色。	内外面研削。		安行1～2	
14	106	漆鉢	口縁・胴部	胎跡跡多、良、黒褐色。	内外面研削、黒色処理、光沢、胎跡1.4横文。		大淵原(塚行3b)
14	107	漆鉢	口縁・胴部	胎跡跡多、良、黒褐色。	内外面研削、光沢、胎跡1.4横文。		安行3a
14	108	土製口甕	完形	胎跡多、良、にさい濁褐色。	胎跡良、胎跡1.5横文、最大径3.0。		堀内
14	109	土製口甕	完形	胎跡多、中、良、褐色。	胎跡良、胎跡1.5横文、最大径2.7。		堀内
14	110	土製口甕	完形	胎跡多、中、良、褐色。	胎跡良、胎跡研削凸、最大径3.5。		堀内
14	111	土製口甕	完形	胎跡跡多、良、にさい濁褐色。	胎跡良、胎跡1.5横文、最大径4.7。		堀之内1

堀内・中村遺跡 2区 21号住居

調査 年度	遺物 番号	種別 種類	残存	胎土・焼成・色調	胎絵・文様の特徴		時期・備考
					計測値 (単位:cm、) (任意測定)		
20	1	漆鉢	胴・底面	胎跡跡多、良、粉～黒灰色。	胎跡により劣化著しい、底面付帯に白色シルト付帯、底径 7.0。		堀之内1
20	2	漆鉢	口縁・胴部	胎跡跡中～多、良、にさい濁褐色。	口縁部磨削・内面研削、胎跡1.4横文、口径(11.2)。		堀之内1
20	3	漆鉢	胴部片	胎跡跡中～多、良、にさい濁～黒褐色。	胎跡跡多、良、赤褐色。		堀之内1
20	4	漆鉢	胴・底面	胎跡多、良、赤褐色。	胎跡跡1.4横文に胎跡に于り劣劣、底径9.5。		堀之内1
20	5	漆鉢	口縁・底面	胎跡多、良、明赤褐色。	内外面・底面研削、口径33.1、底径(11.2)。		橋名寺2
20	6	漆鉢	口縁・胴部	胎跡多、赤色胎子含む、良、粉～黒褐色。	内外面研削、口径32.0。		橋名寺2
21	7	漆鉢	口縁部片	胎跡跡中～多、良、にさい濁褐色。	底径1.1横、内外面研削。		橋名寺2
21	8	漆鉢	胴部片	胎跡跡中～多、赤色胎子含む、良、に さい濁褐色。	内外面研削。		橋名寺2
21	9	漆鉢	胴部片	胎跡多、良、にさい濁褐色。	内外面研削。		橋名寺2
21	10	漆鉢	胴部片	胎跡多、良、にさい濁～黒褐色。	内外面研削。		橋名寺2
21	11	漆鉢	口縁部片	胎跡多、良、黒褐色。	底1.5横、胎跡1.4横文など。		堀内
21	12	漆鉢	口縁部片	胎跡跡多、良、にさい濁褐色。	内外面研削、胎跡1.4横文、底径1.1横、底径部の口縁部に交 横文。		橋名寺2
21	13	漆鉢	口縁部片	胎跡跡中～多、良、にさい濁褐色。	内外面研削、胎跡1.4横文。		橋名寺2
21	14	漆鉢	口縁部片	胎跡多、普通、にさい濁褐色。	内外面研削、胎跡1.4横文付帯。		橋名寺2
21	15	注口	完形	胎跡跡多、良、にさい濁褐色。	文様2単位、底面磨削、口径4.8、底径4.5、高さ0.7。		橋名寺2～堀之内1
21	16	漆鉢	口縁部片	胎跡跡多、良、にさい濁褐色。	内外面研削。		堀之内1
21	17	漆鉢	口縁部片	胎跡多、良、褐色。	内外面研削。		橋名寺2
21	18	漆鉢	胴部片	胎跡跡中～多、良、にさい濁褐色。	内外面研削、口径19.0同一体。		橋名寺2
21	19	漆鉢	胴部片	胎跡跡中～多、良、にさい濁褐色。	内外面研削、口径18.0同一体。		橋名寺2
21	20	漆鉢	胴部片	胎跡跡多、良、浅灰色。	胎跡劣化により胎跡不明、外表面研削、胎跡著しく中内面 段土部の可能性あり。		三ノ堀
21	21	漆鉢	胴部片	胎跡多、良、黒褐色。	内外面研削、胎跡1.4横文付帯、口径22.0同一体。		三ノ堀
21	22	漆鉢	胴部片	胎跡多、良、黒褐色。	内外面研削、胎跡1.4横文付帯、口径24.8同一体。		堀之内1
22	23	漆鉢	口縁部片	胎跡多、良、黒褐色。	内外面研削、胎跡1.4横文付帯、口径24.8同一体。		堀之内1
22	24	漆鉢	口縁部片	胎跡跡中～多、良、褐色。	内外面研削。		堀之内1
22	25	漆鉢	口縁部片	胎跡跡中～多、良、褐色。	内外面研削。		橋名寺2
22	26	漆鉢	胴部片	胎跡跡中～多、良、にさい濁褐色。	内外面研削、外表面に磨削、胎跡1.4横文。		橋名寺2
22	27	漆鉢	口縁部片	胎跡跡多、良、浅灰色。	内外面研削、胎跡1.4横文。		堀之内1
22	28	注口付漆鉢	口縁部片	胎跡多、赤色胎子含む、良、褐色。	内外面研削。		堀之内1
22	29	漆鉢	胴部片	胎跡多、良、にさい濁褐色。	内面于て、胎跡1.4横文。		堀之内1
22	30	漆鉢	口縁部片	胎跡跡中～多、良、赤褐色。	内外面研削、胎跡1.4横文付帯、口径24.8同一体。		堀之内1
22	31	漆鉢	口縁部片	胎跡多、良、黒褐色。	内外面研削、胎跡1.4横文付帯、口径24.8同一体。		高丹倉
22	32	漆鉢	口縁部片	胎跡跡中～多、良、黒褐色。	底径1.1横、内外面研削。		高丹倉
22	33	漆鉢	口縁部片	胎跡跡中～多、良、黒褐色。	底径1.1横、内外面研削。		高丹倉
22	34	漆鉢	口縁部片	胎跡跡中～多、良、浅灰色。	底径1.1横、内外面研削。		高丹倉
22	35	漆鉢	口縁部片	胎跡多、良、にさい濁褐色。	内外面研削、内面于て。		堀内
22	36	漆鉢	口縁部片	胎跡多、良、浅灰色。	内外面研削、外面于て。		堀内
23	37	漆鉢	口縁・胴部	胎跡跡多、良、明赤色～黒褐色。	内外面研削、口径(41.0)。		堀之内2
23	38	漆鉢	口縁部片	胎跡跡多、良、にさい濁褐色。	内外面于て。胎跡1.4横文。		堀内
23	39	漆鉢	口縁部片	胎跡多、良、にさい濁褐色。	内外面于て。胎跡1.4横文。		安行1
23	40	土製口甕	完形	胎跡良、胎跡1.5横文。	胎跡良、胎跡1.5横文、最大径3.6。		堀内
23	41	土製口甕	完形	胎跡跡中～多、良、にさい濁褐色。	胎跡良、胎跡1.5横文付帯、胎跡1.4横文、最大径4.3。		堀之内1

遺物観察表

横野中川遺跡 19区 24号住居

図版番号	遺物番号	種類 器種	残存	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴 計測値(単位:cm.()は推定値)	時期・備考
29	1	鉢	口縁部片	磁粒中多, 良, 褐色。	注脚文に新交存品, 内面直線部。	株名寺2
29	2	深鉢	胴部片	磁粒中多, 良, に近い褐色。	内面直線部, 単面1.5横文光潤。	株名寺2
29	3	注口	完整	磁粒中多, 良, に近い黄褐色。	内面直線部, 内面下段に十字, 文様2単位, 単面1.5横文光潤, 底面縁辺の埋線彫刻, 口径7.7, 底径5.0, 高さ12.2。	株名寺2
29	4	深鉢	口縁部片	磁粒多, 良, に近い褐色。	内面直線部。	株名寺2
29	5	深鉢	胴部片	磁粒中多, 良, に近い黄褐色。	内面直線部, 単面1.5横文, 内面直線部に強い熱痕があり, 劣化著しい。中内腹段上部に用いた土質の可能性が大きい。	株名寺2 (底片無型)
29	6	深鉢	胴部片	磁粒少, 良, に近い黄褐色。	埋線より内腹段より, 外面白点シム付録, 単面1.5横文光潤, 中内腹段上部の同可能性あり, 8.7同一個体。	株名寺2
29	7	深鉢	胴部片	磁粒中多, 良, に近い黄褐色。	埋線より内腹段より, 外面白点シム付録, 単面1.5横文光潤, 中内腹段上部の同可能性あり, 7.2同一個体。	株名寺2
29	8	深鉢	胴部片	磁粒中多, 良, に近い黄褐色。	横文有無不明, 内面直線部。	株名寺2
29	9	深鉢	胴部片	磁粒中多, 良, に近い黄褐色。	横文有無不明, 内面直線部。	株名寺2
29	10	深鉢	口縁部片	磁粒少, 良, に近い黄褐色。	内面直線部, 埋線。	高井朝

横野中川遺跡 19区 28号住居

図版番号	遺物番号	種類 器種	残存	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴 計測値(単位:cm.()は推定値)	時期・備考
34	1	深鉢	口縁部片	磁粒多, 良, に近い褐色。	内面直線部。	堀之内1
34	2	深鉢	口縁部片	磁粒多, 良, 褐色。	内面直線部。	堀之内2
34	3	鉢	口縁部片	磁粒多, 良, に近い黄褐色。	内面直線部。	堀之内1
34	4	鉢	胴・底部	磁粒少, 良, に近い黄褐色。	内面直線部・尻付, 単面1.5横文。	後編7
34	5	深鉢	口縁部片	磁粒多, 良, 黒褐色。	内面直線部。	堀之内2
34	6	深鉢	胴部片	磁粒多, 良, に近い褐色。	底径11.8, 内面直線部, 単面1.5横文。	堀之内2
34	7	深鉢	口縁部片	磁粒少, 良, 黒褐色。	内面直線部, 単面1.5横文。	堀之内2
34	8	深鉢	口縁部片	磁粒多, 良, に近い赤褐色。	内面直線部。	堀之内2
34	9	深鉢	口縁部片	磁粒多, 良, に近い褐色。	底径11.8, 内面直線部。	堀之内2
34	10	深鉢	口縁部片	磁粒多, 良, 黒褐色。	内面直線部, 単面1.5横文。	堀之内2
34	11	深鉢	口縁部片	磁粒多, 良, に近い黄褐色。	内面直線部, 単面1.5横文。	堀之内2
34	12	深鉢	口縁部片	磁粒多, 良, に近い黄褐色。	内面直線部, 単面1.5横文。	堀之内2
34	13	深鉢	口縁部片	磁粒多, 良, 黒褐色。	内面直線部, 単面1.5横文。	堀之内2
34	14	深鉢	口縁部片	磁粒少, 劣質含む, 良, 黒褐色。	内面直線部, 口径10.8, 埋線彫刻付, 注脚による埋線彫刻。	堀之内2
34	15	深鉢	胴部片	磁粒多, 良, に近い黄褐色。	内面直線部, 単面1.5横文。	堀之内2
34	16	深鉢	口縁部片	磁粒少, 良, 褐色。	内面直線部, 単面1.5横文。	堀之内2
35	17	注口	胴部片	磁粒多, 良, に近い黒。	内面直線部・外腹直線部, 単面1.5横文。	堀之内2
35	18	注口?	胴部片	磁粒多, 良, 黒褐色。	内面直線部, 単面1.5横文。	堀之内2
35	19	注口	口縁・胴部	磁粒多, 良, 黒褐色。	内面直線部・黄色埋線・尻付, 平内腹段の文様, 単面1.5横文。	堀之内2
35	20	注口	口縁部片	磁粒中少, 良, 褐色。	肥子片, 内面平交存研削, 胴部・内面に有。外面に「ノ」字状痕。	加賀朝E1
35	21	小茶碗	胴・底部	磁粒中多, 良, に近い黄褐色。	肥子片, 外面平交存研削, 底部外面突出, 底面直線彫, 底径4.4。	堀之内2
35	22	深鉢	口縁部片	磁粒多, 劣質含む, 良, 黒褐色。	内面直線部, 肥子片。	堀之内3
35	23	深鉢	口縁部片	磁粒中多, 良, に近い褐色。	内面直線部, 三文字状痕。	堀之内3
35	24	深鉢	胴部片	磁粒多, 良, 赤褐色。	内面直線部。	堀之内1
35	25	深鉢	口縁部片	磁粒多, 良, 褐色。	内面直線部。	堀之内2
35	26	深鉢	胴部片	磁粒多, 良, に近い黄褐色。	内面直線部。	堀之内1
35	27	深鉢	口縁部片	磁粒多, 良, 底黄褐色。	内面直線部, 単面1.5横文。	加賀朝E3
35	28	鉢?	底部片	磁粒少, 良, に近い褐色。	内面直線部・研削・尻付, 外面十字, 底径9.0, 残存高2.0。	堀之内2~加賀朝E3
35	29	注口	底部片	磁粒多, 良, に近い褐色。	内面直線部・十字, 内面直線部, 底面直線彫, 底径7.0, 残存高1.3。	堀之内2
35	30	深鉢	底部片	磁粒多, 良, に近い赤褐色。	内面直線部, 底面直線彫, 底径11.3, 残存高2.2。	堀之内2
35	31	深鉢	底部片	磁粒少, 良, 褐色。	内面直線部・研削, 底面直線彫, 底径9.0, 残存高3.7。	堀之内2

横野中川遺跡 19区 32号住居

図版番号	遺物番号	種類 器種	残存	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴 計測値(単位:cm.()は推定値)	時期・備考
42	1	深鉢	口縁部片	磁粒多, 良, に近い黄褐色。	内面直線部。	株名寺2
42	2	深鉢	口縁部片	磁粒多, 良, 黒褐色。	内面直線部, 単面1.5横文。	堀之内1
42	3	深鉢	口縁・胴部	磁粒多, 良, に近い黄褐色。	内面直線部。	堀之内1
42	4	深鉢	口縁部片	磁粒多, 良, 褐色。	内面直線部。	堀之内1
42	5	深鉢	口縁部片	磁粒多, 良, に近い黄褐色。	内面直線部, 尻付口縁。	堀之内1
42	6	深鉢	口縁部片	磁粒多, 良, に近い黄褐色。	内面直線部。	堀之内1
42	7	深鉢	口縁部片	磁粒多, 良, 褐色。	内面直線部。	堀之内1
42	8	深鉢	胴部片	磁粒多, 良, 褐色。	内面直線部, 単面1.5横文。	堀之内1
42	9	深鉢	胴部片	磁粒多, 良, に近い褐色。	内面直線部, 単面1.5横文。	堀之内1
42	10	深鉢	胴部片	磁粒多, 良, 褐色。	内面直線部, 単面1.5横文。	堀之内1
42	11	深鉢	胴部片	磁粒多, 良, に近い赤褐色。	内面直線部, 単面1.5横文。	堀之内1
42	12	深鉢	口縁部片	磁粒多, 良, に近い黄褐色。	内面直線部, 単面1.5横文。	堀之内1
42	13	深鉢	口縁部片	磁粒多, 良, 底黄褐色。	内面直線部, 単面1.5横文。	堀之内2
42	14	深鉢	胴部片	磁粒多, 良, に近い黄褐色。	内面直線部, 単面1.5横文。	堀之内2
42	15	深鉢	胴部片	磁粒多, 良, に近い褐色。	内面直線部・研削。	堀之内2
42	16	深鉢	胴部片	磁粒多, 良, に近い黄褐色。	内面直線部・研削。	堀之内2
43	17	深鉢	口縁部片	磁粒中多, 良, 赤褐色。	横文1.5横文と「ノ」, 埋線彫付, 一部帯土に付。口径(33.0)。	加賀朝E1
43	18	深鉢	胴部片	磁粒多, 良, に近い褐色。	内面直線部・研削。	唐草文E3
43	19	深鉢	口縁部片	磁粒多, 良, 褐色。	肥子片, 埋線による区画, 肩付直線彫。	加賀朝E3
43	20	深鉢	口縁部片	磁粒多, 劣質含む, 良, に近い赤褐色。	内面直線部, 埋線彫。	唐草文E3
43	21	深鉢	口縁部片	磁粒多, 良, に近い黄褐色。	内面直線部・研削, 単面1.5横文。	加賀朝E4
43	22	深鉢	口縁・胴部	磁粒多, 良, に近い褐色。	内面直線部・研削, 単面1.5横文。	加賀朝E4
43	23	深鉢	底部片	磁粒多, 良, 褐色。	内面直線部, 底面直線彫, 底径15.0, 残存高4.3。	堀之内1
43	24	深鉢	底部片	磁粒多, 良, 赤褐色。	内面直線部, 底面直線彫, 底径8.1, 残存高1.8。	堀之内2
43	25	注口?	底部片	磁粒中少, 良, 褐色。	内面直線部・十字, 内面直線部・尻付, 底面直線彫, 底径9.0, 残存高1.6, 埋線彫付による埋線彫あり。	堀之内2

遺物観察表

観音中村遺跡 19区 36号住居

順号	遺物番号	種類	保存	土質・焼成・色調	形状・文様の特徴 (単位:cm, () は推定値)	時期・備考
47	1	深鉢	破断片	細砂多, 普通, 明黄褐色~灰褐色	地熱により著しい変形, 調整不明	後期

観音中村遺跡 19区 54号住居

順号	遺物番号	種類	保存	土質・焼成・色調	形状・文様の特徴 (単位:cm, () は推定値)	時期・備考
51	1	深鉢	口縁部片	細砂多, 良, にぶい黄褐色	外周や中輪のナデ, 早期I&II焼文, 上位内外面地熱により著しい白化, 口縁(18.0)	観之内1
51	2	深鉢	口縁部片	細砂多, 良, 褐色	内外面研削, 口縁(18.0)	観之内1
51	3	深鉢	胴~底部	細砂多, 良, 明黄褐色	3本単位の沈積層, 早期I&II焼文, 底部割代削, 上位内外面地熱により白化化・著しい変形, 胴下位から底部に白化シラ小付着, 底径7.8	観之内1
51	4	注口	胴部片	細砂多, 良, 黄褐色	内外面研削, 底径5.4	観之内2
51	5	深鉢	底辺部	細砂多, 良, 褐色	内周1.7cmナデ, 外周面研削, 底面割代削, 底径7.8	観之内1
51	6	深鉢	胴部片	細砂多, 良, にぶい黄褐色	内外面研削, 早期I&II焼文, 除形跡付, 平截口首による変形	加賀期I, 観之内1
51	7	深鉢	胴部片	細砂少, 普通, にぶい黄褐色	内外面研削, 早期I&II焼文	観之内1
51	8	深鉢	口縁部片	細砂多, 良, にぶい黄褐色	内外面研削, 調整I焼文	高野基
51	9	注口付鉢	胴~底部	細砂多, 良, にぶい黄褐色	内外面ナデから中輪研削, 底面割代削なし, 口縁部地熱により著しい白化化, 一部に白化シラ小付着, 口縁(27.7), 底径6.6, 高さ22.5	観之内2

観音中村遺跡 19区 55号住居

順号	遺物番号	種類	保存	土質・焼成・色調	形状・文様の特徴 (単位:cm, () は推定値)	時期・備考
53	1	深鉢	口縁~胴部	細砂多, 平片を含む, 良, 暗~黒褐色	内部, 外面無文部研削, 調整I焼文付焼	観之内2
53	2	深鉢	口縁~胴部	細砂少, 良, 黒褐色	内外面研削, 調整I&II焼文付, 口縁(15.0)	観之内2
53	3	深鉢	口縁部片	細砂多, 良, 褐色	内外面研削, 早期I&II焼文, 底径7.0cm	観之内2
53	4	深鉢	口縁~胴部片	細砂多, 良, にぶい黄褐色	内外面研削, 早期I&II焼文	観之内2
53	5	深鉢	口縁~胴部	細砂多, 軽石を含む, 良, にぶい黄褐色	内外面研削のナデから中輪研削, 口縁(30.5), 残存高さ23.5	観之内2
53	6	注口	胴部片	細砂多, 良, にぶい黄褐色	底径7.0, 調整I焼文, 口縁(16.0), 残存高さ5.1	観之内2
53	7	注口	口縁部片	細砂多, 良, にぶい黄褐色	底径7.1, 内外面研削, 口縁(18.0)	観之内2
53	8	注口	底口部片	細砂多, 良, にぶい黄褐色	調整I焼文	観之内2
53	9	注口	口縁~胴部	細砂多, 劣形粘土を含む, 良, 黒褐色	内部1.7cmナデ, 外部1.7cmナデ, 内部胴部ナデ, 早期I&II焼文	観之内2
53	10	注口	胴~底部	細砂や中多, 良, 灰褐色	内部ナデ, 外面研削, 底面割代削, 底面著しい摩滅, 11と同一個体	観之内2
53	11	注口	注口部片	細砂や中多, 良, 灰褐色	全面研削, 10と同一個体	観之内2
53	12	注口	口縁部片	細砂少, 良, 明黄褐色	全面研削	観之内2
53	13	注口?	底辺部	細砂多, 良, 明黄褐色	内部ナデ, 外面研削, 内部有段	後期
54	14	深鉢	口縁部片	細砂多, 良, 黒褐色	内外面研削I研削	観之内1
54	15	深鉢	口縁部片	細砂多, 良, にぶい黄褐色	内外面研削I研削	観之内1
54	16	深鉢	口縁部片	細砂多, 良, にぶい黄褐色	内外面研削I研削	観之内1
54	17	深鉢	口縁部片	細砂多, 良, 褐色	調整I焼文	観之内1
54	18	深鉢	口縁部片	細砂多, 良, にぶい黄褐色	内外面研削, 早期I&II焼文, 除形跡付	観之内2
54	19	深鉢	口縁部片	細砂多, 良, 黒褐色	内外面研削	観之内2
54	20	深鉢	口縁部片	細砂多, 良, にぶい黄褐色	内外面研削, 早期I&II焼文, 除形跡付	観之内2
54	21	深鉢	口縁部片	細砂多, 良, 黒褐色	内外面研削, 口内面小波状	観之内2
54	22	深鉢	口縁部片	細砂多, 良, 黒褐色	調整I焼文, 除形跡付	観之内2
54	23	深鉢	口縁部片	細砂少, 良, 明黄褐色	内外面研削, 除形跡付	観之内2
54	24	深鉢	口縁部片	細砂多, 良, 褐色	内外面研削, 除形跡付	観之内2
54	25	深鉢	口縁部片	細砂多, 良, 褐色	内外面研削, 早期I&II焼文, 除形跡付	観之内2
54	26	深鉢	口縁部片	細砂多, 良, 黒褐色	内外面研削, 除形跡付	観之内2
54	27	深鉢	口縁部片	細砂多, 良, 黒褐色	内外面研削, 早期I&II焼文	観之内2
54	28	深鉢	口縁部片	細砂少, 良, 明赤褐色	内外面研削	観之内2
54	29	深鉢	胴部片	細砂多, 良, 黒褐色	内外面ナデ	観之内2
54	30	深鉢	口縁部片	細砂少, 良, 黒褐色~にぶい黄褐色	内外面研削, 口縁に緑鉄粒10μm付	観之内2
54	31	深鉢	胴部片	細砂少, 良, 赤褐色	内外面研削	観之内2
54	32	深鉢	口縁部片	細砂多, 良, 黒褐色	内外面研削, 早期I&II焼文, 除形跡付	観之内2
54	33	深鉢	口縁部片	細砂多, 良, 黒褐色	内外面研削	観之内2
54	34	深鉢	胴部片	細砂多, 良, にぶい黄褐色	内外面ナデ	観之内2
54	35	深鉢	胴部片	細砂多, 良, 灰黄褐色	内外面研削	観之内2
54	36	深鉢	胴部片	細砂少, 良, にぶい黄褐色	内外面研削, 早期I&II焼文	観之内2
54	37	深鉢	胴部片	細砂多, 良, 黒褐色	内外面研削	観之内2
54	38	深鉢	胴部片	細砂多, 良, 黒褐色	内外面研削, 早期I&II焼文	観之内2
54	39	深鉢	胴部片	細砂多, 良, にぶい黄褐色	内外面研削	観之内2
54	40	深鉢	胴部片	細砂多, 良, にぶい黄褐色	内外面研削, 早期I&II焼文	観之内2
54	41	深鉢	口縁部片	細砂少, 良, にぶい黄褐色	内外面研削	観之内2
54	42	深鉢	胴部片	細砂多, 良, 灰黄褐色	内外面研削	観之内2
54	43	深鉢	胴部片	細砂少, 普通, にぶい褐色	内外面研削, 調整I焼文付	観之内2
54	44	深鉢	胴部片	細砂多, 良, にぶい黄褐色	内外面研削, 除形跡付	観之内2
54	45	深鉢	胴部片	細砂多, 良, にぶい黄褐色	内外面研削, 除形跡付	観之内2
54	46	深鉢	胴部片	細砂多, 良, にぶい黄褐色	内外面研削, 除形跡付	観之内2
54	47	深鉢	胴部片	細砂多, 良, 黒褐色	内外面研削, 除形跡付	観之内2
54	48	鉢	胴部片	細砂少, 良, 黒褐色	内外面研削	観之内2
54	49	浅鉢	口縁部片	細砂多, 良, 明赤褐色	内外面研削, 透かし孔を伴う台形状の突起, 内部に沈殿文	観之内2
54	50	注口	底辺部	細砂少, 良, にぶい黄褐色	内外面研削, 底面磨滅著しい	観之内2
54	51	深鉢	胴部片	細砂少, 良, にぶい黄褐色	内外面研削	観之内2
54	52	深鉢	胴部片	細砂多, 良, にぶい黄褐色	内外面研削, 早期I&II焼文	観之内2
54	53	深鉢	胴部片	細砂多, 良, 灰褐色	内外面研削	観之内2
54	54	深鉢	口縁部片	細砂多, 良, 黒褐色	内外面研削, 外部ナデ	観之内2
54	55	深鉢	口縁部片	細砂多, 良, 暗~灰褐色	内外面ナデ	後期
54	56	深鉢	胴部片	細砂多, 良, 明黄褐色	内部ナデ, 外面研削	後期
54	57	深鉢	胴部片	細砂多, 良, にぶい黄褐色	内外面研削, 底面に割代削, 底径(15.0), 残存高さ5.2	観之内2
54	58	深鉢	底辺部	細砂多, 良, 明赤褐色	内外面研削, 底面に割代削, 底径(10.0), 残存高さ5.5	観之内2
54	59	深鉢	底辺部	細砂多, 良, 明赤褐色	内外面研削, 底面に割代削, 底径(10.9)	後期
54	60	深鉢	底辺部	細砂多, 良, にぶい黄褐色	底面割代削, 底径(7.0)	後期

遺物観察表

横壁中柱遺跡 19区 56号住居

図版番号	遺物番号	種別	残存	胎土・焼成・色調	胎形・文様の特徴	時期・備考
38	1	深鉢	口縁部片	胎粉やや多。良。黒褐色。	内外面研削・黒色処理・光沢。単脚L式履文。	加賀朝臣2
38	2	注口?	口縁部片	胎粉少。普通。に少し黄色。	欄杆土製。内面ナナ。外面褐色。わずかに赤色顔料残存。口径6.4。残存高4.4。	加賀朝臣1
38	3	注口	胴部片	胎粉やや多。良。に少し褐色。	内外面研削。刺突花文。注口下部ナナ。字状彫刻。	加賀朝臣2-3
38	4	深鉢	口縁部片	胎粉多。岩片含む。良。褐色。	内外面研削。単脚L式履文。	五輪ヶ台
38	5	深鉢	胴部片	胎粉多。岩片含む。良。褐色。	内外面ナナ。横穴縁部欠損。	阿刀台
38	6	深鉢	胴部片	胎粉多。良。黒褐色。	内外面研削。単脚L式履文。	加賀朝臣1
38	7	深鉢	口縁部片	胎粉多。良。に少し赤褐色。	内外面研削。	加賀朝臣1
38	8	深鉢	口縁部片	胎粉多。岩片含む。良。褐色。	内外面ナナ。	徳町
38	9	深鉢	胴部片	胎粉多。岩片含む。良。に少し赤褐色。	内外面ナナ。単脚L式履文。	徳町
38	10	深鉢	胴部片	胎粉少。良。灰褐色。	内外面研削・黒色処理・光沢。無脚L履文。	加賀朝臣2
38	11	深鉢	口縁部片	胎粉多。良。に少し赤褐色。	内外面研削。	加賀朝臣2
38	12	深鉢	胴部片	胎粉多。良。に少し赤褐色。	内外面研削。外面文様部分ナナを磨き残す。	加賀朝臣2
38	13	深鉢	胴部片	胎粉少。良。黒褐色。	内外面研削・黒色処理・光沢。単脚L式履文。	加賀朝臣2
38	14	注口	胴部片	胎粉やや多。良。に少し褐色。	内外面研削。内外面研削。襷に土製文。	加賀朝臣2
38	15	深鉢	口縁部片	胎粉多。良。褐色。	内外面研削。外縁ナナで縁に斜位の浅彫。内面凹体物付着。	加賀朝臣2
38	16	深鉢	口縁部片	胎粉多。良。明赤褐色。	内外面研削。	加賀朝臣1
38	17	深鉢	口縁部片	胎粉やや多。良。に少し褐色。	内外面研削。	徳町
38	18	深鉢	口縁部片	胎粉多。良。黒褐色。	内外面研削。	高井田
38	19	注口・胴部	口縁部片	胎粉多。岩片含む。良。黒赤褐色。	内外面研削。	徳町

横壁中柱遺跡 19区 57号住居

図版番号	遺物番号	種別	残存	胎土・焼成・色調	胎形・文様の特徴	時期・備考
60	1	深鉢	口縁部片	胎粉多。良。褐色。	内外面研削。単脚L式履文。	加賀朝臣3
60	2	深鉢	底面片	胎粉多。良。に少し褐色。	内外面研削。襷に浅彫。底径7.6。	加賀朝臣3
60	3	深鉢	胴部片	胎粉多。良。黒褐色。	内外面研削。単脚L式履文。	加賀朝臣3
60	4	深鉢	胴部片	胎粉多。良。褐色。	内外面研削。外面文様部分ナナを磨き残す。	唐草文系
60	5	深鉢	口縁部・胴部	胎粉多。良。に少し赤褐色。	内外面研削。襷・浅穴付。襷に浅彫に仕組。	加賀朝臣1
60	6	深鉢	口縁部・胴部	胎粉多。良。灰褐色。	内外面研削。単脚L式履文。襷文を磨き磨削部。	加賀朝臣2

横壁中柱遺跡 20区 11号住居

図版番号	遺物番号	種別	残存	胎土・焼成・色調	胎形・文様の特徴	時期・備考
64	1	深鉢	口縁部・胴部	粗砂粉少。良。明赤褐色。	内外面研削。無脚L履文光沢。口径(28.5)。残存高12.8。	加賀朝臣4 ～靴名1
64	2	深鉢	口縁部・胴部	粗砂粉多。白色砂子多。良。赤褐色。	内面。外面無文部研削。単脚L式履文光沢。胎土を伴う隆部。底径之量減少。口径(27.6)。残存高19.7。	靴名1
64	3	深鉢	口縁部・胴部	胎粉やや多。良。褐色。	内外面研削。無脚L履文。口径(27.0)。残存高17.4。	加賀朝臣4 ～靴名1
64	4	深鉢	胴部片	胎粉多。普通。褐色。	胎形劣化著しい。残存高10.5。	加賀朝臣4 ～靴名1
64	5	深鉢	口縁部・胴部	胎粉多。岩片含む。良。単脚～無脚色。	内外面研削。隆部彫付。浅褐色。	加賀朝臣1
64	6	深鉢	底面片	胎粉やや多。良。黒紫～褐色。	内外面研削。底面粗い研削(脚L履文)。底径9.2。残存高5.8。	中期
64	7	深鉢	胴部片	胎粉やや多。良。に少し褐色。	内外面研削。隆部文。単脚L式履文光沢。	加賀朝臣4
64	8	深鉢	口縁部・胴部	胎粉多。良。に少し赤褐色。	内外面研削。単脚L式履文。	加賀朝臣3
65	9	深鉢	胴部片	粗砂粉多。良。赤褐色。	内外面研削。隆部彫付。	徳町
65	10	深鉢	胴部片	胎粉多。良。赤褐色。	内外面研削。単脚L式履文を施文上し。隆部彫付。	徳町
65	11	深鉢	口縁部片	胎粉多。岩片含む。良。無脚色。	内面。外面無文部研削。	唐草文系
65	12	深鉢	口縁部片	胎粉多。普通。赤褐色。	内外面研削。	唐草文系
65	13	深鉢	胴部片	胎粉多。良。に少し褐色。	内外面研削。縁文。単脚L式履文光沢。	加賀朝臣4
65	14	深鉢	口縁部片	胎粉多。良。に少し赤褐色。	内外面研削。単脚L式履文。	加賀朝臣3
65	15	深鉢	胴部片	胎粉多。岩片含む。良。赤褐色。	内外面研削。外面無文部研削。	加賀朝臣3
65	16	深鉢	胴部片	胎粉やや多。普通。明褐色。	内外面研削。隆部彫付。	唐草文系
65	17	深鉢	口縁部片	胎粉多。良。に少し赤褐色。	内面にナナ。内外面研削。襷彫刻。	靴名1
65	18	深鉢	胴部片	胎粉やや多。良。赤褐色～赤色。	内外面研削。単脚L式履文。刺突文。	靴名1
65	21	土器	胴部片 50%	胎粉やや多。良。褐色。	表面。無面に浅彫文。表面に正中線表現あり。乳房表現。内面に細い輪状の穴あり。	中期

横壁中柱遺跡 20区 40号住居

図版番号	遺物番号	種別	残存	胎土・焼成・色調	胎形・文様の特徴	時期・備考
73	1	深鉢	口縁部片	粗砂粉多。良。に少し褐色。	内外面研削。	靴名1
73	2	深鉢	胴部片	胎粉多。良。褐色。	内外面研削。外内ナナ。隆部隆部。	加賀朝臣1
73	3	深鉢	胴部片	粗砂粉やや多。良。黒褐色。	内外面研削。外面研削。	靴名1
73	4	深鉢	胴部片	粗砂粉少。普通。に少し赤褐色。	内外面粗い研削。単脚L式履文。	加賀朝臣1(複製型)
73	5	深鉢	胴部片	胎粉多。良。黒褐色。	内外面研削。	加賀朝臣1
73	6	深鉢	口縁部片	胎粉多。良。に少し赤褐色。	内外面研削。	加賀朝臣1
73	7	深鉢	口縁部片	胎粉多。良。に少し赤褐色。	内外面粗い研削。	加賀朝臣1(複製系)
73	8	深鉢	胴部片	胎粉多。良。灰褐色。	内外面粗い研削。	加賀朝臣1
73	9	深鉢	胴部片	粗砂粉多。良。に少し赤褐色。	内外面研削・光沢。	加賀朝臣1
73	10	深鉢	胴部片	胎粉少。良。褐色。	内外面研削。	加賀朝臣1
73	11	深鉢	口縁部・胴部	胎粉多。良。黒～赤褐色。	内外面研削。単脚L式履文光沢。	加賀朝臣1
73	12	深鉢	口縁部・胴部	胎粉少。良。褐色。	内外面研削。口径(16.3)。残存高11.0。	加賀朝臣1
73	13	深鉢	口縁部片	粗砂粉多。良。灰褐色。	内外面研削。口縁部内面に浅彫の凸条。	加賀朝臣1
73	14	深鉢	口縁部片	粗砂粉多。良。黒褐色。	内外面研削。光沢。	加賀朝臣1
73	15	深鉢	口縁部片	胎粉多。良。明赤褐色。	内外面研削。	加賀朝臣1
73	16	深鉢	口縁部片	胎粉多。良。に少し赤褐色。	内外面粗い研削。	加賀朝臣1
73	17	深鉢	胴部片	胎粉多。良。明赤褐色。	内外面研削。単脚L式履文光沢。	加賀朝臣1
73	18	深鉢	胴部片	胎粉やや多。良。に少し褐色。	内外面研削。襷文彫付不明。	加賀朝臣1
73	19	深鉢	胴部片	胎粉多。良。に少し赤褐色。	内外面粗い研削。外面研削。単脚L式履文。	加賀朝臣1
73	20	深鉢	口縁部片	胎粉少。良。黒褐色。	内外面研削。光沢。	加賀朝臣1
73	21	深鉢	口縁部片	胎粉多。良。に少し赤褐色。	内外面ナナ。単脚L式履文。	加賀朝臣1
74	22	深鉢	胴部片	胎粉多。良。赤褐色。	内外面研削。	唐草文系
74	23	深鉢	胴部片	胎粉多。岩片含む。良。赤褐色。	内外面研削。	唐草文系
74	24	深鉢	口縁部・胴部	粗砂粉多。良。明褐色。	内外面研削。	中期
74	25	深鉢	底面片	胎粉多。普通。黒褐色。	底面彫刻(浅)。	徳町
74	26	深鉢	底面片	粗砂粉多。良。褐色。	底面木製。	徳町
74	27	深鉢	底面片	胎粉多。良。赤褐色。	内外面粗い研削。底面彫刻(浅)。底径12.0。	加賀朝臣1

遺物観察表

階級 番号	遺物 番号	種類 名称	残存	粘土・焼成・色調	形状・文様・時期 計測値(単位:cm, L) (目録表参照)	時期・備考
74	28	深鉢	製-底部	細粒多, 良, 明黄褐色。	内外面研削, 底面研削(細粒残存)。底径7.4, 残存高11.8。	後期
74	29	深鉢	製-底部	細粒多, 良, 黄-黒褐色。	内外面研削, 底径(8.0), 残存高14.0。	後期
74	30	深鉢	底部分	細粒やや多, 良, に近い赤褐色。	内外面, 底面研削。	後期

観音中村遺跡20区47号住居

階級 番号	遺物 番号	種類 名称	残存	粘土・焼成・色調	形状・文様・時期 計測値(単位:cm, L) (目録表参照)	時期・備考
83	1	深鉢	口縁-製部	細粒多, 良, 黄褐色。	内外面研削, L口縁文様。口径(50.5), 残存高41.0。	堀之内1
83	2	深鉢	口縁-製部	細粒多, 良, に近い黄褐色。	内面, 外面無文部研削, 卑部L口縁文様。口径(39.2), 残存高22.5。	堀之内1
83	3	深鉢	製-底部	細粒多, 良, に近い赤褐色。	裾西により器底付。外面研削, 底面研削, 底径5.8, 残存高未定。	堀之内1
83	4	深鉢	製部片	細粒やや多, 良, 褐色。	内面, 外面無文部研削, 卑部L口縁文様, 外面白色シムト付着。残存高10.5。	堀之内1
83	5	深鉢	製-底部	細粒多, 良, 橙-赤褐色。	卑部L口縁文様, 外面無文部, 内面研削, 底面研削。底径5.0, 残存高未定。	堀之内1
83	6	深鉢	底部分	細粒多, 良, に近い赤褐色。	内外面粗い研削, 底面粗い研削, 底径5.8, 残存高5.9。	堀之内1
84	7	深鉢	口縁-製部	細粒多, 良, に近い黄褐色。	突起3単位, 内外面研削, 卑部L口縁文様。口径(30.4), 底径(8.0), 残存高47.1。	堀之内1
85	8	深鉢	口縁-底部	細粒多, 良, 黄褐色。	内外面研削, 底面研削。口径(41.5), 底径(8.5), 高さ45.0, 突起4単位, 文様3単位, 外面13面研削, 内面粗い研削。	堀之内1
86	9	深鉢	口縁部片	細粒やや多, 良, 黄褐色。	底面粗い研削, 口径(39.0), 残存高13.3。	堀之内1
86	10	深鉢	口縁部片	細粒多, 良, に近い赤褐色。	突起3単位, 内外面研削, 口径(20.8), 残存高8.6。	堀之内1
86	11	深鉢	口縁-製部	細粒多, 良, 褐色。	内外面研削, 口縁突起1本の浅彫, 口径37.0, 残存高20.1。	堀之内1
86	12	深鉢	製部片	細粒多, 良, に近い褐色。	内外面研削, 卑部L口縁文様, 残存高4.8。	堀之内1
86	13	深鉢	口縁-製部	細粒やや多, 良, に近い赤褐色。	口縁やや肥厚, 内面粗い研削, 外面口縁部粗い研削, 製部研削。口径(46.0), 残存高46.6。	堀之内1
86	14	深鉢	製-底部	細粒やや多, 良, 黒褐色。	内外面研削, 底面研削。底径(16.0), 残存高8.2。	堀之内2
86	15	深鉢	製-底部	細粒多, 良, 黒色-にに近い赤褐色。	内面, 外面無文部研削, 卑部L口縁文様。残存高13.0。	堀之内1
86	16	深鉢	製部片	細粒多, 良, に近い黄褐色。	内外面研削, 卑部L口縁文様, 外面白色付着。残存高7.2。	堀之内1
87	17	深鉢	製部片	細粒多, 良, 赤褐色。	内面研削。	遺文文系
87	18	深鉢	口縁部片	細粒多, 良, に近い褐色。	内面粗い研削。	堀之内1
87	19	深鉢	口縁部片	細粒多, 良, 黒色-にに近い褐色。	新文化層, 内面研削。口径(23.2), 残存高9.0。	堀之内2
87	20	深鉢	口縁-製部片	細粒多, 良, 黄褐色。	内外面研削・突起。	堀之内1
87	21	深鉢	口縁部片	細粒多, 良, 明黄褐色。	内面粗い研削, 外面文字。	新文化層
87	22	深鉢	口縁部片	細粒多, 良, に近い黄褐色。	内外面粗い研削, 卑部L口縁文。	新文化層
87	23	深鉢	口縁部片	細粒多, 良, 黒褐色。	内外面研削, 口縁部突起4単位, 口径(25.5), 残存高13.1。	堀之内1
87	24	深鉢	口縁部片	細粒多, 良, 黒褐色。	内面, 外面無文部研削, 卑部L口縁文様, 内外面粗い研削。	堀之内1
87	25	深鉢	口縁部片	細粒やや多, 良, 黒褐色。	内面研削, 卑部L口縁文様と突起L口縁文。	堀之内1
87	26	深鉢	口縁-製部	細粒多, 良, 黄褐色。	内外面粗い研削。	堀之内1
87	27	深鉢	口縁-製部	細粒多, 良, 黄褐色。	内外面研削, 卑部L口縁文, 外面粗い研削。	堀之内1
87	28	深鉢	口縁部片	細粒多, 良, 褐色。	内面, 外面無文部研削, 卑部L口縁文様, 内外面粗い研削。	堀之内1
87	29	深鉢	製部片	細粒少, 良, 褐色。	強, 突起状, 4角現況シムト付。	堀之内1
88	30	深鉢	口縁部片	細粒多, 良, 明赤褐色。	内外面粗い研削。	堀之内1
88	31	深鉢	口縁部片	細粒少, 良, 明赤褐色。	内外面研削。	堀之内1
88	32	深鉢	口縁部片	細粒多, 良, 黒褐色。	内外面粗い研削。	堀之内1
88	33	深鉢	口縁部片	細粒多, 良, 黄褐色。	内外面粗い研削。	堀之内1
88	35	深鉢	口縁部片	細粒多, 良, 褐色。	内外面粗い研削。	堀之内1
88	36	深鉢	口縁-製部	細粒少, 良, 黄褐色。	内外面研削, 内面に浅彫。	堀之内1
88	37	深鉢	口縁部片	細粒多, 良, に近い赤褐色。	内外面研削・突起。	堀之内1
88	38	深鉢	製部片	細粒多, 良, 黒褐色。	内外面研削・突起, 卑部L口縁文。	堀之内1
88	39	深鉢	製部片	細粒多, 良, に近い黄褐色。	内面粗い研削, 外面文字, 卑部L口縁文。	堀之内1
88	40	深鉢	製部片	細粒多, 良, 黄褐色。	内外面研削・突起。	堀之内1
88	41	深鉢	製部片	細粒多, 良, 赤褐色。	内外面研削・突起, 卑部L口縁文。	堀之内1
88	43	深鉢	製部片	細粒多, 良, 黒褐色。	内外面研削, 卑部L口縁文。	堀之内1
88	44	深鉢	製部片	細粒少, 良, に近い赤褐色。	内外面研削, 口径(15.5), 残存高7.5。	堀之内1
88	45	深鉢	口縁部片	細粒多, 良, に近い赤褐色。	内外面研削, 卑部L口縁文, 縁付浅彫。	堀之内2
88	46	深鉢	口縁部片	細粒多, 良, に近い赤褐色。	内外面研削。	堀之内1
88	47	深鉢	口縁部片	細粒多, 良, に近い赤褐色。	内外面研削・突起。	堀之内1
89	48	深鉢	製-底部	細粒多, 良, に近い褐色。	内面文字, 外面粗い研削, 底面に削代。底径8.0, 残存高11.2。	後期
89	49	深鉢	製-底部	細粒多, 良, 橙-黒褐色。	内面文字, 外面文字付突起粗い研削, 底面研削代, 底面白色シムト付着。底径9.4, 残存高16.8。	堀之内1

観音中村遺跡20区52号住居

階級 番号	遺物 番号	種類 名称	残存	粘土・焼成・色調	形状・文様・時期 計測値(単位:cm, L) (目録表参照)	時期・備考
98	1	深鉢	口縁部片	細粒多, 黄褐色付, 良, 褐色。	内面研削, 器底L。	加賀利E2
98	2	深鉢	口縁部片	細粒多, 黄褐色付, 良, に近い黄褐色。	内面研削, 卑部L口縁文。	加賀利E2
98	3	深鉢	製部片	細粒多, 黄褐色付, 良, に近い褐色。	内面文字, 縁付浅彫, 浅彫文様。	加賀利G
98	4	深鉢	口縁部片	細粒多, 良, 褐色。	内外面研削。	加賀利E4
98	5	深鉢	口縁部片	細粒多, 良, 褐色。	内外面研削, 口径(17.6), 残存高7.7。	加賀利G
98	6	深鉢	細粒部片	細粒やや多, 良, 褐色。	内外面研削。口径(15.5), 残存高7.5。	加賀利E2
98	7	深鉢	製部片	細粒多, 良, に近い赤褐色。	内外面粗い研削。	加賀利E2
98	8	深鉢	製部片	細粒多, 良, 褐色。	内外面粗い研削。	加賀利E3
98	10	深鉢	製部片	細粒多, 良, に近い黄褐色-黒褐色。	内面研削, 卑部L口縁文, 浅付浅彫。	加賀利E3
98	11	深鉢	口縁部片	細粒やや多, 良, に近い赤褐色。	内外面研削, 卑部L口縁文。	加賀利E4
98	12	深鉢	口縁部片	細粒多, 良, に近い赤褐色。	内外面研削。	加賀利E4
98	13	深鉢	口縁部片	細粒多, 黄褐色, 褐色-褐色。	内外面研削, 卑部L口縁文付着。	加賀利E4
98	14	深鉢	口縁部片	細粒多, 良, に近い黄褐色。	内外面研削, 縁付L口縁文。	加賀利E4
98	15	深鉢	口縁部片	細粒やや多, 良, 明黄褐色。	内外面研削, 縁付L口縁文。	加賀利E4
98	16	深鉢	製部片	細粒やや多, 良, に近い黄褐色。	内面研削, 縁付文, 卑部L口縁文。	加賀利E4
99	17	深鉢	口縁部片	細粒多, 黄褐色付, 良, 黄褐色。	内外面文字。	加賀利E4
99	18	深鉢	口縁部片	細粒多, 良, に近い赤褐色。	黄付浅彫, 内面研削, 口縁部削代。	加賀利E4
99	19	深鉢	口縁部片	細粒やや多, 良, 黒色。	黄付浅彫, 内外面研削。	新文化層

遺物観察表

国史 番号	遺物 番号	種別 器種	残存	粘土・焼成・色調	胎形・文様の特徴 計測値 (単位: cm, L) は確定値	時期・備考
116	31	深鉢	底部片	白砂多. 良. に赤い褐色	内面ナシ. 内外面研. 底面削代焼.	後期
116	32	深鉢	底部片	白砂少. 良. 灰褐色	内外面研削. 内外面に細いナシ筋を施す. 底面削代焼. 底径 9.0. 残存高 2.5.	後期

観音中村遺跡 20区 75号住居

国史 番号	遺物 番号	種別 器種	残存	粘土・焼成・色調	胎形・文様の特徴 計測値 (単位: cm, L) は確定値	時期・備考
123	2	深鉢	胴部片	白砂多. 良. 明赤褐色	内外面研削. 胴部片に「浅文」	加賀科 3
123	2	深鉢	口縁部片	白砂やや多. 良. に赤い褐色	内外面研削. 単口 L 瓦調文.	加賀科 3
123	3	深鉢	胴部片	白砂多. 良. 明赤褐色	内外面研削. 胎文なし.	加賀科 3
123	4	深鉢	胴部片	白砂多. 良. に赤い褐色	内外面研削. 単口 L 瓦調文.	加賀科 3
123	5	深鉢	胴部片	白砂やや多. 良. に赤い褐色	内外面研削. 単口 L 瓦調文.	加賀科 3
123	6	深鉢	胴部片	白砂多. 良. 灰褐色	内外面研削. 胎文なし L 瓦調文.	加賀科 3
123	7	深鉢	胴部片	白砂やや多. 良. に赤い褐色	内外面研削. 単口 L 瓦調文. 内面削代.	加賀科 3
123	8	深鉢	口縁部片	白砂少. 良. 灰褐色	内外面なし L 研削 + 光沢.	堀之内 2
123	9	山口	胴部片	白砂多. 良. に赤い褐色	内面ナシ. 内外面研削.	堀之内 2
123	10	山口	口縁部片	白砂やや多. 良. 灰褐色	内外面なし L 研削. 外面に突起. 口径 17.5. 残存高 3.4.	堀之内 2
123	11	鉢	口縁部片	白砂多. 良. に赤い褐色	内外面研削.	垂扇後半
123	12	深鉢	胴部片	白砂多. 良. に赤い赤褐色	内外面研削.	堀之内
123	13	鉢	胴部片	白砂多. 良. に赤い褐色	内面ナシ. 内外面に引目状筋.	加賀科住 2-3
123	14	深鉢	胴部片	白砂少. 良. 灰褐色	内外面研削. 胎文処理 + 光沢.	堀之内 2
123	15	深鉢	口縁部片	白砂やや多. 良. に赤い赤褐色	内外面研削. 口径 13.0.0.	堀扇後半

観音中村遺跡 20区 77号住居

国史 番号	遺物 番号	種別 器種	残存	粘土・焼成・色調	胎形・文様の特徴 計測値 (単位: cm, L) は確定値	時期・備考
127	1	深鉢	口縁部片	白砂多. 良. に赤い褐色	内外面研削 + 光沢. 単口 L 瓦調文.	堀之内 2
127	2	深鉢	口縁部片	白砂少. 良. に赤い褐色	内面ナシ.	堀之内 1
127	3	深鉢	口縁部片	白砂多. 良. に赤い褐色	内外面なし研削.	堀之内 1
127	4	深鉢	口縁部片	白砂多. 良. 灰褐色	内外面研削 + 光沢. 単口 L 瓦調文.	堀之内 2
127	5	深鉢	胴部片	白砂多. 良. に赤い褐色	内外面研削 + 研削.	堀之内 1
127	6	深鉢	胴部片	白砂多. 良. に赤い褐色	内外面研削 + 研削.	堀之内 1
127	7	深鉢	胴部片	白砂少. 良. 灰褐色	内外面研削 + 研削.	堀之内 2
127	8	深鉢	胴部片	白砂多. 良. 灰褐色	内外面研削 + 研削.	堀之内 1
127	9	深鉢	胴 - 底部	白砂多. 良. に赤い赤褐色	内外面. 底面研削. 単口 L 瓦調文. 胴部欠削部付存. 胎文により劣化. 底面に色シムル付存. 底径 10.4. 残存高 10.0.	堀之内 2
127	10	深鉢	口縁 - 胴部	白砂多. 良. 灰褐色	内外面研削 + 光沢. 単口 L 瓦調文.	堀之内 2
127	11	深鉢	胴部片	白砂やや多. 良. 灰褐色	内外面研削. 三角形文. 単口 L 瓦調文突起. 外面に色付付存.	堀之内 2
127	12	鉢	胴部片	白砂少. 良. 灰褐色	内外面研削. 胎文処理 + 光沢. 単口 L 瓦調文.	堀之内 2
127	13	ミニチュア	口縁 - 底部 70%残存	細砂やや多. 良. に赤い褐色	内面ナシ. 外面. 底面研削. 無文. 口径 3.4. 底径 3.5. 高さ 5.6.	後期
127	14	山口	胴部片・底部片	白砂やや多. 赤色粘土含む. 良. 褐色	内外面研削. 底面削代焼. 内面的な文様. 単口 L 瓦調文を施す. 底面の磨減が強い. 胴径 (28.2). 底径 (11.0).	堀之内 2
127	15	山口	胴部片	白砂多. 良. 灰色	内面なしナシ. 内外面研削 + 光沢. 単口 L 瓦調文.	堀之内 2
127	16	鉢	胴部片	白砂多. 良. 灰色	内外面研削 + 胎文処理 + 光沢.	堀之内 1
127	17	鉢	胴部片	白砂少. 良. 灰褐色 - 黒褐色	内外面研削研削 + 胎文処理 + 光沢. 単口 L 瓦調文.	堀之内 2
128	18	深鉢	口縁部片	白砂多. 良. に赤い赤褐色	内面なし研削. 標本上.	加賀科 1
128	19	深鉢	胴部片	白砂少. 良. 灰褐色	内外面研削. 単口 L 瓦調文.	加賀科 3
128	20	深鉢	胴部片	白砂多. 良. 明赤褐色	内外面研削.	加賀科 5
128	21	深鉢	口縁部片	白砂多. 良. に赤い褐色	内外面研削 + 研削.	加賀科 3
128	22	深鉢	胴部片	白砂多. 良. 灰色	内外面研削 + 光沢.	堀之内 1
128	23	深鉢	口縁部片	白砂多. 良. に赤い褐色	内外面研削 + 光沢.	堀之内 1
128	24	深鉢	口縁部片	白砂多. 良. 灰色	内外面研削 + 光沢. 口縁に引目.	堀之内 1
128	25	深鉢	胴部片	白砂少. 良. に赤い褐色	内外面研削 + 研削. 単口 L 瓦調文.	堀之内 1
128	26	深鉢	胴部片	白砂多. 良. に赤い褐色	内外面研削 + 光沢. 単口 L 瓦調文.	堀之内 1
128	27	深鉢	胴部片	白砂多. 良. に赤い褐色	内外面研削 + 研削. 単口 L 瓦調文.	堀之内 1
128	28	深鉢	口縁部片	白砂多. 良. 灰褐色	内面ナシ. 内外面研削 + 光沢.	堀之内 2
128	29	深鉢	胴部片	白砂多. 良. 褐色	内外面研削. 単口 L 瓦調文.	中盤

観音中村遺跡 20区 81号住居

国史 番号	遺物 番号	種別 器種	残存	粘土・焼成・色調	胎形・文様の特徴 計測値 (単位: cm, L) は確定値	時期・備考
134	1	深鉢	口縁部片	白砂多. 良. 灰褐色	内外面研削 + 研削.	後期 2
134	2	深鉢	胴部片	白砂多. 雲母含む. 良. 灰赤褐色	内外面研削. 胴部による突起. 縦位花筋付存.	後期 2
134	3	深鉢	胴部片	白砂多. 良. に赤い褐色	内外面研削 + 研削. 単口 L 瓦調文.	加賀科 1
134	4	深鉢	胴部片	白砂多. 良. に赤い褐色	内外面研削 + 研削.	後期 2
134	5	深鉢	口縁部片	白砂多. 良. に赤い赤褐色	内外面研削 + 研削.	後期 3
134	6	深鉢	口縁部片	白砂多. 良. に赤い赤褐色	内外面研削 + 研削. 内面に赤色付存.	後期 3
134	7	深鉢	口縁部片	白砂多. 良. に赤い赤褐色	内外面研削 + 研削.	後期 3
134	8	深鉢	口縁部片	白砂多. 良. に赤い褐色	胎文のない口縁部のみ. 胎文なし.	加賀科住 4
134	9	深鉢	口縁部片	白砂多. 良. に赤い赤褐色	胎文のない口縁部のみ. 胎文なし.	後期 3
134	10	深鉢	口縁部片	白砂多. 良. に赤い赤褐色	胎文のない口縁部のみ. 胎文なし.	後期 3
134	11	深鉢	胴部片	白砂多. 良. に赤い褐色	胎文のない口縁部のみ. 胎文なし.	後期 3
134	12	深鉢	胴部片	白砂多. 良. 褐色	内外面研削 + 光沢.	後期 3
134	13	深鉢	口縁部片	白砂多. 良. に赤い赤褐色	胎文のない口縁部のみ. 胎文なし.	後期 3
134	14	深鉢	胴部片	白砂多. 良. に赤い赤褐色	胎文のない口縁部のみ. 胎文なし.	後期 3
134	15	深鉢	口縁部片	白砂多. 良. に赤い赤褐色	単口 L 瓦調文.	後期 3
134	16	深鉢	胴部片	白砂多. 良. に赤い褐色	胎文有無不明. 内外面研削.	後期 3
134	17	深鉢	胴部片	白砂多. 良. 灰褐色	胎文有無により胎文不明.	堀之内 1
134	18	深鉢	胴部片	白砂多. 良. に赤い赤褐色	内外面ナシ.	高片車

遺物観察表

横濱市洋館跡 20 区 62 号付近			残存	胎土・焼成・色調	器種・文様の特徴		時期・備考
図物番号	遺物番号	種類			計測値 (単位: cm. () は推定値)	説明	
140	1	深鉢	口縁～胴部	磁粒多, 白色粒子多, 良, に近い赤褐色。	突起4単位, 内面, 外面無文研磨。単脚R1黒文垂唐文文。	縦之内1	
140	2	深鉢	口縁～胴部	磁粒中～多, 良, 明褐色。	内外赤面研。口径 16.5。残存高さ 6.5。	縦之内1	
140	3	深鉢	口縁～胴部	磁粒中～多, 良, に近い黒褐色。	表面劣化。調整不明。単脚R1黒文。口径 13.0。残存高さ 13.6。	縦之内1	
140	4	鉢	口縁～底部	磁粒多, 良, に近い褐色。	突起3単位, 外面, 底面研磨。胴部に近い内面, 内面に四角の格子状紋。口径 9.5。高さ 5.0。残存高さ 4.8。	縦之内1	
140	5	缶	口縁～底部 80%	磁粒多, 良, 褐色。	胴部に除磨を91%単位で突起。突起から2条の横帯を垂下させ, 胴部下部に横帯状把手。面に沈線文, 刺突有。口径 4.0。高さ 15.4。	縦之内1	
140	6	深鉢	胴部	磁粒多, 赤色粒子含む, 良, 褐色。	内面, 外面無文研磨。胴部に横帯突起。単脚R1黒文垂唐文。残存高さ 4.1。	縦之内1	
140	7	深鉢	口縁～胴部	磁粒中～多, 良, 黒褐色。	表面劣化により調整不明。単脚R1黒文垂唐文。口径 18.0。	縦之内1	
140	8	深鉢	口縁～胴部	磁粒多, 白色粒子多, 良, に近い黄褐色。	突起4単位, 内外赤面研。沈線文。口径 13.0。残存高さ 45.5。	縦之内1	
141	9	深鉢	口縁部片	磁粒多, 良, 黒褐色。	表面劣化。	縦之内1	
141	10	深鉢	口縁部片	磁粒多, 良, 褐色。	表面劣化。	縦之内1	
141	11	深鉢	口縁部片	磁粒多, 良, に近い赤褐色。	表面劣化。	縦之内1	
141	12	深鉢	口縁部片	磁粒多, 良, に近い褐色。	内外赤面研。外面平。内外赤面研。単脚R1黒文。	縦之内1	
141	13	深鉢	胴部片	磁粒多, 良, 黒褐色。	内外赤面研。単脚R1黒文。	縦之内1	
141	14	深鉢	胴部片	磁粒多, 良, に近い黄褐色。	内外赤面研。単脚R1黒文。	縦之内1	
141	15	深鉢	胴部片	磁粒多, 良, に近い褐色。	内外赤面研。外面平。	縦之内1	
141	16	深鉢	胴部片	磁粒多, 良, に近い黄褐色。	内外赤面研。外面平。	縦之内1	
141	17	深鉢	胴部片	磁粒多, 良, に近い褐色。	内外赤面研。単脚R1黒文。	縦之内1	
141	18	深鉢	胴部片	磁粒多, 良, に近い黄褐色。	内外赤面研。単脚R1黒文。	縦之内1	
141	19	深鉢	胴部片	磁粒多, 良, 褐色。	内外赤面研。単脚R1黒文。	縦之内1	
141	20	深鉢	胴部片	磁粒多, 良, 褐色。	内外赤面研。単脚R1黒文。	縦之内1	
141	21	深鉢	胴部片	磁粒多, 良, 灰褐色。	内外赤面研。単脚R1黒文。	縦之内1	
142	22	深鉢	口縁～胴部	磁粒多, 青褐色, 黒褐色。	内外赤面研。単脚R1黒文。表面調整中～多で凹凸あり。	縦之内1	
142	23	深鉢	口縁～胴部	磁粒中～多, 良, 褐色。	内外赤面研。調整印に伴う横帯部。口径 33.0。残存高さ 11.1。	縦之内1	
142	24	深鉢	胴部片	磁粒多, 良, 明黄褐色。	表面劣化。	縦之内1	
142	25	深鉢	胴部片	磁粒多, 良, 明黄褐色。	表面劣化。	縦之内1	
142	26	深鉢	胴部片	磁粒多, 良, 明黄褐色。	表面劣化。	縦之内1	
142	27	深鉢	胴部片	磁粒多, 良, 褐色。	内外赤面研。	縦之内1	
142	28	深鉢	口縁部片	磁粒多, 良, 黒褐色。	内外赤面研。外面平。	縦之内1	
142	29	深鉢	口縁部片	磁粒多, 良, 褐色。	内外赤面研。	縦之内1	
142	30	深鉢	口縁部片	磁粒多, 良, 褐色。	内外赤面研。沈線1線文。	縦之内1	
142	31	土製陶輪	空部	磁粒多, 良, に近い黄褐色。	内外赤面研。最大径 5.3。調整印。最大径 2.6。	縦之内1	
142	32	土製陶輪	空部	磁粒多, 良, に近い黄褐色。	内外赤面研。最大径 5.3。調整印。最大径 2.6。	縦之内1	
142	33	土製陶輪	法廷空部	磁粒多, 良, に近い黄褐色。	調整印。最大径 3.7。調整印。最大径 2.7。	縦之内1	
142	34	土製陶輪	空部	磁粒中～多, 良, に近い褐色。	調整印。最大径 3.1。調整印。最大径 3.1。	縦之内1	
142	35	土製陶輪	空部	磁粒多, 良, 明褐色。	調整印。最大径 3.6。調整印。最大径 3.6。	縦之内1	
142	36	土製陶輪	空部	磁粒多, 良, 明褐色。	調整印。最大径 3.6。調整印。最大径 3.6。	縦之内1	
142	37	土製陶輪	空部	磁粒多, 良, 明褐色。	調整印。最大径 3.6。調整印。最大径 3.6。	縦之内1	
143	38	土製陶輪	60%	磁粒中～多, 良, 褐色。	表面劣化により調整不明。無文研磨。白色粒子などは確認できない。長軸外径 110.0。残存 9.9。短軸外径 8.5。厚さ 9.1。厚さ (2.2)。29 セットが 3。	縦之内1	
143	39	土製陶輪	80%	磁粒中～多, 赤色粒子多く含む, 良, 褐色。	表面劣化により調整不明。無文研磨。白色粒子などは確認できない。長軸外径 10.7。内径 7.2。短軸外径 8.3。内径 5.6。厚さ 2.4。38 セットが 4。	縦之内1	
143	40	土製陶輪	80%	磁粒多, 良, 赤褐色。	内外赤面研。白色粒子などは確認できない。長軸外径 10.6。内径 7.5。短軸外径 7.7。内径 4.6。厚さ 4.25。	縦之内1	
143	41	土製陶輪	法廷空部	磁粒多, 赤色粒子含む, に近い褐色。	調整印 5ヶ所。最大径 5.4。	縦之内1	
143	42	土製陶輪	法廷空部	磁粒多, 良, 褐色。	調整印。最大径 4.0。調整印。最大径 3.8。	縦之内1	
143	43	土製陶輪	法廷空部	磁粒多, 良, 明赤褐色。	調整印。最大径 5.8。調整印。最大径 5.8。	縦之内1	
143	44	土製陶輪	空部	磁粒多, 良, に近い褐色。	調整印。最大径 5.3。最大径 5.3。	縦之内1	
143	45	土製陶輪	法廷空部	磁粒多, 良, に近い黄褐色。	調整印。最大径 5.8。調整印。最大径 5.8。	縦之内1	
143	46	土製陶輪	法廷空部	磁粒多, 赤褐色粒子含む, 良, に近い褐色。	調整印。最大径 5.4。調整印。最大径 5.4。	縦之内1	

横濱市洋館跡 20 区 65 号付近			残存	胎土・焼成・色調	器種・文様の特徴		時期・備考
図物番号	遺物番号	種類			計測値 (単位: cm. () は推定値)	説明	
151	1	深鉢	口縁部片	磁粒多, 白色粒子多, 雲母含む, 良, 灰黄褐色。	把手片。調整印に伴う縦帯部。	不明	
151	2	深鉢	胴部片	磁粒多, 良, に近い黄褐色。	内外赤面研。	不明	
151	3	深鉢	胴部片	磁粒多, 良, 黒褐色。	内外赤面研。	不明	
151	4	皿	約半部片	磁粒多, 良, 黒褐色に近い褐色。	約半部。全面研磨。	縦之内1	
151	5	深鉢	口縁部片	磁粒中～多, 良, に近い褐色。	中穴状把手。内面研磨。内面に未調磨。	縦之内1	
151	6	深鉢	口縁部片	磁粒中～多, 良, に近い黄褐色。	把手片。内外赤面研。	縦之内1	
151	7	深鉢	口縁部片	磁粒中～多, 良, に近い黄褐色。	把手片。内外赤面研。	縦之内1	
151	8	深鉢	口縁部片	磁粒多, 良, に近い褐色。	内外赤面研。	縦之内1	
151	9	深鉢	口縁部片	磁粒多, 良, に近い褐色。	内外赤面研。	縦之内1	
151	10	深鉢	口縁部片	磁粒多, 良, に近い褐色。	内外赤面研。	縦之内1	
151	11	深鉢	口縁部片	磁粒多, 良, 褐色。	内外赤面研。	縦之内1	
151	12	深鉢	口縁部片	磁粒中～多, 良, 黒褐色。	内外赤面研。穴尻。	縦之内1	
151	13	深鉢	口縁部片	磁粒多, 良, 黒褐色。	内外赤面研。穴尻。	縦之内1	
151	14	深鉢	口縁部片	磁粒中～多, 良, 黒褐色。	内外赤面研。穴尻。	縦之内1	
151	15	深鉢	口縁部片	磁粒多, 青褐色, に近い褐色。	内外赤面研。単脚R1黒文。	縦之内1	
151	16	深鉢	口縁部片	磁粒多, 良, 褐色。	内外赤面研。単脚R1黒文。	縦之内1	
151	17	鉢	胴部片	磁粒多, 青褐色, に近い褐色。	内外赤面研。	縦之内1	
151	18	鉢	胴部片	磁粒多, 良, 灰褐色。	内外赤面研。	縦之内1	
151	19	鉢	胴部片	磁粒多, 良, に近い黄褐色。	内外赤面研。穴尻。	縦之内1	
151	20	鉢	胴部片	磁粒多, 良, 褐色。	内外赤面研。単脚R1黒文。	縦之内1	
151	21	深鉢	胴部片	磁粒多, 良, 褐色。	内外赤面研。	縦之内1	
151	22	深鉢	胴部片	磁粒多, 良, に近い褐色。	内外赤面研。	縦之内1	
151	23	深鉢	胴部片	磁粒多, 良, 黒褐色。	内外赤面研。穴尻。単脚R1黒文。	縦之内1	
151	24	深鉢	胴部片	磁粒多, 良, 黒褐色。	内外赤面研。単脚R1黒文。	縦之内1	
151	25	深鉢	胴部片	磁粒多, 良, に近い黄褐色。	内外赤面研。単脚R1黒文。	縦之内1	
151	26	深鉢	胴部片	磁粒多, 赤色粒子多, 良, に近い褐色。	内面研磨。文様3単位。3条単位の沈線文。単脚R1黒文垂唐文。残存部上半は被磨。より劣化。残存高さ 6.7。	縦之内1	

遺物観察表

調査 番号	遺物 番号	種類 名称	残存	胎土・焼成・色調	胎形・文様の特徴		時期・備考
					計測値(単位:cm,)	(注:確定値)	
151	27	深鉢	胴一底部	胎土中々多、良、に赤い褐色。	内外面粗い研削。	底面研削、底面彫文、底径9.0、残存高13.7。	堀之内1
152	28	深鉢	胴部分	胎土多、良、灰青褐色。	内外面研削、単胎1段彫文。		堀之内1
152	29	深鉢	胴部分	胎土多、良、に赤い赤褐色。	内外面研削、単胎1段彫文。		堀之内1
152	30	深鉢	胴部分	胎土多、良、に赤い赤褐色。	内外面粗い研削。		堀之内1
152	31	深鉢	胴部分	胎土多、良、に赤い赤褐色。	内外面研削、単胎1段彫文。		堀之内1
152	32	深鉢	胴部分	胎土多、良、に赤い赤褐色。	内外面研削、単胎1段彫文。		堀之内1
152	33	深鉢	胴部分	胎土多、良、灰青褐色。	内外面研削、単胎1段彫文。		堀之内1
152	34	深鉢	胴部分	胎土多、良、に赤い赤褐色。	内外面粗い研削、単胎1段彫文。		堀之内1
152	35	深鉢	胴部分	胎土多、良、灰青褐色。	内外面粗い研削。		堀之内1
152	36	山口	胴部分	胎土多、良、灰褐色。	内面粗いすり下、外面研削、光沢。		堀之内2
152	37	深鉢	胴部分	胎土多、良、灰青褐色。	内外面研削、単胎1段彫文。		堀之内2
152	38	深鉢	胴部分	胎土多、良、に赤い赤褐色。	内外面粗い研削。		堀之内2
152	39	深鉢	胴部分	胎土多、良、灰褐色。	内外面粗い研削、単胎1段彫文。		堀之内2
152	40	深鉢	胴部分	胎土多、良、灰青褐色。	内外面研削、単胎1段彫文。		堀之内2
152	41	深鉢	胴部分	胎土少、良、灰青褐色。	内外面研削、光沢。		堀之内2
152	42	深鉢	胴部分	胎土多、良、に赤い赤褐色。	内外面粗い研削。		堀之内2
152	43	深鉢	胴部分	胎土多、良、灰褐色。	内外面粗い研削、単胎1段彫文。		堀之内2
152	44	深鉢	胴部分	胎土少、良、に赤い赤褐色。	内外面粗い研削。		加賀利良1
152	45	深鉢	胴部分	胎土少、良、に赤い赤褐色。	内外面粗い研削。		加賀利良2~3
152	46	山口	胴一底部	胎土多、良、褐色。	内外面すり下研削、底面不明、底径8.0、残存高7.1、破損。		堀之内2
152	47	深鉢	口縁部分	胎土多、良、褐色。	内外面粗い研削、馬面1段彫文。		堀之内2
152	48	深鉢	底部分	胎土少、良、褐色。	内外面研削、光沢、底面1層代彫、底径(9.0)、残存高3.0。		堀之内2
152	49	深鉢	底部分	胎土少、良、明赤褐色。	内外面研削、光沢、底面1層代彫、底径(10.0)、残存高3.3。		堀之内2
152	50	深鉢	底部分	胎土多、良、灰褐色。	内外面研削、光沢、底面1層代彫、底径(8.0)、残存高4.3。		堀之内2
152	51	土製刀削	完形	胎土中々多、赤色和子含む、良、明褐色。	調整良、細線すり下欠き後研削、最大径5.8。		堀之内1

観音中村遺跡 20区 98号住居

調査 番号	遺物 番号	種類 名称	残存	胎土・焼成・色調	胎形・文様の特徴		時期・備考
					計測値(単位:cm,)	(注:確定値)	
155	1	深鉢	胴部分	胎土中々多、良、明赤褐色。	内外面研削、単胎1段彫文、残存高11.5。		堀之内2
155	2	深鉢	胴部分	胎土少、良、に赤い赤褐色。	内外面研削、単胎1段彫文。		堀之内2 (浅形類)
155	3	深鉢	胴部分	胎土少、良、灰褐色。	内外面研削。		堀之内1
155	4	深鉢	胴部分	胎土少、良、明赤褐色。	内外面粗い研削。		堀之内2
155	5	深鉢	口縁部分	胎土多、良、褐色。	内外面研削。		堀之内2
155	6	深鉢	胴部分	胎土多、良、明赤褐色。	内外面研削。		中層
155	7	深鉢	胴部分	胎土中々多、良、灰赤一灰褐色。	内外面すり下研削、内外面に赤色滑沢あり。		中層
155	8	深鉢	口縁部分	胎土多、表面均等、良、褐色。	内外面研削、すり下研削。		古川層
155	9	深鉢	胴部分	胎土多、表面均等、良、灰褐色。	内外面研削、すり下研削、8と同一個体。		古川層
155	10	深鉢	口縁部分	胎土多、良、に赤い赤褐色。	表面劣化により調整不明。		古草文系
155	11	深鉢	胴部分	胎土多、良、に赤い赤褐色。	表面劣化により調整不明。		古草文系
155	12	深鉢	胴部分	胎土多、良、に赤い赤褐色。	表面劣化により調整不明。		古草文系

観音中村遺跡 20区 108号住居

調査 番号	遺物 番号	種類 名称	残存	胎土・焼成・色調	胎形・文様の特徴		時期・備考
					計測値(単位:cm,)	(注:確定値)	
157	1	深鉢	口縁部分	胎土多、良、褐色。	内外面粗い研削、8と同一個体。		堀之内2?
157	2	深鉢	口縁部分	胎土多、良、灰褐色。	内外面粗い研削。		堀之内1
157	3	深鉢	胴部分	胎土多、良、に赤い赤褐色。	内外面粗い研削。		堀之内1
157	4	深鉢	胴部分	胎土多、良、褐色。	内外面粗い研削、単胎1段彫文。		堀之内1
157	5	深鉢	胴部分	胎土多、良、灰青褐色。	内外面粗い研削、8と同一個体。		堀之内2?
157	6	深鉢	底部分	胎土多、良、褐色。	表面劣化、底面彫削、底径8.4、残存高2.4。		破損

観音中村遺跡 20区 109号住居

調査 番号	遺物 番号	種類 名称	残存	胎土・焼成・色調	胎形・文様の特徴		時期・備考
					計測値(単位:cm,)	(注:確定値)	
160	1	深鉢	口縁部分	胎土多、良、褐色。	内外面研削、表面劣化。		加賀利良4
160	2	深鉢	口縁部分	胎土多、良、灰褐色。	表面劣化。		加賀利良4
160	3	深鉢	胴部分	胎土多、表面均等、良、褐色。	表面劣化により調整不明。		古草文系
160	4	深鉢	口縁部分	胎土多、良、褐色。	すり下、単胎1段彫文。		加賀利良4~6、株名等
160	5	深鉢	胴部分	胎土多、良、明赤褐色。	内外面研削、単胎1段彫文。		堀之内2
160	6	深鉢	胴部分	胎土多、良、褐色。	内外面研削、表面劣化。		加賀利良4
160	7	深鉢	胴部分	胎土多、良、明赤褐色。	表面劣化。		加賀利良4~6、株名等
160	8	深鉢	胴部分	胎土多、赤色和子含む、良、赤褐色。	粗面研削、縁文、表面劣化により調整不明。		加賀利良4
160	9	深鉢	口縁部分	胎土多、良、に赤い赤褐色。	単胎1段彫文。		中層、株名等
160	10	深鉢	胴部分	胎土多、良、褐色。	内外面研削、単胎1段彫文。		加賀利良4~6、株名等
160	11	深鉢	底部分	胎土多、良、灰青褐色。	内外面粗い研削。		破損

観音中村遺跡 20区 114号住居

調査 番号	遺物 番号	種類 名称	残存	胎土・焼成・色調	胎形・文様の特徴		時期・備考
					計測値(単位:cm,)	(注:確定値)	
164	1	深鉢	胴部分	胎土中々多、良、に赤い赤褐色。	表面劣化により調整不明、単胎1段彫文在、残存高10.7。		堀之内1
164	2	深鉢	胴一底部	胎土多、良、に赤い赤褐色。	内外面粗い研削、外面研削、底面研削(胴代研削あり)、単胎1段彫文在、底径8.4、残存高13.6。		堀之内1
164	3	深鉢	胴部分	胎土多、良、に赤い赤褐色。	内外面粗い研削、外面すり下研削を施す。		加賀利良2~3

観音中村遺跡 20区 23号住居

調査 番号	遺物 番号	種類 名称	残存	胎土・焼成・色調	胎形・文様の特徴		時期・備考
					計測値(単位:cm,)	(注:確定値)	
167	1	深鉢	胴部分	胎土多、良、に赤い赤褐色。	内外面粗い研削、単胎1段彫文。		株名等1
167	2	深鉢	胴部分	胎土多、良、褐色。	内外面粗い研削。		株名等1
167	3	深鉢	口縁部分	胎土多、良、褐色。	内外面粗い研削。		堀之内1
167	4	深鉢	胴部分	胎土多、良、に赤い赤褐色。	内外面粗い研削。		堀之内2
167	5	深鉢	胴部分	胎土中々少、良、褐色。	内外面研削、褐色肌磨、光沢。		堀之内2
167	6	深鉢	胴部分	胎土多、良、灰青褐色。	内外面粗い研削。		堀之内2
167	7	深鉢	胴部分	胎土多、良、赤褐色。	内面研削、外面粗い研削。		破損
167	8	山口	胴部分	胎土中々多、良、褐色。	内外面すり下、表面研削、8と同一個体。		加賀利良1
167	9	山口	底部分	胎土中々多、良、褐色。	内外面すり下、外面研削、光沢、底面1層代彫、8と同一個体。		加賀利良1
167	10	深鉢	口縁部分	胎土多、良、褐色。	内外面すり下。		堀之内2
167	11	深鉢	口縁部分	胎土多、良、灰青褐色。	内外面粗い研削。		破損

遺物観察表

国名	遺物 番号	種類	残存	土・焼成・色調	資料・文書の種類		時期・備考
					計数(単位)	(目録文種)	
176	90	漆鉢	口縁部片	細粒多、良、黒褐色	内外面研削、顔から卑部、R線文文様		朝之内2
176	91	漆鉢	口縁部片	細粒少、良、黒褐色	内外面研削、卑部、R線文		朝之内2
176	92	漆鉢	口縁部片	細粒多、良、黒褐色	内外面研削、卑部、R線文		朝之内2
176	93	漆鉢	口縁部片	細粒多、良、黒褐色	内外面研削、卑部、R線文		朝之内2
176	94	漆鉢	口縁部片	細粒多、良、黒褐色	内外面研削、卑部、R線文		朝之内2
176	95	漆鉢	口縁部片	細粒多、良、黒褐色	内外面研削		朝之内2
176	96	漆鉢	口縁部片	細粒多、良、黒褐色	内外面研削、卑部、R線文		朝之内2
176	97	漆鉢	口縁部片	細粒多、良、黒褐色	内外面研削、卑部、R線文		朝之内2
176	98	漆鉢	口縁部片	細粒多、良、黒褐色	内外面研削		朝之内2
176	99	漆鉢	製部片	細粒少、良、に少し黄褐色	内外面研削、卑部、R線文		朝之内2
176	100	漆鉢	製部片	細粒少、良、に少し黄褐色	内外面研削、光沢		朝之内2
176	101	漆鉢	製部片	細粒多、良、黄褐色	内外面研削		朝之内2
176	102	漆鉢	製部片	細粒多、良、に少し黄褐色	内外面研削、卑部、R線文		朝之内2
176	103	漆鉢	製部片	細粒多、良、黒褐色	内外面研削、卑部、R線文		朝之内2
176	104	漆鉢	製部片	細粒多、良、黄褐色	内外面研削、研削		朝之内2
176	105	漆鉢	製部片	細粒多、良、黄褐色	内外面研削、灰色処理、光沢、卑部、R線文		朝之内2
176	106	漆鉢	製部片	細粒多、良、黒褐色	内外面研削、卑部、R線文		朝之内2
176	107	漆鉢	製部片	細粒多、良、黒褐色	内外面研削、黒色処理、光沢		朝之内2
176	108	漆鉢	製部片	細粒少、良、褐色	内外面研削、光沢		朝之内2
176	109	漆鉢	製部片	細粒多、良、に少し黄褐色	内外面研削、研削、卑部、R線文		朝之内2
176	110	漆鉢	製部片	細粒少、良、黄褐色	内外面研削、光沢		朝之内2
176	111	漆鉢	製部片	細粒少、良、に少し黄褐色	内外面研削、光沢、卑部、R線文		朝之内2
176	112	漆鉢	製部片	細粒少、良、黒色	内外面研削、光沢		朝之内2
176	113	漆鉢	製部片	細粒多、良、に少し黄褐色	内外面研削、卑部、R線文		朝之内2
176	114	漆鉢	製部片	細粒少、良、黄褐色	内外面研削、灰色処理、光沢、卑部、R線文		朝之内2
176	115	漆鉢	口縁部片	細粒多、良、黄褐色	内外面研削、光沢		朝之内2
176	116	漆鉢	口縁部片	細粒少、良、に少し黄褐色	内外面研削、光沢		朝之内2
176	117	漆鉢	製-肌部	細粒少、良、黄褐色	内外面研削、灰色処理、光沢、底面研削		朝之内2
177	118	漆鉢	口縁-製部	細粒多、良、に少し黄褐色	内外面研削、内面研削		朝之内2
177	119	漆鉢	口縁部片	細粒多、良、に少し黄褐色	内外面研削、内面研削		朝之内2
177	120	漆鉢	製部片	細粒多、良、に少し黄褐色	内外面研削、内面研削		朝之内2
177	121	漆鉢	製部片	細粒多、良、に少し黄褐色	内外面研削		後期
177	122	山口	口縁-製部	細粒少、良、に少し黄褐色	内面研削		朝之内2
177	123	山口	口縁部片	細粒少、良、黄褐色	内外面研削、光沢		加賀朝臣1
177	124	山口	口縁部片	細粒多、良、に少し黄褐色	内面研削、内面研削		朝之内2
177	125	山口	口縁部片	細粒少、良、黒褐色	内外面研削、光沢、内面研削、光沢		朝之内2
177	126	山口	口縁部片	細粒多、普通、灰白色	内面研削、卑部、R線文		朝之内2
177	127	山口	製部片	細粒少、良、黒褐色	内外面研削		朝之内2
177	128	漆鉢	製部片	細粒多、良、に少し黄褐色	内外面研削、卑部、R線文		朝之内2
177	129	漆鉢	製部片	細粒少、良、黒褐色	内外面研削		朝之内2
177	130	山口	製部片	細粒少、良、黄褐色	内外面研削		朝之内2
177	131	山口	山口部片	細粒少、良、に少し黄褐色	内面研削		朝之内2
177	132	山口	山口部片	細粒少、良、に少し黄褐色	内面研削		朝之内2
177	133	山口	山口部片	細粒少、良、に少し黄褐色	内面研削		朝之内2
177	134	山口	山口部片	細粒多、良、黄褐色	全面研削		加賀朝臣1
177	135	漆鉢	底面片	細粒少、良、に少し黄褐色	内面研削、灰色処理、光沢、外面研削、卑部、R線文、研削、底研削		後期
178	138	漆鉢	製部片	細粒少、良、黄褐色	内外面研削、灰色処理、光沢、山口上同一個体		朝之内2
178	137	漆鉢	製部片	細粒少、良、黄褐色	内外面研削、灰色処理、光沢、山口上同一個体		朝之内2
178	138	漆鉢	製部片	細粒多、良、に少し黄褐色	内面研削、研削、卑部、R線文		加賀朝臣1
178	139	漆鉢	製部片	細粒少、良、黄褐色	内外面研削、卑部、R線文		加賀朝臣1
178	140	漆鉢	口縁部片	細粒少、良、黄褐色	内外面研削、光沢、無部、R線文		加賀朝臣2
178	141	漆鉢	口縁部片	細粒少、良、黄褐色	内外面研削		加賀朝臣1
178	142	漆鉢	製部片	細粒少、良、に少し黄褐色	内外面研削、卑部、R線文		加賀朝臣1
178	143	漆鉢	口縁部片	細粒多、良、黄褐色	内外面研削、光沢		加賀朝臣2-3
178	144	漆鉢	口縁部片	細粒多、良、黄褐色	内外面研削		加賀朝臣2
178	145	漆鉢	口縁部片	細粒多、良、黄褐色	内外面研削		加賀朝臣2
178	146	漆鉢	製部片	細粒少、良、に少し黄褐色	内外面研削		加賀朝臣2
178	147	漆鉢	製部片	細粒少、良、黄褐色	内外面研削		加賀朝臣2-3
178	148	漆鉢	口縁部片	細粒多、良、黄褐色	内外面研削、光沢		加賀朝臣2-3
178	149	漆鉢	口縁部片	細粒多、良、黄褐色	灰白、山口、内外面研削、光沢		加賀朝臣2-3
178	150	漆鉢	口縁部片	細粒少、良、黒褐色	内外面研削、卑部、R線文		加賀朝臣2-3
178	151	漆鉢	製部片	細粒多、良、に少し黄褐色	内外面研削、研削		加賀朝臣1
178	152	漆鉢	製部片	細粒多、普通、黄褐色	内面研削		加賀朝臣1
178	153	漆鉢	製部片	細粒多、良、に少し黄褐色	内外面研削、光沢		加賀朝臣1
178	154	漆鉢	製部片	細粒多、良、黄褐色	内外面研削、内面研削		加賀朝臣2-3
178	155	漆鉢	製部片	細粒少、良、に少し黄褐色	内外面研削、光沢		加賀朝臣2-3
178	156	漆鉢	製部片	細粒多、良、明赤褐色	内外面研削、光沢		加賀朝臣2-3
178	157	漆鉢	製部片	細粒多、良、に少し黄褐色	内面研削、内面研削		加賀朝臣2-3
178	158	漆鉢	製部片	細粒多、良、に少し黄褐色	内外面研削、内面研削		加賀朝臣2-3
178	159	漆鉢	製部片	細粒多、良、に少し黄褐色	内外面研削、内面研削		加賀朝臣2-3
178	160	漆鉢	製部片	細粒多、良、に少し黄褐色	内面研削、内面研削		加賀朝臣2-3
178	161	漆鉢	製部片	細粒多、良、黄褐色	内外面研削、光沢		加賀朝臣2-3
179	162	漆鉢	製部片	細粒多、良、黄褐色	内外面研削、光沢		加賀朝臣2-3
179	163	漆鉢	製部片	細粒多、良、に少し黄褐色	内外面研削、光沢		加賀朝臣2-3
179	164	漆鉢	製部片	細粒多、良、黄褐色	内外面研削、光沢		加賀朝臣2-3
179	165	漆鉢	製部片	細粒多、良、に少し黄褐色	内外面研削		加賀朝臣2-3
179	166	漆鉢	製部片	細粒少、良、黄褐色	内外面研削		加賀朝臣2-3
179	167	漆鉢	製部片	細粒少、良、黄褐色	内外面研削		加賀朝臣2-3
179	168	漆鉢	口縁部片	細粒多、良、黄褐色	内外面研削		加賀朝臣2-3
179	169	漆鉢	口縁部片	細粒多、良、黒褐色	内外面研削、研削		朝之内1
179	170	漆鉢	口縁部片	細粒多、良、に少し黄褐色	内外面研削、光沢		加賀朝臣2-3
179	171	漆鉢	口縁部片	細粒多、良、に少し黄褐色	内外面研削、光沢、黄白、山口		加賀朝臣2-3
179	172	漆鉢	製部片	細粒多、良、に少し黄褐色	内外面研削、灰色処理、光沢、外面研削、研削		加賀朝臣2-3
179	173	漆鉢	口縁部片	細粒多、良、黄褐色	内外面研削		加賀朝臣2-3
179	174	漆鉢	口縁部片	細粒多、良、黄褐色	内面研削、研削、卑部、R線文		高丹庫
179	175	漆鉢	口縁部片	細粒多、良、黄褐色	内外面研削		高丹庫
179	176	漆鉢	口縁部片	細粒多、良、に少し黄褐色	内外面研削		高丹庫
179	177	漆鉢	口縁部片	細粒少、良、に少し黄褐色	内面研削、研削、無部、R線文		高丹庫
179	178	漆鉢	口縁部片	細粒少、良、褐色	内外面研削		高丹庫
179	179	漆鉢	口縁部片	細粒多、良、赤褐色	内外面研削		高丹庫

遺物観察表

採取 番号	遺物 番号	種別 器種	残存	胎土・焼成・色調	胎形・文様の特徴		時期・備考
					寸法値 (単位:cm.()は推定値)	詳細	
179	180	深鉢	口縁部片	砂粒少, 黒, 黒褐色	内外面研磨	高丹車	高丹車
179	181	鉢	口縁部片	砂粒少, 黒, 黒褐色	内外面研磨	高丹車	高丹車
179	182	深鉢	口縁-胴部	細砂粒少, 黒, 暗褐色	内外面研磨・光沢	高丹車	高丹車
179	183	深鉢	口縁部片	砂粒多, 黒, 黒褐色	内外面研磨	高丹車	高丹車
179	184	深鉢	口縁部片	砂粒多, 黒, 黒褐色	内外面研磨	高丹車	高丹車
179	185	深鉢	口縁部片	砂粒少, 黒, 黒褐色	内外面研磨	高丹車	高丹車
179	186	深鉢	口縁部片	砂粒少, 黒, 黒褐色	内外面研磨	高丹車	高丹車
179	187	深鉢	胴部片	砂粒多, 黒, 黒褐色	内外面研磨	高丹車	高丹車
179	188	深鉢	胴部片	砂粒多, 黒, 黒褐色	内外面研磨	高丹車	高丹車
179	189	深鉢	胴部片	砂粒多, 黒, 黒褐色	内外面研磨・光沢	高丹車	高丹車
179	190	深鉢	口縁部片	砂粒多, 黒, 黒褐色	内外面研磨	高丹車	高丹車
179	191	鉢	口縁-胴部	細砂粒少, 黒, 黒褐色	内外面研磨・光沢, 卑部上段研文	安行1~2	安行3a
180	192	深鉢	胴-底部	細砂粒少, 黒, 黒褐色	内外面研磨・光沢, 卑部上段研文 内面彫・研磨, 外面研磨・光沢, 内外面黒色処理, 底径 6.8, 残存高 2.5.	後期	後期
180	193	深鉢	底部片	砂粒少, 普通, 黒い黄褐色	底蓋部突出, 今平上付感	後期	後期
180	194	鉢	底部片	砂粒多, 黒, 黒褐色	内外面研磨・黒色処理, 底蓋部代用, 底径 (5.0), 残存高 1.6.	後期	後期
180	195	深鉢	底部片	砂粒多, 黒, 黒褐色	内外面研磨・光沢, 底蓋部代用, 底径 (5.8), 残存高 2.7.	後期	後期
180	196	口付子	底部片	細砂粒少, 黒, 黒褐色	内外面研磨・研磨, 外面研磨・光沢, 内外面黒色処理	後期	後期
180	197	口付子蓋	底蓋-右面片	砂粒多, 黒, 黒褐色	内外面研磨	後期	後期
180	198	鉢	底部片	細砂粒多, 黒, 黒褐色	内外面研磨・研磨, 底面研磨, 外面炭化物付着, 底径 6.0, 残 存高 1.6.	後期	後期
180	199	深鉢	底部片	砂粒多, 黒, 黒褐色	内外面研磨	後期	後期
180	200	口付子	底部片	細砂粒少, 黒, 黒褐色	内外面研磨・研磨, 外面研磨・光沢	後期	後期
180	201	深鉢	底部片	砂粒多, 黒, 黒褐色	内外面研磨	後期	後期
180	202	鉢	底部片	砂粒少, 黒, 灰黄褐色	内外面研磨	後期	後期
180	203	深鉢	底部片	砂粒多, 黒, 黒褐色	底蓋部研 (細粒) 残存, 底径 (11.6), 残存高 1.6.	後期	後期
180	204	深鉢	底部片	砂粒多, 黒, 黒褐色	内外面研磨	後期	後期
180	205	深鉢	底部片	細砂粒少, 黒, 灰黄褐色	内外面研磨・研磨, 外面研磨・光沢, 底蓋部代用, 内面黒色処理, 底径 6.2, 残存高 1.6.	後期	後期
180	206	深鉢	底部片	砂粒少, 黒, 黒褐色	内外面研磨	後期	後期
180	207	深鉢	胴-底部	砂粒多, 黒, 黒褐色	内外面研磨	後期	後期
180	208	深鉢	底部片	砂粒多, 黒, 黒褐色	内外面研磨・研磨, 底蓋部代用, 底径 10.0, 残存高 4.7.	後期	後期
180	209	深鉢	底部片	砂粒多, 黒, 灰黄褐色	内外面研磨・研磨, 底蓋部代用, 底径 12.0, 残存高 4.8.	後期	後期
180	210	筒形土	底部片	細砂粒少, 黒, 黒褐色	卑部上段研文, 底蓋の両面性も亦あり	後期	後期
180	211	口蓋子	40%	砂粒少, 黒, 黒褐色	内外面研磨	後期	後期
180	212	土製川磨	字形	砂粒少, 黒, 暗褐色	調整良, 内面からの磨きあり, 最大径 5.4.	後期	後期
181	213	土製川磨	字形	細砂粒, 黒, 黒褐色	調整良, 無磨打欠欠, 内外面ナ子, 外面研磨, 最大径 1.7, 調整良, 無磨打欠欠と研磨, 内面ナ子, 外面研磨, 最大径 2.5.	後期	後期
181	214	土製川磨	字形	砂粒多, 黒, 黒褐色	調整良, 無磨打欠欠, 内面ナ子, 外面研磨, 最大径 4.3.	後期	後期
181	215	土製川磨	字形	砂粒多, 黒, 黒褐色	調整良, 無磨打欠欠, 内面ナ子, 外面研磨, 卑部上段研文, 最大径 4.2.	後期	後期
181	216	土製川磨	字形	砂粒多, 黒, 黒褐色	調整良, 無磨打欠欠, 内面ナ子, 外面研磨, 卑部上段研文, 最大径 4.2.	後期	後期
181	217	土製川磨	字形	砂粒多, 黒, 黒褐色	調整良, 無磨打欠欠, 内面ナ子, 外面研磨, 最大径 3.5.	後期	後期
181	218	土製川磨	字形	砂粒多, 黒, 暗褐色	調整良, 無磨打欠欠, 内面ナ子, 外面研磨, 最大径 4.2.	後期	後期
181	219	土製川磨	字形	砂粒少, 黒, 明褐色	調整良, 無磨打欠欠, 最大径 4.9.	後期	後期
181	220	土製川磨	字形	砂粒少, 黒, 黒褐色	調整良, 無磨打欠欠, 最大径 4.9.	後期	後期
181	221	土製川磨	字形	砂粒多, 黒, 暗褐色	調整良, 無磨打欠欠, 最大径 4.9.	後期	後期

鎌倉中村遺跡 30.31 号住居

採取 番号	遺物 番号	種別 器種	残存	胎土・焼成・色調	胎形・文様の特徴		時期・備考
					寸法値 (単位:cm.()は推定値)	詳細	
185	1	深鉢	胴部片	砂粒少, 黒, 黒褐色	内外面研磨	後期	後期
185	2	深鉢	胴部片	砂粒少, 黒, 黒褐色	内外面研磨	後期	後期
185	3	深鉢	口縁部片	砂粒少, 黒, 黒褐色	内外面研磨・光沢	高丹車	高丹車
185	5	深鉢	口縁部片	砂粒多, 黒, 黒褐色	内外面研磨・研磨, 外面研磨・光沢	安行1~2	安行1~2
185	6	深鉢	口縁部片	砂粒多, 普通多, 黒, 黒褐色	内外面研磨	高丹車	高丹車
185	7	深鉢	口縁部片	砂粒多, 黒, 黒褐色	内外面研磨	安行1~2	安行1~2
185	8	深鉢	胴部片	砂粒多, 黒, 黒褐色	内外面研磨・黒色処理	高丹車	高丹車
185	9	深鉢	胴部片	砂粒多, 普通, 黒褐色	内外面研磨	高丹車	高丹車
185	10	深鉢	口縁部片	砂粒多, 黒, 黒褐色	内外面研磨・光沢	安行1~2	安行1~2
185	11	深鉢	胴部片	砂粒多, 黒, 黒褐色	内外面研磨	安行1~2	安行1~2
185	12	深鉢	口縁部片	砂粒多, 黒, 黒褐色	内外面研磨・光沢, 口蓋部のみナ子	安行1~2	安行1~2
185	13	深鉢	口縁部片	砂粒多, 黒, 暗褐色	内外面ナ子	安行1~2	安行1~2
185	14	鉢	口縁-胴部	砂粒多, 黒, 灰黄褐色	内外面研磨・光沢	安行1~2	安行1~2
185	15	深鉢	口縁-胴部	砂粒多, 黒, 黒褐色	内外面研磨	安行1~2	安行1~2
185	16	深鉢	口縁-胴部	砂粒少, 黒, 黒褐色	内外面研磨・光沢	高丹車	高丹車
186	17	鉢	口縁部片	砂粒少, 普通, 灰黄褐色	内外面研磨・光沢, 内外面炭化物付着, 卑部上段研文	安行1~2	安行1~2
186	18	深鉢	口縁部片	砂粒少, 普通, 灰黄褐色	内外面研磨・光沢, 卑部上段研文, 内外面炭化物付着	安行1~2	安行1~2
186	19	深鉢	口縁部片	細砂粒多, 普通, 黒褐色	内外面ナ子	安行1~2	安行1~2
186	20	深鉢	口縁部片	砂粒少, 黒, 黒褐色	内外面研磨・光沢, 卑部上段研文	安行1~2	安行1~2
186	21	深鉢	口縁部片	砂粒少, 黒, 黒褐色	内外面研磨	高丹車	高丹車
186	22	深鉢	口縁部片	砂粒多, 黒, 黒褐色	内外面研磨	高丹車	高丹車
186	23	深鉢	口縁部片	砂粒多, 黒, 灰黄褐色	内外面研磨	安行1~2	安行1~2
186	24	深鉢	胴部片	砂粒少, 黒, 暗褐色	内外面ナ子	安行1~2	安行1~2
186	25	深鉢	口縁部片	砂粒少, 黒, 黒褐色	内外面ナ子, 外面研磨	後期	後期
186	26	鉢	口縁部片	砂粒少, 黒, 暗褐色	内外面研磨・光沢	高丹車	高丹車
186	27	深鉢	胴部片	砂粒少, 黒, 黒褐色	内外面研磨	高丹車	高丹車
186	28	深鉢	口縁-胴部	細砂粒多, 普通, 上平い黒褐色	内外面ナ子	後期	後期
186	29	土製川磨	字形	砂粒多, 黒, 暗褐色	無磨打欠欠, 外面研磨, 内面ナ子, 最大径 5.8.	後期	後期
186	30	深鉢	胴-底部	砂粒多, 黒, 赤褐色	内外面研磨	後期	後期
186	31	深鉢	底部片	砂粒多, 黒, 黒褐色	内外面ナ子	後期	後期
186	32	深鉢	底部片	砂粒少, 黒, 灰黄褐色	内外面ナ子	後期	後期
186	33	深鉢	底部片	砂粒多, 普通, 灰黄褐色	底蓋部代用	後期	後期
186	34	深鉢	底部片	砂粒少, 黒, 黒褐色	内外面研磨	後期	後期
186	35	深鉢	底部片	砂粒多, 黒, 暗褐色	内外面研磨	後期	後期
186	36	深鉢	底部片	砂粒少, 普通, 黒褐色	内外面ナ子, 底蓋部代用をナ子で済す	後期	後期
187	37	口蓋子	底部片	細砂粒少, 黒, 暗褐色	文様により文様の有無不明, 内外面研磨, 全面炭化物付着	後期	後期

遺物観察表

磯部中村遺跡 30区35号住居

順次 番号	遺物 番号	種類 器種	残存	胎土・焼成・色調	形状・文様の特徴 計測値(単位:cm、) (注:推定値)	時期・備考
189	1	陶片	陶片多, 良, 黒褐色	内外面研削・黒色処理・光沢。		縄之内1
189	2	陶片	陶片多, 良, 紅褐色	内外面研削。		縄之内2
189	3	陶片	陶片多, 良, 紅褐色	内外面研削・光沢。		縄之内2
189	4	陶片	陶片多, 良, 紅褐色	内外面研削・光沢。単面I.R.焼成。		縄之内2
189	5	陶片	陶片少, 良, 紅褐色	内外面粗い研削・光沢。単面I.R.焼成。		縄之内2
189	6	陶片	陶片少, 良, 紅褐色	内外面粗い研削。		縄之内2
189	7	陶片	陶片少, 良, 紅褐色	内外面研削・単面I.R.焼成。		縄之内2
189	8	陶片	陶片少, 良, 灰褐色	内外面研削。無面I.R.焼成。口径16.5。残存高9.8。		縄之内2
189	9	陶片	陶片多, 良, 紅褐色	内外面研削・光沢。		縄之内2
189	10	山口	陶片少, 良, 黒色	内面I.R.焼成。外, 外面研削・光沢。内外面黒色処理。		縄之内2
189	11	陶片	陶片少, 良, 紅褐色	内面, 外面粗い研削。単面I.R.焼成。外面炭化物付着。		縄之内2
189	12	山口	陶片少, 良, 紅褐色	内面I.R.焼成。		縄之内2
189	13	山口	陶片少, 良, (外面)黒褐色。(内面)褐色。	内面粗い研削・光沢。外, 外面研削・黒色処理・光沢。		縄之内2
189	14	陶片	陶片少, 良, 紅褐色	内外面研削。		縄之内2
189	15	陶片	陶片少, 良, 明赤褐色	内外面研削・光沢。単面I.R.焼成。		縄之内2
189	16	山口?	陶片少, 良, 紅褐色	外面研削・光沢。表面粗い。口径10.0。残存高0.6。		縄内
189	17	製-成形	陶片少, 良, 紅褐色-黒色	内外面研削。表面粗い。単面I.R.焼成外面炭化物付着。口径10.0。残存高3.7。		縄之内2
190	18	陶片	陶片多, 良, 黒褐色	内外面不研削・光沢。単面I.R.焼成。		縄之内1
190	19	陶片	陶片多, 良, 褐色	内外面研削・光沢。		縄之内1
190	20	陶片	陶片多, 良, 紅褐色	内外面研削。		縄之内1
190	21	陶片	陶片少, 良, 紅褐色	単面I.R.焼成。		縄之内1
190	22	陶片	陶片少, 良, 浅褐色	内面研削。		縄之内1
190	23	陶片	陶片少, 良, 灰褐色	内外面研削・光沢。		縄之内1
190	24	陶片	陶片多, 良, 紅褐色	内外面研削・光沢。		縄之内1
190	25	陶片	陶片少, 良, 紅褐色	内外面研削。		縄之内1
190	26	陶片	陶片少, 良, 紅褐色	内外面研削・光沢。		縄之内1
190	27	陶片	陶片少, 良, 紅褐色	内外面研削・光沢。		縄之内1
190	28	陶片	陶片少, 良, 紅褐色	内外面研削・光沢。		縄之内1
190	29	陶片	陶片多, 良, 紅褐色	内外面研削。内面炭化物付着。		縄之内1
190	30	陶片	陶片少, 良, 紅褐色	内外面研削。		縄之内2
190	31	陶片	陶片多, 良, 紅褐色	内外面研削。		縄之内2
190	32	陶片	陶片少, 良, 紅褐色	内外面粗い研削。口径(42.0)。残存高9.8。		縄之内2
190	33	陶片	陶片少, 良, 褐色	内外面研削・光沢。		縄之内1
190	34	陶片	陶片多, 普通, 紅褐色	内外面I.R.焼成。		縄之内1
190	35	陶片	陶片多, 良, 紅褐色	表面不化。		縄之内2
190	36	陶片	陶片多, 赤褐色子食付, 良, 紅褐色	内外面研削。		縄之内1
191	1	陶片	陶片多, 良, 紅褐色	内外面研削。		縄之内2
191	38	陶片	陶片少, 良, 紅褐色	内面研削。外面I.R.焼成。		縄之内1
191	39	陶片	陶片少, 良, 紅褐色	内外面研削。		縄之内2
191	40	陶片	陶片多, 良, 褐色	内面研削。外面I.R.焼成。		縄之内2
191	41	陶片	陶片少, 良, 褐色	内外面研削・光沢。		縄之内2
191	42	陶片	陶片多, 良, 褐色	内外面研削。		縄之内1
191	43	陶片	陶片多, 良, 灰褐色	単面I.R.焼成。		縄之内1
191	44	陶片	陶片少, 良, 紅褐色	単面I.R.焼成。		縄之内1
191	45	陶片	陶片多, 良, 紅褐色	内外面研削。		縄之内1
191	46	陶片	陶片多, 良, 紅褐色	内外面研削・光沢。		縄之内1
191	47	陶片	陶片多, 良, 紅褐色	内外面研削。		縄之内1
191	48	陶片	陶片多, 良, 紅褐色	内外面研削・光沢。単面I.R.焼成。		縄之内1
191	49	陶片	陶片多, 良, 紅褐色	内外面研削・光沢。		縄之内1
191	50	陶片	陶片多, 良, 黒褐色	内外面研削。		縄之内2
191	51	陶片	陶片多, 良, 灰褐色	単面I.R.焼成。		縄之内1
191	52	陶片	陶片多, 良, 紅褐色	内面研削。単面I.R.焼成。		縄之内1
191	53	陶片	陶片多, 良, 紅褐色	内外面研削。		縄之内1
191	54	陶片	陶片多, 良, 紅褐色	内外面研削・光沢。		縄之内1
191	55	陶片	陶片多, 良, 黒褐色	内外面粗い研削。		縄之内2
191	56	陶片	陶片多, 良, 褐色	内外面粗い研削。無面I.R.焼成。		縄之内2
192	57	陶片	陶片多, 良, 紅褐色	不化より選択不測。		縄之内1
192	58	陶片	陶片多, 良, 黒褐色	内外面研削・光沢。単面I.R.焼成。		縄之内2
192	59	陶片	陶片多, 良, 紅褐色	内外面研削・光沢。		縄之内2
192	60	陶片	陶片少, 良, 灰褐色	内外面研削。無面I.R.焼成。		縄之内1
192	61	陶片	陶片多, 良, 紅褐色	内外面I.R.焼成。		縄之内1
192	62	陶片	陶片少, 良, 紅褐色	内外面研削・光沢。単面I.R.焼成。		縄之内1
192	63	陶片	陶片少, 良, 紅褐色	内外面研削・光沢。		縄之内1
192	64	陶片	陶片多, 良, 紅褐色	単面I.R.焼成。		縄之内1
192	65	陶片	陶片多, 良, 紅褐色	内外面研削。		縄之内2
192	66	陶片	陶片多, 良, 紅褐色	単面I.R.焼成。		縄之内2
192	67	陶片	陶片少, 良, 紅褐色	内外面研削・光沢。		縄之内1
192	68	陶片	陶片多, 良, 紅褐色	内外面研削。単面I.R.焼成。		縄之内2
192	69	陶片	陶片多, 良, 紅褐色	内外面研削。		縄之内1
192	70	陶片	陶片多, 良, 紅褐色	内面研削。単面I.R.焼成。		縄之内2
192	71	陶片	陶片多, 普通, 紅褐色	内外面粗い研削。		縄之内2
192	72	陶片	陶片多, 普通, 黒褐色	内外面粗い研削。		縄之内2
192	73	陶片	陶片多, 良, 紅褐色	単面I.R.焼成。		縄之内2
192	74	陶片	陶片少, 良, 紅褐色	単面I.R.焼成。		縄之内2
192	75	陶片	陶片多, 良, 明赤褐色	内外面研削。		縄之内2
192	76	陶片	陶片少, 良, 紅褐色	内外面研削。単面I.R.焼成。		縄之内2
192	77	陶片	陶片多, 良, 紅褐色	内外面研削。単面I.R.焼成。		縄之内2
192	78	陶片	陶片多, 良, 明赤褐色	内外面研削。		縄之内2
192	79	陶片	陶片少, 良, 紅褐色	内外面研削。単面I.R.焼成。		縄之内2
192	80	陶片	陶片多, 良, 褐色	内面粗い研削。		縄之内2
192	81	陶片	陶片多, 良, 褐色	内面粗い研削。		縄之内2
192	82	陶片	陶片多, 良, 紅褐色	内外面粗い研削。		縄之内2
192	83	陶片	陶片多, 良, 紅褐色	内外面研削。		縄之内2
193	84	陶片	陶片少, 良, 紅褐色	内外面粗いI.R.焼成。口径(38.0)。		縄之内2
193	85	陶片	陶片多, 良, 紅褐色	内外面I.R.焼成。		縄之内2
193	86	陶片	陶片多, 良, 褐色	内面粗いI.R.焼成。外面に凹凸を残す。口径(28.0)。残存高22.0。		縄之内2
193	87	陶片	陶片多, 普通, 紅褐色	内外面粗いI.R.焼成。		縄之内1
193	88	陶片	陶片多, 普通, 紅褐色	内外面粗いI.R.焼成。		縄之内1

遺物観察表

国政 倉庫 番号	遺物 番号	種別 と 種類	残存	胎土・焼成・色調	器形・文様の特長		時期・備考
					計測値 (単位:cm.)	(寸法単位)	
193	89	深鉢	口縁部片	砂粒少, 且, 土色, 黄褐色。	縄文様不詳。		縄文之内 2
193	90	深鉢	胴部片	砂粒少, 且, 土色, 黄褐色。	縄文様不詳。		縄文之内 2
193	91	深鉢	胴部片	砂粒少, 且, 黄褐色。	内面ナシ。外面彫刻瓦文様。		縄文之内 2
193	92	深鉢	口縁部片	砂粒少, 且, 土色, 黄褐色。	内外面研磨。単面土直線文。		縄文之内 2
193	93	深鉢	胴部片	砂粒少, 且, 黄褐色。	内面彫・研磨。		縄文之内 2
193	94	深鉢	胴部片	砂粒多, 且, 土色, 黄褐色。	無彫土直線文。		縄文之内 2
193	95	深鉢	胴部片	砂粒少, 且, 褐色。	内外面研磨。単面土直線文。		縄文之内 2
193	96	深鉢	口縁部片	砂粒多, 且, 灰黄褐色。	底状(1)内。内面。外面無文部研磨。光沢。単面土直線文。外 面灰化部付着。		縄文之内 2
193	97	深鉢	胴部片	細砂粒多, 且, 土色, 黄褐色。	単面土直線文。		縄文之内 2
193	98	深鉢	胴部片	砂粒多, 且, 土色, 黄褐色。	内外面研磨。光沢。単面土直線文。		縄文之内 2
193	99	深鉢	口縁部片	砂粒少, 且, 黒褐色。	内面。外面無文部研磨。光沢。単面土直線文。内面黒色部 外側灰化物付着。		縄文之内 2
193	100	深鉢	口縁部片	砂粒少, 且, 黒褐色。	内面。外面無文部研磨。光沢。単面土直線文。内外面黒色部 付着。外側灰化物付着。		縄文之内 2
193	101	深鉢	口縁部片	砂粒少, 且, 黒褐色。	内外面研磨。光沢。単面土直線文。内外面灰化物 付着。		縄文之内 2
194	102	深鉢	口縁部片	砂粒少, 且, 黒褐色。	内外面研磨。黒色部埋。光沢。単面土直線文。		縄文之内 2
194	103	深鉢	口縁部片	砂粒多, 普通。土色, 黄褐色。	単面土直線文。		縄文之内 2
194	104	深鉢	胴部片	砂粒少, 且, 黒褐色。	内外面研磨。単面土直線文。		縄文之内 2
194	105	深鉢	口縁部片	砂粒少, 且, 黒褐色。	内外面研磨。単面土直線文。		縄文之内 2
194	106	深鉢	胴部片	砂粒少, 且, 土色, 黄褐色。	内外面研磨。単面土直線文。		縄文之内 2
194	107	深鉢	口縁部片	砂粒多, 且, 土色, 赤褐色。	内面彫・研磨。		縄文之内 2
194	108	深鉢	胴部片	砂粒多, 且, 土色, 黄褐色。	内外面研磨。単面土直線文。		縄文之内 2
194	109	深鉢	胴部片	砂粒少, 且, 土色, 黄褐色。	単面土直線文。		縄文之内 2
194	110	深鉢	胴部片	砂粒少, 且, 土色, 黄褐色。	単面土直線文。		縄文之内 2
194	111	深鉢	胴部片	砂粒多, 且, 土色, 黄褐色。	単面土直線文。		縄文之内 2
194	112	深鉢	胴部片	砂粒多, 斜石含む。且, 土色, 黄褐色。	単面土直線文。		縄文之内 2
194	113	深鉢	口縁部片	細砂粒少, 且, 黒褐色。	内外面研磨。内外面黒色部埋。単面土直線文。		縄文之内 2
194	114	深鉢	胴部片	砂粒少, 且, 黒褐色。	内外面研磨。黒色部埋。光沢。単面土直線文。		縄文之内 2
194	115	深鉢	胴部片	砂粒少, 且, 黄褐色。	内面。外面無文部研磨。光沢。単面土直線文。		縄文之内 2
194	116	深鉢	胴部片	砂粒少, 且, 黒褐色。	内外面研磨。		縄文之内 2
194	117	深鉢	胴部片	砂粒少, 且, 土色, 黄褐色。	単面土直線文。		縄文之内 2
194	118	深鉢	胴部片	砂粒多, 普通。土色, 黄褐色。	内外面研磨。単面土直線文。		縄文之内 2
194	119	深鉢	胴部片	砂粒少, 且, 土色, 黄褐色。	内外面研磨。単面土直線文。		縄文之内 2
194	120	深鉢	胴部片	砂粒多, 且, 黄褐色。	内外面研磨。光沢。単面土直線文。		縄文之内 2
194	121	深鉢	胴部片	砂粒多, 且, 黄褐色。	無彫土直線文。		縄文之内 2
194	122	深鉢	胴部片	砂粒多, 且, 黒褐色。	内外面研磨。黒色部埋。光沢。単面土直線文。		縄文之内 2
194	123	深鉢	胴部片	砂粒少, 且, 土色, 黄褐色。	単面土直線文。		縄文之内 2
194	124	深鉢	胴部片	砂粒少, 且, 土色, 黄褐色。	単面土直線文。		縄文之内 2
194	125	深鉢	胴部片	砂粒多, 且, 土色, 褐色。	単面土直線文。		縄文之内 2
194	126	深鉢	胴部片	砂粒多, 且, 黒色。	内外面研磨。単面土直線文。		縄文之内 2
194	127	深鉢	胴部片	砂粒多, 且, 褐色。	内外面研磨。黒色部埋。光沢。		縄文之内 2
194	128	深鉢	胴部片	砂粒多, 且, 褐色。	内外面研磨。		縄文之内 2
195	129	深鉢	胴部片	砂粒多, 且, 土色, 黄褐色。	単面土直線文。		縄文之内 2
195	130	深鉢	胴部片	砂粒少, 且, 土色, 黄褐色。	内外面研磨。単面土直線文。		縄文之内 2
195	131	深鉢	胴部片	砂粒少, 且, 土色, 黄褐色。	内外面研磨。単面土直線文。		縄文之内 2
195	132	深鉢	胴部片	砂粒多, 且, 褐色。	単面土直線文。		縄文之内 2
195	133	深鉢	胴部片	細砂粒多, 且, 黒褐色。	内外面研磨。研磨。単面土直線文。		縄文之内 2
195	134	深鉢	胴部片	砂粒少, 且, 土色, 黄褐色。	単面土直線文。		縄文之内 2
195	135	深鉢	胴部片	細砂粒多, 且, 土色, 黄褐色。	内外面彫・研磨。単面土直線文。		縄文之内 2
195	136	深鉢	胴部片	砂粒少, 且, 灰黄褐色。	内外面研磨。単面土直線文。		縄文之内 2
195	137	深鉢	口縁部片	砂粒多, 且, 土色, 黄褐色。	内外面研磨。内面ナシ。無彫土直線文。		縄文之内 2
195	138	深鉢	胴部片	砂粒多, 且, 土色, 黄褐色。	内外面研磨。光沢。単面土直線文。		縄文之内 2
195	139	深鉢	胴部片	砂粒多, 且, 褐色。	外表面研磨。単面土直線文。		縄文之内 2
195	140	深鉢	胴部片	砂粒多, 且, 土色, 褐色。	単面土直線文。		縄文之内 2
195	141	深鉢	胴部片	砂粒多, 且, 土色, 黄褐色。	内外面研磨。光沢。単面土直線文。		縄文之内 2
195	142	深鉢	胴部片	砂粒多, 且, 土色, 赤褐色。	単面土直線文。		縄文之内 2
195	143	深鉢	胴部片	砂粒少, 且, 黒褐色。	内外面研磨。光沢。単面土直線文。		縄文之内 2
195	144	深鉢	胴部片	砂粒多, 且, 土色, 黄褐色。	内外面研磨。光沢。単面土直線文。		縄文之内 2
195	145	深鉢	口縁部片	砂粒多, 且, 土色, 黄褐色。	内外面研磨。		縄文之内 2
195	146	深鉢	胴部片	砂粒多, 且, 土色, 黄褐色。	内外面研磨。		縄文之内 2
195	147	深鉢	胴部片	砂粒少, 且, 灰黄褐色。	内外面研磨。		縄文之内 2
195	148	深鉢	口縁部片	砂粒少, 且, 灰黄褐色。	内面彫・研磨。外面にナシ部存在。		縄文之内 2
195	149	深鉢	胴部片	砂粒少, 且, 黒褐色。	内外面研磨。黒色部埋。光沢。		縄文之内 2
195	150	深鉢	胴部片	砂粒多, 且, 土色, 黄褐色。	内外面研磨。単面土直線文。		縄文之内 2
195	151	深鉢	胴部片	細砂粒多, 普通。土色, 黄褐色。	内外面研磨。研磨。単面土直線文。		縄文之内 2
195	152	深鉢	胴部片	細砂粒多, 且, 土色, 褐色。	内外面彫・研磨。単面土直線文。		縄文之内 2
195	153	深鉢	胴部片	砂粒多, 且, 土色, 黄褐色。	内外面彫・研磨。単面土直線文。		縄文之内 2
195	154	浅口	胴部片	砂粒多, 且, 土色, 黄褐色。	内面ナシ。外面研磨。黒色部埋。光沢。		縄文之内 2
195	155	浅口	口縁部片	細砂粒少, 且, 灰褐色。	外表面研磨。黒色部埋。光沢。内面にナシ部存在。		縄文之内 2
195	156	浅口	口縁部片	砂粒少, 且, 土色, 赤褐色。	内面ナシ。外面研磨。光沢。		縄文之内 2
195	157	浅口	口縁部片	砂粒多, 且, 土色, 黄褐色。	内外面研磨。黒色部埋。光沢。		縄文之内 2
195	158	深鉢	胴部片	砂粒少, 且, 黒褐色。土色, 黄褐色。	内外面研磨。黒色部埋。光沢。		縄文之内 2
195	159	浅口	胴部片	細砂粒少, 且, 黒褐色。	内外面研磨。単面土直線文。光沢。		縄文之内 2
196	160	浅口	口縁部片	砂粒多, 且, 土色, 黄褐色。	浅口付(1)土部ナシ部。		縄文之内 2
196	161	浅口	口縁部片	細砂粒少, 且, 黒褐色。	外表面研磨。黒色部埋。光沢。		縄文之内 2
196	162	浅口	浅口三片	細砂粒少, 且, 土色, 黄褐色。	外表面研磨。		縄文之内 2
196	163	浅口	胴部片	砂粒多, 且, 黒褐色。	内外面研磨。黒色部埋。光沢。単面土直線文。		縄文之内 2
196	164	浅口	胴部片	砂粒多, 且, 黒褐色。	内外面研磨。黒色部埋。光沢。		縄文之内 2
196	165	特殊注口付土器	口縁部片	砂粒少, 且, 黒褐色。	内面結合部。		縄文之内 2
196	166	深鉢	胴部片	砂粒多, 且, 土色, 黄褐色。	内外面研磨。単面土直線文。		加賀朝日 2
196	167	鉢	胴部片	砂粒少, 且, 褐色。	内外面研磨。単面土直線文。		加賀朝日 2
196	168	浅鉢	胴部片	砂粒少, 普通。黒褐色。	内外面研磨。黒色部埋。光沢。外表面研磨。		加賀朝日 1
196	169	深鉢	胴部片	砂粒多, 且, 土色, 黄褐色。	内面彫・研磨。		加賀朝日 2
196	170	深鉢	口縁部片	砂粒多, 且, 土色, 黄褐色。	内外面研磨。内外面研磨。光沢。		加賀朝日 3
196	171	深鉢	胴部片	砂粒多, 且, 土色, 黄褐色。	内外面研磨。単面土直線文。		加賀朝日 3
196	172	深鉢	胴部片	砂粒多, 且, 黒褐色。	内外面研磨。黒色部埋。光沢。		加賀朝日 3
196	173	深鉢	口縁部片	砂粒少, 且, 黒褐色。	内外面研磨。黒色部埋。光沢。		高杉村
196	174	深鉢	口縁部片	砂粒多, 且, 土色, 赤褐色。	底状(1)内。内外面研磨。		高杉村

遺物観察表

調査年度	遺物番号	種類	残存	胎土・焼成・色調	胎土・文様の特徴		時期・備考
					計測値 (単位:cm, () は推定値)		
196	175	深鉢	口縁部片	砂粒多, 且, にぶい黄褐色。	内外面刷毛肌。	高丹楽	
196	176	深鉢	口縁部片	砂粒多, 且, にぶい黄褐色。	内外面刷毛肌。	高丹楽	
196	177	深鉢	口縁部片	砂粒多, 且, にぶい黄褐色。	口内面, 筋面化粧。	高丹楽	
196	178	深鉢	口縁部片	砂粒多, 且, にぶい黄褐色。	内外面刷毛肌。	高丹楽	
196	179	深鉢	口縁部片	砂粒多, 且, にぶい黄褐色。	内外面刷毛肌。	大塚(1)様, 単面1反履文。	高丹楽
196	180	深鉢	口縁部片	砂粒少, 且, にぶい黄褐色。	内外面刷毛肌。	高丹楽	安1-1~2
196	181	深鉢	口縁部片	砂粒多, 且, にぶい黄褐色。	内外面刷毛肌。	高丹楽	安1-1~2
196	182	深鉢	口縁部片	砂粒多, 且, 肌面刷毛。	内外面刷毛肌。	高丹楽	
196	183	深鉢	口縁部片	砂粒多, 且, 肌面刷毛。	内外面刷毛肌。	高丹楽	安1-1~2
196	184	深鉢	製成片	砂粒多, 且, にぶい黄褐色。	内外面刷毛肌。	高丹楽	安1-1~2
196	185	深鉢	製成片	砂粒少, 且, 肌面刷毛。	内外面刷毛肌。	高丹楽	安1-1~2
196	186	深鉢	製成片	砂粒多, 且, 肌面刷毛。	内外面刷毛肌。	高丹楽	安1-1~2
196	187	深鉢	底面片	砂粒少, 且, にぶい黄褐色。	内外面刷毛肌, 底面に刷毛肌, 白色シルト付着。底径(7.0), 残存高3.0。	後期	
196	188	深鉢	底面片	砂粒多, 且, にぶい黄褐色。	内外面刷毛肌, 底面に刷毛肌, 粗型土肌, 底径(8.0), 残存高3.0。	後期	
196	189	深鉢	底面片	砂粒少, 且, 肌面刷毛。	内外面刷毛肌, 底面に刷毛肌, 白色シルト付着, 底径10.0, 残存高4.0。	後期	
196	191	深鉢	底面片	砂粒多, 且, 肌面刷毛。	内外面刷毛肌, 底面に刷毛肌, 底径(8.0), 残存高4.8。	後期	
196	192	深鉢	底面片	砂粒多, 且, にぶい黄褐色。	内外面刷毛肌, 底面に刷毛肌, 粗型土肌, 底径(7.0), 残存高3.5。	後期	
196	193	深鉢	底面片	砂粒多, 且, 肌面刷毛。	内外面刷毛肌(粗製), 底面に刷毛肌, 底径(11.0), 残存高2.5。	後期	
196	194	深鉢	底面片	砂粒少, 且, 肌面刷毛。	内外面刷毛肌, 底面に刷毛肌, 底面上好灰状, 底径(10.0), 残存高4.2。	後期	
196	195	深鉢	底面片	砂粒多, 且, にぶい黄褐色。	内外面刷毛肌(粗製), 底面に刷毛肌, 底径(8.0), 残存高4.0。	後期	
196	196	深鉢	底面片	砂粒多, 且, にぶい黄褐色。	内外面刷毛肌(粗製), 底面に刷毛肌, 底径(9.0), 残存高2.5。	後期	
196	197	深鉢	底面片	砂粒多, 且, にぶい黄褐色。	内外面刷毛肌(粗製), 底面に刷毛肌, 底径(14.0), 残存高3.8。	後期	
196	198	鉢	底面片	砂粒多, 且, 肌面刷毛。	内外面刷毛肌・肌面化粧・灰状, 底面に刷毛肌, 底径(9.0), 残存高3.8。	後期	
196	199	鉢	底面片	砂粒多, 且, にぶい黄褐色。	内外面刷毛肌・肌面化粧・灰状, 底面に刷毛肌, 底径(7.0), 残存高2.4。	後期	
196	200	深鉢	底面片	砂粒多, 且, 肌面刷毛。	内外面刷毛肌(粗製), 底面に刷毛肌, 底径(7.0), 残存高3.0。	後期	
196	201	深鉢	底面片	砂粒多, 且, にぶい黄褐色。	内外面刷毛肌, 底面に刷毛肌, 底径(7.0), 残存高4.0。	後期	
196	202	深鉢	底面片	砂粒多, 且, にぶい黄褐色。	内外面刷毛肌(粗製), 底面に刷毛肌(粗製), 白色シルト付着, 底径(11.0), 残存高3.5。	後期	
196	203	深鉢	底面片	砂粒多, 普通, にぶい黄褐色。	内外面刷毛肌, 外面に刷毛肌(粗製), 底径(15.0), 残存高3.5。	後期	
196	204	深鉢	底面片	砂粒少, 且, にぶい黄褐色。	内外面刷毛肌・灰状, 底面に刷毛肌, 底径(9.0), 残存高3.0。	後期	
196	205	深鉢	底面片	砂粒多, 普通, にぶい黄褐色。	内外面刷毛肌, 底径(11.0), 残存高4.0。	後期	
196	206	土器(平盤)	底面片	砂粒多, 且, にぶい黄褐色。	調整良, 胎土肌化粧, 底径(9.0), 最大径2.5。	後期	
196	207	土器(平盤)	底面片	砂粒少, 且, 肌面刷毛。	調整良, 胎土肌化粧(後), 内外面刷毛肌, 最大径2.8。	後期	
196	208	土器(平盤)	底面片	砂粒多, 且, にぶい黄褐色。	調整良, 胎土肌化粧(後), 内外面刷毛肌, 最大径3.1。	後期	
196	209	土器(平盤)	底面片	砂粒多, 且, にぶい黄褐色。	調整良(後), 胎土肌化粧(後), 内外面刷毛肌, 最大径4.0。	後期	
196	210	土器(平盤)	底面片	砂粒多, 且, にぶい黄褐色。	調整良(後), 内外面刷毛肌, 単面1反履文, 最大径4.0。	加賀朝良1	
196	211	土器(平盤)	底面片	砂粒多, 且, にぶい黄褐色。	調整良(後), 胎土肌化粧(後), 内外面刷毛肌, 表面化粧(後), 最大径4.3。	後期	
196	212	土器(平盤)	底面片	砂粒多, 且, にぶい黄褐色。	調整良(後), 胎土肌化粧(後), 内外面刷毛肌, 最大径4.4。	後期	
196	213	土器(平盤)	底面片	砂粒少, 且, にぶい黄褐色。	調整良(後), 胎土肌化粧(後), 内外面刷毛肌, 最大径4.4。	高丹楽	
196	214	土器(平盤)	底面片	砂粒少, 且, 肌面刷毛。	調整良(後), 胎土肌化粧(後), 内外面刷毛肌, 最大径5.0。	後期	
196	215	土器(平盤)	底面片	砂粒多, 且, 肌面刷毛。	調整良, 胎土肌化粧(後), 内外面刷毛肌, 最大径4.7。	高丹楽	
196	216	土器(平盤)	底面片	砂粒多, 且, 肌面刷毛。	調整良(後), 胎土肌化粧(後), 内外面刷毛肌, 最大径4.8。	朝之内1	
196	217	土器(平盤)	底面片	砂粒多, 普通(後), 且, 肌面刷毛。	調整良, 胎土肌化粧(後), 内外面刷毛肌, 最大径5.1。	高丹楽	
196	218	土器(平盤)	底面片	砂粒多, 且, にぶい黄褐色。	調整良(後), 胎土肌化粧(後), 内外面刷毛肌, 最大径5.2。	後期	
196	219	土器(平盤)	底面片	砂粒多, 且, にぶい黄褐色。	調整良(後), 胎土肌化粧(後), 内外面刷毛肌, 最大径6.6。	朝之内1	
196	220	土器(平盤)	底面片	砂粒多, 普通, 肌面刷毛。	調整良(後), 胎土肌化粧(後), 胎土肌化粧, 最大径5.8。	後期	

磯部中村遺跡 30区 36号住居

調査年度	遺物番号	種類	残存	胎土・焼成・色調	胎土・文様の特徴		時期・備考
					計測値 (単位:cm, () は推定値)		
201	1	深鉢	製成片	砂粒多, 且, にぶい黄褐色。	内外面刷毛肌, 単面1反履文。	朝之内2	
201	2	深鉢	製成片	砂粒多, 且, 肌面刷毛。	内外面刷毛肌, 単面1反履文。	朝之内2	
201	3	深鉢	口縁部片	砂粒多, 且, にぶい黄褐色。	内外面刷毛肌, 4~7回一體焼。	朝之内2	
201	4	深鉢	口縁部片	砂粒多, 且, にぶい黄褐色。	内外面刷毛肌, 3~7回一體焼。	朝之内2	
201	5	深鉢	底面片	砂粒多, 且, にぶい黄褐色。	内外面刷毛肌。	朝之内2	
201	6	深鉢	底面片	砂粒多, 且, にぶい黄褐色。	内外面刷毛肌, 7~8回一體焼。	朝之内2	
201	7	深鉢	底面片	砂粒多, 且, にぶい黄褐色。	内外面刷毛肌, 6~8回一體焼。	朝之内2	
201	8	深鉢	製成片	砂粒多, 且, にぶい黄褐色。	内外面刷毛肌, 6~7回一體焼。	朝之内2	
201	9	深鉢	口縁部片	砂粒多, 且, にぶい黄褐色。	内外面刷毛肌, 単面1反履文。	朝之内2	
201	10	深鉢	口縁部片	砂粒多, 且, 肌面刷毛。	内外面刷毛肌, 単面1反履文。	朝之内2	
201	11	深鉢	製成片	砂粒多, 且, 肌面刷毛。	内外面刷毛肌, 単面1反履文。	朝之内2	
201	12	深鉢	製成片	砂粒多, 且, 肌面刷毛。	内外面刷毛肌, 単面1反履文。	朝之内2	
201	13	深鉢	製成片	砂粒多, 且, 肌面刷毛。	内外面刷毛肌・灰状, 単面1反履文。	朝之内2	
201	14	深鉢	製成片	砂粒多, 且, 肌面刷毛。	内外面刷毛肌。	朝之内2	
201	15	深鉢	製成片	砂粒多, 且, にぶい黄褐色。	内外面刷毛肌, 単面1反履文。	朝之内2	
201	16	深鉢	製成片	砂粒多, 且, にぶい黄褐色。	内外面刷毛肌, 単面1反履文。	朝之内2	
201	17	深鉢	口縁部片	砂粒多, 且, にぶい黄褐色。	内外面刷毛肌。	朝之内2	
201	18	深鉢	口縁部片	砂粒多, 且, にぶい黄褐色。	内外面刷毛肌。	朝之内2	
201	19	深鉢	製成片	砂粒多, 且, にぶい黄褐色。	内外面刷毛肌, 単面1反履文。	朝之内2	
201	20	深鉢	口縁部片	砂粒多, 且, 肌面刷毛。	内外面刷毛肌, 口内面, 胎土。	朝之内2	
201	21	深鉢	製成片	砂粒多, 普通, にぶい黄褐色。	内外面刷毛肌・肌面化粧・灰状, 外面に肌面化粧, 変状。	朝之内2	
201	22	口口	製成片	砂粒少, 普通, にぶい黄褐色。	内外面刷毛肌。	後期	
201	23	口口	製成片	砂粒多, 且, 肌面刷毛。	内外面刷毛肌, 単面1反履文。	朝之内2	
201	24	口口	口縁部片	砂粒多, 且, 肌面刷毛。	内外面刷毛肌・肌面化粧・灰状, 単面1反履文, 2~4 回一體焼。	朝之内2	
201	25	口口	製成片	砂粒多, 且, 肌面刷毛。	内外面刷毛肌, 単面1反履文。	朝之内2	
201	26	口口	製成片	砂粒多, 普通, にぶい黄褐色。	内外面刷毛肌。	加賀朝良1	
201	27	口口	口内面片	砂粒多, 且, 肌面刷毛。	内外面刷毛肌。	後期	
201	28	口口	口縁部片	砂粒多, 且, 肌面刷毛。	内外面刷毛肌(粗製), 内外面刷毛肌。	朝之内2	
201	29	口口	口縁部片	砂粒多, 且, にぶい黄褐色。	内外面刷毛肌(粗製)・灰状, 単面1反履文。	加賀朝良1	
201	30	口口	底面片	砂粒多, 且, にぶい黄褐色。	内外面刷毛肌・肌面化粧・灰状, 底面に刷毛肌。	朝之内2	
202	31	口口(鉢)	底面片	砂粒多, 且, にぶい黄褐色。	内外面刷毛肌。	後期	

遺物観察表

採取 番号	遺物 番号	種別 の種類	残存	胎土・焼成・色調	胎文・文様・小特徴		時期・備考
					計数値 (単位: 枚)	(寸法・特徴)	
202-32	深鉢	胴部片	細砂粒多, 且, 黒褐色	内外面研磨, 黑色色染, 光沢, 単面工肌文。	加賀科Ⅰ	加賀科Ⅰ	
202-33	口(1)	胴部片	細砂粒多, 且, 仁赤い褐色	内外面研磨。	加賀科Ⅰ	加賀科Ⅰ	
202-34	深鉢	胴部片	細砂粒少, 且, 仁赤い黄褐色	内外面研磨, 単面工肌文。	加賀科Ⅰ	加賀科Ⅰ	
202-35	深鉢	胴部片	細砂粒少, 且, 黒褐色	内外面研磨, 黑色色染, 光沢。	加賀科Ⅰ	加賀科Ⅰ	
202-36	口(1)	胴部片	細砂粒少, 且, 仁赤い赤褐色	内外面研磨。	加賀科Ⅰ	加賀科Ⅰ	
202-37	深鉢	胴部片	細砂粒少, 且, 仁赤い黄褐色	内外面研磨, 黑色色染, 光沢。	加賀科Ⅰ	加賀科Ⅰ	
202-38	深鉢	口縁部片	細砂粒少, 且, 灰褐色	内外面黄色色染, 内面磨子, 外面研磨, 光沢。	加賀科Ⅱ-3	加賀科Ⅱ-3	
202-39	深鉢	口縁部片	細砂多, 且, 灰褐色	内外面研磨, 単面工肌文。	加賀科Ⅱ-3	加賀科Ⅱ-3	
202-40	口(1)	胴部片	細砂少, 且, 灰褐色	内外面研磨, 単面工肌文。	加賀科Ⅱ-3	加賀科Ⅱ-3	
202-41	深鉢	口縁部片	細砂多, 且, 仁赤い黄褐色	内外面研磨, 単面工肌文。	加賀科Ⅱ-3	加賀科Ⅱ-3	
202-42	深鉢	胴部片	細砂粒少, 且, 黒褐色	内外面黄色色染, 内面磨子, 外面研磨, 光沢, 単面工肌文。	加賀科Ⅱ-3	加賀科Ⅱ-3	
202-43	深鉢	口縁部片	細砂少, 且, 灰褐色	内外面研磨, 単面工肌文。	加賀科Ⅱ-3	加賀科Ⅱ-3	
202-44	深鉢	口縁部片	細砂粒少, 且, 灰褐色	内外面黄色色染, 内面磨子, 外面研磨, 光沢。	加賀科Ⅱ-3	加賀科Ⅱ-3	
202-45	深鉢	胴部片	細砂粒少, 且, 灰褐色	内外面黄色色染, 内面磨子, 外面研磨, 光沢。	加賀科Ⅱ-3	加賀科Ⅱ-3	
202-46	深鉢	口縁部片	細砂多, 且, 黒褐色	内外面研磨。	加賀科Ⅱ-3	加賀科Ⅱ-3	
202-47	深鉢	口縁部片	細砂多, 且, 灰褐色	内外面研磨, 単面工肌文。	加賀科Ⅱ-3	加賀科Ⅱ-3	
202-48	深鉢	口縁部片	細砂少, 且, 灰褐色	内外面研磨。	加賀科Ⅱ-3	加賀科Ⅱ-3	
202-49	深鉢	胴部片	細砂多, 且, 黒褐色	内外面研磨, 黑色色染, 光沢。	加賀科Ⅱ-3	加賀科Ⅱ-3	
202-50	深鉢	胴部片	細砂少, 且, 灰褐色	内外面研磨。	加賀科Ⅱ-3	加賀科Ⅱ-3	
202-51	深鉢	胴部片	細砂多, 且, 灰褐色	内面研磨, 内面磨子。	加賀科Ⅱ-3	加賀科Ⅱ-3	
202-52	深鉢	口縁部片	細砂少, 且, 灰褐色	内外面研磨, 波状口縁。	加賀科Ⅱ-3	加賀科Ⅱ-3	
202-53	深鉢	口縁部片	細砂少, 且, 灰褐色	内外面研磨。	加賀科Ⅱ-3	加賀科Ⅱ-3	
202-54	深鉢	口縁部片	細砂少, 且, 黒褐色-灰褐色	内外面研磨, 波状口縁。	加賀科Ⅱ-3	加賀科Ⅱ-3	
202-55	深鉢	口縁部片	細砂粒少, 且, 黒褐色	内外面研磨, 黑色色染, 光沢。	高丹科	高丹科	
202-56	深鉢	口縁部片	細砂少, 且, 黒褐色	内外面黄色色染, 内面磨子, 外面研磨, 光沢, 外面磨削, 子。	高丹科	高丹科	
202-57	深鉢	口縁部片	細砂多, 且, 灰褐色	内外面研磨。	加賀科Ⅱ-3	加賀科Ⅱ-3	
202-58	深鉢	胴部片	細砂多, 且, 灰褐色	内外面研磨。	加賀科Ⅱ-3	加賀科Ⅱ-3	
202-59	深鉢	胴部片	細砂少, 且, 灰褐色	内外面研磨。	加賀科Ⅱ-3	加賀科Ⅱ-3	
202-60	深鉢	胴部片	細砂多, 且, 灰褐色	内外面研磨。	加賀科Ⅱ-3	加賀科Ⅱ-3	
202-61	深鉢	胴部片	細砂少, 且, 仁赤い黄褐色	内外面研磨。	加賀科Ⅱ-3	加賀科Ⅱ-3	
202-62	深鉢	口縁部片	細砂多, 且, 仁赤い褐色	内面研磨, 内面磨子。	加賀科Ⅱ-3	加賀科Ⅱ-3	
202-63	深鉢	口縁部片	細砂少, 且, 黒褐色	内外面研磨, 黑色色染, 光沢。	加賀科Ⅱ-3	加賀科Ⅱ-3	
202-64	深鉢	口縁部片	細砂多, 且, 灰褐色	内面研磨, 内面磨子。	加賀科Ⅱ-3	加賀科Ⅱ-3	
202-65	深鉢	口縁部片	細砂少, 且, 灰褐色	内外面研磨, 黑色色染, 光沢, 内面黄色色染。	加賀科Ⅱ-3	加賀科Ⅱ-3	
202-66	深鉢	口縁部片	細砂粒少, 且, 黒褐色	内外面研磨, 黑色色染, 光沢。	加賀科Ⅱ-3	加賀科Ⅱ-3	
202-67	深鉢	胴部片	細砂少, 且, 黒褐色	内外面研磨, 黑色色染, 光沢。	加賀科Ⅱ-3	加賀科Ⅱ-3	
202-68	深鉢	胴部片	細砂少, 且, 黒褐色	内面磨子, 内面研磨。	加賀科Ⅱ-3	加賀科Ⅱ-3	
202-69	深鉢	口縁部片	細砂少, 且, 黒褐色	内外面研磨, 黑色色染, 光沢。	高丹科	高丹科	
202-70	深鉢	口縁部片	細砂多, 且, 灰褐色	内外面研磨, 黑色色染, 光沢。	高丹科	高丹科	
202-71	深鉢	口縁部片	細砂多, 且, 仁赤い黄褐色	内外面研磨。	加賀科Ⅱ-3	加賀科Ⅱ-3	
202-72	深鉢	口縁部片	細砂少, 且, 灰褐色	内外面研磨, 黑色色染, 光沢。	加賀科Ⅱ-3	加賀科Ⅱ-3	
202-73	深鉢	口縁部片	細砂少, 且, 灰褐色	内外面研磨, 黑色色染, 光沢。	加賀科Ⅱ-3	加賀科Ⅱ-3	
202-74	深鉢	口縁部片	細砂多, 且, 灰褐色	内面研磨, 内面磨子。	加賀科Ⅱ-3	加賀科Ⅱ-3	
202-75	深鉢	口縁部片	細砂多, 且, 灰褐色	内外面研磨, 黑色色染, 光沢。	高丹科	高丹科	
202-76	深鉢	口縁部片	細砂多, 且, 黒褐色	内外面磨削, 子。	加賀科Ⅱ-3	加賀科Ⅱ-3	
202-77	深鉢	口縁部片	細砂少, 普通, 黒色 (内面灰褐色)。	内外面研磨, 黑色色染, 光沢, 内面黄色色染。	加賀科Ⅱ-3	加賀科Ⅱ-3	
202-78	深鉢	口縁部片	細砂多, 且, 灰褐色	内面磨子。	高丹科	高丹科	
202-79	深鉢	口縁部片	細砂多, 且, 仁赤い黄褐色	内外面子, 外面研磨, 研磨。	高丹科	高丹科	
202-80	深鉢	口縁部片	細砂少, 普通, 灰褐色	内面磨削, 子。	加賀科Ⅱ-3	加賀科Ⅱ-3	
202-81	深鉢	口縁部片	細砂多, 且, 灰褐色	内外面子。	加賀科Ⅱ-3	加賀科Ⅱ-3	
202-82	深鉢	口縁部片	細砂多, 且, 仁赤い黄褐色	内外面子。	高丹科	高丹科	
202-83	深鉢	胴部片	細砂多, 且, 灰褐色	波状口縁, 内外面粗研磨。	高丹科	高丹科	
202-84	口(1)	胴部片	細砂少, 且, 仁赤い赤褐色	内外面粗研磨。	加賀科Ⅲ	加賀科Ⅲ	
202-85	深鉢	胴部片	細砂少, 且, 仁赤い黄褐色	内外面粗研磨, 縦文脈不揃。	加賀科Ⅲ	加賀科Ⅲ	
202-86	深鉢	口縁部片	細砂少, 且, 灰褐色	波状口縁, 内外面研磨。	高丹科	高丹科	
202-87	深鉢	口縁部片	細砂多, 且, 灰褐色	突起部, 内外面粗研磨。	高丹科	高丹科	
202-88	深鉢	口縁部片	細砂少, 且, 灰褐色	突起部, 内外面研磨。	高丹科	高丹科	
202-89	深鉢	口縁部片	細砂少, 且, 灰褐色	大波状口縁, 内外面研磨, 黑色色染, 光沢。	高丹科-安行	高丹科-安行	
202-90	深鉢	口縁部片	細砂少, 且, 黒褐色	大波状口縁, 内外面研磨, 黑色色染, 光沢。	高丹科-安行	高丹科-安行	
202-91	深鉢	口縁部片	細砂少, 且, 灰褐色	大波状口縁, 内外面粗研磨, 内面黄色色染。	高丹科-安行	高丹科-安行	
202-92	深鉢	口縁部片	細砂少, 且, 黒褐色	大波状口縁, 内外面研磨, 黑色色染, 光沢。	高丹科-安行	高丹科-安行	
202-93	深鉢	口縁部片	細砂多, 且, 仁赤い赤褐色	大波状口縁, 内外面粗研磨。	高丹科	高丹科	
202-94	深鉢	口縁部片	細砂多, 且, 灰褐色	大波状口縁, 内外面粗研磨, 研磨。	高丹科	高丹科	
202-95	深鉢	口縁部片	細砂少, 且, 黒褐色	内外面研磨, 光沢。	高丹科	高丹科	
202-96	深鉢	口縁部片	細砂少, 且, 仁赤い赤褐色	波状口縁, 内外面磨子, 外面研磨。	高丹科	高丹科	
202-97	深鉢	口縁部片	細砂少, 且, 灰褐色	内外面粗研磨, 光沢, 波状口縁。	高丹科	高丹科	
202-98	深鉢	口縁部片	細砂多, 且, 灰褐色	内外面研磨。	高丹科-安行	高丹科-安行	
202-99	深鉢	胴部片	細砂少, 且, 灰褐色	内面粗研磨, 外面黑色色染。	高丹科-安行	高丹科-安行	
202-100	深鉢	口縁部片	細砂少, 且, 灰褐色	内外面研磨, 黑色色染, 光沢。	高丹科-安行	高丹科-安行	
202-101	深鉢	口縁部片	細砂多, 且, 灰褐色	内外面粗研磨。	高丹科	高丹科	
202-102	深鉢	口縁部片	細砂少, 且, 褐色	内外面粗研磨, 光沢。	高丹科	高丹科	
202-103	深鉢	口縁部片	細砂多, 且, 黒褐色	内外面粗研磨。	高丹科	高丹科	
202-104	深鉢	口縁部片	細砂少, 且, 仁赤い褐色	内外面研磨, 光沢。	高丹科	高丹科	
202-105	深鉢	口縁部片	細砂少, 且, 赤褐色	内面磨子, 外面研磨。	高丹科	高丹科	
202-106	深鉢	口縁部片	細砂多, 且, 仁赤い赤褐色	内外面粗研磨, 光沢。	高丹科	高丹科	
202-107	深鉢	口縁部片	細砂少, 且, 黄灰色	内外面研磨, 黑色色染, 光沢, 断面に縦状擦痕手。	高丹科-安行	高丹科-安行	
202-108	深鉢	口縁部片	細砂多, 且, 仁赤い褐色	内外面粗研磨。	高丹科	高丹科	
202-109	深鉢	口縁部片	細砂少, 且, 黒褐色	内外面研磨, 光沢, 大波状口縁。	高丹科	高丹科	
202-110	深鉢	口縁部片	細砂少, 且, 灰褐色	内外面研磨, 黑色色染, 光沢。	高丹科-安行	高丹科-安行	
202-111	深鉢	口縁部片	細砂少, 且, 褐色	内外面研磨, 光沢。	高丹科	高丹科	
202-112	深鉢	口縁部片	細砂少, 且, 黒褐色	内外面研磨, 光沢, 単面工肌文。	高丹科	高丹科	
202-113	深鉢	口縁部片	細砂少, 且, 黒褐色	内外面研磨, 光沢。	高丹科	高丹科	
202-114	深鉢	口縁部片	細砂多, 且, 仁赤い褐色	内外面粗研磨。	高丹科	高丹科	
202-115	深鉢	口縁部片	細砂多, 且, 仁赤い赤褐色	内外面粗研磨, 光沢。	高丹科	高丹科	
202-116	深鉢	口縁部片	細砂粒少, 且, 黒褐色	内外面研磨, 黑色色染, 光沢。	高丹科	高丹科	
202-117	深鉢	口縁部片	細砂少, 且, 仁赤い褐色	内外面研磨, 光沢, 波状口縁。	高丹科	高丹科	
202-118	深鉢	口縁部片	細砂少, 且, 灰褐色	内外面研磨, 光沢, 大波状口縁。	高丹科	高丹科	
202-119	深鉢	口縁部片	細砂多, 且, 灰褐色	内外面粗研磨。	高丹科	高丹科	
202-120	深鉢	口縁部片	細砂少, 且, 黒褐色	内外面研磨, 光沢。	高丹科	高丹科	
202-121	深鉢	口縁部片	細砂多, 普通, 仁赤い黄褐色	内外面磨子。	高丹科	高丹科	
202-122	深鉢	口縁部片	細砂多, 且, 仁赤い褐色	内外面磨子。	高丹科	高丹科	

遺物観察表

年代	遺物 番号	種類 分類	残存	胎土・焼成・色調	図形・文様・特徴		時期・備考
					計測値 (単位: cm, () 目視定値)		
204	123	浮鉢	製部片	砂粒少, 良, 灰黄褐色。	単部1 R 陶文。	高丹窯	高丹窯
204	124	浮鉢	口縁部片	砂粒少, 良, 灰黄褐色。	内外面研削・光沢。単部1 R 陶文。	高丹窯	高丹窯
204	125	浮鉢	口縁部片	砂粒少, 良, 褐色。	内外面研削・灰胎処理・光沢。	高丹窯	高丹窯
204	126	浮鉢	製部片	砂粒多, 良, 灰黄褐色。	内外面研削・灰胎処理・光沢。	高丹窯	高丹窯
204	127	浮鉢	口縁部片	砂粒少, 良, 灰黄褐色。	内外面研削・光沢。単部1 R 陶文。	高丹窯	高丹窯
204	128	浮鉢	口縁部片	砂粒少, 良, 灰褐色。	内外面研削・灰胎処理・光沢。波状口縁。	高丹窯	高丹窯
204	129	浮鉢	口縁部片	砂粒少, 良, 褐色。	内外面研削・研削1 R 陶文。波状口縁。	高丹窯	高丹窯
204	130	浮鉢	口縁部片	砂粒少, 良, 灰黄褐色。	内外面研削・光沢。	高丹窯	高丹窯
204	131	浮鉢	製部片	砂粒多, 良, 灰黄褐色。	内外面研削・光沢。	高丹窯	高丹窯
204	132	浮鉢	製部片	砂粒少, 良, 灰黄褐色。	内外面研削・光沢。	高丹窯	高丹窯
204	133	浮鉢	製部片	砂粒多, 良, 褐色。	内外面研削・研削。	高丹窯	高丹窯
204	134	浮鉢	製部片	砂粒多, 良, 灰褐色。	内外面研削・研削。	高丹窯	高丹窯
204	135	浮鉢	製部片	砂粒多, 良, 褐色。	内外面研削・研削。	高丹窯	高丹窯
205	136	浮鉢	製部片	砂粒多, 良, 褐色。	内外面研削・研削。	高丹窯	高丹窯
205	137	浮鉢	製部片	砂粒多, 良, 灰褐色。	内外面研削・研削。	高丹窯	高丹窯
205	138	浮鉢	製部片	砂粒多, 良, 灰黄褐色。	内外面研削・研削。	高丹窯	高丹窯
205	139	浮鉢	製部片	砂粒多, 良, 灰黄褐色。	内外面研削・研削。	高丹窯	高丹窯
205	140	浮鉢	製部片	砂粒多, 良, 褐色。	内外面研削・研削・灰胎処理。	高丹窯	高丹窯
205	141	浮鉢	製部片	砂粒多, 良, 灰褐色。	内外面研削・研削。	高丹窯	高丹窯
205	142	浮鉢	製部片	砂粒多, 良, 黄褐色。	内外面研削・研削。	高丹窯	高丹窯
205	143	浮鉢	製部片	砂粒多, 良, 灰褐色。	内外面研削・研削。	高丹窯	高丹窯
205	144	浮鉢	製部片	砂粒多, 良, 灰褐色。	内外面研削・研削。	高丹窯	高丹窯
205	145	浮鉢	製部片	砂粒多, 良, 灰黄褐色。	内外面研削・研削。	高丹窯	高丹窯
205	146	浮鉢	製部片	砂粒多, 良, 灰褐色。	内外面研削・研削。	高丹窯	高丹窯
205	147	浮鉢	製部片	砂粒多, 良, 褐色。	内外面研削・研削。	高丹窯	高丹窯
205	148	浮鉢	製部片	砂粒多, 良, 灰褐色。	内外面研削・研削。	高丹窯	高丹窯
205	149	浮鉢	製部片	砂粒多, 良, 灰黄褐色。	内外面研削・研削。	高丹窯	高丹窯
205	150	浮鉢	製部片	砂粒少, 良, 灰黄褐色。	内面1 R 文字ナシ。	高丹窯	高丹窯
205	151	浮鉢	口縁部片	砂粒少, 良, 灰褐色。	内外面研削・光沢。	後部	後部
205	152	浮鉢	口縁部片	砂粒少, 良, 褐色。	内外面研削・光沢。	後部	後部
205	153	浮鉢	口縁部片	砂粒多, 良, 褐色。	内外面研削・研削。	後部	後部
205	154	浮鉢	口縁部片	砂粒多, 良, 灰黄褐色。	内外面研削・光沢。	後部	後部
205	155	浮鉢	口縁部片	砂粒少, 良, 灰黄褐色。	内外面研削・灰胎処理・光沢。	高丹窯	高丹窯
205	156	浮鉢	口縁部片	砂粒多, 良, 灰黄褐色。	内外面研削・光沢。	後部	後部
205	157	浮鉢	口縁部片	砂粒多, 良, 黄褐色。	内外面研削・研削。	後部	後部
205	158	浮鉢	口縁部片	砂粒多, 良, 褐色。	内外面研削・研削。	後部	後部
205	159	浮鉢	口縁部片	砂粒少, 良, 灰褐色。	内外面研削・研削。	高丹窯	高丹窯
205	160	浮鉢	製部片	砂粒多, 良, 黄褐色。	内外面研削・ナシ。	後部	後部
205	161	浮鉢	製部片	砂粒多, 良, 灰黄褐色。	内外面研削・研削。	後部	後部
205	162	浮鉢	製部片	砂粒多, 良, 灰褐色。	内外面研削・研削。	高丹窯	高丹窯
206	163	浮鉢	口縁部片	砂粒少, 良, 灰黄褐色。	内外面研削・研削。	高丹窯	高丹窯
206	164	浮鉢	製部片	砂粒多, 良, 灰黄褐色。	内外面研削・研削。	後部	後部
206	165	浮鉢	口縁部片	砂粒少, 良, 灰黄褐色。	内面研削。器底に灰白土層が認められる。	高丹窯	高丹窯
206	166	浮鉢	口縁部片	砂粒多, 良, 黄褐色。	内外面研削・光沢。無文・無文。	高丹窯	高丹窯
206	167	浮鉢	口縁部片	砂粒多, 良, 灰褐色。	内外面研削・灰胎処理・光沢。単部1 R 陶文。	高丹窯	高丹窯
206	168	浮鉢	製部片	砂粒少, 良, 灰褐色。	内外面研削・光沢。単部1 R 陶文。	高丹窯	高丹窯
206	169	浮鉢	口縁部片	砂粒少, 良, 灰黄褐色。	内外面研削・ナシ。	高丹窯	高丹窯
206	170	浮鉢	口縁部片	砂粒少, 良, くすくす黄褐色。	全面研削・赤色胎液。	高丹窯	高丹窯
206	171	浮鉢	口縁部片	砂粒少, 良, 灰褐色。	全周研削・赤色胎液。内面研削。1 R 陶文光沢。無文部を研削し、無文部がやや浮き上がる。	高丹窯	高丹窯
206	172	浮鉢	口縁部片	砂粒少, 良, 灰褐色。	口縁部1 R 胎付6 単位。製部部強弱8 単位。単部1 R 陶文光沢。外面無文部1 R 単位研削。光沢。内面研削。	胎付1 器	胎付1 器
206	173	三ツチヤブ	口縁部片	細砂粒多, 良, 灰黄褐色。	内外面研削。赤色胎液。赤色胎液。下1/2に沈殿文様あり。	後部	後部
206	174	三ツチヤブ	口縁部片	細砂粒多, 良, 灰黄褐色。	内外面1 R 文字ナシ。外面無文部。口径4.0。残存高2.9。	後部	後部
206	175	三ツチヤブ	口縁部片	細砂粒多, 良, 灰黄褐色。	内外面研削・ナシ。口径(4.0)。残存高3.3。	後部	後部
206	213	打勝り	注法成形	細砂粒中々多, 良, 灰赤褐色。	滑平肌。全面ナシ。わずかに赤色胎液残存。全面赤色胎液付。最大径1.5。厚さ1.3。	後部	後部
207	176	鉢	胴一断面	砂粒少, 良, 明赤褐色。	内外面1 R 文字ナシ字施残存。口径7.0。残存高8.5。	高丹窯	高丹窯
207	177	鉢	底部	砂粒多, 良, 明赤褐色。	内面ナシ。外面研削。底面研削代残。口径7.0。残存高2.1。	高丹窯	高丹窯
207	178	鉢	胴一断面	砂粒少, 良, 灰黄褐色。	内外面研削。外面ナシ研削残存。口径6.4。残存高5.2。	高丹窯	高丹窯
207	179	鉢	底部	砂粒多, 良, 灰黄褐色。	内外面研削・ナシ。ナシ。ナシ。口径7.0。残存高5.0。	高丹窯	高丹窯
207	180	鉢	底部	砂粒多, 良, 灰黄褐色。	内外面ナシ。口径6.4。残存高2.5。	高丹窯	高丹窯
207	181	鉢	底部	砂粒多, 良, 明赤褐色。	内外面研削・研削。口径(5.0)。残存高3.4。	高丹窯	高丹窯
207	182	鉢	底部	砂粒少, 良, 灰黄褐色。	外面1 R 文字研削残存。口径7.0。残存高1.9。	高丹窯	高丹窯
207	183	鉢	底部	砂粒多, 良, 灰黄褐色。	内外面研削。外面ナシ研削残存。	高丹窯	高丹窯
207	184	土器1 器	文部	砂粒多, 灰褐色。良, 灰黄褐色。	器底に全周1 R 文字。内外面研削・研削。無文。最大径2.8。	高丹窯	高丹窯
207	185	土器1 器	文部	砂粒多, 灰褐色。良, 灰黄褐色。	器底に全周1 R 文字。内外面ナシ。最大径6.0。	高丹窯	高丹窯

観音寺村遺跡30区35、36号住居

年代	遺物 番号	種類 分類	残存	胎土・焼成・色調	図形・文様・特徴		時期・備考
					計測値 (単位: cm, () 目視定値)		
210	1	鉢	口縁部片	砂粒多, 良, 灰黄褐色。	内外面研削。文様3 単位施削。口径(3.40)。	観之内1 (観音部)	観之内1 (観音部)
210	2	鉢	口縁部片	砂粒多, 良, 明赤褐色。	内外面研削。口径(2.30)。残存高2.1。	観之内1	観之内1
210	3	鉢	口縁部片	砂粒少, 良, 黄褐色。	内外面1 R 陶文。	加賀資料館1	加賀資料館1
210	4	鉢	製部片	砂粒少, 良, 褐色。	内外面研削。無文部・内面研削・研削。	観之内1	観之内1
210	5	鉢	口縁部片	砂粒少, 良, 灰黄褐色。	内外面1 R 文字ナシ。	観之内2	観之内2
210	6	鉢	口縁部片	砂粒少, 良, 灰黄褐色。	内外面研削・光沢。単部1 R 陶文。	観之内1	観之内1
210	7	鉢	口縁部片	砂粒少, 良, 灰黄褐色。	口縁研削。内外面研削・研削。	加賀資料館2-3	加賀資料館2-3
211	8	鉢	口縁部片	砂粒多, 良, 明赤褐色。	内外面研削。製部1 R 陶文光沢なし。沈殿文。無文部は研削。胎付1 R 陶文光沢。口径29.8。残存高38.5。	観之内1	観之内1
211	9	鉢	口縁部片	砂粒少, 良, 灰黄褐色。	内外面研削。単部1 R 陶文光沢。	観之内1	観之内1
211	10	鉢	製部片	砂粒多, 良, 灰褐色。	内外面研削。外面沈殿文。	観之内1	観之内1
211	11	鉢	製部片	砂粒少, 良, 褐色。	内外面研削・研削。	観之内1	観之内1
211	12	鉢	製部片	砂粒少, 良, 褐色。	内外面研削・研削。	観之内1	観之内1
211	13	鉢	製部片	砂粒少, 良, 灰褐色。	内外面研削。単部1 R 陶文。	観之内1	観之内1
211	14	鉢	製部片	砂粒少, 良, 灰黄褐色。	内外面研削。	観之内1	観之内1
211	15	鉢	口縁部片	砂粒少, 良, 褐色。	内外面研削。外面沈殿文付残存。	観之内1	観之内1
211	16	鉢	口縁部片	砂粒多, 良, 灰褐色。	内外面研削・研削。灰胎処理・光沢。	観之内2	観之内2
211	17	鉢	口縁部片	砂粒多, 良, 灰黄褐色。	内外面研削・光沢。	観之内2	観之内2
211	18	鉢	製部片	砂粒少, 普通, 灰黄褐色。	内外面研削・研削。	観之内2	観之内2
211	19	鉢	製部片	砂粒少, 良, 灰黄褐色。	内外面研削・研削・光沢。	観之内2	観之内2

遺物観察表

図録 番号	遺物 番号	種別 種類	残存	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴		時期・備考
					計量値 (単位: cm. () は推定値)		
211	20	深鉢	口縁部片	砂粒少, 良, 明褐色	内外面研削・光沢		縄文之内2
211	21	深鉢	口縁部片	砂粒少, 良, 黒褐色	内面, 外面無文部研削・黒色処理, 卑部上1段縄文。		縄文之内2
211	22	深鉢	胴部片	砂粒少, 良, 土色・黄褐色	卑部上1段縄文。		縄文之内2
211	23	深鉢	胴部片	砂粒少, 良, 土色・黄褐色	内外面研削・灰処理, 卑部上1段縄文。		縄文之内2
211	24	深鉢	口縁部片	砂粒少, 良, 土色・黄褐色	内外面粗い研削。		縄文之内2
211	25	深鉢	胴部片	砂粒少, 良, 褐色	内面, 外面無文部研削・黒色処理, 卑部上1段縄文。		縄文之内2
211	26	深鉢	胴部片	砂粒少, 良, 土色・黄褐色	内外面粗い研削・光沢		縄文之内2
211	27	深鉢	胴部片	砂粒少, 良, 土色・黄褐色	卑部上1段縄文。		縄文之内2
211	28	深鉢	口縁部片	砂粒少, 良, 土色・黄褐色	内外面粗い研削, 卑部上1段縄文。		縄文之内2
211	29	深鉢	口縁部片	砂粒少, 普通, 明褐色	外面粗い研削。		縄文之内2
211	30	深鉢	胴部片	砂粒少, 良, 黒褐色	内外面研削, 無面1段縄文。		縄文之内2?
211	31	深鉢	口縁部片	砂粒少, 良, 土色・黄褐色	外面にテヅリを残す。		縄文之内2
212	32	深鉢	胴部片	砂粒少, 良, 黄褐色	内外面黄色処理, 卑部上1段縄文。		加賀村白2
212	33	深鉢	口縁部片	砂粒少, 良, 黄褐色	外面粗い研削, 無面1段縄文。		加賀村白2
212	34	鉢	口縁部片	砂粒少, 良, 土色・黄褐色	内外面研削・光沢, 外面に斜位のナ子面。		縄文之内2
212	35	口付	胴部片	細砂粒多, 良, 明褐色	外面ナ子, 外面研削・光沢, 卑部上1段縄文, 縄文部処理。		縄文之内2?
212	36	口付	口縁部片	砂粒少, 良, 明褐色	無面ナ子。		縄文之内2
212	37	深鉢	口縁部片	砂粒少, 良, 黄褐色	赤土部, 内外面研削・黒色処理		加賀村白2
212	38	鉢	口縁部片	砂粒少, 良, 黒褐色	外面粗い研削, 外面研削・黒色処理, 光沢, 外面粗い研削。		加賀村白2
212	39	深鉢	胴部片	砂粒少, 良, 黒褐色	内外面研削。		加賀村白1
212	40	深鉢	胴部片	砂粒少, 良, 土色・黄褐色	内外面研削。		加賀村白1
212	41	深鉢	胴部片	砂粒少, 良, 明褐色	内外面研削, 胎土層に全平う縁位残存。		加賀村白1
212	42	深鉢	胴部片	砂粒少, 良, 黒褐色	外面研削・光沢		加賀村白2-3
212	43	深鉢	胴部片	砂粒少, 良, 褐色	内外面粗い研削。		加賀村白2-3
212	44	深鉢	胴部片	砂粒少, 良, 土色・褐色	内外面研削。		加賀村白2-3
212	45	深鉢	胴部片	砂粒多, 良, 褐色	内外面粗い研削。		加賀村白2-3
212	46	深鉢	胴部片	砂粒少, 良, 黒褐色	内外面研削・黒色処理・光沢, 破壊時の厚みあり。		加賀村白2-3
212	47	深鉢	口縁部片	砂粒少, 良, 土色・黄褐色	内外面黄色処理。		加賀村白2-3
212	48	深鉢	口縁部片	砂粒少, 良, 黄褐色	内外面研削。		加賀村白2-3
212	49	鉢	口縁部片	砂粒少, 良, 黄褐色	内外面研削。		加賀村白2-3
212	50	深鉢	胴部片	砂粒少, 良, 黄褐色	内外面研削・黒色処理・光沢		加賀村白2-3
212	51	深鉢	胴部片	砂粒少, 良, 暗褐色	内外面粗い研削。		加賀村白2-3
212	52	深鉢	口縁部片	砂粒多, 良, 暗褐色	赤土部, 全面研削・光沢		高井車
212	53	深鉢	胴部片	砂粒多, 良, 褐色	赤土部, 全面研削・光沢		高井車
212	54	鉢	胴部片	胎土粗心多, 良, 土色・黄褐色	赤土部全研削, 光沢		高井車
212	55	深鉢	口縁部片	砂粒少, 良, 土色・黄褐色	内外面研削・光沢, 卑部上1段縄文。		高井車
212	56	深鉢	口縁部片	砂粒少, 良, 土色・黄褐色	大穴状口縁, 内外面研削。		高井車
212	57	深鉢	口縁部片	砂粒多, 良, 土色・黄褐色	大穴状口縁, 内外面研削・光沢		高井車
212	58	深鉢	口縁部片	砂粒多, 良, 黒褐色	内外面粗い研削, 外面黄色処理。		高井車
212	59	深鉢	口縁部片	砂粒多, 良, 土色・黄褐色	大穴状口縁, 内外研削。		高井車
212	60	深鉢	口縁部片	砂粒少, 良, 黄褐色	内外面研削。		高井車
212	61	深鉢	口縁部片	砂粒少, 良, 土色・黄褐色	内外面研削, 卑部上1段縄文。		高井車
212	62	口付	口縁部片	砂粒少, 良, 土色・黄褐色	内外面粗い研削。		高井車
212	63	深鉢	口縁部片	砂粒少, 良, 土色・黄褐色	内外面研削・光沢		高井車
212	64	深鉢	口縁部片	砂粒多, 良, 土色・黄褐色	内外面ナ子。		高井車
212	65	深鉢	胴部片	砂粒少, 良, 黄褐色	内外面研削・光沢		高井車
212	66	深鉢	胴部片	砂粒多, 良, 土色・褐色	内外面研削。		高井車
212	67	深鉢	胴部片	砂粒多, 良, 土色・褐色	内外面研削。		高井車
212	68	深鉢	胴部片	砂粒多, 良, 土色・褐色	内外面研削。		高井車
213	69	深鉢	胴部片	砂粒多, 良, 土色・褐色	内外面研削。		高井車
213	70	深鉢	胴部片	砂粒多, 良, 土色・褐色	内外面研削。		高井車
213	71	深鉢	胴部片	砂粒多, 良, 土色・黄褐色	内外面研削。		高井車
213	72	深鉢	胴部片	砂粒少, 良, 明褐色	内外面研削, 卑部上1段縄文。		高井車
213	73	深鉢	胴部片	砂粒少, 良, 土色・黄褐色	内外面研削。		高井車
213	74	深鉢	胴部片	砂粒少, 良, 土色・黄褐色	無面1段縄文。		縄文之内2?
213	75	深鉢	口縁部片	砂粒多, 良, 土色・黄褐色	大穴状口縁, 内外面研削・光沢		加賀村白-高井車
213	76	深鉢	口縁部片	砂粒多, 良, 褐色	大穴状口縁, 内外面研削。		加賀村白-高井車
213	77	深鉢	口縁部片	砂粒多, 良, 黄褐色	内外面粗い研削。		加賀村白-高井車
213	78	深鉢	口縁部片	砂粒少, 良, 土色・黄褐色	内外面ナ子。		加賀村白-高井車
213	79	深鉢	口縁部片	砂粒少, 良, 黄褐色	内外面粗い研削。		加賀村白-高井車
213	80	鉢	口縁部片	砂粒少, 良, 土色・黄褐色	内外面黄色処理, 内外面粗い研削。		加賀村白-高井車
213	81	鉢	口縁部片	砂粒少, 良, 土色・黄褐色	内外面粗い研削。		加賀村白-高井車
213	82	深鉢	口縁部片	細砂粒多, 良, 土色・明褐色	内外面研削。		安行
213	83	深鉢	口縁部片	細砂粒多, 良, 褐色	内外面研削, 卑部上1段縄文。		安行
213	84	口付土器	口縁部片	砂粒多, 良, 土色・黄褐色	内外面粗いナ子多し。外面に網代模残存。		加賀村白-高井車
213	85	深鉢	底部分	砂粒多, 良, 土色・黄褐色	内外面粗いナ子多し。外面黄色処理も残す。底面網代模。		加賀村白-高井車
213	86	深鉢	底部分	砂粒多, 良, 土色・褐色	内外面粗いナ子多し。外面黄色処理も残す。底面網代模。		縄文之内2
213	87	深鉢	底部分	砂粒多, 良, 土色・褐色	内外面研削, 卑部研削。		加賀村白-高井車
213	88	深鉢	底部分	砂粒多, 良, 土色・褐色	内外面ナ子。外面黄色処理も残す。底面網代模。		加賀村白-高井車
213	89	深鉢	底部分	砂粒多, 良, 土色・褐色	内外面研削, 底面網代模, 底面土。		加賀村白-高井車
213	90	鉢	胴部片	胎土粗心多, 良, 土色・黄褐色	内外面粗いナ子。外面黄色処理も残す。		加賀村白-高井車
213	91	深鉢	底部分	砂粒多, 良, 土色・褐色	内外面粗いナ子。外面土。底面(11.0)。		加賀村白-高井車
213	92	深鉢	底部分	砂粒多, 良, 黄褐色	内外面研削, 外面ナ子。底面不明瞭。		加賀村白-高井車
213	93	深鉢	底部分	砂粒少, 普通, 明褐色	底面不全。内外面研削。		加賀村白-高井車
213	94	土製土甕	完形	砂粒多, 普通, 土色・黄褐色	筒状。土器部不全。口縁径5.4。		複製
213	95	土製土甕	完形	砂粒多, 良, 灰黄褐色	土器部不全。口縁径6.0。底面に白色シムト。最大径6.2。		複製

縄文時代前期 30区 38区付居

図録 番号	遺物 番号	種別 種類	残存	胎土・焼成・色調	器形・文様の特徴		時期・備考
					計量値 (単位: cm. () は推定値)		
216	1	深鉢	口縁部片	砂粒多, 良, 暗褐色	内外面研削・黒色処理・光沢, 卑部上1段縄文, 文様4単位(4)		縄文之内2
216	2	深鉢	口縁部片	砂粒多, 良, 土色・暗褐色	内外面研削・黒色処理・光沢, 卑部上1段縄文。		加賀村白1
216	3	鉢	口縁部-胴部	細砂粒全平多, 良, 黄褐色	内外面研削・黒色処理・光沢, 卑部上1段縄文, 底面赤土。		加賀村白2
216	4	深鉢	口縁部片	細砂粒多, 良, 黒褐色	内外面研削・黒色処理, 卑部上1段縄文。		加賀村白2
216	5	壺?	胴部片	砂粒少, 良, 土色・黄褐色	内外面粗いナ子, 外面粗い研削, 卑部上1段縄文, 赤土。		加賀村白2
216	6	深鉢	口縁部片	砂粒多, 良, 土色・黄褐色	内外面研削。		加賀村白2
216	7	深鉢	口縁部片	砂粒少, 良, 土色・黄褐色	内外面研削・黒色処理・光沢, 卑部上1段縄文。		加賀村白2
216	8	深鉢	胴部片	砂粒多, 良, 土色・黄褐色	外面粗い研削, 外面にナ子面を残す。		複製
216	9	深鉢	口縁部片	砂粒多, 良, 土色・黄褐色	内外面粗い研削。		縄文之内1

遺物観察表

図版 番号	遺物 番号	種別 名称	残存	胎土・焼成・色調	部形・文様の特徴		時期・備考
					計測値 (単位: cm. () は推定値)	説明	
219	101	深鉢	口縁部片	砂粒多, 良, 土色・褐色	底径13.0, 内外面研削	底径13.0, 内外面研削	高野段
220	102	深鉢	底面片	砂粒少, 良, 土色・褐色	内外面研削	底面に網代紋, 底径(7.0), 残存高2.8	後期
220	103	深鉢	底面片	砂粒少, 良, 土色・赤褐色	内外面研削	底面に網代紋, 底径(7.0), 残存高2.5	後期
220	104	深鉢	胴・底面片	砂粒多, 良, 土色・褐色	内外面研削	底面に網代紋, 底径(9.8), 残存高6.8	後期
220	105	深鉢	底面片	砂粒少, 良, 土色・褐色	内外面研削	底面に網代紋, 底径(6.4), 残存高3.6	後期
220	106	深鉢	底面片	砂粒少, 良, 土色・褐色	内外面研削	底面に網代紋, 底径(7.2), 残存高1.6	後期
220	107	深鉢	底面片	砂粒多, 良, 赤褐色	内外面研削	底面に網代紋, 底径(7.6), 残存高2.5	後期
220	108	深鉢	底面片	砂粒少, 良, 土色・黄褐色	内外面研削	底面に網代紋, 底径(7.0), 残存高1.0	後期
220	109	注口?	底面片	砂粒多, 良, 褐色	内外面研削	底面に網代紋, 底径(4.7), 残存高0.4	後期
220	110	深鉢	底面片	砂粒少, 良, 褐色	内外面研削	底面に網代紋, 底径10.4, 残存高3.2	後期
220	111	鉢	底面片	砂粒少, 良, 黒褐色	内外面研削	黒色処理・光沢, 底面に網代紋, 底径7.2, 残存高1.0	後期
220	112	深鉢	胴・底面片	砂粒多, 良, 土色・褐色	内外面研削	底面に網代紋, 底径(10.0), 残存高3.6	後期
220	113	深鉢	胴・底面片	砂粒少, 良, 土色・黄褐色	内外面研削	底面に網代紋, 底径6.6, 残存高4.2	後期
220	114	浅鉢	胴部片	砂粒少, 良, 土色・黄褐色	内外面研削	黒色処理・光沢, 内外面研削, 底面内面に有, 底面研削跡あり, 網代不明, 底径(8.4), 残存高2.8	後期
220	115	深鉢	底面片	砂粒少, 良, 褐色	内外面研削	底面に網代紋, 底径8.0, 残存高2.8	後期
221	116	土器口頸	完形	砂粒少, 良, 土色・黄褐色	滑石質, 磨練研削, 小径, 内外面研削, 最大径1.7	滑石質, 磨練研削, 小径, 内外面研削, 最大径1.7	後期
221	117	土器口頸	完形	砂粒多, 良, 暗赤褐色	滑石質, 磨練研削, 小径, 内外面研削, 最大径3.4	滑石質, 磨練研削, 小径, 内外面研削, 最大径3.4	後期
221	118	土器口頸	完形	砂粒多, 良, 土色・黄褐色	滑石質, 磨練研削, 内外面研削, 網文有無不明, 最大径3.6	滑石質, 磨練研削, 内外面研削, 網文有無不明, 最大径3.6	後期
221	119	土器口頸	完形	砂粒少, 良, 褐色	滑石質, 磨練研削, 小径, 内外面研削, 最大径3.7	滑石質, 磨練研削, 小径, 内外面研削, 最大径3.7	後期
221	120	土器口頸	完形	砂粒多, 良, 土色・黄褐色	滑石質, 磨練研削, 小径, 内外面研削, 最大径4.8	滑石質, 磨練研削, 小径, 内外面研削, 最大径4.8	後期
221	121	土器口頸	完形	砂粒多, 良, 灰黄褐色	滑石質, 磨練研削, 小径, 内外面研削, 最大径4.0	滑石質, 磨練研削, 小径, 内外面研削, 最大径4.0	後期
221	122	土器口頸	完形	砂粒多, 良, 土色・褐色	滑石質, 磨練研削, 小径, 内外面研削, 最大径5.0	滑石質, 磨練研削, 小径, 内外面研削, 最大径5.0	後期

図版 番号	遺物 番号	種別 名称	残存	胎土・焼成・色調	部形・文様の特徴		時期・備考
					計測値 (単位: cm. () は推定値)	説明	
224	1	深鉢	口縁部片	砂粒多, 良, 明赤褐色	底径13.0, 縁部透視研削文, 口径(15.2), 残存高15.2	底径13.0, 縁部透視研削文, 口径(15.2), 残存高15.2	後期I
224	2	深鉢	口縁部片	砂粒多, 良, 暗赤褐色	底径10.1, 内外面研削, 口内面に肥土, 口径(20.0), 残存高10.1	底径10.1, 内外面研削, 口内面に肥土, 口径(20.0), 残存高10.1	後期文系
224	3	深鉢	胴部片	砂粒多, 雲母片付, 良, 褐色	2本の滑石質, 縦線の付研削文, 残存高4.3	2本の滑石質, 縦線の付研削文, 残存高4.3	後期文系
224	4	深鉢	口縁部片	砂粒少, 良, 褐色	底径7.2?, 内外面研削	底径7.2?, 内外面研削	加賀村I 4
224	5	深鉢	口縁部片	砂粒多, 良, 土色・黄褐色	内外面研削, 小径	内外面研削, 小径	加賀村I 1
224	6	深鉢	口縁部片	砂粒多, 良, 土色・赤褐色	内外面研削	内外面研削	加賀村I 1
224	7	深鉢	口縁部片	砂粒多, 良, 土色・黄褐色	内外面研削	内外面研削	加賀村I 1
224	8	深鉢	口縁部片	砂粒多, 良, 褐色	内外面研削	内外面研削	加賀村I 1
224	9	深鉢	口縁部片	砂粒多, 良, 褐色	底径7.1, 内径7.1, 上面半縁起部に赤土敷文	底径7.1, 内径7.1, 上面半縁起部に赤土敷文	後期文系
224	10	深鉢	口縁部片	砂粒多, 良, 土色・褐色	中径1.0, 半面研削	中径1.0, 半面研削	後期文系
224	11	深鉢	口縁部片	砂粒多, 良, 土色・黄褐色	内外面研削	内外面研削	加賀村I 1
224	12	深鉢	口縁部片	砂粒多, 良, 褐色	内外面研削	内外面研削	加賀村I 1
224	13	深鉢	胴部片	細砂粒多, 良, 土色・赤褐色	内外面研削, 内外面に灰土付研削, 残存高10.1	内外面研削, 内外面に灰土付研削, 残存高10.1	加賀村I 1
224	14	深鉢	胴部片	砂粒多, 良, 土色・褐色	内外面研削	内外面研削	加賀村I 1
224	15	注口	口縁・胴部	細砂粒多, 良, 土色・赤褐色	内径7.1, 内外面研削, 胴部径(9.0), 残存高6.5	内径7.1, 内外面研削, 胴部径(9.0), 残存高6.5	後期
224	16	深鉢	胴部片	砂粒多, 良, 土色・褐色	底径7.2?, 小径1.1, 半面I 裏面文付研削, 外外面研削	底径7.2?, 小径1.1, 半面I 裏面文付研削, 外外面研削	加賀村I 2
224	17	深鉢	口縁部片	砂粒多, 良, 土色・黄褐色	底径7.1, 小径1.1, 半面I 裏面文付研削	底径7.1, 小径1.1, 半面I 裏面文付研削	加賀村I 2
225	18	深鉢	口縁・胴部	砂粒少, 良, 土色・黄褐色	内外面研削, 半面I 裏面文	内外面研削, 半面I 裏面文	加賀村I 2
225	19	深鉢	口縁部片	砂粒少, 良, 褐色	内外面研削	内外面研削	加賀村I 2
225	20	深鉢	口縁部片	砂粒多, 良, 褐色	内外面研削	内外面研削	加賀村I 2
225	21	深鉢	口縁・胴部	砂粒多, 普通, 暗褐色	内外面研削	内外面研削	加賀村I 2
225	22	深鉢	口縁部片	砂粒多, 良, 黒褐色	内外面研削	内外面研削	加賀村I 2
225	23	深鉢	口縁部片	砂粒少, 良, 土色・黄褐色	内外面研削	内外面研削	加賀村I 2
225	24	深鉢	口縁部片	砂粒少, 良, 褐色	内外面研削	内外面研削	加賀村I 2
225	25	深鉢	口縁部片	砂粒多, 良, 黒褐色	内外面研削	内外面研削	加賀村I 2
225	26	深鉢	口縁部片	砂粒多, 良, 土色・黄褐色	内外面研削	内外面研削	加賀村I 2
225	27	深鉢	口縁部片	細砂粒多, 良, 褐色	底径7.1, 内外面研削	底径7.1, 内外面研削	加賀村I 2
225	28	深鉢	胴部片	砂粒多, 良, 暗褐色	内外面研削	内外面研削	後期
225	29	深鉢	口縁部片	砂粒多, 良, 褐色	内外面研削	内外面研削	加賀村I 2
225	30	深鉢	口縁部片	砂粒少, 良, 土色・黄褐色	内外面研削	内外面研削	加賀村I 2
225	31	深鉢	口縁部片	細砂粒多, 良, 土色・黄褐色	内外面研削	内外面研削	加賀村I 2
225	32	深鉢	胴部片	砂粒少, 良, 土色・褐色	内外面研削	内外面研削	加賀村I 2
225	33	深鉢	胴部片	砂粒多, 良, 土色・黄褐色	内外面研削	内外面研削	加賀村I 2
225	34	深鉢	胴部片	砂粒多, 良, 暗褐色	内外面研削	内外面研削	加賀村I 2
225	35	深鉢	胴部片	砂粒少, 良, 土色・褐色	内外面研削	内外面研削	加賀村I 2
225	36	深鉢	胴部片	砂粒少, 良, 土色・黄褐色	内外面研削	内外面研削	加賀村I 2
225	37	深鉢	胴部片	砂粒少, 良, 土色・黄褐色	底面研削	底面研削	加賀村I 2
225	38	深鉢	胴部片	砂粒少, 良, 黒褐色	底面研削	底面研削	加賀村I 2
225	39	深鉢	胴部片	砂粒少, 良, 黒褐色	内外面研削	内外面研削	加賀村I 2
226	40	深鉢	口縁・胴部	細砂粒多, 良, 土色・黄褐色	内外面研削	内外面研削	加賀村I 1
226	41	深鉢	口縁・胴部	細砂粒多, 普通, 黒褐色	内外面研削	内外面研削	加賀村I 2
226	42	深鉢	口縁・胴部	砂粒少, 良, 黒色	内外面研削	内外面研削	加賀村I 1
226	43	深鉢	口縁・胴部	細砂粒中多, 良, 土色・黄褐色	内外面研削	内外面研削	加賀村I 1
226	44	深鉢	口縁部片	砂粒少, 良, 土色・黄褐色・黒褐色	内外面研削	内外面研削	加賀村I 2
226	45	深鉢	口縁部片	細砂粒多, 良, 黒褐色	内外面研削	内外面研削	加賀村I 2
226	46	深鉢	口縁部片	砂粒多, 良, 褐色	内外面研削	内外面研削	加賀村I 2
226	47	深鉢	口縁部片	砂粒多, 良, 土色・黄褐色	内外面研削	内外面研削	加賀村I 2
226	48	注口	胴部片	細砂粒多, 良, 褐色	内外面研削	内外面研削	加賀村I 1
226	49	鉢	胴部片	砂粒多, 良, 黒褐色	内外面研削	内外面研削	加賀村I 1
226	50	深鉢	口縁部片	砂粒少, 良, 黒褐色	内外面研削	内外面研削	加賀村I 1
226	51	深鉢	口縁部片	砂粒少, 良, 明赤褐色	内外面研削	内外面研削	加賀村I 2
226	52	深鉢	口縁部片	砂粒少, 良, 黒褐色	内外面研削	内外面研削	加賀村I 2
226	53	深鉢	口縁部片	砂粒少, 良, 黒褐色	内外面研削	内外面研削	加賀村I 2
226	54	深鉢	口縁部片	砂粒少, 良, 黒褐色	内外面研削	内外面研削	加賀村I 2
226	55	深鉢	口縁部片	砂粒多, 良, 土色・黄褐色	内外面研削	内外面研削	加賀村I 2
226	56	深鉢	口縁部片	砂粒多, 良, 土色・黄褐色	内外面研削	内外面研削	加賀村I 2
227	57	深鉢	口縁部片	細砂粒多, 良, 土色・黄褐色	内外面研削	内外面研削	加賀村I 2

遺物観察表

順次	遺物	種類	残存	土質・焼成・色調	器形・文様の特徴		時期・備考
					計測値(単位)	寸法(単位)	
237	58	深鉢	口縁部片	磁粒多、良、黒褐色。	突起3単位、内外面研削・黒色処理、華部1区縁文、口径(17.0)、残存高11.7。		加賀村B 2
237	59	深鉢	口縁部片	磁粒中々多、良、黒褐色。	突起3単位、内外面研削・黒色処理、華部1区縁文、外面側面欠り不足残存より5mm欠損、口径(24.8)、残存高13.8。		加賀村B 2
237	60	深鉢	口縁・胴部	磁粒少、良、褐色。	突起3単位、内外面研削・黒色処理・光沢、華部1区縁文、口径18.1、残存高14.7。		加賀村B 2
237	61	深鉢	口縁・胴部	磁粒少、良、黒褐色。	突起3単位、内外面研削・黒色処理、口径15.4、残存高8.3。		加賀村B 2
237	62	深鉢	口縁部片	磁粒中々多、良、土赤・黄褐色。	内外面研削、華部1区縁文、口径(10.6)。		加賀村B 2
237	63	深鉢	口縁・胴部	磁粒中々多、良、黒褐色。	突起3単位、内外面研削・黒色処理、内外面炭化物付着、口径18.5、残存高10.5。		加賀村B 2
237	64	深鉢	胴部片	磁粒多、良、黒褐色。	内外面研削・黒色処理・光沢、華部1区縁文。		加賀村B 2
237	65	深鉢	口縁・胴部	磁粒少、良、土赤褐色。	内外面研削、底面削込、波状口縁、華部1区縁文、口径17.0、高9.7。		加賀村B 2
237	66	深鉢	胴部片	磁粒少、良、黒褐色。	内外面研削・黒色処理・光沢、華部1区縁文、内面炭化物付着。		加賀村B 2
238	67	深鉢	口縁部片	磁粒少、良、土赤・黄褐色。	内外面研削・研削、華部1区縁文。		加賀村B 2
238	68	深鉢	口縁部片	磁粒少、良、褐色。	内外面研削・黒色処理、華部1区縁文、口径(10.6)。		加賀村B 2
238	69	深鉢	口縁部片	磁粒少、良、灰黄褐色。	内外面研削。		加賀村B 2
238	70	深鉢	口縁部片	磁粒中々多、良、灰黄褐色。	内外面研削、加色処理・光沢。		加賀村B 2
238	71	深鉢	口縁部片	磁粒中々多、良、灰褐色。	突起3単位、内外面研削。		加賀村B 2
238	72	深鉢	口縁部片	磁粒中々多、良、黒褐色。	突起3単位、内外面研削・加色処理・光沢、華部1区縁文。		加賀村B 2
238	73	深鉢	口縁部片	磁粒中々多、良、土赤・黄褐色。	内外面研削、華部1区縁文。		加賀村B 2
238	74	深鉢	口縁部片	磁粒多、良、灰黄褐色。	内外面研削、華部1区縁文。		加賀村B 2
238	75	深鉢	口縁部片	磁粒少、良、土赤・黄褐色。	内外面研削・光沢、華部1区縁文。		加賀村B 2
238	76	深鉢	口縁部片	磁粒中々多、良、黒褐色。	突起3単位、内外面研削、口径17.7と同一個体。		加賀村B 2
238	77	深鉢	口縁部片	磁粒中々多、良、土赤・黄褐色。	突起3単位、内外面研削、口径17.7と同一個体。		加賀村B 2
239	78	深鉢	口縁部片	磁粒中々多、良、黒褐色。	突起3単位、内外面研削、華部1区縁文。		加賀村B 2
239	79	深鉢	口縁部片	磁粒中々多、良、褐色。	突起3単位、内外面研削。		加賀村B 2
239	80	深鉢	口縁部片	磁粒中々多、良、灰黄褐色。	突起3単位、内外面研削。		加賀村B 2
239	81	深鉢	口縁部片	磁粒中々多、良、黒褐色。	突起3単位、内外面研削。		加賀村B 2
239	82	深鉢	口縁部片	磁粒中々多、良、褐色。	突起3単位、内外面研削。		加賀村B 2
239	83	深鉢	口縁部片	磁粒中々多、良、土赤・褐色。	突起3単位、内外面研削・加色処理・光沢、華部1区縁文。		加賀村B 2
239	84	深鉢	口縁部片	磁粒中々多、良、土赤・黄褐色。	突起3単位、内外面研削。		加賀村B 2
239	85	深鉢	口縁部片	磁粒中々多、良、灰褐色。	突起3単位、内外面研削・加色処理・光沢。		加賀村B 2
239	86	深鉢	口縁・胴部	磁粒多、良、黒褐色。	内外面研削・加色処理・突起、華部1区縁文、残存高21.0。		加賀村B 2
239	87	深鉢	口縁部片	磁粒少、良、黒褐色。	内外面研削、華部1区縁文。		加賀村B 2
239	88	深鉢	口縁部片	磁粒少、良、土赤・黄褐色・黒色。	内外面研削、口縁部1区縁文。		加賀村B 2
240	89	深鉢	口縁部片	磁粒中々多、良、褐色。	突起3単位、内外面研削・加色処理・光沢。		加賀村B 2
240	90	深鉢	口縁部片	磁粒中々多、良、土赤・黄褐色。	内外面研削・加色処理・突起、華部1区縁文。		加賀村B 2
240	91	深鉢	口縁部片	磁粒中々多、良、黒褐色。	突起3単位、内外面研削・加色処理・突起、華部1区縁文。		加賀村B 2
240	92	深鉢	口縁部片	磁粒中々多、良、褐色。	突起3単位、内外面研削。		加賀村B 2
240	93	深鉢	口縁部片	磁粒中々多、良、灰黄褐色。	突起3単位、内外面研削。		加賀村B 2
240	94	深鉢	口縁部片	磁粒中々多、良、土赤・黄褐色。	内外面研削。		堀之内2
240	95	深鉢	口縁部片	磁粒中々多、良、土赤・黄褐色。	内外面研削。		加賀村B 1
240	96	深鉢	口縁部片	磁粒多、良、褐色。	口径27mm面研削、外面十字筋を残す、内面1区縁文、華部1区縁文。		加賀村B 2
240	97	深鉢	口縁・胴部	磁粒中々多、良、灰褐色。	内外面研削、外面口縁部研削、胴部欠り後部に欠損、口径(46.0)、残存高9.5。		加賀村B 1
240	98	深鉢	胴部片	磁粒中々多、良、土赤・黄褐色。	内外面研削・突起。		加賀村B 1
240	99	深鉢	口縁・胴部	磁粒少、良、褐色。	内外面研削、外面口縁部研削、胴部欠り後部に欠損、口径(29.2)、残存高8.4。		加賀村B 2
240	100	深鉢	口縁・底蓋	磁粒中々多、良、黒褐色。	内外面研削・黒色処理・突起、口径(22.2)、底径(3.0)、残存高8.1。		加賀村B 1
241	101	深鉢	口縁部片	磁粒中々多、良、土赤・黄褐色。	内外面研削・突起。		加賀村B 2
241	102	深鉢	口縁部片	磁粒中々多、良、褐色。	内外面研削・黒色処理・突起、華部1区縁文。		加賀村B 1
241	103	深鉢	口縁部片	磁粒中々多、良、黒褐色。	内外面研削・黒色処理・突起。		加賀村B 1
241	104	深鉢	口縁部片	磁粒中々多、良、黒褐色。	内外面研削、口径(9.0)、残存高4.8。		加賀村B 1
241	105	深鉢	口縁・胴部	磁粒中々多、良、土赤・褐色。	内外面研削、文様6単位、外面文様部欠り筋を残すより欠損、口径(17.0)、残存高8.2。		加賀村B 2
241	106	深鉢	口縁部片	磁粒中々多、良、褐色。	内外面研削、華部1区縁文、口径(16.0)、残存高6.8。		加賀村B 2
241	107	深鉢	口縁部片	磁粒中々多、良、灰黄褐色。	内外面研削、華部1区縁文。		加賀村B 2
241	108	深鉢	胴部片	磁粒多、良、灰黄褐色。	内外面研削・加色処理・突起、華部1区縁文。		加賀村B 1
241	109	深鉢	胴部片	磁粒多、良、土赤・黄褐色。	内外面研削・突起、華部1区縁文。		加賀村B 2
241	110	深鉢	底蓋	磁粒多、良、褐色。	内外面・底面研削、華部1区縁文・底径(3.0)、残存高5.6。		加賀村B 2
241	111	深鉢	底蓋	磁粒少、良、黒褐色。	内外面・底面研削・黒色処理・突起、口径13.0、残存高2.8。		堀之内2
241	112	深鉢	胴部片	磁粒中々多、良、灰黄褐色。	内外面研削・加色処理・突起。		加賀村B 2
241	113	深鉢	口縁・胴部	磁粒多、良、土赤・黄褐色。	内外面研削、華部1区縁文。		加賀村B 2
241	114	深鉢	口縁部片	磁粒多、良、褐色。	内外面研削、華部1区縁文。		加賀村B 2
242	115	深鉢	口縁部片	磁粒中々多、良、土赤・黄褐色。	内外面研削、輪部1区縁文、口径(7.6)、残存高4.5。		堀之内2
242	116	深鉢	口縁部片	磁粒中々多、良、土赤・黄褐色。	内外面研削、輪部1区縁文。		堀之内2
242	117	深鉢	口縁部片	磁粒多、良、灰黄褐色。	内外面研削、輪部1区縁文。		堀之内2
242	118	深鉢	胴部片	磁粒少、良、褐色。	内外面黒色処理、外面十字筋、外面研削。		加賀村B 1
242	119	深鉢	胴部片	磁粒多、良、土赤・黄褐色。	内面十字筋、外面研削。		堀之内2
242	120	深鉢	胴部片	磁粒多、良、土赤・黄褐色。	内面研削・研削。		堀之内2
242	121	深鉢	胴部片	磁粒中々多、良、土赤・黄褐色。	内面十字筋、外面研削。		堀之内2
242	122	深鉢	胴部片	磁粒中々多、良、土赤・黄褐色。	内外面十字筋、華部1区縁文。		加賀村B 2
242	123	深鉢	胴部片	磁粒少、良、明赤褐色。	内面十字筋、外面研削。		堀之内2
242	124	深鉢	胴部片	磁粒中々多、良、黒褐色。	内面十字筋、外面研削・突起。		加賀村B 1
242	125	深鉢	胴部片	磁粒多、良、灰褐色。	内面十字筋、外面研削。		加賀村B 1
242	126	深鉢	胴部片	磁粒少、良、土赤・黄褐色。	内外面研削。		加賀村B 1
242	127	深鉢	胴部片	磁粒中々多、良、灰褐色。	内外面研削・黒色処理・突起、華部1区縁文。		加賀村B 2
242	128	深鉢	胴部片	磁粒中々多、良、褐色。	内外面研削・突起。		堀之内2
242	129	深鉢	口縁部片	磁粒多、良、明赤褐色。	内外面研削。		堀之内2
242	130	深鉢	口縁部片	磁粒中々多、良、土赤・黄褐色。	内外面研削。		堀之内2
242	131	深鉢	口縁部片	磁粒多、良、灰褐色。	全面研削、胴部との接合部に2条の浅線と凹線研削。		堀之内2
242	132	深鉢	口縁部片	磁粒多、良、土赤・黄褐色。	内外面研削・突起、華部1区縁文。		加賀村B 1～2
242	133	深鉢	口縁部片	磁粒多、良、明赤褐色。	内外面研削の粗い十字筋を残す。		加賀村B 1～2
242	134	深鉢	口縁部片	磁粒多、良、土赤・黄褐色。	内外面研削の粗い十字筋を残す。		加賀村B 1～2
242	135	深鉢	口縁部片	磁粒多、良、土赤・黄褐色。	内外面十字筋、粗い研削。		加賀村B 1～2
243	136	深鉢	口縁・胴部	磁粒多、良、褐色。	内外面研削、表面研削を伴う2条の浅線、胴部欠り後部に研削し、2条1対の斜線状浅線、口径(42.0)、残存高23.4。		加賀村B 1～2

遺物観察表

回収 番号	遺物 番号	種別 器種	残存	胎土・焼成・色調	胎形・文様の特徴		時期・備考
					計測値 (単位:cm.)	()は推定値	
243	137	深鉢	口縁~胴部	砂粒少, 且, 灰黄褐色。	内外面刷滑, 外面縁~具位のナ字筋を残す。	計測値	加賀科B 1~2
243	138	深鉢	口縁~胴部	砂粒少, 且, 土に赤い黄褐色。	内面丁字ナ字ナ, 外面ナ字ナ筋を残す。	計測値	加賀科B 1~2
243	139	深鉢	口縁~胴部	砂粒多, 且, 黒褐色。	内外面ナ字ナ	計測値	後期
244	140	深鉢	胴部	砂粒多, 且, 明褐色。	内外面丁字ナ字ナ, 筋~刷滑。	計測値	後期
244	141	深鉢	胴部	砂粒少, 且, 土に赤い褐色。	内外面刷滑。	計測値	加賀科B 2~3
244	142	深鉢	胴部	砂粒少, 且, 黒褐色。	内外面刷滑。	計測値	加賀科B 2~3
244	143	深鉢	口縁部	砂粒少, 且, 黒褐色。	内外面刷滑・黒色刷滑。	計測値	高古型
244	144	深鉢	胴部	砂粒少, 且, 土に赤い褐色。	内外面ナ字ナ	計測値	後期
244	145	鉢	口縁部	砂粒少, 且, 土に赤い黄褐色。	内外面刷滑。	計測値	加賀科B
244	146	深鉢	口縁部	砂粒多, 且, 土に赤い褐色。	内面丁字ナ字ナ, 外面刷滑。	計測値	後期
244	147	深鉢	口縁部	砂粒多, 且, 土に赤い黄褐色。	内外面丁字ナ字ナ, 筋~刷滑。	計測値	後期
244	148	深鉢	口縁部	砂粒多, 且, 土に赤い黄褐色。	内外面丁字ナ字ナ, 筋~刷滑。	計測値	後期
244	149	深鉢	口縁部	砂粒多, 且, 明褐色。	内外面刷滑。	計測値	後期
244	150	深鉢	口縁部	砂粒少, 且, 土に赤い褐色。	内外面~筋ナ字ナ筋を残す。	計測値	加賀科B 1
244	151	深鉢	口縁部	砂粒多, 且, 黒褐色。	内外面丁字ナ字ナ, 筋~刷滑。	計測値	加賀科B 2~3
244	152	深鉢	口縁部	砂粒少, 且, 土に赤い褐色。	内外面~筋ナ字ナ筋を残す。	計測値	加賀科B 1
244	153	深鉢	口縁部	砂粒多, 且, 黄褐色~褐色。	内面丁字ナ字ナ, 外面ナ字ナ筋を残す。	計測値	加賀科B 1
244	154	深鉢	口縁部	砂粒多, 且, 土に赤い褐色。	内外面刷滑。	計測値	加賀科B 2~3
244	155	深鉢	底部	細砂粒少, 且, 褐色。	内外面丁字ナ字ナ筋~明褐色~光沢, 底部刷滑~刷滑。底径4.1, 残存高3.4。	計測値	加賀科B
244	156	深鉢	胴~底部	細砂粒多, 且, 土に赤い褐色。	内面丁字ナ字ナ~筋~刷滑, 外面筋ナ字ナ~筋~刷滑。	計測値	後期
244	157	深鉢	胴部	砂粒少, 且, 褐色。	内外面刷滑・光沢, 残存高4.0。	計測値	加賀科B
245	158	深鉢	底部	砂粒少, 且, 土に赤い黄褐色。	内外面刷滑, 底部に刷滑。底径11.0, 残存高3.3。	計測値	後期
245	159	深鉢	底部	砂粒少, 且, 褐色。	内外面刷滑・光沢, 底部に刷滑。底径18.0, 残存高4.1。	計測値	高古型
245	160	深鉢	底部	砂粒少, 且, 土に赤い赤褐色。	内外面刷滑, 底部に刷滑。底径14.0, 残存高5.1。	計測値	高古型
245	161	深鉢	底部	砂粒少, 且, 褐色~土に赤い黄褐色。	内外面ナ字ナ, 底部に刷滑。底径5.8, 残存高2.8。	計測値	後期
245	162	深鉢	底部	砂粒少, 且, 土に赤い褐色。	内外面刷滑・光沢, 底部に刷滑。底径9.0, 残存高4.0。	計測値	高古型
245	163	深鉢	底部	砂粒多, 且, 土に赤い黄褐色。	内外面刷滑, 底部に刷滑。底径11.0, 残存高6.0。	計測値	後期
245	164	深鉢	胴部	砂粒多, 且, 土に赤い赤褐色。	内外面刷滑。	計測値	高古型
245	165	鉢	胴~底部	砂粒多, 且, 明褐色。	内面丁字ナ字ナ, 底部に刷滑。底径6.4, 残存高4.2。	計測値	加賀科B 2~3
245	166	鉢	底部	砂粒多, 且, 土に赤い黄褐色。	内面刷滑, 外面ナ字ナ, 底部に刷滑。底径8.4, 残存高2.0。	計測値	高古型
245	167	鉢	底部	砂粒少, 且, 土に赤い褐色。	内外面刷滑, 底部に刷滑。底径8.0, 残存高4.0。	計測値	高古型
245	168	約り手	把手部	細砂粒多, 且, 土に赤い黄褐色。	全面刷滑。	計測値	高古型
245	169	土灰皿	ほぼ正方形	細砂粒多, 且, 褐色。	調整良, 細砂粒巧文を施す。最大径2.6。	計測値	加賀科B 1
245	170	土灰皿	方形	砂粒多, 且, 灰黄褐色。	調整良, 細砂粒巧文を施す。最大径3.1。	計測値	後期
245	171	土灰皿	方形	細砂粒多, 且, 土に赤い黄褐色。	調整良, 細砂粒巧文を施す。最大径2.8。	計測値	後期
245	172	土灰皿	方形	細砂粒多, 且, 褐色。	調整良, 調整により調整不明。最大径3.0。	計測値	後期
245	173	土灰皿	方形	砂粒中多, 且, 明褐色。	調整良, 細砂粒巧文を施す。最大径2.6。	計測値	後期
245	174	土灰皿	方形	細砂粒多, 且, 褐色。	調整良, 細砂粒巧文を施す。最大径3.5。	計測値	後期
245	175	土灰皿	方形	砂粒中多, 且, 土に赤い黄褐色。	調整良, 細砂粒巧文を施す。最大径3.8。	計測値	後期
245	176	土灰皿	方形	細砂粒多, 且, 褐色。	調整良, 細砂粒巧文を施す。最大径4.1。	計測値	後期
245	177	土灰皿	方形	砂粒中多, 且, 黒褐色。	調整良, 細砂粒巧文を施す。最大径4.0。	計測値	後期

回収 番号	遺物 番号	種別 器種	残存	胎土・焼成・色調	胎形・文様の特徴	時期・備考	
					計測値 (単位:cm.)	()は推定値	
280	1	深鉢	口縁~胴部	砂粒多, 並母多, 且, 土に赤い赤褐色。	内外面ナ字ナ	計測値	中前期
280	2	深鉢	口縁部	砂粒少, 且, 土に赤い赤褐色。	内外面刷滑, 胴縁1.5mm。	計測値	高古型
280	3	深鉢	口縁部	砂粒少, 且, 土に赤い黄褐色。	内外面刷滑, 外面にナ字ナを残す。	計測値	加賀科B 1

回収 番号	遺物 番号	種別 器種	残存	胎土・焼成・色調	胎形・文様の特徴	時期・備考	
					計測値 (単位:cm.)	()は推定値	
280	1	深鉢	口縁~底部	細砂粒少, 並母, 黒褐色。	突起3単位, 内外面刷滑, 黒色刷滑, 光沢, 底部に刷滑。単脚1.5mm文。口径15.8, 底径6.4, 高さ25.6。	計測値	加賀科B 2
280	2	深鉢	胴部	砂粒少, 且, 黄褐色。	内外面刷滑。	計測値	加賀科B
280	3	深鉢	胴部	砂粒多, 且, 黄褐色。	内外面ナ字ナ, 外面刷滑。	計測値	後期
280	4	深鉢	底部	砂粒多, 且, 褐色。	内外面刷滑, 外面ナ字ナ, 底部に刷滑。底径6.0, 残存高3.6。	計測値	後期
280	5	深鉢	底部	砂粒少, 且, 褐色。	内外面刷滑・光沢, 底部に刷滑。底径5.0, 残存高5.4。	計測値	後期
280	6	深鉢	口縁部	砂粒少, 片割少, 且, 土に赤い赤褐色。	内外面刷滑。	計測値	高古型
280	7	深鉢	胴部	砂粒少, 且, 明褐色。	内外面刷滑。	計測値	後期
280	8	鉢	口縁部	砂粒少, 且, 灰黄褐色。	内外面刷滑, 単脚1.5mm文, 底径1.5mm。	計測値	加賀科B
280	9	深鉢	口縁部	砂粒少, 且, 土に赤い褐色。	内外面刷滑。	計測値	高古型
280	10	深鉢	胴部	砂粒多, 並母多, 且, 黒褐色。	内外面刷滑。	計測値	後期
280	11	深鉢	胴部	砂粒少, 片割少, 且, 土に赤い赤褐色。	内外面刷滑。	計測値	高古型

回収 番号	遺物 番号	種別 器種	残存	胎土・焼成・色調	胎形・文様の特徴	時期・備考	
					計測値 (単位:cm.)	()は推定値	
283	1	深鉢	胴部	砂粒中多, 且, 赤褐色。	内外面ナ字ナ, 外面にナ字ナを残す。	計測値	後期
283	2	深鉢	胴部	砂粒多, 且, 土に赤い赤褐色。	内外面刷滑, 単脚1.5mm文。	計測値	高古型
283	3	深鉢	胴部	砂粒少, 且, 土に赤い褐色。	調整劣により調整不明。	計測値	高古型

遺物観察表

横塚中村遺跡 19区 11号配石

下取 番号	遺物 番号	種別 器種	残存	胎土・焼成・色調	胎形・文様の特徴 計測値(単位:cm、()は推定値)	時期・備考
282	1	深鉢	製部片	碎粒多、良、にぶい黄褐色。	内外面研磨。	加賀朝正3 後期
282	2	深鉢	製部片	碎粒少、良、褐色。	内外面研磨。	後期
282	3	深鉢	製部片	碎粒少、良、褐色。	内外面研磨。	後期
282	4	深鉢	底部片	碎粒多、普通、にぶい黄褐色。	内外面粗い研磨。底面研磨。底径4.8。	後期

横塚中村遺跡 19区 12号配石

下取 番号	遺物 番号	種別 器種	残存	胎土・焼成・色調	胎形・文様の特徴 計測値(単位:cm、()は推定値)	時期・備考
282	1	深鉢	口縁部片	碎粒多、良、にぶい黄褐色。	内外面粗い研磨。	加賀朝正3 後期
282	2	深鉢	製部片	碎粒多、良、にぶい黄褐色。	内外面粗い研磨。卑部径1.1横文。	加賀朝正3 後期
282	3	深鉢	製部片	碎粒多、良、にぶい黄褐色。	内外面粗い研磨。	後期

横塚中村遺跡 19区 14号配石

下取 番号	遺物 番号	種別 器種	残存	胎土・焼成・色調	胎形・文様の特徴 計測値(単位:cm、()は推定値)	時期・備考
283	1	深鉢	製部片	碎粒少、良、明黄褐色。	内外面研磨。	堀之内2 後期
283	2	深鉢	製部片	碎粒少、良、にぶい黄褐色。	内外面粗い研磨。	後期
283	3	鉢	底部片	碎粒少、良、褐色。	内外面粗い研磨。	後期

横塚中村遺跡 19区 15号配石

下取 番号	遺物 番号	種別 器種	残存	胎土・焼成・色調	胎形・文様の特徴 計測値(単位:cm、()は推定値)	時期・備考
284	1	鉢	ほぼ完整	細碎粒少、良、赤褐色。	突起4単位。内外面丁寧な研磨。底面に朝代様。口径22.0、底径7.8、高さ12.2。	堀之内2
284	2	深鉢	製部片	碎粒多、普通多、良、にぶい黄褐色。	内外面粗い研磨。底面研磨。	朝代3
284	3	深鉢	製部片	碎粒多、良、にぶい黄褐色。	内外面研磨。	堀之内

横塚中村遺跡 19区 16号配石

下取 番号	遺物 番号	種別 器種	残存	胎土・焼成・色調	胎形・文様の特徴 計測値(単位:cm、()は推定値)	時期・備考
284	1	深鉢	製部片	碎粒少、良、にぶい黄褐色。	内外面研磨。	堀之内2 後期
284	2	鉢?	口縁部片	碎粒多、普通含む、良、にぶい黄褐色。	内外面粗い研磨。	堀之内2 後期
284	3	深鉢	製部片	碎粒多、良、黄褐色。	内外面粗い研磨。	後期
284	4	深鉢	製部片	碎粒多、良、にぶい黄褐色。	内外面粗い研磨。	後期
284	5	深鉢	製部片	碎粒多、良、にぶい黄褐色。	内外面粗い研磨。	堀之内2 後期
284	6	深鉢	製部片	碎粒多、良、にぶい黄褐色。	内外面粗い研磨。	堀之内2 後期
284	7	深鉢	製部片	碎粒多、良、にぶい黄褐色。	外側ケズリ痕を残す。	堀之内2 後期
284	8	口付	底部片	碎粒多、良、にぶい黄褐色。	内外面粗い研磨。底面に朝代様。	堀之内2 後期
284	9	深鉢	製部片	碎粒少、良、にぶい黄褐色。	内径5.5。外周研磨。底径17.6。残存高4.8。	後期
284	10	深鉢	製部片	碎粒多、良、にぶい黄褐色。	内外面粗い研磨。	堀之内2

横塚中村遺跡 20区 22号配石

下取 番号	遺物 番号	種別 器種	残存	胎土・焼成・色調	胎形・文様の特徴 計測値(単位:cm、()は推定値)	時期・備考
284	1	深鉢	口縁部片	碎粒多、良、にぶい黄褐色。	内外面研磨。卑部径1.1横文。	堀之内2

遺物観察表(石器)

榊原中村遺跡 19区 3号住居

回収 番号	遺物 番号	器種	残存	計測値(長さ×幅×厚さ×重量 (単位:mm×mm×g、 \pm)は残存値)	石材	備考			
15	112	石鏃	70%	22.6 (16.1)	3.6	0.6	割石無葉、片断欠損。被焼有り(ハジケ)。		
15	113	石鏃	残存	74.0	43.0	32.0	横刃の片断を素材とし、2次加工し、使用痕。		
15	114	石鏃	破片	(105.0)	70.0	60.0	右面石鏃の破片。焼石葉。		
15	115	風石	破片	(27.5)	33.0	5.7	6.3	破片	
15	116	風石	破片	(33.5)	(27.5)	8.8	8.3	破片	
15	117	磨石	完整	118.5	78.1	62.5	9.28	2	粗粒輝石安山岩
15	118	磨石	完整	128.0	73.0	48.5	7.80	1	粗粒輝石安山岩
15	119	磨石	完整	142.0	74.0	36.5	6.57	5	粗粒輝石安山岩
15	120	磨石	完整	136.0	67.0	60.0	7.83	5	粗粒輝石安山岩
15	126	石鏃	50%	20.5	4.0	3.5	3.40	1	燧石
16	121	磨石	完整	104.4	88.0	84.0	10.74	1	粗粒輝石安山岩
16	122	磨石	80%	116.0	(90.0)	51.0	7.61	4	粗粒輝石安山岩
16	123	磨石	完整	100.6	80.7	62.0	7.22	0	粗粒輝石安山岩
16	124	磨石	80%	(137.5)	106.5	61.5	13.30	6	粗粒輝石安山岩
16	125	磨石	完整	190.2	165.3	84.0	41.03	7	粗粒輝石安山岩

榊原中村遺跡 19区 21号住居

回収 番号	遺物 番号	器種	残存	計測値(長さ×幅×厚さ×重量 (単位:mm×mm×g、 \pm)は残存値)	石材	備考			
23	42	石鏃	完整	22.0	16.0	6.0	1.3	0	黄色色山岩
23	43	石鏃	80%	26.5	(13.0)	3.5	0.8	0	粗粒輝石、片断欠損
23	44	石鏃	ほぼ完整	(12.5)	16.0	2.5	0.4	0	黄色色山岩
23	45	石鏃	ほぼ完整	(17.5)	14.5	3.0	0.3	0	チャート
24	46	ヒス石	完整	23.2	16.5	6.6	2.3	0	燧石
24	47	打製石鏃	完整	39.9	32.7	13.3	41.2	0	燧石
24	48	打製石鏃	完整	85.5	101.0	53.5	584.3	0	燧石安山岩
24	49	打製石鏃	80%	(92.5)	48.0	21.0	92.5	0	燧石
24	50	打製石鏃	80%	(95.5)	37.0	23.0	196.1	0	粗粒輝石安山岩
24	51	磨石	完整	216.0	75.0	56.5	1563.6	0	粗粒輝石安山岩
24	52	磨石	完整	112.1	84.7	48.5	60.3	0	粗粒輝石安山岩
25	53	磨石	完整	96.2	79.8	58.0	65.0	3	粗粒輝石安山岩
25	54	磨石	完整	107.0	103.0	82.0	126.5	0	粗粒輝石安山岩
25	55	磨石	完整	118.4	93.5	48.5	41.0	0	多孔質安山岩
25	56	磨石	完整	153.5	134.0	105.0	1355.5	0	多孔質安山岩
26	57	磨石	完整	129.0	113.0	109.5	2276.5	0	粗粒輝石安山岩
26	58	凡石	完整	168.0	143.0	143.0	4960.0	0	山岩の片断を素材、表面磨削済み。
26	59	多孔石	完整	170.0	190.0	96.0	4655.0	0	粗粒輝石安山岩
26	60	凡石	完整	153.5	187.0	83.5	3234.7	0	粗粒輝石安山岩

榊原中村遺跡 19区 24号住居

回収 番号	遺物 番号	器種	残存	計測値(長さ×幅×厚さ×重量 (単位:mm×mm×g、 \pm)は残存値)	石材	備考			
29	11	石鏃	破片	(129.4)	(101.2)	(70.8)	1165.1	0	粗粒輝石安山岩

榊原中村遺跡 19区 28号住居

回収 番号	遺物 番号	器種	残存	計測値(長さ×幅×厚さ×重量 (単位:mm×mm×g、 \pm)は残存値)	石材	備考			
36	32	石鏃	完整	13.6	13.3	3.8	0.5	0	燧石
36	33	石鏃	70%	15.8	(12.5)	4.3	0.6	0	燧石
36	34	石鏃	ほぼ完整	(10.4)	10.7	2.2	0.2	0	燧石
36	35	石鏃	80%	(26.0)	16.4	6.3	2.0	0	燧石
36	36	ヒス石	完整	24.5	22.5	11.6	5.8	0	燧石
36	37	打製石鏃	完整	74.0	53.0	23.0	75.2	0	粗粒輝石安山岩
36	38	古剥石(上)	完整	40.7	27.2	15.4	33.1	0	ヒス石
36	39	古剥石(覆)	破片	22.5	(15.7)	(2.1)	0.6	0	燧石
36	40	磨石	ほぼ完整	180.0	91.0	59.0	1048.2	0	粗粒輝石安山岩
36	41	磨石	完整	135.0	72.0	20.0	309.5	0	燧石
36	42	磨石	完整	128.0	95.0	60.0	600.0	0	多孔質安山岩
37	43	磨石	完整	129.0	68.5	46.0	672.9	0	粗粒輝石安山岩
37	44	磨石	完整	109.5	85.0	50.0	744.8	0	粗粒輝石安山岩
37	45	磨石	完整	173.5	84.5	46.0	99.0	0	粗粒輝石安山岩
37	46	磨石	50%	(193.0)	121.0	121.5	4460.0	0	粗粒輝石安山岩
37	47	磨石	破片	(100.0)	(93.5)	(42.0)	373.1	0	多孔質安山岩
38	48	凡石	60%	(230.0)	300.0	92.0	10100.0	0	粗粒輝石安山岩
38	49	凡石	80%	207.0	(176.0)	91.0	3130.0	0	粗粒輝石安山岩

榊原中村遺跡 19区 32号住居

回収 番号	遺物 番号	器種	残存	計測値(長さ×幅×厚さ×重量 (単位:mm×mm×g、 \pm)は残存値)	石材	備考			
44	26	石鏃	完整	14.9	12.6	2.9	0.5	0	燧石
44	27	打製石鏃	50%	(58.0)	45.0	18.0	57.8	0	粗粒輝石安山岩
44	28	打製石鏃	完整	98.0	51.0	10.0	110.1	0	粗粒輝石安山岩
44	29	打製石鏃	50%	(60.0)	50.0	21.0	82.0	0	燧石
44	30	磨石	完整	62.0	38.0	40.0	1.88	0	粗粒輝石安山岩
44	31	磨石	50%	(155.0)	84.0	70.5	1152.9	0	粗粒輝石安山岩
44	32	多孔石	完整	166.0	151.0	110.0	3960.0	0	粗粒輝石安山岩
45	33	多孔石	完整	231.0	143.0	112.0	5700.0	0	粗粒輝石安山岩
45	34	多孔石	完整	274.0	179.0	143.0	7080.0	0	粗粒輝石安山岩
45	35	多孔石	完整	227.0	180.0	131.0	9600.0	0	粗粒輝石安山岩

榊原中村遺跡 19区 36号住居

回収 番号	遺物 番号	器種	残存	計測値(長さ×幅×厚さ×重量 (単位:mm×mm×g、 \pm)は残存値)	石材	備考			
47	2	磨石	完整	104.0	72.5	35.0	417.8	0	粗粒輝石安山岩
47	3	磨石	完整	121.5	80.0	45.0	572.1	0	粗粒輝石安山岩

道徳観察表

観音中村遺跡 19区 54号住居

区画番号	遺物番号	部類	残存	計測線土長さ(実測土厚さ) (単位:mm.g.()は残存値)	石材	備考
51	10	土器	ほぼ完整	15.6 14.1	3.2	0.4 黒曜石 片見無き。

観音中村遺跡 19区 55号住居

区画番号	遺物番号	部類	残存	計測線土長さ(実測土厚さ) (単位:mm.g.()は残存値)	石材	備考
56	61	土器	ほぼ完整	16.0 (12.5)	3.0	0.4 黒曜石 片見無き。片割れ平かに欠損。
56	62	土器	完整	25.0	18.0	1.8 黒曜石 片見無き。
56	63	土器	完整	116.5	96.0	51.5 796.3 多孔質白岩 表面又白く、内面、1面、1面に崩れ着き。
56	64	土器	完整	327.0	258.0	187.0 25000.0 石炭燧石群 大空の石の表面に又り面。
56	65	土器	完整	148.5	77.0	66.5 733.6 多孔質白岩 1面に凹み。

観音中村遺跡 19区 56号住居

区画番号	遺物番号	部類	残存	計測線土長さ(実測土厚さ) (単位:mm.g.()は残存値)	石材	備考
58	20	土器	完整	16.1 13.0	2.4	0.5 黒曜石 片見無き。
58	21	土器	80%	23.4 (12.7)	5.6	1.2 黒曜石 破片の割れを素材とし、2面に加工・使用。
58	22	土器	破片	(47.5) (31.0)	(11.0)	18.3 白岩 上下欠損。崩れし之文化。
58	23	土器	完整	119.0	62.0	40.0 441.9 粗粒輝石安山岩 表面又り面。表面凹み。内面、1面に崩れ着き。

観音中村遺跡 19区 57号住居

区画番号	遺物番号	部類	残存	計測線土長さ(実測土厚さ) (単位:mm.g.()は残存値)	石材	備考
60	7	土器	80%	21.2 (16.0)	3.2	0.9 黒曜石 片見無き。片割れ欠損。
60	8	土器	完整	20.0	23.7	7.5 3.5 黒曜石 破片の割れを素材とし、2面に加工。

観音中村遺跡 20区 11号住居

区画番号	遺物番号	部類	残存	計測線土長さ(実測土厚さ) (単位:mm.g.()は残存値)	石材	備考
65	19	打製石斧	90%	(105.0)	52.0	13.0 84.5 燧石 磨削。
65	20	土器	完整	68.0	107.0	14.0 117.8 黒曜石 破片の割れを素材とし、2面に加工・使用。
66	22	土器	完整	92.0	80.0	30.0 428.7 粗粒輝石安山岩 表面又り面。
66	23	土器	80%	(110.0)	96.0	51.0 638.9 粗粒輝石安山岩 表面又り面。内面、1面に崩れ着き。
66	24	土器	完整	158.0	60.0	59.0 717.7 粗粒輝石安山岩 破片。4面に割り又り面。1面に1面に崩れ着き。
66	25	土器	完整	146.0	96.0	45.0 885.9 粗粒輝石安山岩 表面又り面。
66	26	土器	ほぼ完整	152.0	90.0	38.0 789.3 石炭燧石群 表面又り面。
66	27	多孔石	完整	258.0	185.0	94.0 3750.0 粗粒輝石安山岩 地山礫の平坦面を利用し、1面に凹み。
67	28	多孔石	完整	365.0	155.0	105.0 7773.0 粗粒輝石安山岩 地山礫を利用し、2面に凹み。
67	29	土器	完整	241.0	132.0	102.0 4410.0 粗粒輝石安山岩 粗粒輝石安山岩利用。1面に又り面。
67	30	土器	完整	235.0	236.0	100.0 8790.0 粗粒輝石安山岩 粗粒輝石安山岩利用。表面の一部に又り面。表面凹み。
67	31	土器	80%	218.0 (304.0)	135.0	13400.0 粗粒輝石安山岩 粗粒輝石安山岩の自然の凹面を利用し又り面。

観音中村遺跡 20区 19号住居

区画番号	遺物番号	部類	残存	計測線土長さ(実測土厚さ) (単位:mm.g.()は残存値)	石材	備考
69	1	多孔石	70%	225.0 (140.0)	98.0	3630.0 粗粒輝石安山岩 表面に凹み。表面又り面。

観音中村遺跡 20区 40号住居

区画番号	遺物番号	部類	残存	計測線土長さ(実測土厚さ) (単位:mm.g.()は残存値)	石材	備考
74	31	土器	ほぼ完整	26.0 (16.3)	3.0	1.0 黒曜石 片見無き。片割れ平かに欠損。
74	32	加工土器	完整	41.0	29.0	11.0 15.5 フォート 両面に加工。
74	33	磨削石斧(崩れかけ)	欠損使用品	37.0	51.0	16.0 45.6 燧石群 磨削石斧片割れ。欠損後、崩れかけに転用。
74	34	打製石斧	完整	116.0	46.0	20.0 20.1 黒高岳山岩 磨削。
74	35	燧石製品	完整	80.0	63.0	20.0 30.9 燧石 表面又り面を平坦に磨削し転用とする。
75	38	燧石製品	ほぼ完整	92.0	69.0	38.0 81.2 燧石 表面の一部が割れかけ。他は自然面。
75	37	土器	完整	193.0	171.0	70.0 3600.0 粗粒輝石安山岩 表面又り面。表面凹み。
75	38	土器	完整	245.0	218.0	200.0 15200.0 石炭燧石群 表面又り面。

観音中村遺跡 20区 47号住居

区画番号	遺物番号	部類	残存	計測線土長さ(実測土厚さ) (単位:mm.g.()は残存値)	石材	備考
89	50	土器	完整	23.0	19.0	7.5 2.7 黒高岳山岩 内面、一部欠損。
89	51	土器	完整	22.5	11.0	4.5 0.8 打製石斧 片見無き。
89	52	土器	ほぼ完整	73.0	85.0	6.5 1.1 黒曜石 磨削片割れ。磨削の加工欠く。未製品の可能性有り。
89	53	土器	完整	68.0	85.0	19.0 123.2 黒高岳山岩 平空様式の割れを素材とし、2面に加工・使用。
89	54	土器	完整	52.0	63.0	27.0 118.2 黒高岳山岩 片割れ。
89	55	土器	完整	77.5	79.5	39.0 233.0 黒高岳山岩 片割れ。
89	56	打製石斧	完整	102.0	43.0	20.0 92.5 燧石群 磨削。
89	57	打製石斧(崩れかけ)	欠損使用品	(145.0)	51.0	23.0 201.4 粗粒輝石安山岩 片割れ。欠損後、自然面。主要破損面多く残す。
89	58	磨削石斧(崩れかけ)	欠損使用品	95.0	45.0	26.0 207.9 燧石群 片割れ。欠損後、崩れかけに転用。ほぼ全面に崩れ着き。
90	59	土器	90%	(43.0)	137.0	82.0 577.5 粗粒輝石安山岩 表面又り面。内面、1面に崩れ着き。
90	60	土器	完整	109.0	87.0	37.0 457.4 粗粒輝石安山岩 表面又り面。表面、1面に崩れ着き。
90	61	土器	完整	113.0	64.0	51.0 845.7 粗粒輝石安山岩 表面又り面。表面凹み。
90	62	土器	完整	117.0	66.0	45.0 485.9 粗粒輝石安山岩 表面又り面。表面、1面に崩れ着き。
90	63	土器	完整	190.0	88.0	60.0 704.2 石炭燧石群 表面又り面。
90	64	土器	完整	123.0	61.0	43.0 563.8 粗粒輝石安山岩 表面又り面。表面、1面に崩れ着き。
90	65	土器	完整	221.0	180.0	116.0 4609.0 粗粒輝石安山岩 表面又り面。表面、1面に崩れ着き。
90	66	土器	完整	83.0	73.0	80.0 500.5 粗粒輝石安山岩 表面又り面。表面全面に崩れ着き。
91	67	土器	ほぼ完整	103.0 (104.0)	51.0	830.8 石炭燧石群 表面又り面。
91	68	土器	完整	124.0	109.0	67.0 1304.5 粗粒輝石安山岩 表面又り面。
91	69	土器	完整	83.0	79.5	67.5 699.2 粗粒輝石安山岩 表面又り面。表面、1面に崩れ着き。
91	70	土器	50%	(198.0)	223.0	106.0 5020.0 粗粒輝石安山岩 粗粒輝石安山岩利用。表面に又り面。
91	71	土器	50%	(207.0)	(208.0)	90.0 2370.0 多孔質白岩 破片。表面を多孔石として利用。
92	72	土器	完整	214.0	181.0	135.0 7600.0 粗粒輝石安山岩 内面割れ之面に又り面。
92	73	多孔石	完整	153.0	137.0	155.0 4600.0 粗粒輝石安山岩 自然礫の平坦面を利用し、1面に凹み。
92	74	多孔石	ほぼ完整	226.0	123.0	116.0 4609.0 粗粒輝石安山岩 粗粒輝石安山岩利用。表面に凹み。
92	75	土器	完整	213.0	162.0	135.0 5600.0 粗粒輝石安山岩 1面に凹み。
93	76	多孔石	完整	79.0	150.0	85.0 1278.7 粗粒輝石安山岩 小型。3面に凹み。
93	77	土器	破片	(221.0)	144.5	132.5 6350.0 石炭燧石群 破片の全面に又り面。
93	78	多孔石	完整	163.0	138.0	123.0 2350.0 粗粒輝石安山岩 破片の全面に凹み。

遺物観察表

縄文中期遺跡 20区 47号住居

図版番号	遺物番号	器種	残存	計測値(長さ×幅×厚さ×重量 (単位:mm×mm×g、g)は残存値)	石材	備考
93	70	多孔石	完形	190.0 104.0 238.0	61000	粗粒輝石安山岩 断面の平坦面を再利用し、2面に凹み。
94	80	多孔石	90%	202.0 118(7.0) 129.0	81000	粗粒輝石安山岩 断面の平坦面を再利用し、2面に凹み。
94	81	打製石片	完形	163.0 22.0 70.0	37400	粗粒輝石安山岩 断面を再利用。表面に凹み。
94	82	多孔石	完形	245.0 140.0 113.0	50500	粗粒輝石安山岩 断面の縁に凹み。
94	83	打石	完形	400.0 310.0 60.0	120000	粗粒輝石安山岩 扁平面の2面にスリ面。

縄文中期遺跡 20区 52号住居

図版番号	遺物番号	器種	残存	計測値(長さ×幅×厚さ×重量 (単位:mm×mm×g、g)は残存値)	石材	備考
100	37	打石	完形	16.5 12.5 2.5	0.4	輝石類。凹面がわずかに欠損。
100	38	打石	ほぼ完形	(13.0) (13.0) 3.0	0.5	輝石類。凹面がわずかに欠損。
100	39	打石	80%	21.5 (17.0) 4.0	1.0	輝石類。片側欠損。
100	40	打石	80%	21.0 (13.5) 4.0	0.8	輝石類。片側欠損。
100	41	打石	80%	19.0 (12.5) 3.5	0.4	打製石片。粗粒輝石安山岩。
100	42	打石	ほぼ完形	(23.7) 15.9 3.8	1.1	葉石安山岩。凹面が欠損。先端部欠損。
100	43	打石	ほぼ完形	19.5 (13.5) 4.5	1.0	輝石類。右側の可能性有り。
100	44	打石	完形	22.0 18.5 6.5	1.8	輝石類。右側の可能性もあり。
100	45	打石	完形	21.5 9.0 4.0	0.5	輝石類。縦方向を利用し、断面作出。
100	46	打製石片	90%	97.0 (52.0) 25.0	127.4	粗粒輝石安山岩の。内面凹み。短欠損。
100	47	磨製石片(磨き石)	完形	68.0 43.0 23.0	113.4	燧石。研削下。基部欠損。破断部・断面を磨き石として転用。
100	48	磨石	完形	125.0 81.0 36.0	448.8	粗粒輝石安山岩の。裏面スリ面・凹み。両面に磨き面。磨石として転用。
100	49	磨石	破片	(190.0) (100.0) 70.0	1614.0	緑色石片。縦方向利用。
100	50	磨石	完形	111.0 96.0 60.0	910.0	粗粒輝石安山岩の。裏面スリ面・凹み。
100	51	丸石	完形	126.0 116.0 114.0	2250.0	石英閃輝石質。自然磨。
101	52	多孔石	完形	276.0 225.0 132.0	9630.0	粗粒輝石安山岩の。扁平面・断面の平坦面を再利用し、裏面に凹み。
101	53	打石	完形	250.0 22.0 110.0	6000.0	粗粒輝石安山岩の。扁平面・断面の平坦面を再利用し、裏面に凹み。
101	54	打石	90%	(264.0) 175.0 80.0	4800.0	粗粒輝石安山岩の。扁平面・断面の平坦面を再利用し、裏面に凹み。

縄文中期遺跡 20区 61号住居

図版番号	遺物番号	器種	残存	計測値(長さ×幅×厚さ×重量 (単位:mm×mm×g、g)は残存値)	石材	備考
102	6	磨製石片(磨き石)	完形	97.5 48.5 27.0	246.1	燧石。成形丁寧。欠部欠損後に磨き石に転用。
102	7	磨石	完形	47.0 46.0 33.0	94.8	粗粒輝石安山岩の。裏面スリ面。1面に磨き面。

縄文中期遺跡 20区 70号住居

図版番号	遺物番号	器種	残存	計測値(長さ×幅×厚さ×重量 (単位:mm×mm×g、g)は残存値)	石材	備考
109	20	打石	80%	24.0 (18.0) 3.0	0.8	輝石類。片側欠損。
109	21	磨石	破片	31.0 20.5 6.0	5.3	葉石安山岩の。凹み・裏面の凹み。裏面に1面に使用面。
109	22	打石	完形	27.0 17.5 15.0	6.0	輝石類。小形。自然面を残す。
109	23	磨製石片	完形	33.0 41.1 6.3	10.8	輝石安山岩の。横方向の片側素材とし、2面に加工・使用面。
109	24	打石	破片	(224.0) (133.0) 127.0	4640.0	イノシテノオ。右側部。縦方向に再利用し、裏面に凹み。自然面を残す。
109	25	打石(多孔石)	完形(欠損)	(43.0) 32.0 13.0	1190.0	粗粒輝石安山岩の。断面の平坦面に再利用し、裏面に凹み。自然面を残す。
109	26	磨石	完形	112.5 76.0 37.5	470.3	粗粒輝石安山岩の。裏面スリ面。
110	27	磨石	完形	79.6 70.9 43.0	331.1	粗粒輝石安山岩の。裏面スリ面・凹み。1面に磨き面。
110	28	磨石	70%	98(0.0) 71.5 34.0	606.4	粗粒輝石安山岩の。ほぼ平らなスリ面。裏面は保持し凹み入り。
110	29	磨石	完形	159.1 71.3 29.5	382.0	粗粒輝石安山岩の。裏面スリ面・凹み。両面に磨き面。
110	30	打石	完形	252.0 224.0 86.0	3745.0	粗粒輝石安山岩の。断面を再利用し、裏面に凹み。
110	31	多孔石	完形	250.0 154.0 117.0	6600.0	粗粒輝石安山岩の。断面の平坦面を再利用し、裏面に凹み。

縄文中期遺跡 20区 71号住居

図版番号	遺物番号	器種	残存	計測値(長さ×幅×厚さ×重量 (単位:mm×mm×g、g)は残存値)	石材	備考
117	33	打石	ほぼ完形	14.5 (10.5) 3.0	0.3	輝石類。片側欠損。
117	34	打石	完形	13.0 9.9 1.8	0.2	輝石類。片側欠損。
117	35	打石	40%	(11.8) (8.0) 4.2	0.4	輝石類。断面欠損。
117	36	打石	完形	28.9 9.7 3.8	1.0	葉石安山岩の。加工面。
117	37	打石	完形	31.9 8.1 3.6	0.8	チャート。加工面。
117	38	打石	完形	16.3 4.4 3.5	0.3	輝石類。縦・横切。
117	39	磨石	完形	58.0 53.0 11.0	28.6	輝石安山岩の。横方向の片側素材とし、1面に加工・使用面。
117	40	打石	完形	29.9 14.9 8.5	2.7	輝石類。縦方向の片側素材。両面に利用。断面欠損。
117	41	磨製石片	80%	(70.0) 42.0 24.0	114.1	燧石類。成形時に断面が欠ける。
117	42	磨石	完形	59.3 24.4 16.5	20.1	輝石類。右側の可能性も有り。
117	43	打製石片	完形	105.0 48.0 14.0	98.9	粗粒輝石安山岩の。縦方向利用。
117	44	打石	破片	(125.5) (58.0) 42.7	447.5	粗粒輝石安山岩の。縦切。断面欠損。
117	45	打石	破片	(176.0) (115.0) (67.5)	1077.0	多孔質安山岩の。厚・厚。磨削作業。
117	46	打石	40%	(150.0) (230.0) 69.0	2166.9	粗粒輝石安山岩の。縦切。
118	47	磨石	完形	125.0 85.0 40.0	321.9	多孔質安山岩の。裏面スリ面。裏面スリ面・凹み。
118	48	磨石	完形	98.0 75.5 32.0	344.9	粗粒輝石安山岩の。裏面スリ面・凹み。縦切有り(欠損)。
118	49	多孔石	完形	220.0 160.0 105.0	4740.0	粗粒輝石安山岩の。断面の平坦面を再利用し、1面に凹み。
118	50	多孔石	90%	245.0 (242.0) 149.0	9100.0	粗粒輝石安山岩の。断面を再利用し、裏面に凹み。
119	51	打石	完形	351.0 191.0 145.0	15800.0	石英閃輝石質。用原石を再利用し、裏面に凹み。
119	52	打石	80%	(504.0) (400.0) 178.0	44280.0	粗粒輝石安山岩の。扁平面・断面の平坦面を再利用し、1面に凹み。
120	53	打石	完形	384.0 410.0 186.0	4850.0	粗粒輝石安山岩の。扁平面・断面の平坦面を再利用し、凹み入り。
120	54	打石	完形	520.0 336.0 116.0	34760.0	粗粒輝石安山岩の。扁平面・断面の平坦面を再利用し、裏面と1面に凹み。
120	55	打石	完形	520.0 242.0 132.0	24200.0	粗粒輝石安山岩の。断面の平坦面に凹み。

縄文中期遺跡 20区 75号住居

図版番号	遺物番号	器種	残存	計測値(長さ×幅×厚さ×重量 (単位:mm×mm×g、g)は残存値)	石材	備考
123	16	打製石片	80%	(98.5) 55.0 20.0	113.9	粗粒輝石安山岩の。縦切。裏面に自然面を残し、縦方向に断面欠損あり。
123	17	磨製石片	70%	(90.5) 50.0 28.5	209.0	燧石。成形・研削丁寧。基部欠損。
123	18	磨製石片(磨き石)	完形	57.5 41.0 23.0	94.5	燧石類。両面に磨き面。両断面縦切。磨き石として転用可。
124	19	磨石	完形	119.0 64.0 53.0	583.1	粗粒輝石安山岩の。裏面・内面両面に凹み。
124	20	磨石	ほぼ完形	109.5 75.5 34.5	656.1	粗粒輝石安山岩の。裏面スリ面・凹み。1面・内面に磨き面。
124	21	打石	60%	(27.0) 20.0 8.0	1130.0	粗粒輝石安山岩の。扁平面を再利用し、1面に凹み。
124	22	打石	破片	(134.0) (142.0) 29.5	784.2	粗粒輝石安山岩の。断面欠損あり。裏面に凹み。
124	23	打石	破片	(320.0) (252.0) 40.0	5100.0	粗粒輝石安山岩の。扁平面の表面全面スリ面。裏面の片側縦切(裏面・ハジケ)。

遺物観察表

磯崎中村遺跡 20区 77号住居

階段 番号	遺物 番号	部種	残存	計測値(長さ×幅×厚さ)×重量 (単位:mm×g、()は残存値)	石材	備考
128	30	打割石岸	完形	112.0 56.0 24.0	1702 和歌山舞石山石	取割形、刃面に明確な使用磨痕が認められる。
128	31	打割石岸	90%	106.0 52.0 21.0	1996 和歌山	刃部欠損、砥石・磨石ノコ。
129	32	磨石	完形	93.0 53.5 26.5	2283 和歌山舞石山石	表面より凸部・凹部のみ、1面に2箇条筋。
129	33	磨石	完形	82.5 61.5 29.0	2735 和歌山舞石山石	表面より凸部、磨痕有り(変色)。
129	34	磨石	完形	156.0 69.0 31.0	6341 和歌山舞石山石	表面より凸部、表面凹凸。
129	35	磨石	完形	109.5 75.0 48.5	6346 和歌山舞石山石	表面より凸部・凹部、両面に筋走筋。
129	36	磨石	完形	181.5 131.5 50.0	2930 和歌山舞石山石	表面より凸部、表面凹凸。
130	37	磨石	90%	123.0 52.0 30.0	2857 フナギノト	表面より凸部・凹部、両面に筋走筋、磨痕有り(亀裂)。
130	38	多孔石	完形	176.5 126.5 75.0	18000 和歌山舞石山石	表面凹凸。
130	39	石皿	破片	172.0 128.0 87.5	21200 和歌山舞石山石	磨痕有り(亀裂・変色)。
130	40	多孔石	完形	195.0 176.0 131.0	49900 和歌山舞石山石	岡山藩の平田藩女御殿の凹部。
130	41	打石	完形	378.0 272.0 218.0	19860 和歌山舞石山石	岡山藩(石臼)の部を再利用し、表面より凸部。

磯崎中村遺跡 20区 81号住居

階段 番号	遺物 番号	部種	残存	計測値(長さ×幅×厚さ)×重量 (単位:mm×g、()は残存値)	石材	備考
135	19	石皿	90%	(24.8) (14.3) 3.5	09 黒曜石	凹見無傷、表面欠損。
135	20	石皿	80%	(29.0) (21.6) 4.1	2.1 黒色山石	凹見無傷、先端部・片側欠損。
135	21	石皿木製品	完形	20.0 18.5 5.1	2.1 黒曜石	両面に、次加工有り。
135	22	石皿木製品	完形	26.1 19.0 4.8	2.3 黒曜石	両面に、次加工有り。
135	23	打割石岸	完形	152.0 88.0 30.0	3383 和歌山舞石山石	凹面筋、刃部磨減少ない。
135	24	磨石	完形	142.0 88.5 35.0	6895 和歌山舞石山石	表面より凸部・凹部、磨痕有り(変色)。
135	25	磨石木製品	完形	38.7 46.1 11.3	14.2 榎石	凹面筋・砥石に成形、孔は人工的なものでない。
135	26	磨石	完形	225.0 67.0 48.5	10500 和歌山舞石山石	表面より凸部、両面に筋走筋。
135	27	石皿	破片	(82.0) 120.0 114.0	57200 フナギノト	凹面筋、凹部は明確に打石凸部か、磨痕有り(変色)。
135	28	多孔石	完形	187.5 131.5 80.5	18500 和歌山舞石山石	表面のみ凹部。

磯崎中村遺跡 20区 82号住居

階段 番号	遺物 番号	部種	残存	計測値(長さ×幅×厚さ)×重量 (単位:mm×g、()は残存値)	石材	備考
144	47	石皿	完形	59.5 67.0 65.0	2856 珪質変質岩	打割形状が多い。
144	48	打割石岸	70%	98.0 44.0 16.0	790 和歌山舞石山石	取割形。
144	49	磨石	完形	84.5 82.0 38.0	4174 和歌山舞石山石	表面より凸部。
144	50	磨石	ほぼ完形	97.5 98.5 60.0	7420 和歌山舞石山石	表面より凸部、磨面凹み、磨痕有り(亀裂・変色)。
144	51	磨石	完形	128.5 105.0 57.0	11664 和歌山舞石山石	表面より凸部、両面に筋走筋。
144	52	丸石	完形	111.0 88.5 73.0	12038 和歌山舞石山石	自然磨、表面凹凸著しい。
144	53	丸石	完形	102.0 102.0 88.0	10808 石炭燐隕石	自然磨、表面凹凸著しい。
145	54	石皿	完形	438.5 246.0 104.0	15000 和歌山舞石山石	凹部、砥石ノコ。
145	55	打石	破片	(170.0) (275.0) 46.0	27900 和歌山舞石山石	表面より凸部、磨痕有り(変色)。
145	56	打石	破片	(296.0) (237.0) 40.0	30800 和歌山舞石山石	表面より凸部、表面凹凸打ち欠けに凹部加工か?、磨痕有り(変色)。

磯崎中村遺跡 20区 95号住居

階段 番号	遺物 番号	部種	残存	計測値(長さ×幅×厚さ)×重量 (単位:mm×g、()は残存値)	石材	備考
152	52	石皿	80%	24.3 (14.6) 2.7	0.6 黒曜石	凹見無傷、片側欠損。
152	53	石皿	80%	26.0 (12.4) 2.7	0.4 黒色山石	凹見無傷、片側欠損。
152	54	石皿	ほぼ完形	14.1 (12.5) 4.1	0.5 黒曜石	凹見無傷、片側小片欠損。
152	55	石皿	ほぼ完形	17.5 9.1 3.7	0.5 黒曜石	凹部の可能性あり。
153	56	磨割石岸 (磨き石)	欠損無用品	119.0 49.0 29.0	3006 蛇紋岩	凹部磨減著しい。磨痕、筋走石として処理。
153	57	磨石	60%	60.0 71.5 (28.0)	2381 和歌山舞石山石	表面より凸部・凹部、両面より凸部。
153	58	磨石	完形	101.5 78.0 78.0	8511 和歌山舞石山石	表面より凸部、上・下・側面に筋走筋。
153	59	磨石	完形	82.5 52.0 50.0	3262 和歌山舞石山石	表面より凸部、1面に筋走筋。
153	60	磨石	完形	73.0 71.5 76.0	6070 和歌山舞石山石	表面・凹面より凸部、側面・1面に筋走筋。
153	61	磨石	完形	146.0 82.0 39.0	7947 和歌山舞石山石	凹面筋、表面凹凸著しい。
153	62	石皿	破片	(134.0) (114.0) 59.3	13250 和歌山舞石山石	不完形、表面凹凸に凹部より凸部、表面より凸部・凹部のみ。
153	63	石皿	40%	(128.0) 178.0 63.0	23200 和歌山舞石山石	凹見磨痕、刃打面の磨減あり。

磯崎中村遺跡 20区 98号住居

階段 番号	遺物 番号	部種	残存	計測値(長さ×幅×厚さ)×重量 (単位:mm×g、()は残存値)	石材	備考
155	13	石皿	完形	28.9 16.2 2.4	0.9 黒曜石	凹見無傷。
155	14	打割石岸	60%	(78.0) 51.0 22.0	95.3 和歌山舞石山石	凹部、凹部磨減に差あり、凹部より凸部。
155	15	磨石	完形	99.5 79.5 22.0	266.3 和歌山舞石山石	表面より凸部、磨痕有り(亀裂)。
155	16	石皿	40%	(190.0) (177.0) (57.0)	25500 和歌山舞石山石	凹部、表面凹凸に凹部。

磯崎中村遺跡 20区 109号住居

階段 番号	遺物 番号	部種	残存	計測値(長さ×幅×厚さ)×重量 (単位:mm×g、()は残存値)	石材	備考
160	12	打石	50%	(219.0) 135.0 133.0	62000 和歌山舞石山石	凹部筋、1面に刃部のみ、全面より凸部。
160	13	磨石	ほぼ完形	102.0 86.0 53.5	62500 和歌山舞石山石	表面より凸部、凹部、磨痕有り(亀裂・変色)。

磯崎中村遺跡 20区 114号住居

階段 番号	遺物 番号	部種	残存	計測値(長さ×幅×厚さ)×重量 (単位:mm×g、()は残存値)	石材	備考
164	4	磨石	90%	(140.0) 66.0 33.0	4436 和歌山舞石山石	表面より凸部・凹部、両面に筋走筋、磨痕有り(亀裂)。

磯崎中村遺跡 29区 23号住居

階段 番号	遺物 番号	部種	残存	計測値(長さ×幅×厚さ)×重量 (単位:mm×g、()は残存値)	石材	備考
167	12	打割石岸	完形	110.0 49.0 13.0	77.0 和歌山舞石山石	取割形、凹部磨減著しい。
167	13	磨石	50%	(155.0) 31.0 26.0	226.1 和歌山	扁平欠損、砥石・磨石ノコ、両部平坦。
167	14	磨石	完形	142.0 96.5 34.5	1047.0 和歌山舞石山石	表面より凸部、表面凹凸著しい。

磯崎中村遺跡 30区 33号住居

階段 番号	遺物 番号	部種	残存	計測値(長さ×幅×厚さ)×重量 (単位:mm×g、()は残存値)	石材	備考
181	222	石皿	完形	11.5 8.5 3.0	0.3 黒曜石	凹見無傷。
181	223	石皿	70%	(9.0) 12.0 4.0	0.3 黒曜石	凹見無傷、先端部欠損。
181	224	石皿	90%	10.0 (15.0) 4.0	0.5 砂玉	凹見無傷、片側欠損。
181	225	石皿	完形	16.0 13.0 4.0	0.6 フナギノト	凹部。

遺物観察表

図号	遺物番号	器種	残存	計測値(長さ×幅×厚さ×重量 (単位:mm×g、t)は残存値)	石材	備考
181	226	古土	完全	32.7 16.2 10.1	39	短小葉状。
181	227	使用印	完全	22.0 15.0 6.0	1.7	珪質灰質岩
181	228	ピアス	完全	20.0 17.0 7.0	2.8	珪質灰質岩
181	229	打製石片	80%	(117.0) 53.0 34.0	387.1	黒輝石古土質 石山片
181	230	磨製石片	30%	(40.0) 44.0 20.0	46.5	軟状頁岩
181	231	欠製物品	87.0	48.0 25.0 228.0	軟状頁岩	基部欠損。両面に打製痕残存。
181	232	欠製物品	102.0	59.0 28.0 221.3	軟状頁岩	対面欠損部に磨き石に利用。ほぼ全面に磨き。
182	233	研石製品	ほぼ完全	70.0 48.0 15.5	9.6	輝石
182	234	研石製品	破損	(46.5) (47.0) 16.0	6.0	輝石
182	235	磨石	完全	93.0 28.0 73.0	106.4	小笠原石
182	236	磨石	完全	68.0 69.0 50.0	331.6	粗粒輝石安山石
182	237	磨石	完全	108.0 81.0 71.0	736.6	粗粒輝石安山石
182	238	磨石	完全	106.0 106.0 76.0	1027.8	粗粒輝石安山石
182	239	磨石	完全	108.0 105.0 50.0	842.5	粗粒輝石安山石
183	240	磨石	完全	126.0 102.0 40.0	751.2	粗粒輝石安山石
183	241	磨石	完全	144.0 78.0 36.0	591.4	粗粒輝石安山石
183	242	磨石	完全	122.0 87.0 30.0	727.9	粗粒輝石安山石
183	243	磨石	完全	84.0 68.0 37.0	445.9	粗粒輝石安山石
183	244	磨石	完全	90.0 93.0 33.0	349.5	粗粒輝石安山石
183	245	磨石	完全	104.0 50.0 44.0	365.3	粗粒輝石安山石
183	246	磨石	完全	92.0 57.0 52.0	347.4	粗粒輝石安山石
183	247	磨石	完全	123.0 84.0 52.0	650.5	粗粒輝石安山石

観音中庭道 30区 34号住居

図号	遺物番号	器種	残存	計測値(長さ×幅×厚さ×重量 (単位:mm×g、t)は残存値)	石材	備考
187	38	古土	80%	(13.5) 15.5 3.0	0.6	黒輝石
187	39	磨石	破損	(48.5) 36.0 31.0	67.1	軟状頁岩
187	40	磨石	完全	87.8 64.2 46.5	378.8	粗粒輝石安山石
187	41	磨石	完全	133.6 112.7 44.0	1006.6	粗粒輝石安山石
187	42	磨石	完全	123.3 98.8 64.0	671.0	平イサイト
187	43	多石	完全	193.0 246.0 100.0	5548.7	粗粒輝石安山石

観音中庭道 30区 35号住居

図号	遺物番号	器種	残存	計測値(長さ×幅×厚さ×重量 (単位:mm×g、t)は残存値)	石材	備考
198	221	磨製石片 (磨き石)	欠製物品	74.1 52.2 24.5	162.0	軟状頁岩
198	222	砥石	破損	(76.0) (50.0) 11.5	43.6	砂岩
198	223	砥石	完全	111.4 42.9 29.0	299.1	安山石
198	224	砥石	破損	(172.0) (127.0) 22.5	341.3	砂岩

観音中庭道 30区 36号住居

図号	遺物番号	器種	残存	計測値(長さ×幅×厚さ×重量 (単位:mm×g、t)は残存値)	石材	備考
207	186	砥石	ほぼ完全	31.0 33.0 14.0	13.6	砂岩
207	187	古土	完全	14.0 13.5 3.0	0.7	灰色安山石
207	188	古土	完全	15.5 13.0 4.5	0.6	碧玉
207	189	古土	完全	10.5 11.5 2.5	0.3	黒輝石
207	190	古土	ほぼ完全	13.0 (11.0) 3.0	0.4	碧玉
207	191	古土	完全	19.0 11.0 3.5	0.6	黒輝石
207	192	古土	完全	23.0 13.0 4.5	0.8	珪質灰質岩
207	193	古土	完全	32.0 17.0 6.5	2.2	珪質灰質岩
207	194	古土	完全	28.5 13.5 6.0	1.4	珪質灰質岩
207	195	古土	80%	(25.5) 50.0 5.5	2.3	珪質灰質岩
207	196	古土	80%	(17.0) 14.5 4.0	0.9	珪質灰質岩
207	197	古土	完全	31.5 15.0 7.0	1.9	珪質灰質岩
207	198	古土	完全	44.0 18.5 9.0	3.8	珪質灰質岩
207	199	ピアス	完全	18.2 14.9 10.1	3.5	片状木片
207	200	古棒	破損	(102.5) 35.0 (18.5)	91.9	灰色片岩
208	201	磨石	完全	102.0 65.4 49.0	500.2	粗粒輝石安山石
208	202	磨石	完全	90.0 66.0 40.0	334.6	粗粒輝石安山石
208	203	磨石	完全	138.3 73.7 49.0	792.7	粗粒輝石安山石
208	204	磨石	完全	158.0 84.0 42.0	758.3	安山石
208	205	磨石	完全	113.0 81.3 64.0	870.7	粗粒輝石安山石
209	206	磨石	完全	72.3 59.5 51.5	315.5	粗粒輝石安山石
209	207	磨石	完全	86.5 66.5 48.0	353.4	砂岩
209	208	磨石	完全	113.5 62.0 62.0	799.2	粗粒輝石安山石
209	209	磨石	完全	85.5 62.5 55.0	418.8	粗粒輝石安山石
209	210	磨石	完全	77.8 68.7 57.0	420.0	粗粒輝石安山石
209	211	古土	破損	(181.5) (129.0) 75.0	1169.7	粗粒輝石安山石
209	212	古土	50%	(258.0) 245.0 96.5	2995.3	粗粒輝石安山石

観音中庭道 30区 38号住居

図号	遺物番号	器種	残存	計測値(長さ×幅×厚さ×重量 (単位:mm×g、t)は残存値)	石材	備考
221	123	古土	80%	22.0 (13.0) 3.0	0.9	灰色安山石
221	124	古土	90%	(17.0) 16.0 4.0	0.8	珪質灰質岩
221	125	磨石	80%	(99.0) 60.5 51.5	414.3	粗粒輝石安山石
221	126	磨石	完全	110.9 87.8 55.2	844.4	粗粒輝石安山石
221	127	磨石	完全	110.5 94.5 57.0	934.1	粗粒輝石安山石
222	128	磨石	完全	94.5 85.0 30.0	337.1	粗粒輝石安山石
222	129	磨石	70%	(109.5) 72.0 38.5	407.8	平イサイト
222	130	磨石	完全	244.0 200.0 132.0	9100.0	粗粒輝石安山石
222	131	古土	完全	178.5 144.5 83.5	2261.0	粗粒輝石安山石
222	132	砥石	完全	108.0 72.0 15.5	142.9	砂岩

遺物観察表

柳井中遺20区 4号列石

順番 番号	遺物 番号	品類	残存	計測値(長さ×幅×厚さ×重量) (単位: mm×g、()は残存値)	石材	備考
246	178	石鏃	完形	11.6 6.9 1.7 0.1	黒色石	平耳無蓋、小窓
246	179	石鏃	90%	(13.9) 9.2 1.8 0.2	黒色石	平耳無蓋、小窓、先端欠損
246	180	石鏃	80%	17.2 (14.6) 3.8 0.5	黒色石	平耳無蓋、小窓、先端欠損、縁部崩壊
246	181	石鏃	完形	18.2 11.6 3.2 0.5	黒色石	平耳無蓋
246	182	石鏃	ほぼ完形	19.1 (14.5) 3.2 0.7	月背貫石	平耳無蓋、若狭むかえ欠損
246	183	石鏃	ほぼ完形	(21.9) 13.8 3.2 0.9	黒色石	平耳無蓋、先端部むかえ欠損
246	184	石鏃	完形	28.4 17.0 6.7 3.0	月背貫石	平耳無蓋、先端部むかえ欠損
246	185	石鏃	90%	(18.0) 19.5 5.4 1.1	月背貫石	平耳無蓋、先端部欠損
246	186	削器	80%	(56.0) 20.0 7.0 14.3	月背貫石	親石の削片を素材とし、2段階加工・使用跡
246	187	加工板	完形	78.5 46.0 15.5 38.4	月背貫石	両面に加工
246	188	加工板	完形	15.0 12.5 5.0 0.9	黒色石	両面に加工
246	189	加工片			288.8	石鏃1枚と削片1枚の複合品類
246	190	石鏃	完形	78.0 84.0 41.0 27.01	削片	191と複合
246	191	削片	完形	38.0 48.0 14.0 18.7	削片	190と複合
246	192	打割石鏃	完形	116.1 93.7 27.7 25.05	黒色打割山石	未製欠損無し
246	193	打割石鏃	80%	(92.9) 59.4 16.3 90.4	黒色打割山石	内欠損跡、未製欠損
246	194	打割石鏃	完形	134.7 52.0 24.3 207.2	灰色山石	短形物
246	195	打割石鏃	完形	96.2 41.6 16.9 87.0	灰色山石	短形物
247	196	打割石鏃	完形	95.8 42.2 14.3 71.9	黒色山石	内面欠損跡(縁り状)、対面磨製痕あり
247	197	打割石鏃	完形	110.6 56.3 18.7 129.1	黒色山石	内面磨製
247	198	打割石鏃	完形	111.7 38.0 15.1 86.0	黒色山石	短形物
247	199	磨製石鏃	完形	(135.0) 66.0 32.0 45.3	黒色山石	全周砥石著しい、磨製面とムラが多少
247	200	磨製石鏃	70%	(86.0) 57.9 29.0 23.9	黒色山石	刃部・基部欠損、成形・研削1発、対面欠損跡にも使用痕あり
247	201	磨製石鏃	破片	(16.0) (46.0) 12.0 11.6	黒色山石	刃部片、研削1発、先端磨製痕あり
247	202	磨製石鏃	完形	150.0 61.0 38.0 72.1	黒色山石	基部欠損欠陥無し(研削)、基部上縁りに砥石の擦痕があり、磨製面が可能性有り
247	203	石鏃	破片	(305.0) (148.0) (66.0) 3750.0	黒色山石	遺4段の破断部が、縦断有り(変色・ハジケ)、19区6号石(15、10)と同一と同一個体
248	204	石鏃(破石)	90%(完形)	(439.0) 153.0 145.0 15900.0	緑色山石	縁部・平縁部の研ぎ面あり。欠損後砥石として利用か、一部に凹み有り
248	205	石鏃	破片	(114.0) 40.0 31.0 206.2	黒色山石	縦断石鏃、基部欠損、一面磨製・縁部
248	206	石鏃	破片	(56.0) 23.0 25.0 65.7	緑色山石	縦断石鏃基部部、縁部(成形後)磨製、縁部研削著しい有り
248	207	石鏃	破片	(114.0) 30.0 26.0 101.4	緑色山石	縦断石鏃、基部・縁部欠損、基部平縁部に研削、208と同一個体
248	208	石鏃	破片	(51.0) 21.0 27.0 45.1	緑色山石	基部部、基部、207と同一個体
249	209	石鏃	40%	(285.0) 133.0 110.0 6900.0	粗粒輝石火山石	未製欠損部が、全面に磨削痕が残る。磨削径130mm、鋼直径130mm
249	210	石鏃(破石)	破片(完形)	(262.0) 135.0 135.0 7900.0	デキサイト	石鏃基部、上下折断。中央部に浅い溝状の研ぎ面あり。砥石著しいは付上し知れずか、縦断有り(変色)
249	211	石鏃	ほぼ完形	88.0 37.0 77.0 256.2	デキサイト	成形・研削1発、縦断跡(変色)面に内研削(磨削)痕あり(変色・黒色・ハジケ)
250	212	輝石製品	80%	(75.0) 51.0 (31.0) 20.9	輝石	中央部に薄った断面で長さ2mmほどの凹み形成。表面は磨削している可能性もあるが若干凹み
250	213	輝石製品	70%	100.0 (50.5) 40.0 45.9	輝石	中央部を大きく凹ませ、上面は磨削している可能性もあるが凹みとしない、磨削は自然磨
250	214	粗粒輝石火山石	完形	76.0 65.5 25.0 88.9	粗粒輝石火山石	扁平な石、加工の有無不明
250	215	粗粒輝石火山石	完形	81.0 67.0 62.0 180.5	多角形山石	粗粒の石、加工の有無不明
250	216	粗粒輝石火山石	完形	123.0 76.0 79.0 430.0	粗粒輝石火山石	粗粒の石、加工の有無不明
250	217	磨石	完形	85.0 76.0 30.0 447.0	粗粒輝石火山石	表面磨削・1面、両面に磨き面
250	218	磨石	90%	(74.0) 78.0 63.0 593.0	粗粒輝石火山石	表面磨削・2面、表面のみ
251	219	磨石	90%	(109.0) 97.0 57.0 867.0	粗粒輝石火山石	表面磨削・2面
251	220	磨石	完形	89.0 63.0 44.0 374.0	粗粒輝石火山石	表面磨削・2面、両面に磨き面
251	221	磨石	完形	81.0 76.0 51.0 594.5	粗粒輝石火山石	表面磨削著しい、表面磨削・2面
251	222	磨石	完形	127.0 78.0 35.0 622.4	古黒閃輝石	表面磨削・2面
251	223	磨石	ほぼ完形	125.0 93.0 38.0 1118.5	粗粒輝石火山石	表面磨削・2面、縦断有り(変色・ハジケ)
251	224	磨石	ほぼ完形	(117.0) (78.0) 30.0 313.9	山石	表面磨削・2面、表面に磨削痕有り(黒製・磨削)
251	225	磨石	完形	128.0 89.0 54.0 943.3	粗粒輝石火山石	表面磨削・2面(表面両面磨削にもすり面)、表面両面に凹み、両端に磨き面
252	226	磨石	破片	(62.0) (76.0) 73.0 535.3	粗粒輝石火山石	表面に磨削・2面、縦断有り(変色・磨削)
252	227	磨石	完形	125.0 61.0 35.0 433.0	粗粒輝石火山石	表面磨削・2面、表面磨削・1面に磨き面(磨削を伴う)、縦断有り(変色)
252	228	磨石	80%	(112.0) (93.0) 43.0 624.8	粗粒輝石火山石	表面磨削・2面、表面のみ、縦断有り(黒製・磨削)
252	229	磨石	完形	129.0 97.0 48.0 632.7	粗粒輝石火山石	多角形、表面磨削・2面(中央部凹み凹み)
252	230	磨石	完形	124.0 96.0 72.0 1209.2	粗粒輝石火山石	表面磨削・2面、縦断有り(変色)
252	231	磨石	完形	101.0 86.0 70.0 965.9	粗粒輝石火山石	表面磨削・2面
252	232	磨石	完形	152.0 75.5 34.0 650.0	粗粒輝石火山石	表面・中央部に2面、縦断有り(変色)
253	233	磨石	完形	107.0 90.0 59.0 908.8	粗粒輝石火山石	全周砥石著しい、表面磨削・2面(一部凹み)、表面のみ、最も粗は粗化により不明、縦断有り(黒製)
253	234	磨石	完形	100.0 65.0 50.0 425.5	粗粒輝石火山石	表面磨削・2面(磨削・磨削を伴う)、縦断有り(変色)
253	235	磨石	完形	98.0 74.0 60.0 196.4	粗粒輝石火山石	表面磨削・2面、表面磨削・2面
253	236	磨石	完形	80.0 74.0 62.0 507.8	粗粒輝石火山石	表面磨削・2面、両面に磨き面
253	237	磨石	ほぼ完形	(85.0) 76.0 46.0 462.2	古黒閃輝石	全周砥石著しい、表面磨削・2面(不明)、表面磨削・凹み、最も粗は粗化により不明
253	238	磨石	完形	124.0 94.0 80.0 1330.0	粗粒輝石火山石	表面磨削・2面、両面に磨き面
253	239	磨石	完形	91.0 67.0 49.0 432.8	粗粒輝石火山石	表面磨削・2面、表面磨削・1面に磨き面、縦断有り(変色)
253	240	磨石	完形	153.0 71.0 36.0 568.1	粗粒輝石火山石	表面磨削・2面、表面のみ、磨削・2面に磨き面
254	241	磨石	破片	(122.0) 86.0 60.0 1018.8	粗粒輝石火山石	表面磨削・2面
254	242	磨石	完形	219.0 70.0 56.0 1244.8	粗粒輝石火山石	4面又2面、1面に磨削凹み凹み、1面に磨き面、縦断有り(変色)
254	243	磨石	完形	313.0 242.0 182.0 2090.0	粗粒輝石火山石	表面磨削・2面、表面磨削・2面
255	244	磨石	90%	(106.0) (78.0) 41.0 439.6	粗粒輝石火山石	表面磨削・2面
255	245	磨石	完形	104.0 70.0 40.0 430.8	粗粒輝石火山石	表面磨削・凹み
255	246	磨石	完形	105.0 94.0 61.0 833.4	粗粒輝石火山石	表面磨削・2面
255	247	磨石	完形	123.0 67.0 35.0 436.0	粗粒輝石火山石	表面磨削・両面に磨き面
255	248	磨石	完形	181.0 124.0 123.0 5256.0	粗粒輝石火山石	表面磨削・2面、表面磨削・2面
255	249	磨石	完形	132.0 79.0 60.0 881.3	粗粒輝石火山石	両面に磨き面(1面に磨削を伴う)
255	250	磨石(古製?)	完形	94.0 63.0 14.0 86.8	研削	表面・面に自然磨、磨削に由来している可能性有り
256	251	石鏃	50%	(230.0) 263.0 108.0 10500.0	粗粒輝石火山石	表面磨削・2面
256	252	石鏃	破片	(98.0) (76.0) (60.0) 196.4	粗粒輝石火山石	1面に磨削痕あり
256	253	石鏃	破片	(87.0) (99.0) 81.0 1255.0	粗粒輝石火山石	縁部、基部にもすり面有り、縦断有り(変色)
256	254	石鏃	破片	(158.0) (140.0) 67.0 2010.0	粗粒輝石火山石	表面に凹み、縦断有り(変色・黒製)
256	255	多角石	完形	161.0 161.0 76.0 2070.0	粗粒輝石火山石	表面に凹み、縦断有り(黒製)
257	256	多角石	完形	205.0 124.0 61.0 1883.0	粗粒輝石火山石	表面凹み

遺物観察表

図録 番号	遺物 番号	器種	残存	計測値(長さ×幅×厚さ×重量 (単位:mm×g、()は残存値)	石材	備考
257	257	多孔石	完整	112.0 91.0 69.0 834.8	粗粒輝石安山岩	裏面側に凹み。
257	258	多孔石	80%	(244.0) 145.0 (79.0) 3435.0	粗粒輝石安山岩	断面端、1面に凹み。
257	259	多孔石	完整	153.0 109.0 97.0 1843.3	粗粒輝石安山岩	断面端、裏面に凹み。
257	260	多孔石	完整	221.0 212.0 123.0 6200.0	粗粒輝石安山岩	断面端、裏面に凹み。
258	261	多孔石	完整	220.0 122.0 99.0 4165.0	粗粒輝石安山岩	断面端の平面面を凹み、2面に凹み。
258	262	多孔石	完整	177.0 140.0 86.0 2960.0	粗粒輝石安山岩	裏面凹み。
258	263	多孔石	完整	213.0 160.0 86.0 4895.0	粗粒輝石安山岩	断面端、平面面2面に凹み。
258	264	多孔石	50%	(160.0) 164.0 (91.0) 2655.0	粗粒輝石安山岩	断面端、裏面に凹み。裏面平面面に凹み。
259	265	多孔石	ほぼ完整	212.0 (216.0) 127.0 7200.0	粗粒輝石安山岩	断面端、裏面に凹み。裏面平面面に凹み。
259	266	多孔石	完整	218.0 215.0 133.0 7500.0	粗粒輝石安山岩	断面端、1面に凹み。
259	267	多孔石	ほぼ完整	210.0 252.0 125.0 7000.0	粗粒輝石安山岩	断面端、平面面2面に凹み。裏面平面面に凹み。
260	268	多孔石	完整	250.0 157.0 130.0 5800.0	粗粒輝石安山岩	断面端、平面面2面に凹み。
260	269	多孔石	完整	212.0 123.0 117.0 4320.0	粗粒輝石安山岩	断面端、平面面2面に凹み。裏面有り(亀裂)。
260	270	多孔石	90%	246.0 180.0 116.0 5400.0	粗粒輝石安山岩	断面端、平面面2面に凹み。
261	271	多孔石	完整	283.0 261.0 154.0 10400.0	粗粒輝石安山岩	断面端、凹面を利用し凹み。
261	272	多孔石	完整	181.0 161.0 100.0 3450.0	粗粒輝石安山岩	扁平断面、裏面凹み。裏面入り面。
261	273	多孔石	完整	246.0 185.0 133.0 6100.0	粗粒輝石安山岩	断面端、凹面を利用し凹み。
262	274	多孔石	完整	254.0 199.0 114.0 8100.0	粗粒輝石安山岩	断面端、平面面2面に凹み。
262	275	多孔石	完整	256.0 233.0 116.0 9300.0	粗粒輝石安山岩	断面端、平面面2面に凹み。
262	276	多孔石	破片	(171.0) (175.0) (55.0) 1357.4	粗粒輝石安山岩	断面端、断面は自然のものか。
263	277	多孔石	完整	182.0 139.0 94.0 2735.0	粗粒輝石安山岩	断面端、凹面を利用し凹み。
263	278	多孔石	完整	180.0 210.0 134.0 6800.0	粗粒輝石安山岩	断面端、凹面を利用し凹み。
263	279	多孔石	完整	287.0 225.0 142.0 10100.0	粗粒輝石安山岩	断面端、凹面を利用し凹み。
264	280	多孔石	完整	515.0 382.0 204.0 44000.0	粗粒輝石安山岩	大型の断面端の凹面を利用し凹み。
264	281	多孔石	完整	378.0 353.0 199.0 37000.0	粗粒輝石安山岩	大型の断面端の凹面を利用し凹み。
264	282	多孔石	完整	566.0 380.0 170.0 59000.0	粗粒輝石安山岩	大型の断面端の凹面を利用し凹み。
265	283	多孔石	完整	456.0 281.0 214.0 12000.0	粗粒輝石安山岩	扁平断面、1面のみ入り面。
265	284	多孔石	完整	551.0 416.0 233.0 -	粗粒輝石安山岩	扁平断面、1面のみ入り面。
266	285	付石	50%	(133.0) 223.0 67.0 3450.0	粗粒輝石安山岩	扁平断面、裏面凹み。裏面有り(亀裂・亀裂)。
266	286	付石	50%	(166.0) 173.0 57.0 3185.0	粗粒輝石安山岩	断面入り。裏面入り面。
266	287	付石	80%	277.0 219.0 109.0 10300.0	石炭質輝石	断面入り。裏面入り面。
267	288	付石	完整	340.0 203.0 132.0 14800.0	石炭質輝石	断面入り。裏面入り面。
267	289	付石	50%	(268.0) (163.0) 100.0 6200.0	粗粒輝石安山岩	断面端、平面面に入り面・凹み。裏面有り(亀裂)。
267	290	付石	完整	250.0 214.0 80.0 6500.0	粗粒輝石安山岩	断面入り。
268	291	付石	20%	325.0 289.0 102.0 12700.0	粗粒輝石安山岩	断面入り。凹みのみ入り面。
268	292	付石	完整	205.0 210.0 82.0 5600.0	粗粒輝石安山岩	扁平断面、1面に入り面。
268	293	付石	70%	(272.0) 232.0 50.0 4950.0	粗粒輝石安山岩	扁平断面、1面に入り面。裏面有り(亀裂・ハシタ)。
269	294	付石	破片	(21.15) (169.0) (41.3) 2480.0	粗粒輝石安山岩	断面入り面(凹み凹み凹み)。裏面有り(亀裂・ハシタ)。
269	295	付石	50%	(305.0) 301.0 87.0 13600.0	粗粒輝石安山岩	扁平断面、裏面入り面・凹み。裏面入り面。
270	296	付石	20%	412.0 318.0 160.0 35000.0	粗粒輝石安山岩	断面入り。凹みのみ入り面。
270	297	付石	80%	(365.0) 318.0 135.0 25100.0	石炭質輝石	断面入り。裏面入り面。
270	298	付石	80%	(333.0) 310.0 124.0 18900.0	粗粒輝石安山岩	断面入り。凹みのみ入り面。
270	299	付石	完整	442.0 381.0 119.0 34900.0	粗粒輝石安山岩	扁平断面、1面に入り面。
271	300	付石	破片	(368.0) (280.0) 121.0 22500.0	粗粒輝石安山岩	扁平断面入り。裏面入り面。
271	301	付石	完整	396.0 335.0 116.0 28000.0	粗粒輝石安山岩	扁平断面入り。凹みのみ入り面。
271	302	付石	完整	430.0 365.0 84.0 22300.0	粗粒輝石安山岩	扁平断面入り。凹面を利用し、1面のみ入り面。
271	303	付石	完整	410.0 262.0 110.0 20900.0	粗粒輝石安山岩	扁平断面入り。凹面入り面。
272	304	付石	ほぼ完整	(360.0) 405.0 107.0 22500.0	粗粒輝石安山岩	扁平断面入り。裏面に凹み。裏面入り面。
272	305	付石	完整	305.0 497.0 394.0 96500.0	粗粒輝石安山岩	大型の断面端の凹面を利用し、凹みのみ入り面。
272	306	付石	完整	670.0 212.0 173.0 31000.0	粗粒輝石安山岩	大型の断面端の凹面を利用し、1面のみ入り面。

建群中程度 19区 6号配石

図録 番号	遺物 番号	器種	残存	計測値(長さ×幅×厚さ×重量 (単位:mm×g、()は残存値)	石材	備考
280	12	石棹	90%	(18.6) 19.6 5.4 1.3	珉色燧石	先端部欠損。
280	13	打突石棹	完整	101.4 45.1 16.2 92.3	珉色燧石	断面、厚縁側に凹み凹み凹み。
280	14	磨石	完整	145.0 90.0 38.0 567.7	粗粒輝石安山岩	裏面入り面。裏面に凹み。裏面有り(亀裂)。
281	15	石棒	破片	(324.0) 156.5 (112.5) 8600.0	緑色片岩	断面入り。断面は同一個体。
281	16	石棒	破片	(104.0) (39.0) (65.0) 343.2	緑色片岩	断面入り。断面は同一個体。
282	17	磨石	完整	221.0 175.0 141.0 8400.0	粗粒輝石安山岩	断面入り。断面は同一個体。

建群中程度 19区 10号配石

図録 番号	遺物 番号	器種	残存	計測値(長さ×幅×厚さ×重量 (単位:mm×g、()は残存値)	石材	備考
283	4	石棹	80%	15.8 (12.1) 2.7 0.3	黒曜石	凹面無し。先端欠損。
283	5	石棒	破片	(477.0) 161.0 130.0 14800.0	緑色片岩	断面入り。断面は同一個体。裏面に凹み。裏面有り(亀裂)。
283	6	付石	完整	160.0 73.0 36.0 498.7	珉色燧石	断面入り。裏面に凹み。裏面有り(亀裂)。
283	7	付石	完整	162.0 56.0 43.0 726.2	粗粒輝石安山岩	裏面側凹み。
283	8	多孔石	完整	357.0 125.0 98.0 6500.0	粗粒輝石安山岩	断面入り。裏面に凹み。

建群中程度 19区 11号配石

図録 番号	遺物 番号	器種	残存	計測値(長さ×幅×厚さ×重量 (単位:mm×g、()は残存値)	石材	備考
282	5	磨石	50%	(68.0) 52.0 (35.0) 206.4	珉色燧石	裏面入り凹み面。裏面有り(亀裂・ハシタ)。

建群中程度 19区 14号配石

図録 番号	遺物 番号	器種	残存	計測値(長さ×幅×厚さ×重量 (単位:mm×g、()は残存値)	石材	備考
283	4	付石	完整	201.0 168.0 60.0 3465.0	粗粒輝石安山岩	扁平断面入り。裏面入り面。

抄 録

書名ふりがな	よこかべなかわらいせきかっこきゅうじょうもんじだいこうきじゅうきよへんに
書名	横壁中村遺跡(9)縄文時代後期住居編2
副書名	ハツ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	30
シリーズ名	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書
シリーズ番号	466
編著者名	石田真・藤巻幸男・梶崎修一郎
編集機関	財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行機関	財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行年月日	20090325
作成法人ID	21005
郵便番号	377-8555
電話番号	0279-52-2511
住所	群馬県渋川市北碓町下箱田 784-2
遺跡名ふりがな	よこかべなかわらいせき
遺跡名	横壁中村遺跡
所在地ふりがな	ぐんまけんあがつまぐんながのほらまちおおあざよこかべ
遺跡所在地	群馬県吾妻郡長野原町大字横壁
市町村コード	10424
遺跡番号	24
北緯(日本測地系)	363210
東経(日本測地系)	1384025
北緯(世界測地系)	363221
東経(世界測地系)	1384013
調査期間	19960401-20061231
調査面積	30000
調査原因	ダム建設
種別	集落
主な時代	縄文
遺跡概要	集落-縄文-竪穴住居36+列石1+配石13-縄文土器+石器
特記事項	縄文時代中期から後期までの拠点的な集落。
要約	吾妻川右岸段丘上に位置する、縄文時代から近世までの複合遺跡。検出された遺構のうち、調査区中央を南北に流れる山根沢の西側で検出された縄文時代後期の住居36軒と付属する列石、配石について報告している。特に、列石遺構は複数の住居と接続し、長期にわたり継続して構築された大規模なものであり注目される。特異な縄文時代の遺物としては、土製腕輪3点が出土している。